K-1に危機説？ 格闘技はどうなるんだ……!?

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-W MAGAZINE

enterbrain MOOK

2009
139
特別定価 940yen



“国民的対決”内藤大助戦!!
憎まれっ子、再び世にはばかる!
亀田興毅

所くんが優勝するらしい!?

10.6 DREAM.11に夢を、格闘技に明るい未来を!

合言葉は努力・友情・勝利!?
格闘スペシャル対談3連発!!

フェザー級GP奇跡の逆転優勝へ“中2病”な親友対談アゲイン
所英男×日村勇紀 バナナマン

キックボクシングっておもしろいでしょ〜!
アオキとナオキックのキック談義!!
青木真也×石川直生

我ら土浦日大高校柔道部くそったれ青春対談!!
桜井“マッハ”速人×小見川道大

マッドネスにプロレス復帰!!
そして全日本プロレスに電撃入団
船木誠勝

学生プロレスから破壊王まで!
G1優勝者が語る雑草人生!!
真壁刀義

ハッスルを救うか、ぶち壊すか!?
“Vシネの帝王”がキングRIKIを語
竹内 力

本誌は“ツヨカワ”を全面支持しま
女子格がカワイイ

kamipro

2009 No.139 CONTENTS

表紙写真／吉場正和

石井慧vs吉田秀彦のダイナマイトなプラン!!
TBSで放映か!?





彦s石井慧から見える
技界の未来

本誌の入稿スケジュール最終日、もうこのタイミングをすぎたらどうやっても印刷所が対応してくれないという、まさにその日である9月14日に、『戦極』ニューイヤーイベントに関する記者会見が開催された。

場所は目黒雅叙園。もともとイベントというのは〝ハレ〟の場なのだが、日本でおそらく最も有名な結婚式場での会見という設定がまた〝ハレ〟感を増幅させる。特別な会見なのである。

ここで発表された内容は、このニューイヤーイベントで石井慧のプロデビュー戦が正式に決定したことだった。

北岡悟の戴冠（ということはつまり、五味隆典の敗北ということでもある）と初防衛失敗やフェザー級GPの充実ぶり、郷野聡寛の日本マット復帰など様々な出来事があった今年の『戦極』。それだけ〝語りがい〟のあるものだったわけだが、やはり最大のニュースは石井の参戦だ。一般マスコミにとっては、もしかすると『戦極』にまつわる〝唯一のニュース〟かもしれない。それくらい、図抜けてデカいニュースなのだ。

そういう中で発表された石井慧のプロデビュー戦の相手は、かねてから噂されていた、そして石井自身も対戦をアピールしていた、吉田秀彦に決定した。ともに柔道家。北京五輪の金メダリストとアトランタ五輪の金メダリストである。

「この試合は総合格闘技史上に語り継がれる試合になります」

大会を主催するワールドビクトリーロードの取締役であり、『戦極』の広報でもある國保尊弘氏がそう語るくらい、吉田vs石井は近年まれに見る話題性とスケールをもった、いわば〝ハレ中のハレ〟の試合なのだ。

両者の個性の違いも興味深い。「柔道界で約束されていたはずの地位を捨て、プロの道を選んだ異端児」という意味では共通しているのだが、性格やたたずまいは極端と言っていいくらいに違うのである。吉田がストレートなスポーツマンといった感じなら、対する石井は（陰性とまでは言わないが）かなりヒネリのある存在なのだ。少なくとも、従来の〝五輪アスリート〟のイメージからはかけ離れている。参戦決定会見での『徹子の部屋』コント（？）しかり、筋肉四兄弟入りしかり。正攻法なことに照れる体質とでも言えばいいのだろうか。

そういった個性の違いは、会見でのコメントにも表れていた。「柔道時代から尊敬していた先輩と闘えるのは光栄なこと。その先輩のアゴ端にパンチを打ち込みたいと思います（笑）」と語った石井に対し、吉田は「パンチはそう簡単に当たるもんじゃない。精一杯やって勝ちにいきたいと思います」と真剣な表情を崩さない。付け加えれば、スーツ姿の吉田に対し、石井はジーンズにタンクトップであった。

この個性の違い、あるいはどういう練習を積み、どんな意識を持って闘いに臨むのか。つまり〝ケ〟の部分が、この試合では重要になってくるのではないか。

なぜなら、現在の格闘技界では話題

性＝遠心力は〝最大の武器〟にはなっても〝最高の武器〟〝唯一の武器〟には

FCに相対化された中での求心力だ。

それは『Dynamite!!』も同



“ハレ中のハレ”吉田秀彦VS

日本格闘技

性＝遠心力は〝最大の武器〟にはなっても〝最高の武器〟〝唯一の武器〟にはなりえないからだ。言うまでもなく、いま格闘技界の頂点に君臨しているのはUFCである。そこは超のつく実力主義の世界であり、毎回おそろしくレベルの高い闘いが展開されている。そして、吉田vs石井も、そのUFCと同じMMAというジャンルの試合なのだ。アンデウソン・シウバやジョルジュ・サンピエールやBJペンの試合と見比べられるのである。

〝日本全体を巻き込んだビッグマッチ〟は、しかし〝世界の格闘技ファンを巻き込む〟こととイコールではない。〝ケ〟の魅力、言い換えれば求心力を持つことができなければ、この試合は「日本でだけ話題になっているローカルな出来事」になってしまう可能性もあるということだ。あらゆる試合は、UFCによって相対化されるのである。吉田vs石井も、例外ではない。

と、ここまで書いてきてまだ明かしていなかったのだが、今回の会見では、大会の日時が発表されていない。國保氏によれば「会場の問題とスポンサーの問題」だという。だが、4ページからの記事にもあるように、水面下では『Dynamite!!』との二元中継か、それとも単独開催かという調整が現在まさに進行しているとも言われる。

もし『Dynamite!!』との二元中継が、ということは魔裟斗の引退試合との〝カップリング〟が決まれば、石井vs吉田の話題性はさらに爆発的なものとなるだろう。ただ、試合で問われることの本質は変わらない。UFCに相対化された中での求心力だ。

それは『Dynamite!!』も同じことだ。魔裟斗の引退試合に関しては、相手がアンディ・サワーだろうとジョルジュ・ペトロシアンだろうと山本優弥だろうと、遠心力と求心力を兼ね備えた試合になるだろう。「これぞ立ち技の最高峰」と言える闘いになるはずだ。大事なのは、それ以外のマッチメイクにどれだけ求心力を感じさせることができるか。遠心力重視のカードで視聴率を稼ぐことは重要であり、日本格闘技界にとって死活問題なのだが、それがクリアされれば万事解決というわけではないのだ。遠心力だけで視聴率を獲得しても、相対化された視点から見ればやはり「日本でだけ盛り上がっているローカルな出来事」でしかない。

『戦極』ニューイヤーイベントが大晦日になるか1月3日になるかは大きな違いだ。『Dynamite!!』との共闘か、あるいは興行戦争か。ただ、いずれにしてもキーになるのは求心力。それがなければ、日本の格闘技界は〝鎖国による安定〟への道を選ぶしかなくなるだろう。

『Dynamite!!』と『戦極ニューイヤーイベント』が同日開催となれば（あるいはその可能性があったこと自体が）日本格闘技界再編成への第一歩だ。ただし、この2大会の内容は、日本の格闘技界がどんな方向に進むのかの分岐点にもなる。世界へ向けての反撃開始か、それとも〝鎖国〟への第一歩か。そのどちらのもありうるのだ。

（橋本宗洋）

ガンツ　たとえば18時から21時までを『戦極』、21時以降を『Dynami

（笑）。

ガンツ　『Dynamite!!』の場合はTBSと複数年契約らしいから、

テレ東から上がるかもしれない（笑）。『戦極』は大晦日以外にも、年明けの1月3日にやるっていう噂もあるよ

がフジテレビに打ち切られた年の大晦日なんか凄かったじゃないですか？「テレビ朝日で放送が決まっ

と、年末年始にかけて格闘技界に大きな地殻変動が起こるんじゃないかって話もありますね。今度は日本格



石井慧vs吉田秀彦実現で大再編時代突入!?

マット界にとんでもないことが起こるらしい!?

ニューイヤーイベントの超目玉カード、石田慧vs吉田秀彦が電撃決定！世間を騒がせた総合転向騒動から間もなく1年、いよいよ石井がMMAデビューをはたす。はたしてこの一戦は日本格闘技界のビッグバンとなるのか？　うごめきだした年末年始決戦についてどこよりも早く大放談！

構成／鈴木佑

斉藤　締め切りはとっくにすぎてるんですけど、『戦極』のニューイヤーイベントで石井慧vs吉田秀彦の一戦が行なわれることが発表されました！

ガンツ　ギリギリで間に合ってよかった（笑）。今回、石井は『戦極』のニューイヤーイベントでデビューすることになるわけだけど、実際には11月デビューって話もあったらしいよ。というのも、石井は一年間ひたすら練習しかしてないから、闘いたくてうずうずしてて、「早く試合組んでくれ」って言ってたらしい。でも、やっぱり石井のデビュー戦というのはビッグビジネスだから、最もインパクトがあるニューイヤーイベントになったらしいけどね。

斉藤　石井慧の対戦相手は吉田秀彦しか見当たらなかったんですが、よく吉田もこんなに早く決断してくれましたね。

ガンツ　本部長がいたら「秀彦、おまえ男だ！」って言ってるはずだよ（笑）。本人的にも最後の大勝負のつもりなんだろうし、世間を巻き込んで格闘技界を盛り上げようという強い意志が感じられるね。

斉藤　でも、現時点ではイベント自体は年末年始のいつやるか発表されてない。普通はカードと一緒に発表されてもいいものなんですけど。発表されない大きな理由の一つがテレビ局の問題。

ガンツ　やっぱり石井のデビュー戦は、いま日本の格闘技界が提供し得る最強の切り札。しかも、石井vs吉田ならテレビ編成も巻き込んで、格闘技界が再編されるぐらいの破壊力のあるカードだからね。

斉藤　もしかしたら本誌発売時にはテレビ局が決定してるかもしれないですけど……。以前ウチの座談会でも伏せ字で報道しましたけど、いま噂されているのが、TBSが『Dynamite!!』と『戦極』を二元中継するんじゃないかっていうことなんですよね。

ガンツ　『戦極』って『戦極G！』がテレ東で放映されてるけど、まだ実質的にはどこのテレビ局のものでもないんだよね。だからTBSとしては、どうせ大晦日に格闘技を放映するなら、当然巨大な目玉として石井vs吉田も放映したいって思惑があっても全然おかしくない。というか、畑違いのボクシングとMMAを2部構成で一緒に放送するテレビ局だしね。極端な話、この中に「スポーツマンNO・1決定戦」が入ったっておかしくないっていうか（笑）。

斉藤　「TBSオールスター感謝祭」の小川直也vs次長課長の河本のヌルヌル大相撲や赤坂マラソンが『Dynamite!!』に組まれても、TBSならなんの違和感もないという（笑）。そもそもボクシング中継だとWBAだろうがWBCだろうが、異なる団体を放送してもテレビ局的には関係ないって話ですしね。

ガンツ　まぁ、二元中継が実現したら、FEG関係者はいい気分はしないかもしれないけど。ただ、いろんな権利問題があるのも事実だよね。たとえば放映権料はどうなるんだっていうような。

斉藤　『やれんのか！』のときの二元中継はスムーズでしたよね。FEGが『やれんのか！』の主催を兼ねることで、スポンサー問題を含めてクリアできて。でも、『戦極』と『Dynamite!!』はそれぞれ別のスポンサーがついてるし、これをどうクリアするのか。

座談会出席者

ジャン斉藤
本誌編集長。『雀鬼』こと伝説の麻雀師・桜井章一の内弟子を経て、『kamipro』編集部へ。永久電機などアントニオ猪木の怪しげな事業の調査や破綻系興行の観戦がライフワーク。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファン。UWF信者としてならし、「週プロ」の「プレッシャー」会員という恥ずかしい過去を持つ。人気企画・変態座談会主宰者としても活躍中。

TBSが大晦日に『Dynamite!!』と『戦極』を二元中継するかもしれない？

ガンツ　たとえば18時から21時までを『戦極』、21時以降を『Dynamite!!』っていうような二部構成というより、別番組にすることも考えられる。

斉藤　視聴者には『Dynamite!!』と『戦極』の違いがわからないだろうから、第一部が石井慧デビュー特番、第二部が魔裟斗引退特番にするしかない。

ガンツ　あともう一つ、大晦日に『戦極』の放送が噂されているのが、当然ながらいま『戦極G！』をやってるテレビ東京。なんか去年の大晦日まではプロレスを放送してたっていう話も聞くけど（笑）。

斉藤　そんなこともありましたねぇ（笑）。

ガンツ　『Dynamite!!』の場合はTBSと複数年契約らしいから、今年の大晦日も放映は決まってるみたいだけど、『戦極』に関してはテレビ東京という話もある、と。

斉藤　レギュラー番組を持ってるテレ東の話のほうが有力っちゃ有力。でも、TBSっていま局全体として視聴率が凄く下がってるじゃないですか？　視聴率に関してはTBSには言われたくないほど（笑）。もし、テレ東で石井vs吉田を放送した場合、ヘタしたらTBSは負けかねないですよ！

ガンツ　その可能性はもの凄くあるでしょう。今年は打倒紅白の狼煙がテレ東から上がるかもしれない（笑）。

『戦極』は大晦日以外にも、年明けの1月3日にやるっていう噂もあるよね。だから、テレビの編成次第で開催日も左右されるから、発表が遅れてるっていう話も聞く。

斉藤　まぁ、なんにしろいまのところ『Dynamite!!』は守勢のイメージがありますね。

ガンツ　まだ魔裟斗以外に目玉になりそうなカードも聞かないしね。

斉藤　そうするとキン肉万太郎みたいな飛び道具が出てくる可能性が高い。『Dynamite!!』サイドのアッと驚く剛速球に期待したいけど、皆さん、いまのうちに覚悟しておきましょう（笑）。

ガンツ　まぁ、格闘技ファンにとっては『Dynamite!!』でヒョードルが見れるんじゃないかっていう期待もあるだろうけどね。でも、とりあえずストライクフォースが11月7日になるっていう情報もあるから、さすがに大晦日は厳しい感じはする。

斉藤　そもそもTBSサイドが「ヒョードルは数字を獲れるのか？」とか言いかねないですけど（笑）。

ガンツ　……まぁ「おめえはそれでいいや」っていうか、「一生、ボブ・サップを使ってくれ」と（笑）。

斉藤　あとは、こうやってまた年末年始のテレビ戦争が始まることで、いろんなデマや怪文書が飛び交うんじゃないかなっていう。PRIDEがフジテレビに打ち切られた年の大晦日なんか凄かったじゃないですか？　「テレビ朝日で放送が決まった！」とか「DSEの名刺を持った人間が暴力事件を起こした!!」とかいうデマが流れて（笑）。

ガンツ　どんなデマなんだ（笑）。

斉藤　要はそんな暴力事件のデマを流してまでPRIDEの地上波放送復活を阻止したい人間がいたのかなあ、と。だいたい凄い話ですよね、暴力を振るうのに名刺は出さないだろうって（笑）。まあ、不謹慎ですけど、これからどんな噂が出てくるか楽しみっていうか。



8.2『戦極』でJTT（柔道トップチーム）としてともにリングに立った石井と吉田。石井は「初戦の相手をこの中でしたい人がいます。それは泉先輩！　ではありません（笑）」と、泉をネタにしながら吉田戦をアピールした。

ガンツ　『やれんのか！』のときは「大晦日イベントはガセネタである」って、会見前日まで言いきっていた自称・ジャーナリストもいたしね（笑）。

斉藤　それと、聞いたところによると、年末年始にかけて格闘技界に大きな地殻変動が起こるんじゃないかって話もありますね。今度は日本格闘技の文化が変わる可能性もあるっていうくらいの。

ガンツ　どうなるんだろうね。噂を聞いてるだけではポジティブなんだかネガティブなんだかわけがわからないけど。

斉藤　ホントに。ちょっと引く人もいるかもしれないし、興奮する人もいるでしょ。

ガンツ　しかし、こんなに早く年末年始のカードを発表するのも異例だよね。まだ年末を前にこれからいろんな大会があるじゃない？　DREAMが10・6横浜と10・25大阪、『戦極』が9・23さいたまと11・7両国。さらに10月にはバリジャパも予定されてるし。どのイベント同士が協力体制を敷くのか、水面下ではおおいに動いてるらしいから、これから何が起こるかわからない。『戦極』が○○○を呼ぶかもなんて話も聞くしね。

斉藤　もうガイジンはいつ何時、油断がならねえな（笑）。

ガンツ　まあ、ガイジンはビジネスライクだから、〝団体意識〟なんか求めるほうがおかしいんだよね。

斉藤　……というような話が、いまからネットを中心に飛び交うと思うので、読者の皆さんはこの対談も話半分で読んでくださ～い！

【09年9月14日／都内・kamipro編集部にて収録】



“国民的一戦”内藤大助戦11月に実現！

再び憎まれっ子世にはばかる!!

魔裟斗の引退試合、石井慧のプロデビュー戦と、にわかに活気づいてきたマット界。
しかし、“大衆”や“世間”をキーワードに掲げるならば、これ以上のカードは見当たらないだろう。
——内藤大助vs亀田興毅戦!!　11月に一つの大河ドラマが区切りを迎える！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／平工幸雄

元WBAライトフライ級チャンピオン

亀田興毅



「内藤戦には思い入れはないよ。
でも、もの凄く盛り上がるやろな」

亀田興毅が帰ってきた!!……とはいっても、2年前の〝謝罪会見〟以降、試合は何度か行なってはいるので、正確には〝世の中〟に帰ってくるとでも言うのだろうか。なんとなんと因縁の内藤大助戦が11月に実現するというのである。

内藤大助といえば、興毅の弟・大毅との世界戦をきっかけに超ブレイク。一躍〝国民的人気ボクサー〟に登り詰めた。一方、亀田一家は試合中の反則行為などが日本中からバッシングを浴び、華やかな表舞台からの退場を余儀なくされてしまった。

あれから2年――。運命の一戦をついに迎える亀田興毅は何を考えているのか。9・5世界前哨戦を勝利で飾った翌日に話を聞いた。

――昨日の試合は世界戦の前哨戦ということもあって、いろいろと試しながら闘ってる姿が印象的だったんですけども。

亀田　そうそう、いろいろ試しながらな。ホントは7ラウンドぐらいまでやりたいなと思ったけど。まだまだやりたいことあったし、それができないまま終わってな。まあ、もうちょっと相手が前に出てきてくれたら、ほかに試したいこともできたんだけど。

――試合後のリング上では、もうちょっとおもしろくしたかったみたいな発言をされてましたね。

亀田　お客さんがどう観てたか知らんけど、もうちょっとエキサイティングな試合のほうがみんなも楽しめたと思うけど。ただ、俺にとって次の試合（内藤大助戦）が本当の勝負やから、ガチャガチャやって倒すことも可能やろうけど、そんなこと無理してやったって仕方ないやんか。半年ぶりの試合やから、いろいろと試しながら「次のラウンドは何しよう」って確かめながらやることが大事やと思ったからな。

――すべては11月の内藤戦のためということですか。

亀田　そやな。やっぱ次は世界タイトルマッチやからな。

――1年ちょっと前から内藤選手とは闘うんじゃないかって言われ続けてましたよね。





ディファ有明で行なわれた前哨戦は、メキシコ人ボクサーのウンベルト・プールを5ラウンドでKO。また三男の亀田和毅も前座で登場。3ラウンドでTKO勝利している。

亀田　（内藤選手が世界チャンピオンになる）前は俺の中では「闘う」って考えたことなかったからな。そんなに特別意識したこともないし。向こうが世界のベルトを持ってからは意識はしてたけど、それ以前は特別意識したことはなかったよ。

――内藤戦というのは大毅選手の反則騒動を含めて深い因縁があるわけですが、内藤選手に対して何か特別な思い入れはありますか？

亀田　思い入れはなんもないよ。でも、よくここまでチャンピオンでおってくれたなと思うな。そこは感謝してるよ。

――それは内藤選手とタイトルマッチをやりたかったっていうことですか？

亀田　っていうことでもないけど、まあ盛り上がるやん。

――まあ、そうですよね（笑）。

亀田　うん。普通のチャンピオンに挑戦するより盛り上がるな。全然違うやろ。今度の試合はいい舞台やと思うよ。

――そこは興毅選手が客観的に見ても、興味深いマッチメイクなんですね。

亀田　流れ的に言ったらな、「お〜、あの二人が闘うんか！」って思うな。世間からしたら「亀田と内藤が試合するんかい」っていうのはあるやろうけどな。俺本人からしたらそんなにアレはないけど。

――ないですか。

亀田　うん。盛り上がるっていう面でいったら、そらなあ、良いカードやと思うけど。俺個人やったらべつに。世界チャンピオンに挑戦する、それだけで充分やんか。

――それ以上の思い入れは……。

亀田　それ以上の思い入れは、大毅の仇取る。それだけ。

――大毅選手のときはバッシングが凄かったじゃないですか。丸刈りにして謝罪会見をやったり。そういうこともとくに心にはないんですか？

亀田　そら、あのときはイヤやったで。人間、誰でもイヤや、あんなこと。いまののりピーみたいな感じじゃ。

――ダハハハ。

亀田　のりピー以上のバッシングちゃうか？

――う〜ん、確かにのりピー以上かもしれませんね（笑）。

亀田　そうやろ？　むしろ俺らのほうが凄いんちゃう。だって俺の謝罪会見、テレビのワイドショーが全局生中継したで。

――全局横並びで（笑）。

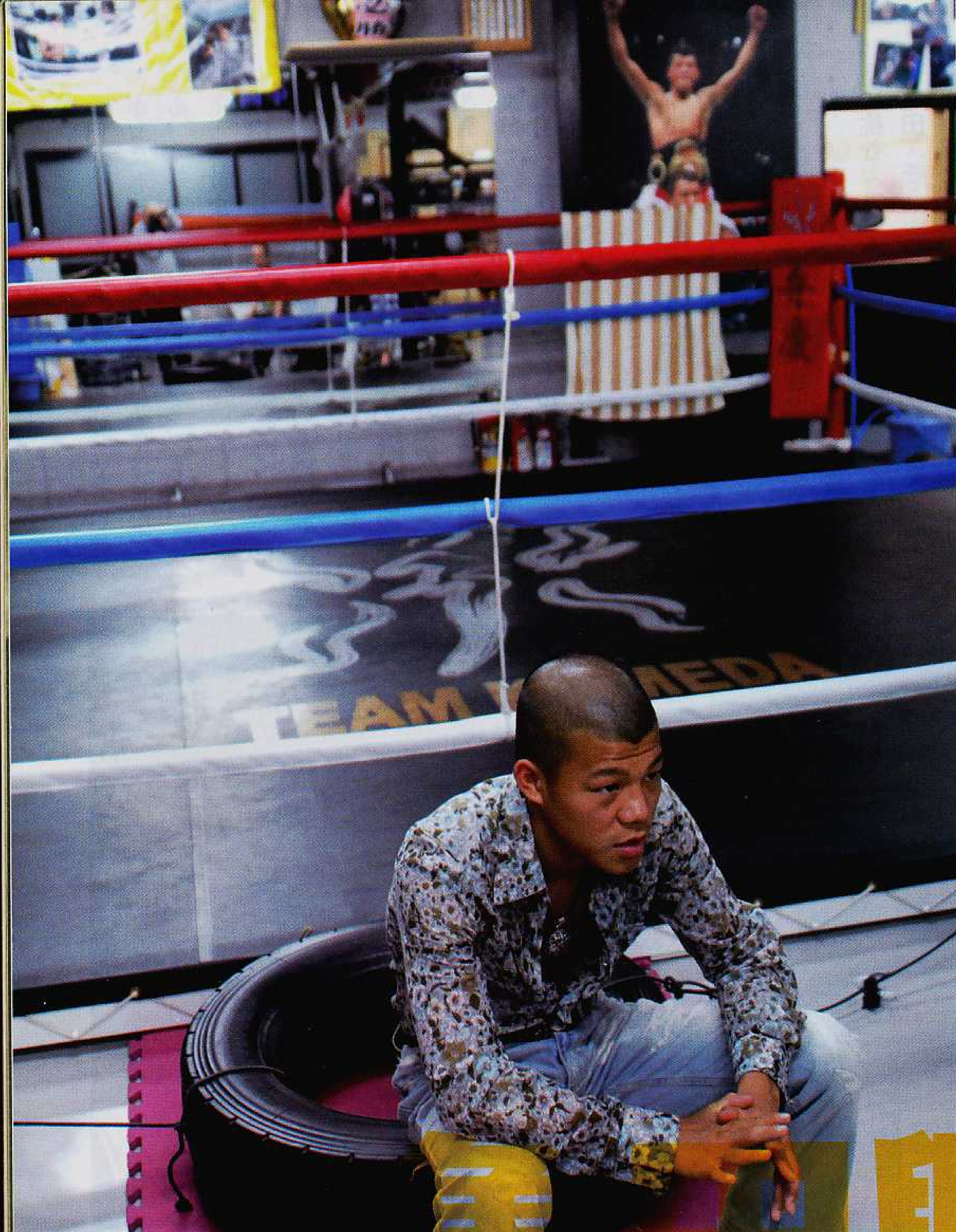
亀田　よくあそこまでやられたっていうな。そういうこともあったし、俺らそれぐらい注目されてんねんっていうのも感じたしな。っていうことは俺らの存在は大きいんやな、と。なら結局、俺らが世界戦したらいつか自然に盛り上がるやろ。

――あの謝罪会見からの2年間は長かったですか？

亀田　あれから2年か……。全然、長くないよ。ちょうどええ機会やと思う。いろいろと勉強することもあったし。あのときに俺たちの前から去っていった人間もおれば、残ってくれた人間もおる。そういうことも勉強になったし。

――あの頃は将来に対して不安じゃなかったんですけど。それは意識して家族を引っぱっていこうと思ってたんですか？

謝罪会見のときはイヤやったで。のりピー以上のバッシングちゃうか？



亀田興毅

謝罪会見のときはイヤやったで。のりピー以上のバッシングちゃうか？

ことも勉強になったし。

——あの頃は将来に対して不安じゃなかったですか？

亀田　全然。不安はないよ。そらちょっと不安もあったときもあるよ。「大丈夫かな……」とか「今後どうなるんやろ？」って。でも家族とやってきとるから。で、結局、いま考えたらええ方向に行ってるんやから。うん。あのとき一気にドン底まで落ちて、この2年這い上がってきたな。

——前に大毅選手のインタビューしたときに印象的だったのが、あの頃はお父さんの史郎さんも元気がなくて、その代わりに興毅選手が人が変わったかのように必死に明るく振る舞ってたということだったんですけど。それは意識して家族を引っぱっていこうと思ってたんですか？

亀田　（顔をうつむきながら）憶えてないなあ……。俺ら、あんまり前のことって考えへんねんな。昔のこととか考えたくないねん。良いことも悪いことも。

——良いこともですか？

亀田　「あのとき良かったなあ」って考えてどうする？

——ちょっと過去に浸っちゃいますね。

亀田　昔のこと言うてる場合ちゃうやろ、と。これから先の楽しいことを考えていったほうが、やっぱ気持ちも楽しくなるしな。身近なことで言うたら、明日なんや楽しいことするとか、そう考えて生きてるほうが楽しいと思うよ。そしたら一日経つのも早いし。昔のこと考えてたって絶対アカン。

——あの当時って、外に出るのも一苦労だったんですよね。

亀田　そら出られへんよ。周りにマスコミがいっぱいおんねんから。外出たらなんやかんや言うてくる。「どこ行くんですか？」とか。どこ行ってもいいやん、べつに。

——よけいなお世話ですか（笑）。

亀田　ひどいよ。いちいち「謝罪はしないのですか？」とか言うてきよるんやから。

——まあ、いまのマスコミは謝罪を要求するのが仕事ですから（笑）。しかし、あの頃と比べたらだいぶ落ち着きましたよね。

亀田　いまは関係ないやん。いまはバッシングされることしてないんやから。

——昨日のリング上では史郎さんのセコンド復帰の話をされてましたけど、ちょっと感極まっていましたね。

亀田　そうやな。あれから2年、この2年は俺にとっては長くなかったって感じてるけど、親父にとっての2年は長いと思うよ。いつも試合見てるやんか。いままでセコンドで、一番身近なところで見てた。いまはなんぼリングサイドで見てるいうてもやっぱり違う。

——史郎さんはリングサイドからアドバイスは送ってますよね。それでもセコンドのときとは精神的な支えとして違いますか？

亀田　1分間のインターバル中が一番違う。そこでどういうアドバイスするかっていうのもあるし、そこは全然違うよな。

——興毅選手がああいうマイクをしたことで批判も起きてるわけですが、それでもお父さんを守りたいという気持ちは変わりませんか？

亀田　べつに文句を言われても関係ないし。文句を言われる意味もわからんし。なんで文句言われるん？

——「簡単に許していいのか！」ということですね。

亀田　息子が親父のこと言うて何が悪いん？　俺は何を言われようが親父に戻ってきてほしい。文句を言うヤツらは自分の親になんも言わへんか？　なんで文句を言われなアカンねん。文句を言うヤツは目の前まで来て文句を言うてみい。一対一で話したるから。

——だいたい20代くらいの若者になると、父親との縁が薄くなりがちですが、興毅選手の場合って結びつきが強いですよね。

亀田　そりゃそうやろ。

——他人の親子関係を見て何か違いは感じませんか？

亀田　俺は他人の家族とか知らんからわからんけど、小さいときからずっと一緒にやってきてるやん。

——興毅選手って史郎さんに対する反抗期的なものってあったんですか？

亀田　あったよ、小学校のときは。

——それはどういう理由だったんですか？

亀田　どういう理由やったかな。なんか

ボクシングは一回の勝敗でこれだけ変わる。それがわかったのはいいことでもある

一回、親父にかかっていったで。でもボコボコにされてなあ。バチバチにされたから、それからやってないな。

——容赦なくですか？

亀田　そりゃそうやろ。

——それ以来、親に対しての悪感情はないんですか？

亀田　イヤっていうのはないな。怒られても次の日になったらもう普通やんか。

——それは弟さんたちもそんな感じなんですか？

亀田　そうそう、みんなそんな感じ。俺らはこれがあたりまえの家族だと思ってるからな。

——これがあたりまえですか。

亀田　うん。みんなもこんなんやと思うしな。

——それは違うと思いますよ（笑）。しかし、大毅さんと同じタイミングで世界戦に挑むっていうのはドラマがありますね。

亀田　そうやな、2年間でいろんなことがあって世界戦やん。二人が勝ったら二人でフライ級チャンピオンやな。凄いと思うで。ま、とりあえず前哨戦が終わって、今年は残すところ、あと世界タイトル戦だけや。

——どんな試合も勝ち負けは問われるものですけど、内藤戦はとくに勝敗が大きく問われると思うんですね。

亀田　いやいや、昨日の試合もそうやで。昨日の試合もそれなりにプレッシャーあったよ。次は世界戦が決まってるというのもあるから、「ケガしたらどないしよう……？」とか、やっぱいろいろ考えるやんか。そういう意味でもプレッシャーあったし。

——内藤戦の勝敗いかんによっては今後の興毅選手の人生も変わってくるんじゃないかって見方もあるんですけど、そういうプレッシャーはありますか？

亀田　俺、そういうこと考えてないもん。いつもどおりの試合や。いつもどおりの一戦。考えてるのはそれだけ。人生のことは考えてない。

——世界タイトルマッチを闘うっていう一点ですか。



8年7月、内藤大助の世界戦終了後に“乱入”した亀田興毅。対戦を要求すると内藤も承諾。すわ対決かと思われたが実現はしなかった。この乱入を亀田がかつて所属していた協栄ジムの金平会長は「茶番」と斬り捨てたが、こんなにおもしろい茶番は大歓迎だ！

亀田　そうやな。

——昨日は内藤選手、会場に来られませんでしたね。

亀田　来えへんかったな。おもろないなあ。「ボクシング界を盛り上げたい」とか言うてる張本人がなあ。言うてることとやってることが違うやろ。

——違いますか？

亀田　うん。見ててもわかるやん。

——どういうところが違いますか？

亀田　まずあれやな、目立ちたがり屋やしな。

——ダハハハハ。内藤選手はテレビにしろイベントにしろ、いろんなところに現われますもんね。

亀田　うん。けっこう現われるやろ。「いましかない！」みたいにな。

——それもボクシングを盛り上げるためっていう理由になるのかもしれないですけど。

亀田　それがボクシングを盛り上げることになるかっていったら、また違うよな。そやかてボクシングは盛り上がってないと思うし。

——いまボクシング界は盛り上がってないと思います？

亀田　100パーセント盛り上がってないやろ。世界戦でもテレビ放送ないやん。それが盛り上がってると言える？

——まあ、昨日、内藤選手が来ればもっと盛り上がったでしょうね。

亀田　盛り上げたいんやったら来るべきやろ。国民の期待に応えるとか、なんやかんや言うてるけど、それやったら来てたほうがおもしろかったん違う？

——でもまあ、試合が近づくにつれ、ヒートアップしていきそうな気はしますけど。

亀田　ヒートアップいうたかてヒートアップせえへんやん。俺だけ一方的ちゃうの？　向こうは何も言わへん。向こうは自分のイメージを崩したないんやろ。

——亀田さんからすると、内藤選手はイメージを作ってる印象はあるんですか？

亀田　作ってるやんか。見たらわかるやん。自分のイメージ潰したないねん。俺はイメージなんて関係あらへん。俺はいままでずっと一緒や。昔からこのままで来てるやんか。そりゃ言いたいこと言わしてもらうよ。

——そこは何があってもブレないわけですか？

亀田　俺は亀田興毅やからなあ。

——つまり、他人の評価を気にするところは興毅選手にはないってことですか？

亀田　あんまり気にせえへんで。無理し

亀田興毅

て好かれても仕方ないやん。そんなんで好かれてどないする？　ずっとそれで作っとかなアカンねんで。そんなことしても何も良いことないよ。

——自分のやりたいこともできなくなっちゃうわけですもんね。

亀田　そう。自分の自然体を見てもらって、それを評価してもらうことが一番大事。良い子ちゃんのキャラクターするのは確かに簡単やで。

——興毅選手は善人をやろうと思ったらできるってことですか？

亀田　できるよ。「やれ」って言われたらできるよ。おもしろくないけどな。でも、そんなことしてどないなるん？　しんどいやんか。俺はそんなことしたくない。俺は自分のやりたいこと、現役生活ってそんな長いもん違うから。50年も60年もできること違うやんか。長くて10年やんか。10年やったら10年、悔いを残さんようにやりたいことをやる。それだけ。現役生活、悔いを残さんようにな、言いたいことがあったら言うたらええし。引退したらもう終わりやねんから。引退したら普通に暮らしていくだけの話やんか。引退してビッグマウスでなんや言うてるバカもおらんやんか。

——確かにそうですね（笑）。

亀田　現役やからこそビッグマウスができるんであって。引退したらみんな普通の人になるんやから。引退したあとはまた新しい人生の始まりやねんから。会社員になるんかもわからんし、何になるにしてもまた一からのスタートやねんから、ちゃんとみんなに頭下げてやっていかないかんわけや。そのときはいまの態度ではダメや。でも、いまは何言うてもええし、盛り上げてもええよ。もっともっと盛り上げたらええ。やりたいように言うわ。そんなときにイメージ作っといてみいや、疲れるよ。しんどい、しんどい。言いたいこと言わな。

——周りを意識して萎縮してもしょうがないっちゃないですね。

亀田　周りの声を聞いてる余裕ないし。周りの声を聞いてるということはボクシングに集中してないんよ。自分のやるべきことにちゃんと集中して一生懸命練習してたら、周りの声なんて耳にも入ってけえへん。一日ハードな練習でとことん追い込んだら、その日は疲れて寝てる。だからそこまでしっかりやらないかんし。プロやったらな。

——ボクサーとしての内藤選手はどう評価されてるんですか？

亀田　ベルト持ってるし、世界チャンピオンやな。でも、どうなんやろなあ。まあでも、決して弱い選手ちゃうと思うよ。負けたのはポンサクレックだけやろ。ポンサクレックもええ選手やしな。あとは負けてないからな。だから弱い選手ちゃうよ。

——強敵ってイメージはないですか？

亀田　強敵ってほどでもないけど、どうなんやろなあ、ボチボチちゃうかな。まあ、だいたいもうイメージできてるからな。あとはそれを試合でやるだけやな。

——内藤選手は国民的ボクサーに上り詰めましたけど、ある意味、亀田一家が踏み台にされたってイメージはあります？　弟さんとの試合をきっかけにして。

亀田　あれはあれでええんちゃうん。ボクシングっていうのは一回の勝敗でこれだけ変わる、それがわかったっていうのはいいことでもあるしな。

——あそこまでのダイナミズムを秘めている、と。そこは客観的なんですね。

亀田　客観的に見ればな。ボクシングの一試合の重みっていうのをまた周りの人間にもわかってもらえたら。まあ普通、ここまで差が違うことはないけど。これは極端な例やな。一回でこういうことになるときもあるよ、と。

——内藤戦もそうなると思います？

亀田　それはわからんな。終わってみなわからんけどな。

——観る側はそうなるんじゃないかなって楽しみにしてるんですよ。

亀田　深くは考えないよ。人生のことなんか考えない。うん。とりあえずいまは10月6日の大毅の世界戦。あと1ヵ月やから。この試合が一番大事。俺の試合はそのあとからや。

【09年9月5日／都内・亀田ジムにて収録】



かめだ・こうき■1986年11月17日、大阪府出身。亀田兄弟の長男。いつ何時賛否両論な騒動を巻き起こすプロボクサー。左の犬がレオ、右がロデムだそうです。166cm、52kg。

いまから1年前、亀田興毅が表紙を飾った本誌No.126のヒール特集において、何人かの評論家や関係者から「亀田興毅は〝亀田興毅〟を演じている」という指摘がなされていた。

確かに亀田興毅本人のインタビューでも、そう受け取れる発言がなされている。取材中に家庭内のエピソードを振ると、うつむきかげんに「憶えてないなあ……」と繰り返していたりする。

しかし、実際に演じていようがどうだろうがどうでもいいのである。

それよりもまだ22歳の青年が、日本中からの好奇心や悪意を一身に浴びていることのほうが格段に興味深い。いや、自分の身に置き換えてみればゾッとするのだ。

9月13日。内藤戦の正式発表はまだなされていないが、リングに立った彼はどのような〝亀田興毅〟を演じて、どんな〝亀田興毅〟としての素顔を見せるのか。

今年最大のスーパーファイトはもうすぐだ！

マブダチ日村が至極のヨイショ!

DREAMフェザー級GP

所さん、調子に乗って優勝宣言!!

準決勝は高谷裕之戦に決定!

所英男×（バナナマン）日村勇紀 友情対談アゲイン

友情タッグ、再び!　3連敗という窮地から見事脱出し、10月6日、DREAMフェザー級GP決勝戦へと向かう所英男。その脱出のきっかけを作ったのはマブダチの日村勇紀だ。『DREAM.9』の煽りVにも登場した日村だが、その裏側ではいったいどんなことが起こっていたのか。友人だからこそわかる、また友人だからこそ味わった二人の心の動きを聞いてみた!

聞き手／松下ミワ　撮影／吉場正和



日村　あら！　所さん、まだ丸刈りなの？　勝ったからもう髪伸ばしてるのかと思ってたよ。

所　はい。なんか、髪短いほうがラクなんで。それに、日村さんみたいにするのもどうかなって思うし（ニヤリ）。

日村　ちょっと！　いきなり失礼でしょ、アナタ！

所　クックックック。

――えー、冒頭からたいへん仲がいいお二人ですが、今日は「友情対談アゲイン」ということで、よろしくお願いします！

所&日村　よろしくお願いします！

――お二人には以前にも『kamipro』で対談していただきましたが、たしかお二人の出会いは、日村さんの後輩の方に引き合わせてもらったのが始まりだったというお話でしたよね？

日村　ええ。ウチの後輩でダブルブッキングというヤツがいるんですけど、そいつらが所さんと仕事で知り合いになって、「俺も所さんと会わせてよ」って。そっからですね。それ以降はもう完全に飲む関係です（キッパリ）。

――あ、早い話が飲み仲間（笑）。

日村　そう。もちろん所英男という格闘家は以前から知ってましたけど、実際会ったらけっこう酒飲むしね、年齢もそんなに離れてないですから居心地がよかったんでしょうね。それに、呼んだらけっこうすぐ来ますから、この人。

所　一番初めめも家でブラッとしてたら電話があったんで、「ああ、急いで行きます！」って感じですぐ行きました。

――前回の対談では、出会ったその年に一緒にバリ島旅行まで行ったというお話でした。こんなに意気投合しちゃったのは、いったいお互いどんなところにピンとき


いい感じで優勝してくださいよ！
はい、がんばります
reversal
reversal.dogi.design works
TOKORO
cleaning
Stop! Child Abuse

たんですか?

所　……さあ?(首をかしげて)。

日村　「さあ?」じゃないですよ(笑)。まあ男同士なんでね、お酒飲んでるとなんつーんでしょう、下ネタじゃないですけど、エッチな話になってくるじゃないですか。そんな話になってくると男なんて一気に仲良くなるんですよ。しかも、所さんはその部分においては中2か中1ぐらいの輝きを持ってますから。

──輝きって(笑)。

日村　これはもう抜群なんですよ! そこに俺はガッとシンパシーを感じたんですよね。

──〝中2〟の所さんは日村さんに対してはどういう印象でしたか?

所　もうテレビで見たまんまでした。それに、もの凄くいい人ってイメージがあるんですよね。面倒見もいいし、あと意外とカッコいいんですよ!

日村　「意外と」って何よ(笑)。

所　だって日村さん、カッコいいことするじゃないですか。

日村　俺っすか? たとえばなんですか?

所　………お会計とか(ボソリ)。

日村　ダハハハハハハハハ!

──現金ですねえ。

所　いや、ほかにもけっこうあるんですけど、「うわっ、日村さんカッコいいですね!」ってボク何度か言ったことありますよね?

日村　たぶんその時期ね、俺の中でテーマだったんですよ。「いつ、お会計したんだ?」って思わせるのが。でも、あれもけっこう難しくて、センスが必要なんですよね。たぶん石田純一さんとかは、トイレに行くフリしてサッと払ってたりするんでしょうけど。

所　日村さんってそこを目指してるんですか?(真剣に)。

日村　いや違いますけど(照)。

──でも、そんな日村さんのお会計攻撃に引っかかったのが所さんだったという。

所　はい(笑)。

日村　この人といると食わせてくれると思ったんだ(笑)。

──そんなお二人の仲が一気に広まったのが『DREAM・9』での煽りVでしたよね。

日村　あれは凄かった! あんな大々的に取り上げられるとは思いませんでしたよ。あれって、所さんがプッシュしたんですか?

所　いや、ボクは撮影の日に「今日、日村さん来るから」って言われてビックリしてたほうですね。でも、来ていただいてありがたかったです。

──はじめはどんなふうにお話が入ったんですか?



所さんの細かい試合のこととか知らないし 実際ただの飲み仲間ですから(日村)

日村　最初は『格闘王子』という番組があるじゃないですか。話があったのは煽りVというよりも『格闘王子』が先で、「所さんが3連敗だから、励ますような感じでVを撮りたいんです」みたいなことを言われたのが最初ですね。でも、その映像を所さんが登場する前の煽りVでも出すとか言ってたから、ちょっと俺の中では「ヤベエな」って感じだったんですよ。

所　なんでですか?

日村　恥ずかしすぎて。だって、所英男ファンがいっぱいいるのに、その人たちの前で「なんか急に日村が現われたぞ」みたいになったらイヤじゃないですか。俺だったら確実にカチンときますからね。

──つまり、「日村はミーハーだ」と思われるんじゃないか、と。

日村　そうそうそう。でも俺はミーハーどころか所さんの細かい試合のこととかあんまり知らないし、実際、ただの飲み仲間ですからね!

所　だって日村さん、ボクの試合は観たことがないですもんね(じろり)。

日村　いや、そこは観てますって! ちゃんと観たことありますよ……テレビで。

所　ボクは何回か会場に来てほしいって誘ったんですけどね(冷たく)。

日村　それはほら、いろいろ事情があるじゃない。俺だって、ちゃんと働いてるしね!

所　クックックック。

日村　だからホンットに所さんの試合が好きな人からすると、絶対にそういう感情になると思うんですよ。「急になんだよ、アイツ」と。正直それがキツいなと思ってたけど、意外とね、会場の人たちは受け入れてくれてたんですよね。

──ちなみに、会場で所さんの試合をご覧

所英男×日村勇紀

になるのは初めてだったんですか?

日村　いや、二回目ですね。一回目は年末

ね。逆に所さんに申し訳ない気がしましたよ。だって、まもなく試合が始まるって

日村　でもね、ムダにドキドキさせられましたよ。だって、三角絞めがけっこう早め

った年末の試合で骨折したじゃないですか。それがどっかにずーっとあるから、ロ

になるのは初めてだったんですか？

日村　いや、二回目ですね。一回目は年末の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』（中村大介戦）で所さんがボロ負けしちゃったヤツです。骨も折ったし。

所　……。

――それはプライベートで観に行かれたんでしょうか？

日村　いや、僕がたまたまバラエティの番組でミルコ・クロコップさんに蹴られるっていう企画があったんですよ。

――たいへんですねえ（笑）。

日村　ええ、けっこうたいへんなんですよ（笑）。その関係もあって、『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』は会場にいたんですけど、まぁ、いろいろ撮影でバタバタ動きはしてたんですよね。だからほかの試合はほとんど観られなかったんですけど、「所さんの試合だけはちょっと観させて」って言って観てたんですよ。

――所さんは日村さんがいらっしゃることはご存知だったんですか？

所　あ、試合が始まる前に挨拶に来てもらったので。

――どうでした？　日村さんの前で試合をするというのは。

所　いや……べつに。

日村　ダハハハハ！　「べつに」って（笑）。まあ、それよりも何万人の人が観てるわけだからね。

所　でも、今回はさすがに煽りＶにも出てもらったりしてるんで、へんな試合にはできないなと思いました。

――その意気込みどおりエイブル・カラム戦は劇的な勝利でしたね。日村さんもリングサイドで相当興奮されてて。

日村　やっぱしますよぉ。でも俺、あんなにカメラに抜かれると思わなかったですね。逆に所さんに申し訳ない気がしましたよ。だって、まもなく試合が始まるってときに、カメラがスーッと寄ったのが、所さん、対戦相手のエイブル・カラム、そのあと前田日明さん、最後に俺の順ですよ。俺を抜いた次の瞬間に試合がバーンと始まったから、「なんだよ、それ！」って（笑）。

――真剣な顔した日村さんが最後に大写し（笑）。

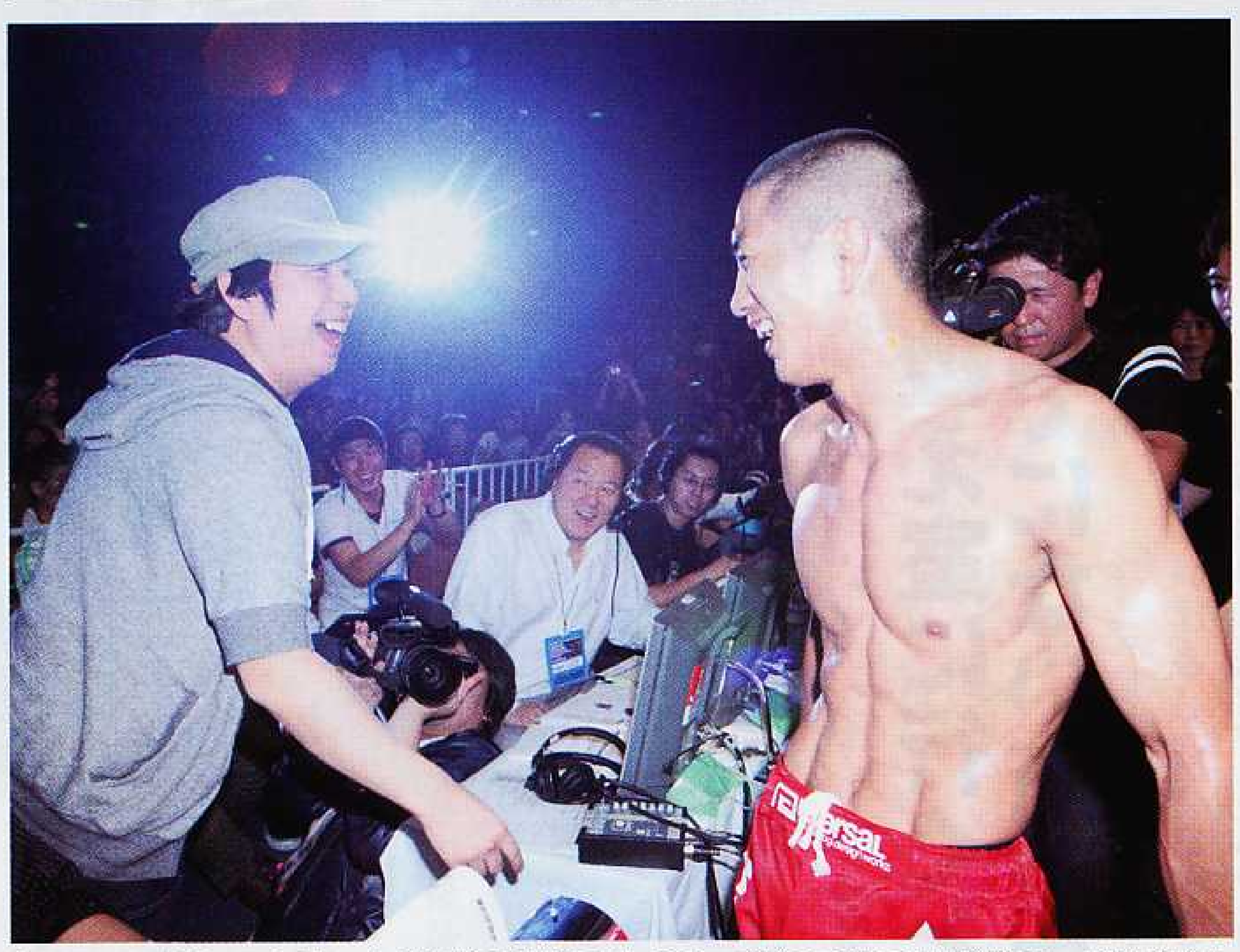
日村　そこはいいだろ！　って思いましたけどね。でも終わってみれば、所さんの試合はサイコーだったじゃないですか。もうベストバウトですよね！

所　……（無言でニヤける）。

日村勇紀

さすがに煽りＶにも出ていただいたんでへんな試合にはできないなって（所）





『DREAM.9』所vsエイブル・カラム戦の煽りVでは、所のマブダチである日村が登場し、「誰も期待してないんだから」「サンドウィッチマンは敗者復活から優勝した」など、3連敗だった所に励ましの言葉をかける。その甲斐があったのか、所は劇的な一本勝ちを収め、試合後は日村のもとに駆け寄った。これが友情のワンショットだ！　笑顔がまぶしいぞ！

日村　でもね、ムダにドキドキさせられましたよ。だって、三角絞めがけっこう早めにガッと極まって「ヨッシャー！」ってなったじゃないですか。でも、あれで極まらないから「この人、マジかよ！」って（笑）。

所　クックックック。

日村　「え、負けるのこれ⁉」って。だからホントにねえ、イライラさせすぎですよ、アナタ。

所　さすがにね。

日村　「さすがにね」じゃねえよ！（笑）。だから途中で、そんなことがあるはずはないんですけど、一瞬「俺がいるから負けんのかな」とか思うわけですよ。俺が観に行った年末の試合で骨折したじゃないですか。それがどっかにずーっとあるから、ロケもやらせてもらって、煽りＶも流されてとなると〝日村の負け呪縛〟みたいに思っちゃうわけですよ。だから、「三角絞めが極まらないのは俺のせいじゃないか」って勝手に悩むんですよね。でも結果的には、もう「よかったー！」って。

――試合後はお話しされたんですか？

所　会場でも話しましたし、別の日でしたけど祝勝会もしていただいて。

日村　そのときはね、もう試合から10日ぐらい経ってたんですけど、簡単に言うと所英男さんはいまもの凄く調子乗ってます！（キッパリ）。

――ワハハハハ！

日村　まあ、気持ちはわかりますけど、よっぽど嬉しかったんでしょうね。

所　まだ引きずってます（ボソリ）。

日村　長いよ！　まあその日は酒もよく飲みましたし、口を開けば「俺が優勝しちゃった」って、そういうこと言うんですよ、この人。

――決勝を前に優勝しましたか（笑）。

日村　「優勝しちゃったんですよね、俺……」ってずっと言ってるから、「いや、してないし」って注意してるところです、いま。「勝ったのは確かに凄いけど、まだ優勝してないでしょ」って話をみんなで延々とやってましたね。

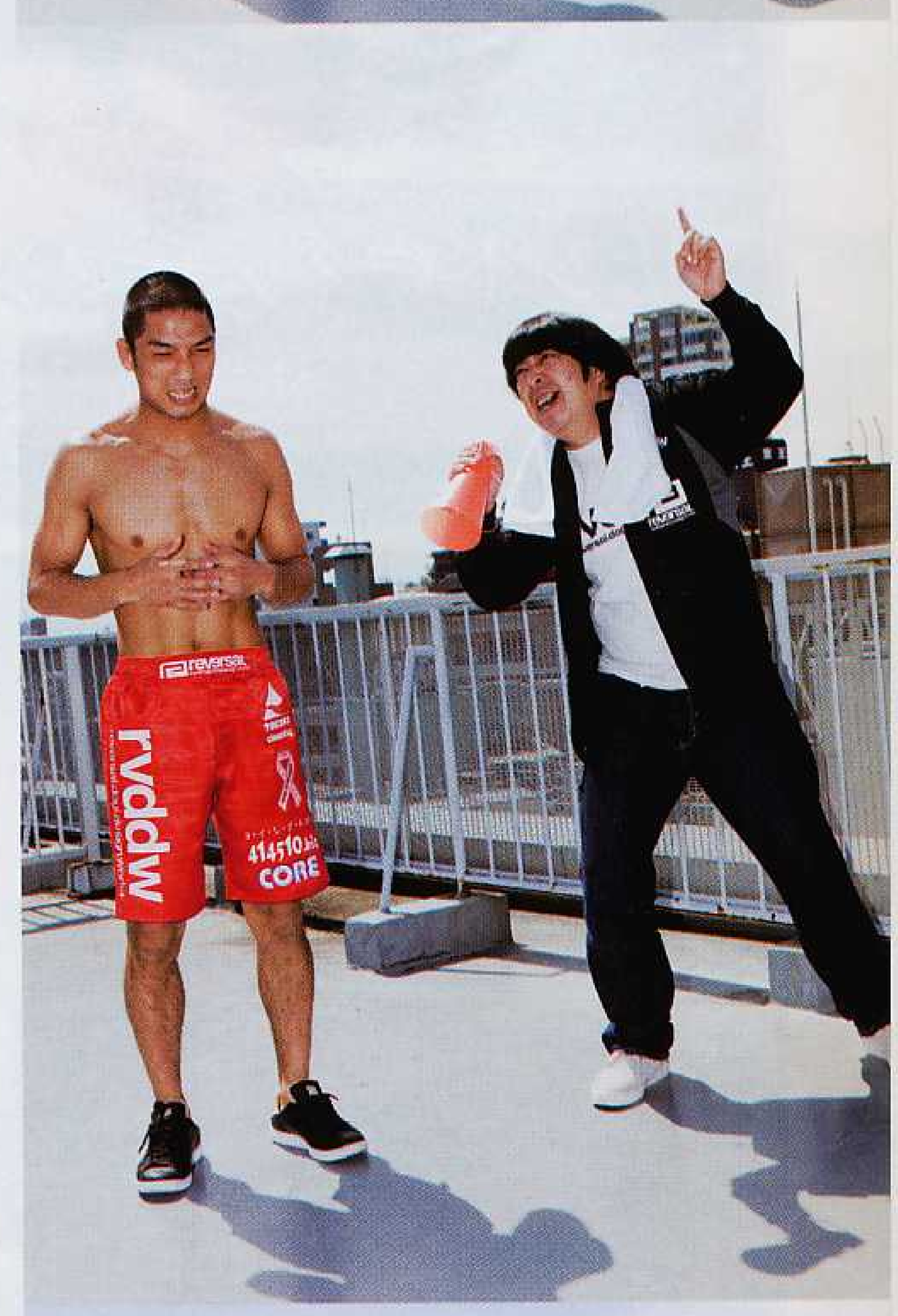
所　たぶん酔っぱらってましたね（笑）。でも、優勝した感じだったんですよ。だって、優勝してもあんなに嬉しくないと思うんですよ。

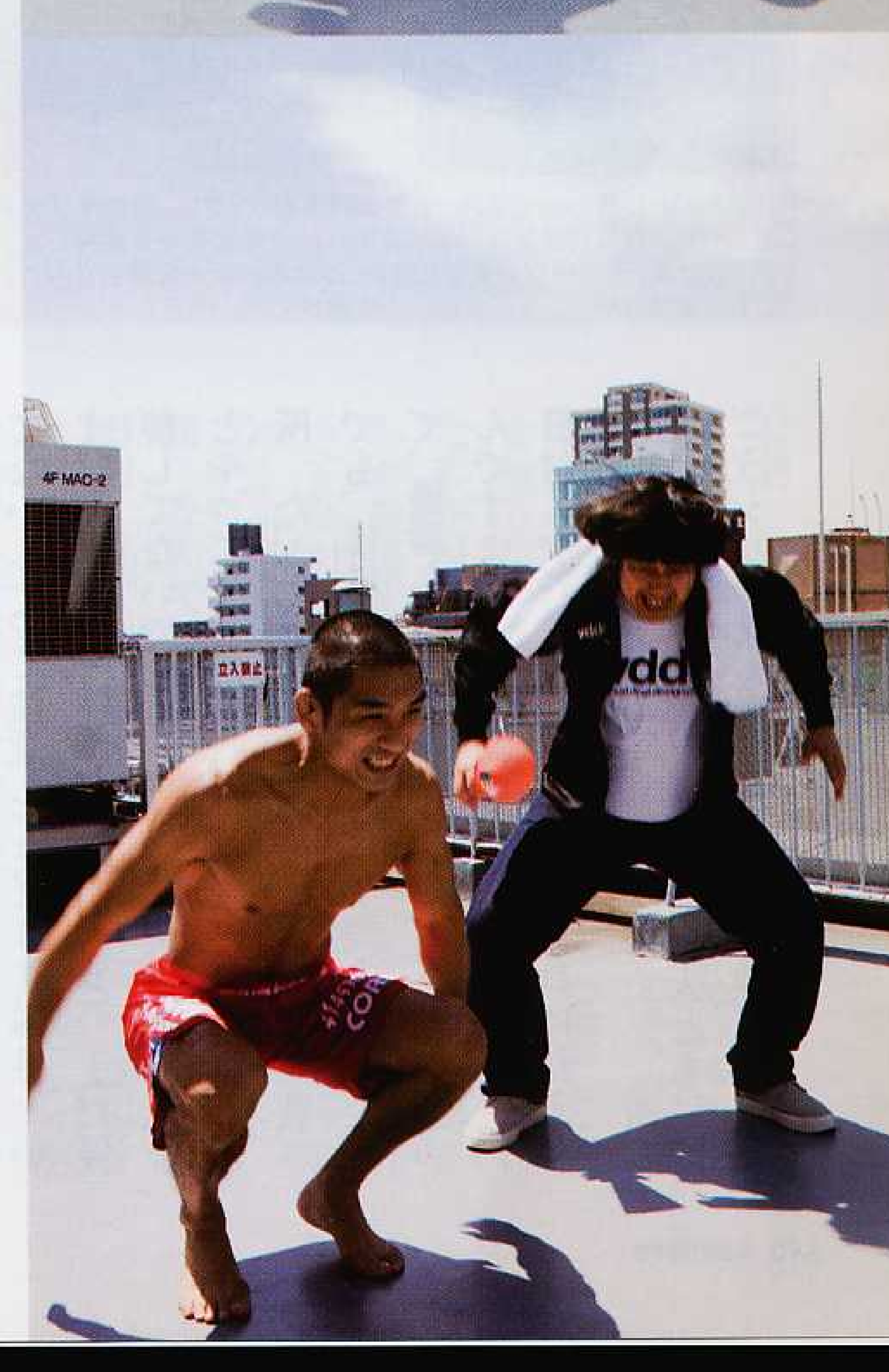
日村　ダハハハハ！　そんなわけねえだろ！

――でも、煽りＶの中ではお二人ともけっこうシリアスな感じでしたよね。日村さ

所英男×日村勇紀







んの「サンドウィッチマンは敗者復活で優勝したんだ」といった励ましの言葉も、どこか心ここにあらずで聞いているという感じでしたし。

日村　ま、あの撮影が試合の1ヵ月前とか2週間前とかだったのかな？　だから減量も始まってるし、けっこうキツかったと思うんですよね。

所　でも、試合前に入場ゲートで一瞬だけ一人になる瞬間があるんですよね。そこで日村さんの「誰も期待してないからやるしかないよ」って声が聞こえてきたんですよ。それ聞いて一人で「ああ、そうだよな」って思いました。

日村　俺も偉そうにねぇ（苦笑）。どこ目線で言ってるんだって話ですけど。

所　いや、あれがよかったんですよ。試合前は「どうしよう、どうしよう」って思ってたんですけど、VTRの声が聞こえたときに「やるしかないな！」って腹くくれましたね。

――まさに〝神の声〟だったんですね。

所　でも、日村さんって凄いいい声してますよね。あの間がなんとも言えず、よかったんですよ。「やるしか………ないです

よ」っていう。

日村　ガッハッハッハッハ！　ここを聞かせたいというポイントをね、いったん切るというのがよかったんでしょうね、きっと。

所　あれは前回の勝利にはなくてはならない要素の一つでした。

――要素の一つといえば、試合後、コスチュームの中に入れてたお守りを日村さんにチラッと見せてましたよね。

日村　これは僕も知らなかったんですよ。試合が始まる1時間前に『格闘王子』でね、「試合前の所さんにインタビューしに行こう」ってディレクターが言ってきたんですけど、俺としてはね「もうやめませんか」と。大事な試合前なのに、そこまでグイグイ行くと悪いなと思うわけですよ。

――それは気を使いますよねえ。

日村　実際、控室に行くと、ホントにいままでにない所英男だったんです。目もカッと見開いてたし、本当に心ここにあらずって感じで。でも、話しかけたら「日村さんのお守り、ここ（ユニフォームの内側）につけてるんですよ」って言ってくれて。だから俺も「じゃあ、勝ったときにはそれ

実際、控え室に行くとホントにいままでにない所英男だったんです（日村）

リング上でバッと見せてよ」って約束したんですよね。でも、この人せっかく勝ったのにリングの上でお守りもなーんも見せねえし（笑）。

所　やっぱ、試合終わったあとは忘れちゃって、リングサイドの日村さんのところに行ったときに初めて思い出しました。

日村　もうそのときは本当にアドレナリンが出まくってるから、俺が試合前にインタビューに行ったことも忘れてたんじゃない？

所　いやいや（ごまかすように）。でもその日のコスチュームはいまだに洗ってないんですよ。お守りも縫いつけてあるし。

――えっ⁉　コスチュームは洗ってないんですか？

日村　じゃあ、どうすんの？　汚れが取れないじゃない。

所　陽に干しましょうかね（アッサリ）。

日村　ダハハハハ！　そんなんでいいのかよ！

――しかし、日村さんは所さんが3連敗していると聞かれたときは正直どう思われました？

日村　うーん……、まあ格闘技なんで勝ちか負けかしかないじゃないですか。だから難しいですよねえ。

――やっぱり、声をかけづらいというか。

日村　実際そうですよ。取材だから言えますけど、所さんが負けちゃったとなったときに、電話とかメールとかどうしていいかわからないんですもん。勝ってくれりゃいくらでもできるんですけど、負けてもなんか違うし。「ドンマイ」って打つのもなんか違うし。「また次がありますよ」っていうほど甘い世界じゃないですしね。だから俺らの仲間内で「所さんに連絡した？」、「いや、してないんですよ」とか連絡をとり合うんですよ。

所　ホントに負けたら連絡来なくなりま

すね。でも、エイブル戦で勝ったときにバッと一斉に連絡が来たんで、やっぱみんな

の人になってもらいたいなって。

所　え、そのあとボク何をやればいいんで

って。だからね、今年は勝ってもらって、ぜひこれはバリ旅行に行きますよ！

…あ、やっぱり目的はそっち！

所英男×日村勇紀

すね。でも、エイブル戦で勝ったときにバッと一斉に連絡が来たんで、やっぱみんな気を使ってたんだなって感じは凄くしました。

――逆に所さん自身もそこは気を使いますよねえ。

所　なんか、チケットを用意したりするんですけど、チケット代もらっていいのかどうかもよくわかんない感じになります（苦笑）。それに、今回はもう負けたら本当に格闘技辞めようと思ってたんで。だからいまだに「勝ってよかった」ってしみじみ思いますね。

日村　負けたら辞めるってホント言ってたもんね。

――ああ、そんな話を。ところで、前回の対談で日村さんは、所さんが試合の前日でもおかまいなしに飲みに誘ったりしてるとお話しされてましたけど、今回の試合はさすがにそんなことはなかったですよね？

日村　さすがにねえ。ただ、まあ簡単なことを言うと、俺あんまり友だちがいないんですよ。だからすぐ所さんを誘いたくなるんですけど、この人も意外と試合がたくさんありますから。そうすると試合前1ヵ月は完全にダメなんですけど、僕はそこを忘れちゃうんですよね。

――やっぱり忘れる（笑）。

日村　ただね、これはしょうがないんですよ。酒の仲間が第一の俺からしたら、その中の一人がたまたま格闘家だったみたいな感じなんですもん。

――贅沢な交友関係ですねえ。

日村　だから、こんなこと言うと怒られちゃいますけど、正直言うとですよ、今回のトーナメントで所さんにはいい感じで優勝してもらって、素晴らしいかたちで格闘技界を引退していただいて、早く飲みだけ

ここからは調子に乗ったもん勝ち。そういうヤツほど手をつけられないですから（日村）

勉強になります！じゃあ、ボクも調子に乗ったほうがいいってことですね（所）



ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。本拠地『ZST』には旗揚げ戦から参戦し、『HERO'S』で地上波デビュー。DREAMには『DREAM.4』から出場し、すでに6戦を闘っている。山本篤、中村大介、DJ.taikiと3連敗したのちDJ.taikiのケガでの欠場によりフェザー級GP2回戦進出が決定。対戦相手のエイブル・カラムから一本勝ちを収め、ついに決勝ラウンドへ。170cm、63kg。

ひむら・ゆうき■1972年5月14日、神奈川県出身。94年、相方の設楽統とともにお笑いコンビ「バナナマン」を結成。コンビとしては、舞台コントを原点とし、夏に行なう単独ライブは毎年の恒例となっている。また、日村個人は奇怪なモノマネも得意とし、幼稚的にしゃべる「子どもの頃の貴乃花」のモノマネはあまりに有名。そのほか多くのメディアで絶賛大活躍中！

の人になってもらいたいなって。

所　え、そのあとボク何をやればいいんですか？

日村　いやもうなんにもしなくていいよ。後輩に道を譲るかたちで引退しません？

所　確かに、そうなったらサイコーですよねえ（ニヤニヤ）。カッコよくサッと引退したいなあ。

――そんな野望がありましたか。じゃあ、そのためにも……というのもなんかへんですけど、とにかく優勝しないといけませんね！

日村　いや、でもね所さん、こっからはもう調子乗ったもん勝ちですよ！

所　そうですかねえ。

日村　だってね、お笑いも一緒ですから。「どうしよっかなあ……」って迷ってたら結局おもしろくならないんですよ。調子乗ってるって聞こえは悪いかもしれないですけど、要はいい気になってるヤツのほうが手がつけられないんですよね。格闘家もそうじゃないですかね。

――勢いで運を呼び寄せてしまおう、と。

日村　もちろん練習はね、みんなやってるわけですから。だから実力が拮抗したときの最後の決め手ってそれだと思うんですよ。

所　勉強になります。じゃあ、ボクも調子に乗ったほうがいいんですね。

日村　だってですよ、どんだけ強いヤツでも当日「腹イテえなあ」とかなったらもう腹のことしか考えられないんですよ、人間

って。だからね、今年は勝ってもらって、ぜひこれはバリ旅行に行きますよ！

――あ、やっぱり目的はそっち！

日村　そう！　だって去年は骨、折っちゃったんだもん、この人。

所　今年は彼女連れていけるように頑張ります。

――あら、彼女も一緒にですか。

日村　誓い合ったもんね。やっぱりバリなんてところは親とか彼女を連れてってあげる場所だと話してたんですよ。そういう話をしたんでね、ぜひ優勝したその賞金で祝杯挙げたいですよ。

――メンバーには日村さんのご両親も入ってるんですね（笑）。

日村　もちろん行きますよ！　ウチのオヤジは早くも「今年のバリはどうなってるんだ？」とか言ってきてますからね。それに、ウチの親も所さんの試合をちゃんと観てますから。

所　ありがとうございます（笑）。

日村　だから、もちろん骨折もダメですけど、一昨年みたいに現地で腹痛とかもナシですからね！

所　が、頑張ります！

――では、ちょっと気が早いですが、よいお年を！

【09年7月14日／都内・ホリプロコムにて収録】

『バナナ炎vol.1-2』

MXテレビ系で放送中の「バナナ炎」のDVD化が決定！
2009年11月4日2巻同時発売!! 貴重な特典映像も収録予定。

『バナナマンのブログ刑事』（東海テレビ）

毎週火曜深夜0:35-1:05　好評放送中！
ブログの健全化を目指し、バナナマンが『ブログ刑事』となって書かれた内容にウソ・偽りがないか、大げさな表現はないかなど、有名人ブロガーに「検証」を行なう至極の番組。日村の勇姿を見逃すな！



全日本キックボクシング スーパーフェザー級チャンピオン

石川直生

DREAMのデビルマン

青木真也

アオキとナオキキックのキック談義!!

キックっておもしろいでしょ〜

「ムエタイ」発言で批難を受けたり、キックイベントに出演したりと妙にキックづいているワオ木さん。というわけで、尊敬するキックボクサー石川直生とキック談義をしてもらったぜ!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

――石川さん、今日はよろしくお願いします！

石川　よろしくお願いします。

青木　『kamipro』は石川さんの凄さがわからないでしょ？

――青木さんが尊敬するキックボクサーということだけは知っています！

青木　も〜う、この素人が!!　石川さんは、あのワンロップと引き分けてるんですよ。これがどれくらい凄いことかっ！

――ワ、ワンロップ!?

青木　そう、ワンロップ・ウィラサクレック。

――……えーっと、石川さんはモデルもやってるみたいですし、女性人気はありそうですよね。

青木　あ、スルーした。

石川　実感はないですけど、全日本キックのなかでは応援してくれる女性ファンは多いほうかもしれないですね。

青木　石川さんは人気あるっスよ。いま全日本キックの花形だから。ボクは石川さんと違って〝藤原組長〟路線ですけどね。

――ダハハハハ！　DREAMのテロリストでも目指しますか（笑）。そんな話はともかく、石川さんはK―1ルールで行なわれた『Krush』ライト級GP（60キロ以下級）で凄い勝ち方をしたことは存じております。

青木　『Krush』の石川さんはホントに凄かったですねぇ。水落（洋祐）選手をハイキックで倒したあとが〝尾崎豊〟って感じで。

――尾崎豊？　石川さん、どういうことですか？（笑）。

石川　ボクもわからない（苦笑）。

青木　いやあ、倒したあとの振る舞いが恍惚としてたんスよ〜。

石川　ああ、あれはなんかイライラしてたね。1試合目と2試合目のインターバルのときに控室に谷川さんの伝令みたいなのが飛んできて、「次の試合があんなんだったら、減点で反則負けにするから」って。要するに「組みつきが多い」と。

――あ、谷川黒魔術が発動してた。そうか、『Krush』はK―1ルールでやったんですもんね。

青木　サダハルめ〜!!　そんな伝令、ボクだったらシカトですよ。シ、カ、トッ!!　そんなこと言われたら絶対によけいに組みついてやる！

――さすが人間白帯（笑）。

石川　オレはそれもイラついたんですよ。でもまあ2試合目も勝ったんで。そのあとに谷川さんと会話しましたけどね。それまで媚びを売るのもイヤだったし、愛想を振りまくのもイヤだったから挨拶しかしたことなかったんですよ。

青木　でも、石川さんはK―1ルールじゃなくてキックルールのほうが全然おもしろいんだよなあ。

石川　ホントはキックルールのほうが向いてるんですけど。K―1ルールはずっとイヤだったんですよ。

青木　でも、こないだの『Krush』で絵になっちゃったからねぇ。

――そんなに違うものなのに石川さんはチャレンジしてるんですか？

石川　それは世に出るためですよ（キッパリ）。次の『Krush』ライト級GP決勝で勝って、『Dyamite!!』でK―1ルールじゃなくキックルールで闘いたいんです。

もしキックをやるとしても3回戦からじゃないと無理っスよ（青木）

青木 いいですねぇ、『Dynamite!!』でキックルール。

石川 だからボクはK—1で闘いたいんじゃなくて、K—1を利用したいんですよね。

——そのための『Krush』出場なんですか。

石川 あとキックの大会はコアなファンが相手ですから。それにK—1ルールでやるとなると、他団体の選手も参戦もしやすくなるんです。それはそこでもし活躍すればK—1に上がれるかもしれないですからね。

——でも、K—1ルールでやるとはいえ、『Krush』で活躍したらK—1に上がれるってわけでもないんでしょう?

石川 そうですね。でもその可能性があるから無理してでも他団体から選手が来るし、キックルールだと実現しないカードが組めるんです。まあ、スタイル的にK—1に向いてるキックボクサーもいるんですけど。

青木 キックとK—1って、ホントはぜんぜん違うもんなんですよ。

石川 違うね。

青木 そこから伝えてくださいよ!!

——120パーセント、ウチの仕事じゃないです（笑）。

石川 ただ、その違いは文章にしてもわかんないんですよね。

——実際にやってみなきゃわかんないぐらいのところはあります?

石川 ええ。

——でも、K—1をキックの上位概念に捉えることを苦々しく思ってる人は多いですよね。

石川 そうなんですけど、そこはみんなあきらめてるんですよ。ホントはキックにこだわりたい、キックだけをやりたい。だけどK—1という選択肢もあるのなら、メジャーになる足がかりとして、露出度も高いK—1を目指すわけです。

青木 ボク的にはキックのほうがおもしろいんだけどなあ……。みんな「キックが凄い!」って思ってるんだけど、どうしてもマスコミ自体がK—1を上だと決めつけてるじゃないですか。だってK—1って〝ボクシングキック〟でしょ? あと首相撲もヒジもないからあんまり緊張感がないんだよな〜。

——そんなことを言ってると、また谷川さんに嫌味を言われますよ（笑）。

石川 え? 青木くんと谷川さんって仲が悪いの?

青木 なんか谷川さんは「青木vsキシェンコをやらせたい!」とか言ってるみたいなんだよね。

——「ムエタイっておもしろいでしょ?」とか言うから、K—1の嫌がらせで（笑）。

青木 でも、それはボクじゃなくてキシェンコの強さって、K—1ルール以上にキックボクシングが強いところにあるんすよ。

石川 キシェンコはキックのほうが強いね。

青木 あの（アンディ・）サワーをブン投げてましたからね。

石川 アレはうまかったよね〜、足をしっかり入れて。

青木 だからボクとやらせるなんて、キシェンコにたいへん失礼なことを言っとるわけですよ!

——キックでやったら、ぜんぜんかなわないですか?

青木 もう話になんない。キックについていろいろと偉そうなことを言ってますけど、しょせんボクは単なるファンですからねぇ。

©Good Loser



8.14『Krushライト級グランプリ2009〜開幕戦Round.2〜』を2連続KOで突破した石川直生。ワオ木さんも当然観戦。試合の感想は『kamiproドットコム』のブログにアップしている。

石川 でも、青木くんが週に何回もムエタイの先生のところで練習してるのに、青木くんはキックに対して常に謙虚なんですよ。

——え〜え? 青木真也が謙虚ぉ!?

青木 なんでそこで驚くの!?

石川 ホントに。青木くんは「キックをやるなら3回戦から」って言ってるし。そこはホントにブレないよね。

青木 やるとしても3回戦からじゃないと無理っスよ。ホントに無理なんだって。だって〝ジョー〟になっちゃうから。

——「青木真也がキックに挑戦!」みたいな?

青木 もしボクがキックをやるんだったら、ちゃんと足を突っこんで3回戦からやります。

石川 青木くんがホントに強いのはキックルールなんですよ。K—1ルールじゃない。

青木 いやいや……、ボクは素人なんで（小さい声で）。

石川 いやあ、青木くん凄いと思うけどなあ。

青木 ……いやぁ（照）。

石川 シャオリン戦だってあんなにミドルを蹴り続けられないでしょ。ボクは試合が近かったんでシャオリン戦は応援には行けなかったんですよ。で、試合後に青木くんからメールが来てて「ムエタイで完封した!」って書いてあるから「あの子は何をやったんだ!?」って（笑）。

——ちょっと意味わからないですよね（笑）。

石川 だから素人じゃないですよ。

——さ、キシェンコとやりますか（笑）。石川さんのお墨つきもいただいたし。

青木 もうやめてっ! ボクなんか3回戦にも達してないですからっ。けど、K—1ルールよりはちょっとだけ向いてるかなあ〜。なんていうんだろうな、K—1はある意味単純なぶんだけ、ボクのスタイルでは難しいっすよね。

石川 たとえば川尻（達也）選手と青木くんがK—1ルールでやったら青木くんが試合を支配してても判定負けすると思うんですよ。それはパンチの印象で。川尻選手はパンチ主体だから。

——K—1はそういうジャッジ。

石川 でもキックルールだったら、青木くんが完封しての判定勝利になると思う。そのぐらい違うんですよね、キックとK—1は。

青木 バスケットボールと野球ぐらい違う。

石川 全然違うよね。

青木 『kamipro』はそこをちゃんと伝えて!

——（無視して）いまのK—1でキックが強い選手って誰になるんですか?

青木 佐藤嘉洋選手。

石川 そうだね。試合を経て、K—1のスタイルに合わせていったんですよね。

——ブアカーオもそうですけど、K—1で生きていくためにはスタイルを変えていくしかないみたいですね。

石川 嘉洋くんの場合は卑屈になってたもんね。「オレの試合はお客を呼べないし、嫌われるから」みたいなと

石川直生×青木真也

K―1の60キロを引っぱれるのはボクしかいないと思ってます(石川)

ころから始まってるんで。

青木 でも、ボクは嘉洋選手のひがみ根性が好きっすけどねぇ~。

石川 ね。ひがみ根性。

青木 アレが大好き!

石川 でも嘉洋くんは頭がいいから、自分のポジションがどこかっていうのがわかってやってるから。

青木 まあ、現に凄く強いですからね。山本優弥選手と嘉洋選手が全日本でやった試合も凄まじいから。

石川 あれこそキックボクシングだったよね、あれは。K―1じゃありえない試合内容。

――石川さんとしては、スタイルを変えざるをえないというのはファイターとしていかがなんですか?

石川 う~ん。まだ20代前半だったら、そこは突っ張れていたんでしょうね。でも、自分の現役中に、自分のキャリアのなかで何かしら結果を出すためのK―1なのかもしれない。いや、もしかしたら20代前半でもK―1を選んでたかもしんないですけども。キックに出るよりも、K―1を選ぶほうがある意味、近道なんですよ。「遠回りだ」って言う人もいるけど、キックをやるんだったら、打倒ムエタイを目指してタイでチャンピオンになったほうが一番近道なんですよ。だけどそのタイのチャンピオンにたどり着くまで時間はかかるし、そもそもタイでチャンピオンになってもフィチャーされない可能性もあるんですよ、いまの日本の格闘技界では。

――いまは以前より〝ムエタイ幻想〟がなくなってますもんね。

石川 そうなんですよ。

青木 どうせ『kamipro』は中村元気選手(タイを拠点とする日本人選手)とか知らないでしょ?

――名前だけは知ってますよ。

青木 お~、知ってるんだ。でも、それでも一般的には知られてないじゃないですか。

青木 まったく知られてないですね。

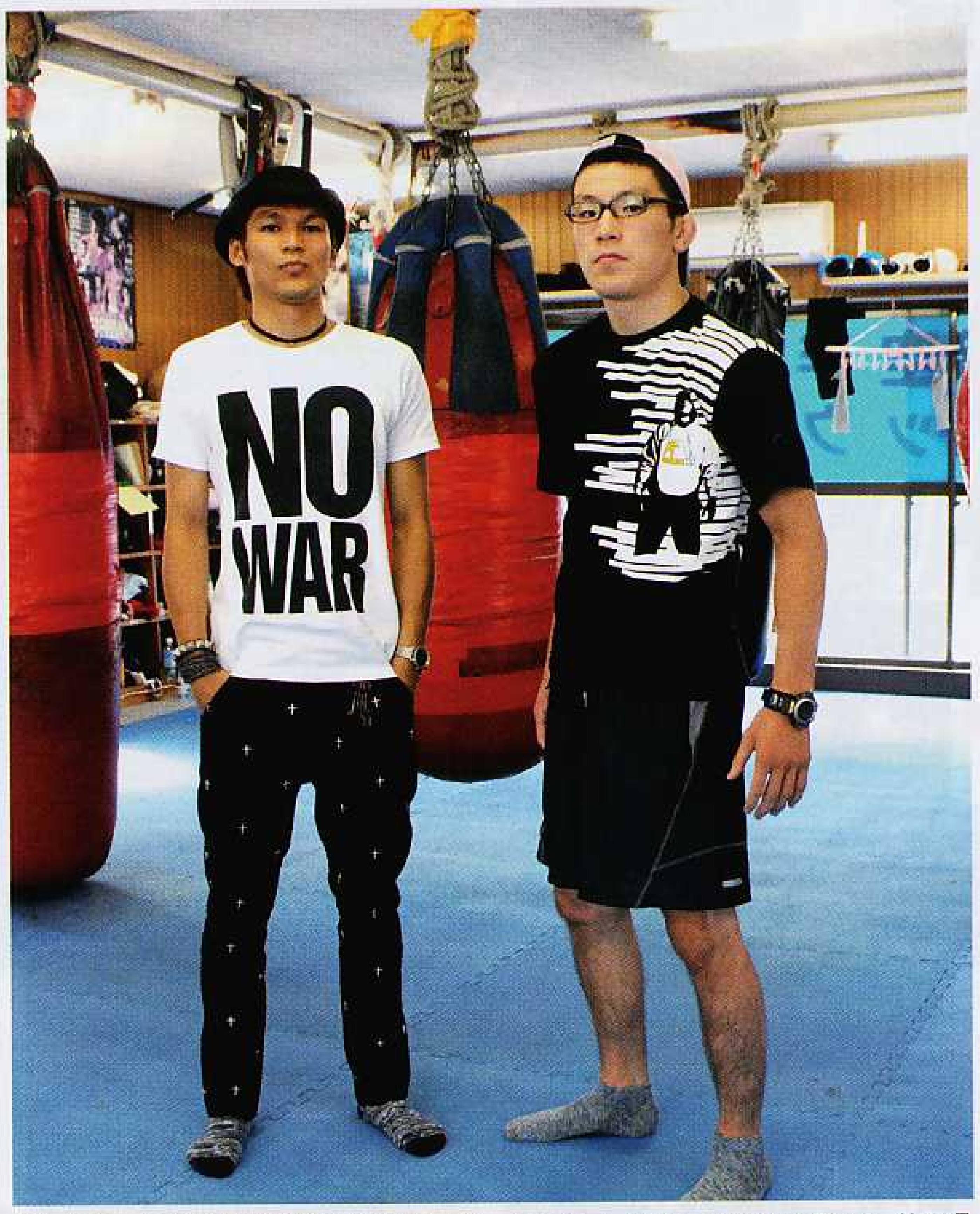
石川 だから、ボクもいろいろやり方を考えたんですよ。世に出るためにはどうしたらいいだろうって。そのためのK―1。

――そう考えると、まだMMAは恵まれてますね。

青木 いや、ホントそうっスよ。

石川 でも、ボクからしたら青木くんがこういうふうにボクのことを煽ってくれたり、キックのことを言ってくれたりするのは助かる。

青木 ボク、柔道の頃にずっと寝技をやってて、「こんな楽しいことを世間の人は知らないし、柔道をやってる人たちもなぜこんな楽しいことをやらないんだろう」って思ってたんですよ。部室で一人、柔道の寝技の本を見ながら。それと同じ感覚ですよね。なんでこんなに楽しいキックをみんな知らないんだろうっていう。



いしかわ・なおき■1979年4月18日、東京都出身。青春塾所属。1999年にプロデビュー。全日本キックボクシング スーパーフェザー級チャンピオン。オスカープロモーション所属のモデルでもある。176cm、60kg。ブログアドレス→http://ameblo.jp/naokick-blog/

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界有数のグラップラーだが、トータルファイターを目指すべく打撃の修練にも余念がない。JZカルバン、宇野薫、エディ・アルバレス、シャオリンらに勝利している。柔術黒帯、人間白帯。180cm、70kg。

石川 でも、本当におもしろいものにはみんなお金を払うじゃないですか。キックもそこを目指したいですよね。いまのキックボクシングは正直、おもしろくないかもしれない。

――そ、そうなんですか?

石川 全10試合があるとしたら、おもしろいのは2~3試合だけかもしれません。ただ、ボクがやってる60キロ級はおもしろいですよ!

青木 おもしろ~い!! 個性的な選手が揃ってるんですよ。

――ちゃんとデザインすると観られるってことなんですか。

石川 そうそう、そういうこと。デザインしたらおもしろい。

青木 全日本キックはおもしろい選手が多いですから。

石川 なんとか盛り上げたいんですよね。いまはキックも団体がバラけてますけど、そうなるとお客さんだって団体を選ぶじゃないですか。ホントは一つになればお客さんも満員になるし、そうなったら選手のモチベーションも上がるし「これを仕事にしていこう!」っていう選手も増えるんですよ。でも、現状だとなかなか選手がそんなに野望を持てない。キックだけで食えればデカイ野望を持った選手がどんどん出てくるはずなんですよ。だから、みんなケンカしてほしくないですよね。

青木 ボクはPRIDEが休止してたときにけっこう達観しちゃったんで。どんなに大好きで頑張って闘ってもどうしようもないことってあるし、自分ができることはたかが知れてる。つまるところ腕一つなんで。そこを地道に磨いていくしかない。

石川 こういう選手がいっぱいいればいいんですけど(笑)、青木くんは希少種ですから。

青木 なるようにしかならないんです。だからいまあるものに対してベストはつくすけど、自分が団体を経営することはできないから、結局のところ高められるものは自分の腕だけです。良い腕を持つ。

――選手は経営はできないですもんね。

青木 できないっス。ボクがDREAMを経営したらたぶん3秒で潰しますよ。カードがマニアックすぎて。

――ダハハハ! それは凄く想像できますね(笑)。

石川 だから、ボクらはリングで頑張るだけですね(笑)。K―1の60キロを引っぱれるのはボクしかいないと思ってますから、優勝して『Dynamite!!』に上がります!

青木 大晦日、一緒に上がれたらいいですね~!

【09年8月某日/都内・青春塾にて収録】

ヨアキム・ハンセンvs青木真也展望

さる7月20日に行なわれたビトー・〝シャオリン〟・ヒベイロ戦を

た」と開き直ってしまう。お調子者が青木の個性とはいえ、これでは反感を

で、上層部に遠慮なく噛みついていくようなプロスポーツ選手がいるだろう



ヨアキム・ハンセンvs青木真也展望

異端の飲み方

文／田中太陽

さる7月20日に行なわれたヒトー〝シャオリン〟・ヒベイロ戦をきっかけに、ファンの青木真也批判がとどまるところを知らない昨今である。

その中心地帯はまたしてもウェブ上なのだが、今回は個人ブログや匿名掲示板における誹謗中傷にとどまらず、DREAMの公式BBSにおいても〝青木叩き〟が止まらないという深刻な事態となっている。

思えば青木が〝DREAMの大黒柱〟と呼ばれ、日本MMA界の主人公的な活躍を見せていたのはまだ1年も前のことではない。今回もまた強豪シャオリン相手にメリットの薄い試合を引き受け、しかも結果を出したのだ。にもかかわらずファンの評価は、ごらんのありさまなのである。

こうなってしまった原因は、ブーイングも飛んだ試合内容そのものよりもむしろ〝青木の立ち居振る舞い〟にあると言いきってしまっていいだろう。もとより青木は「試合がつまらない」と批判されるような選手ではなかったし、今回のシャオリン戦も「そこまで退屈な内容であったか？」と問われれば「そうでもなかった」と答えるファンも多いのではないか。

ただ青木は戦前に「シャオリンを相手に日本人で組み技で徹底的に勝負できるのって、オレしかいないでしょう」「おもいっきり寝技で勝負します！」などと公言していたため、当日の打撃勝負はファンに矛盾を感じさせてしまったのだ。さらに試合後は、寝技勝負を期待したファンに向かって「ムエタイっておもしろいでしょ？」と人を食ったマイクアピールを放ち、そこでブーイングを受けると「これは想定内だった」と開き直ってしまう。お調子者が青木の個性とはいえ、これでは反感を買うのも仕方なし、である。

あげくには修斗時代の「オレは一生修斗しかやりません！」「格闘技が好きだからこそ、格闘技を商売にしたくない」といった発言をも持ち出され、スパッツ問題もなぜか再燃しつつ現在に至る、というわけなのだ。つまり〝青木叩き〟の根源となっているのは、試合内容や判定決着がどうのといった〝プロMMA論〟とはあまり関係のない、シンプルな人格批判といえる。

これまで誰よりもDREAMに貢献し、骨身を削って団体を盛り上げてきたはずの青木真也だけに、現在の風潮はやや意外というか急速に傾きすぎのようにも感じられる。これまでの貢献と活躍があまり報われていない、ファンに伝わっていないという観点から見れば、青木は〝悲運の人〟といえるだろう。だが本人に問題がなかったわけではない。団体の看板選手らしい言動、ファンが望むような態度を彼が示してきたかといえば、答えはノーである。競技者としての実力はともかく、青木真也の〝若気の至り〟とも言える言動は、従来のヒーロー像とはかけ離れていたこともまた真実だろう。

しかし当然のことながら、だからといって青木にプロとしての価値がない、嫌われ者で終わっていいとはならない。その言動や性格からわかるとおり、青木の本質は〝異端〟であり、古今東西どのようなエンターテイメントにおいても〝本物の異端〟は例外なくおもしろいのである。

青木にその資質があふれていることは疑いようがない。現在、彼ほどの年齢で、上層部に遠慮なく噛みついていくようなプロスポーツ選手がいるだろうか？　若者にありがちな矛盾と迷走を繰り返しながらも、はてしなく厚い面の皮を披露し続ける26歳がほかに存在するだろうか？　しかも〝最強幻想〟の対象にもなりうるのだから、本来これほどおもしろい選手もいないはずなのだ。

だが現在の青木は、その〝異端性〟から一部のファンに拒絶されてしまっている状況だ。むろん彼そのものが賛否両論の分かれる存在であり、叩かれてなお輝ける選手であることも間違いはないのだが、ウェブ上のダイレクトな反応を見るたび、拒絶派の強固すぎる姿勢にどうしても不安を感じてしまうのだ。

このまま青木のような〝異端〟が拒絶され続け、最終的に排除されるような事態が訪れるのであれば、それはMMAというジャンルの多様性が失なわれることにつながってしまう。たとえば所英男のような〝普遍的な主人公〟適性にあふれた選手は、試合もキャラクターもわかりやすく楽しみやすい。だが本来、青木の〝若気の至り〟からくる泥臭さや人間らしさもまた、このジャンルには必要不可欠であったはずだ。

いうまでもなく〝格闘技を観る〟ということは、通りいっぺんのスポーツエンターテイメントを楽しむことと同義ではない。人間を観る、試合に興奮する、サイドストーリーを堪能する、試合に興奮する、選手の実力を査定するなど、さまざまな楽しみ方ができるのだ。だから青木を嫌うのならば、嫌うことを楽しんでほしい。あのカッコ悪さを〝消費〟してほしい。おそらくそうした多角性において、格闘技やプロレスほど進化したジャンルはないのだから。

ボクしかいないと思ってます（石川）

すよ。部室で一人、柔道の寝技の本を

てもどうしようもならないことって



——先月に引き続き、ワジムさんにご同
席いただき、ヒョードル選手にいろいろと

皇帝全米公開

ストライクフォース初戦でMMA無敗の怪物と激突!
米4大ネットワークCBSで全米地上波放映へ!!

Emelianenko Fedor

「私はアルロフスキーのように相手を甘く見ることはありません」

エメリヤーエンコ・ヒョードル

with ワジム・フィンケルシュタイン
[M-1グローバル代表]

いよいよ迫ってきた皇帝ヒョードルのストライクフォースデビュー戦。
注目の対戦相手はMMA10戦全勝の戦績を誇り、あのアルロフスキーを秒殺したブレット・ロジャースに決定した。
この怪物をヒョードルはどのようにして倒すつもりなのか。今月もヒョードルの独占インタビューをお届けします。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／Ekaterina Korsakova　撮影／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

――先月に引き続き、ワジムさんにご同席いただき、ヒョードル選手にいろいろとお話をうかがいたいと思います。まず8月末に行なったニューヨークでの公開練習では、多くのファンが集まったらしいですね？

ヒョードル　はい。たくさんのファンが集まり、ジムに入れない人もいました。ニューヨークという町であれだけ歓迎されるというのは、驚いたと同時に、非常に嬉しいことでしたね。

ワジム　今回の公開練習はアメリカでのヒョードル人気をあらためて証明したと思います。ほかのファイターがトレーニングを公開しただけでは、こうはならないでしょう。

――ニューヨークではヘンゾ・グレイシーのジムにも行ったそうですね？

ヒョードル　はい。近くに彼のスクールがあると聞いたので、訪問しました。設備だけでなく雰囲気もよく、とてもいいスクールだと思います。

――ヘンゾを含めたグレイシー一族について、どういった印象を持っていますか？

ヒョードル　MMAの発展のために大事な役割をはたしたファミリーだと思います。私はグレイシーファミリーを非常に尊敬しています。またヘンゾについては、人間的にとても素晴らしい人物だと思いますね。

――ヒョードル選手はサンビストですが、柔術の練習はしたことがありますか？

ヒョードル　とくに柔術の練習というのはしていませんが、私はMMAをスタートする前に柔道をやっていましたし、MMAの寝技には柔術の要素も含まれていますから、柔術のテクニックは身につけているつもりです。



並ぶとこれだけの体格差があるヒョードルとロジャース。はたしてヒョードルはこの分厚い肉体をテイクダウンし、自分のペースに持ち込むことはできるのか？　ロジャースはボクシング技術があるだけに、かなりの強敵だ。

Emelianenko Fedor

—ニューヨークでの記者会見の中で、次回、ブレット・ロジャースと闘うことが発表されましたが、いまの気持ちは？

ヒョードル　対戦相手が決まり、非常に気合いが入っているところです。きっといい試合になるでしょう。

—ワジムさんにおうかがいしますが、どういった経緯で、ブレット・ロジャースに決定したんでしょうか？

ワジム　まず、ブレット・ロジャースが、世界のヘビー級MMAファイターの中で最も勢いがあり、かつ将来性のあるファイターであることが挙げられます。彼はデビュー以来、10戦して負けなし。アルロフスキーにもKOで勝ちました。また、先のジョシュ・バーネット戦が中止になったあと、webサイトで次のヒョードルの相手は誰がふさわしいか、というファン投票を行なったんですよ。選択肢はアリスター・オーフレイム、ファブリシオ・ヴェウドゥム、ビクトー・ベウフォート、そしてブレット・ロジャースの4人でしたが、その中で最もファンの支持を集めたのがロジャースでした。この試合はファンの期待に応えるかたちで実現したのです。

—では、対戦が発表されたあと、大きな反響があったんじゃないですか？

ワジム　みんなとても楽しみにしています。インターネット上の反響も非常にいいですね。我々M-1&ストライクフォースは、ファンが観たいカードを惜しげもなく提供するシリーズなので、そこが支持されているのでしょう。

—ヒョードル選手は、ブレット・ロジャースについてどう評価していますか？

ヒョードル　彼は強く、大きく、危険な選手です。試合経験も積んでいますし、アンドレイ・アルロフスキーを秒殺KOしたくらいですからね。

—ブレット・ロジャースvsアンドレイ・アルロフスキー戦はどのような感想を抱きましたか？

ヒョードル　私はこの試合を会場で観ていました。短い試合でしたが、中身の濃い、おもしろい試合でしたね。アンドレイは、ロジャースの実力を甘く見ていたため、負けてしまったんだと思います。

—もちろん、ヒョードル選手はロジャースの実力を甘くは見てないわけですよね？

ヒョードル　もちろんです（微笑）。いま、しっかりと準備をしているところです。

—ブレット・ロジャースの実力は、ブロック・レスナーより上だと思いますか？

ヒョードル　どうでしょう？　比べたことはないですし、彼ら二人が闘うわけではないので、あまり比べる意味も感じません。

ワジム　この二人は、大型のヘビー級ファイターという共通点こそありますが、まったく違うタイプの選手だと思います。ロジャースはハードパンチャーで、あれだけの身体の大きさを持ちながらハンドスピードが非常に速く、いまだ負けを知らない選手です。一方レスナーは非常に力が強いレスラーですが、それだけです。ボクシングテクニックは未熟ですし、MMAファイターとして危険な相手との試合経験もありません。非常に才能を持ったいいファイターではあると思いますが、ロジャースのほうがヒョードルへの挑戦者としてふさわしいと思います。

—ワジムさんもおっしゃってるように、ロジャースは相当なハードパンチャーですが、彼のパンチにどう対抗しようと思っていますか？

自然の中でのトレーニングとともにケージでの練習も行なっています

ヒョードル　そのための練習をいま、いろいろとやっています。

―また、あれだけ胴回りが大きいロジャースをテイクダウンするのは大変だと思いますが、その対策も考えていますか？

ヒョードル　もちろん、試合で起こりうるあらゆる局面を想定して練習しています。ただ、私は試合前に対戦相手や戦術の話をするのは、あまり好きではありません。試合結果も神様が決定するものだと思っていますし、そのために私はできるかぎりの準備をするだけです。

―試合に向けてのトレーニングは、どこで行なっていますか？

ヒョードル　いつものように、私の地元であるスタールイオスコルでキャンプを張る予定です。これからも試合があるたびに、地元でキャンプを張ることになるでしょう。トレーニングは自然の中でのトレーニング以外に、リング、そしてケージの中での実戦練習も行なっています。

―やはりリングとケージでは闘い方が変わってきますか？

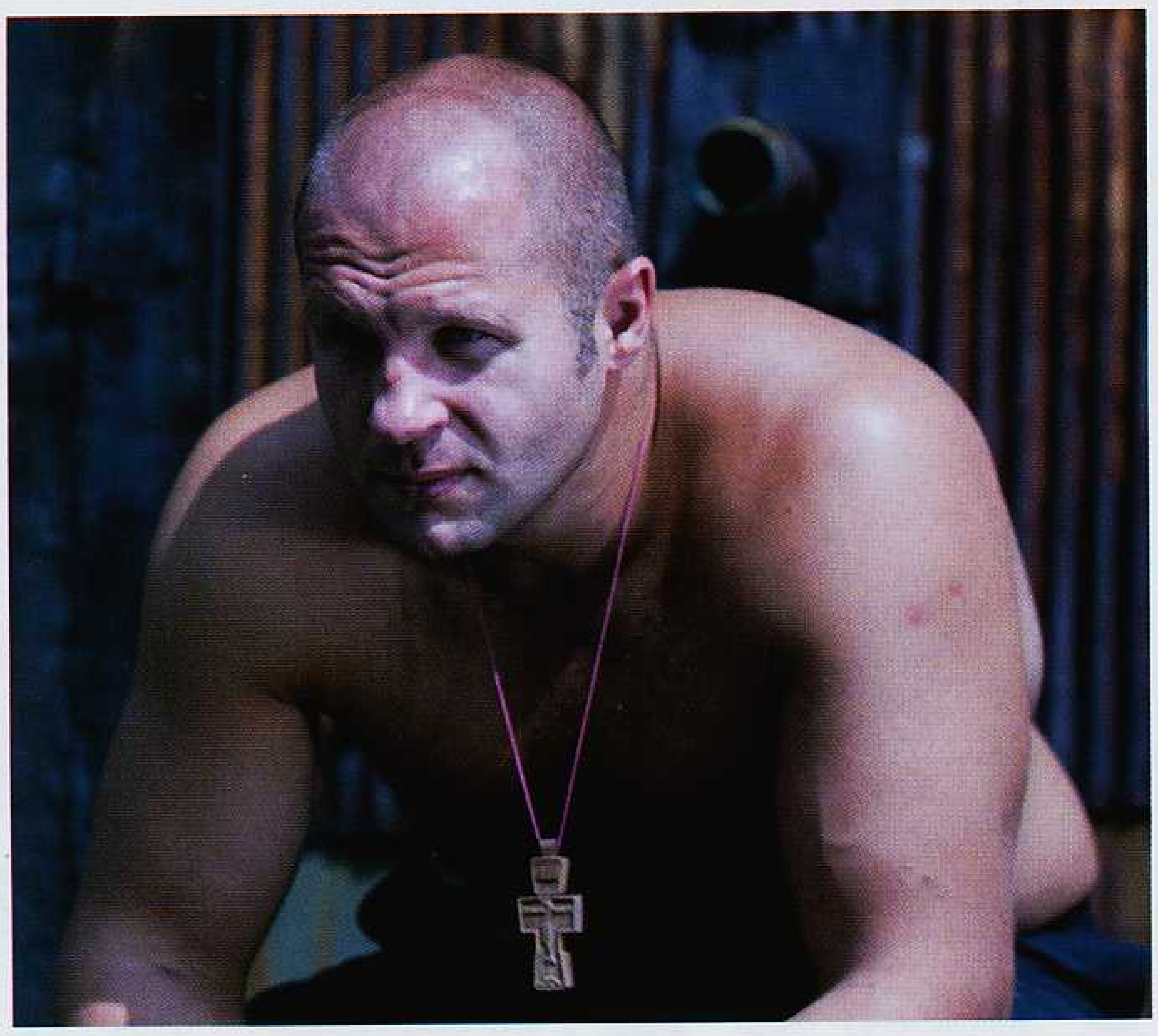
ヒョードル　もちろん違いはあると思いますが、それほど変わらないと思います。とくに気にはしていません。

―今回のヒョードルvsロジャースは大手ケーブルテレビ局SHOWTIMEでのテレビ放映以外に、世界各国でもテレビ放映されるのでしょうか？

ワジム　SHOWTIMEだけでなく、4大ネットワークのCBSでも流れる予定です。これによってヒョードルのアメリカでの知名度は飛躍的に伸びるでしょう。またロシアの有力局であるチャンネル1、それから日本のテレビ局とも交渉中です。

―日本でも観られる可能性がありますか！　それはなんとか実現させてほしいですね。あとロジャース戦が発表されたものの、試合日時が決まらないのは、やはりUFCの妨害があるからですか？

ワジム　UFCはやろうと思えば、どんな妨害でもできるでしょうし、いろんなことをやってくるでしょう。どのみち何かをやってくるのは間違いないので、あまり意識しても仕方がないと思っています。ですから日時を発表していないのは、UFCはあまり関係がありません。いろんな最終調整に時間がかかっている、とだけ言っておきましょう。



EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身のロシア人。2000年にリングスでデビュー。02年よりPRIDE参戦。PRIDEヘビー級王者となる。現在はWAMMA世界ヘビー級王者に君臨。182cm、104kg。

―ロジャース戦が終わったら、年内にもう一試合闘う可能性はありますか？　また、その試合が日本の大晦日になる可能性はありますか？

ヒョードル　これは私が決めることではないので、ワジムに聞いてください（微笑）。ただ、個人的には日本で試合がしたいと思っています。

―ワジムさん、どうですか？

ワジム　ヒョードルが日本で闘うアイデアはもちろんあります。ただ、それが実現するかどうかは、日本のテレビ局とプロモーターによります。また、本来8月に行なうはずの試合が秋になってしまったので、大晦日に試合をするとなると、準備時間が少し足りないという問題もあります。

―『アフリクション』中止の影響もやはりあるんですね。

ワジム　あのショーが突然中止となったことで、いろんな問題が発生しました。その損害賠償請求について、いま我々の弁護士が動いているところです。

―大会を中止したアフリクションの幹部や、ドーピングテストで失格したジョシュ・バーネットから謝罪はありましたか？

ワジム　子ども同士の揉めごとでしたら、謝れば済むこともありますが、我々は大人で、これはビジネスでやっているものです。我々は『アフリクション』というイベントに、多額の投資をしていますから、言い訳は必要ありません。この件は弁護士が進めています。

―なるほど。ところでストライクフォースとDREAMが提携関係を結んだことについて、どう思いますか？

ヒョードル　とてもいいニュースだと思います。これによって、日本で試合をする習慣が復活できたら、と思います。

ワジム　この協力関係によって、いろんなことができる可能性が広がったと思います。こういった協力関係をもって、MMAというスポーツをより発展させていきたいと思います。

―ストライクフォースのスコット・コーカーCEOは、ヒョードル選手の2戦目の対戦相手候補として、セルゲイ・ハリトーノフの名前を挙げていましたが、彼との対戦に興味はありますか？

ヒョードル　私は決められた相手と試合をします。もし、ファンがこの試合を望むのであれば、拒む理由はありません。

ワジム　ヒョードルの言うとおり、我々はファンの望む相手とのカードを実現させたいと思っています。ただ、いまのセルゲイはヒョードルの相手にふさわしいファイターだとは思いません。ここ数年、彼はあまり成長しているように思えませんし、彼と闘うより（セルゲイを倒した）ジェフ・モンソンと闘うほうが意味があると思います。

―わかりました。では最後に、ブレット・ロジャース戦に向けての意気込みを聞かせてください。

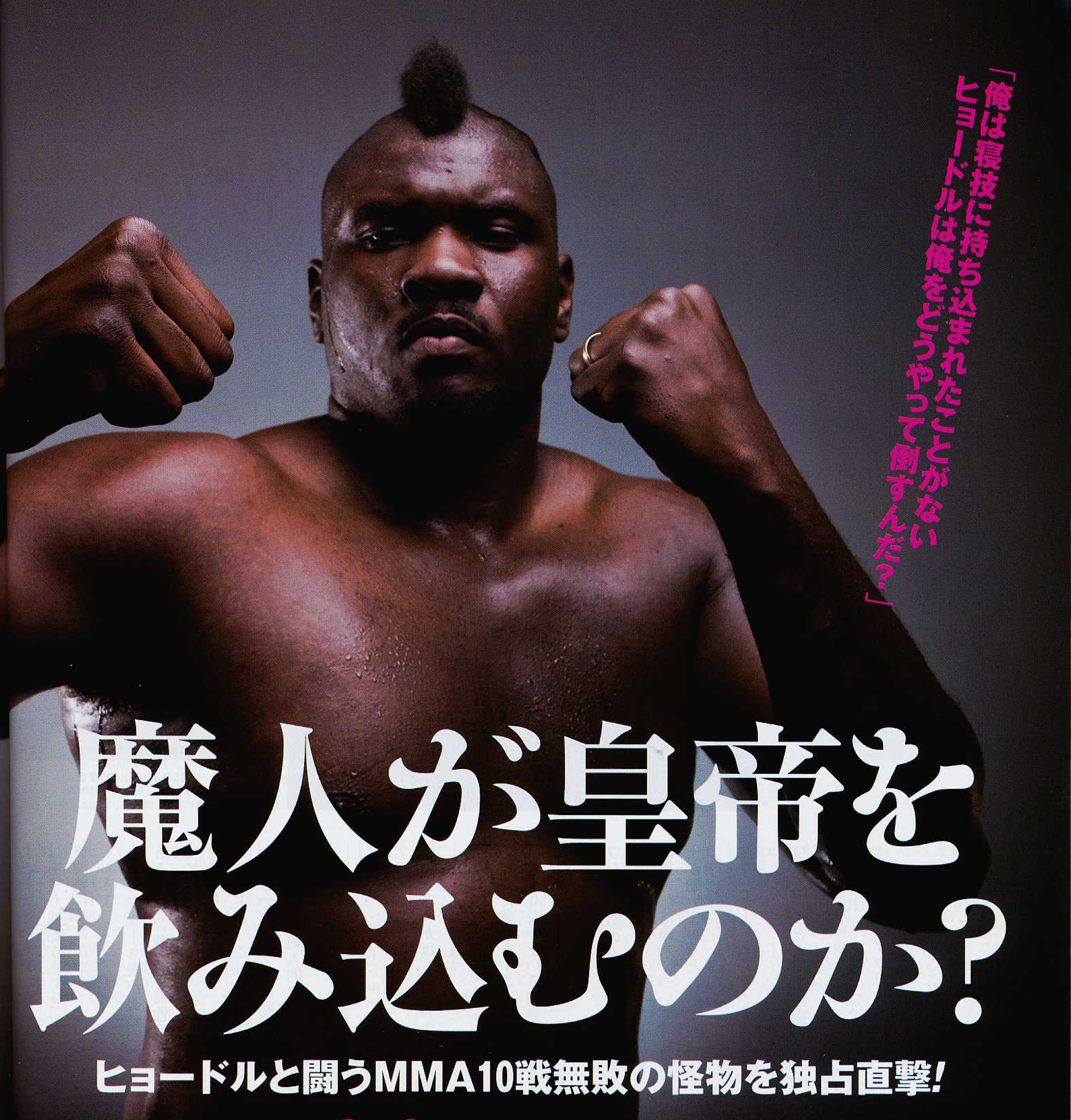
ヒョードル　……頑張ります（微笑）。

―もうちょっと長くお願いします（笑）。

ヒョードル　素晴らしい試合が見せられるよう、しっかりと準備をしていますので、応援してください。また日本で皆さんにお会いできたら、と思います（微笑）。

―頑張ってください！

【09年9月10日／ロシア・サンクトペテルブルグのM-1本社と国際電話をつなぎ収録】



「俺は寝技に持ち込まれたことがない
ヒョードルは俺をどうやって倒すんだ？」

魔人が皇帝を飲み込むのか？

ヒョードルと闘うMMA10戦無敗の怪物を独占直撃！

Brett Rogers

ブレット・ロジャース

ヒョードルのストライクフォースデビュー戦に立ちはだかるのが、このロジャースだ。
レスナーに勝るとも劣らない巨大な肉体と、アルロフスキーをも秒殺KOする打撃を武器に現在までMMA10戦全勝。
その風貌とともに、まさに“魔人”と呼ぶにふさわしい男だ。この怪物を本誌は独占直撃！
皇帝が史上最大の危機に見舞われるかもしれない。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／Matthew Rock　撮影／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

——グラウンドの展開になることは不安じゃないですか？



—ヒョードル戦が正式決定したいまの気持ちは？

ロジャース　試合が決まったということに関してはいままでと同じように、試合に向けてのスイッチが入ったということだ。ただ、いままでと異なることは、俺にとってとてつもなく意味のある試合になるってことだな。長いあいだ「世界一」の称号を持ち続け、これだけ尊敬されているファイターが相手になるんだからね。俺はこの世界最強の男ヒョードルをノックアウトしたいと思っているよ。

—ヒョードル vs ジョシュ・バーネットが中止になったとき、あなたは「自分がヒョードルと闘うかどうかはファイトマネー次第」と言っていましたが、今回は満足のいく話でしたか？

※ジョシュの欠場が決定した際、『アフリクション』は代替選手として、ロジャースにオファー。しかしこの際、ロジャースは「ファイトマネーの問題」として断っている。

ロジャース　それは『アフリクション』からのオファーに関してのことだろう？　『アフリクション』での話とストライクフォース＆SHOWTIMEとの契約は簡単に比較できないよ。じつはファイトマネー自体は『アフリクション』のほうが良かったんだ。

—あ、そうだったんですか。

ロジャース　でも、あれは試合数日前の突然のオファー。そんな準備もせずに世界最強の男と闘って勝てるわけがないよな。だからあのオファーを受けるというのは、自分の"星"を売るようなもんなんだ。金をもらう代わりに"負け役"を請け負うっていうね。俺は自分自信を売り飛ばすようなことはしたくない。もしそれでも俺に"負け役"をやってほしけりゃ、そのぶんの金を払えってことだよ。

—試合直前でのオファーは、対戦することへのファイトマネーではなく、負け役を頼んでいるようなもんだ、と。

ロジャース　でも、今回のストライクフォースはまったく違う。ちゃんと準備をしたうえで、多くの人が注目する中でヒョードルと対戦できるし、これに勝てば『アフリクション』が提示した額なんかよりはるかに稼げるようになる。とにかく充分なトレーニングを積んで試合に勝つことが重要で、目の前のはした金のために、キャリアを傷つけるようなことはしたくなかったんだ。金っていうもんは、試合に勝った結果としてついてくるもんだろうよ。

—確かにそのとおりですね。あなた自身はヒョードルをどう評価していますか？

ロジャース　鋭いパンチとグラウンドゲームに強い、隙のないバランスのとれたファイターだと思うよ。すべての面に強く、勝つためのポイントをよく知っている。そのヒョードルに勝つためには、辛抱強く相手に隙を与えず、自分のゲームに持ち込めるようにしたいね。

—ヒョードルのこれまでの試合で、印象に残っている試合はありますか？

ロジャース　どの試合というか、ほとんどの試合を右のオーバーハンドで決めていることだね。俺もパンチが得意だから、今度の試合では同じような攻撃をすると思う。

—でも、ヒョードルは寝技も強いですから、グラウンドに持ち込もうともすると思いますが。

ロジャース　フフフ。俺はいままでグラウンドゲームに持ち込まれたことがないんだ。その俺をヒョードルがどうやってグラウンドに持ち込もうとするのか楽しみだよ（ニヤリ）。

—グラウンドの展開になることは不安じゃないですか？

ロジャース　まったくないよ。グラウンドゲームになればディフェンシブな動きになるだろうけど、俺はヘビー級の中でも身体が異常に大きいし、人一倍汗かきだ。ラウンドが進めば進むほど、ますます捕まえづらくなるだろうし、テイクダウンされることもないだろう。

—テイクダウンさせない自信がある、と。では、あなたがヒョードルより上回っている点はどこだと思いますか？

ロジャース　スタンドアップだ。スタンドアップであれば、パンチの技術だけでなく、組んだときのパワーも含めて、すべての面で上回っていると思う。

—ヒョードル戦はどんな試合展開になりそうですか？

ロジャース　とにかくスタンドアップで試合をコントロールしたいんだ。仮にテイクダウンを狙ってきてもスプロールで対応し、すぐにスタンド勝負に持ち込みたいと思っている。ゲームプランとしては、A＝ノックアウトを狙う、B＝常にプレッシャーをかけ続け試合をコントロールする、ということになるだろう。

—KOする自信はありますか？

ロジャース　もちろんある。俺のパンチが当たれば誰でも倒れるが、おそらくヒョードルはあまりアゴが強くない。俺ぐらいパワフルなパンチなら、かすっただけでも倒れるかもしれないな（ニヤリ）。

—凄い自信ですねえ。ではあらためて、あなたのプロフィール的なものもうかがいたいのですが、そもそもMMAを始めたきっかけはなんだったんですか？

ロジャース　自分の人生を考えた場合、何が一番自分に合っているかということで、

ヒョードルはアゴが強くない。俺のパンチならかすっただけでも倒せる

いろいろ模索していたんだが、いまプロスポーツの中で一番飛躍しているMMAだったら、自分自身の成功も一緒につかめるだろうと考えて始めたんだ。

――MMAとともに自分も成り上がってやろう、と。MMAの前はどんなスポーツをやっていたんですか？

ロジャース　バスケットボール、フットボール、あとはマーシャルアーツ系だとボクシングとテコンドーをやっていた。

――MMAを始める際の一番の魅力はなんでしたか？

ロジャース　これほどの勢いで伸びていて、注目を浴びているスポーツはほかにないだろう。そこだな。

――いまはどんなメンバーとトレーニングしているんですか？

ロジャース　所属チームであるアンビションMMAの仲間たちや、ディビジョンⅠのアマチュアレスラーたちと練習しているよ。俺の地元ミネソタ、それから隣町にはアイオワ州立大学とレスリングが盛んなところだし、自分と同じような身長196センチ、体重120キロを超えるファイターを探すのは大変だけど、ヒョードルと同じぐらいの体型の強いレスラーはゴロゴロいるからね。もちろん、予算があればMMAのトップファイターを呼んで一緒にトレーニングするということも可能だろうけど、いまはその必要性を感じてないよ。

――あなたがほかのMMAファイターと比べて特別な部分はなんですか？

ロジャース　ボクシング、ムエタイ、それにレスリングのパワーとテクニック。そして何よりも、この誰よりも厚みがある肉体が特別だよ。この身体、このパワーでボクシングやレスリングのテクニックを持っているMMAファイターはなかなかいないだろう。

――あなたが一躍有名になったアンドレイ・アルロフスキー戦の勝因はなんだと思いますか？

ロジャース　ボクシングのコンビネーションがうまく打てたことだよ。あの試合を観たかい？　アルロフスキーはヘビー級MMAファイターの中ではトップクラスのボクシングテクニックを持っていると言われていたが、俺のパンチにはまったく対応できなかった。ヤツと試合をする前は「MMAトップ10ファイターと対戦するのはまだ早い」なんて言われたけど、問題にしなかった。今度はMMAナンバーワンのファイターと対戦することになったわけだけど、アルロフスキー戦以上の驚きを世界中の人間に与える自信はあるよ。



［2009.6.6　STRIKEFORCE］
米国ミズーリ州セントルイス　スコットトレードセンター
◯ブレット・ロジャース vs アンドレイ・アルロフスキー×
（1R 0分22秒、TKO）
ロジャースの名前を一躍押し上げたのがこの一戦。今年1月に『アフリクション』でヒョードルを苦しめたアルロフスキー相手に、試合開始早々からラッシュを仕掛け、なんとわずか22秒で失神KO勝ち！　恐るべきスタンドでの強さを見せつけた。

――あなたは試合前に対戦相手の研究を入念にするそうですが、ヒョードルの研究も進んでいますか？

ロジャース　俺はヒョードル戦に向けて集中している。言えるのはそれだけだ。研究できていたかどうかは、試合当日わかるだろう。

――今年1月に行なわれたヒョードルvsアルロフスキー戦の感想を聞かせてください。

ロジャース　途中までは間違いなくアルロフスキーがコントロールしていた試合だったよ。それなのに勝負を焦って、無茶な動きをしてしまったという印象だね。アルロフスキーは自分が有利に試合を進めていたのにもかかわらず、ヒョードルにいつ反撃されるか怖かったんだろう。俺はそんなミスは犯さないよ。一度ケージに入ったら、相手をノックアウトしてケージの外に出るまで、俺は集中しているよ。

――試合までどんなところを重点的にトレーニングする予定ですか？

ロジャース　柔術とレスリングの二つだ。スタンドアップに関しては、ハッキリ言って俺のほうが上だ。だからグラウンド狙いに来られたときの対処法に重点を置いている。

――ヘビー級のもう一人の大物、ブロック・レスナーについてはどう評価していますか？

ロジャース　彼は俺と同じミネソタに住んでいて、同じビッグガイで、身長、体重、リーチもほぼ同じサイズだから、当然意識しているよ。同じミネソタに住んでいるのに会ったことはないんだけどな。彼はパワーとスピードを兼ね揃えた素晴らしいファイターだ。同じトップファイター同士として、いずれは闘うことになるだろうな。もし実現したら、MMA史上最大級の迫力がある、凄まじいバトルになることは間違いないよ。まあ、いまはヒョードル戦のこと以外考えてないけどな。

――今度のヒョードル戦の結果次第で、自分の人生が変わると思いますか？

ロジャース　アルロフスキー戦に勝ったあとも、認知度が上がって生活面での変化があったけど、今度の試合に勝てば、間違いなく自分の人生が大きく変わるだろうな。MMAがスタートしてから、ヒョードルより強い人間はまだ一人も現われていないんだ。もしそいつを倒せたら、俺はこの世界で〝神〟に近づくことになるだろうな。俺はとにかくヘビーウェートの〝THE BEST〟として認知されたいんだ。アメリカだけでなく、世界中のファンにね。そしてヒョードルを倒せば、それが現実のものとなる。だから俺はこの試合に必ず勝ちたいんだよ！

【09年9月2日／電話取材にて収録】



BRETT "The Grim" ROGERS■1981年2月17日、米国ミネソタ州ミネアポリス出身。06年にMMAデビュー。その後、エリートXC等で活躍。現在10戦全勝。196cm、120kg。

ヒョードル獲得だけじゃない！　DREAMとの提携にも注目!!

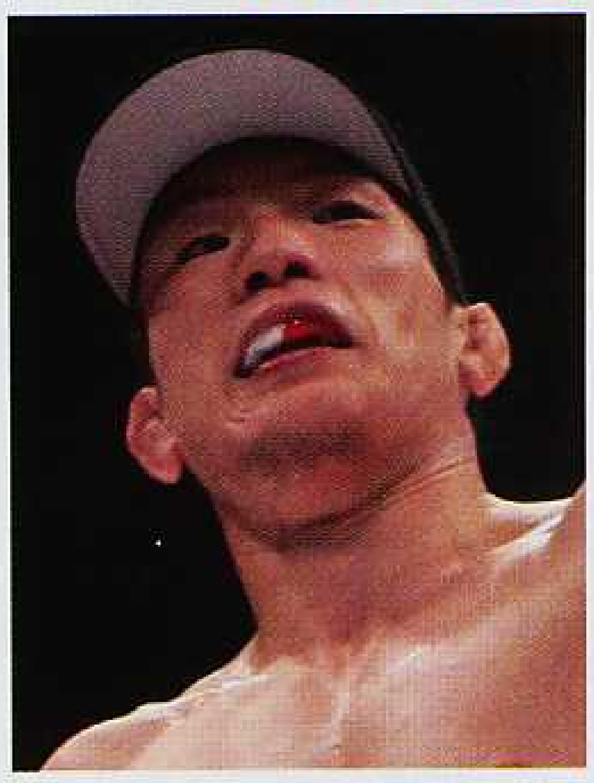
DREAMvsストライクフォース全面対抗戦開戦か？

これがスコット・コーカーCEOのプランだ！

ストライクフォースで注目すべきなのは、ヒョードルだけじゃない！
UFCに次ぐメジャー団体だけに、各階級に強豪がズラリ。DREAMとの提携も発表され、早くも全面対抗戦が期待されている。
ここではスコット・コーカーCEOが考える全面対抗戦カードと、ストライクフォースの有力ファイターを紹介しよう。

構成／堀江ガンツ　写真／乾晋也　Esthe Lin（STRIKEFORCE）

ライト級頂上対決
青木真也vsジョシュ・トムソン



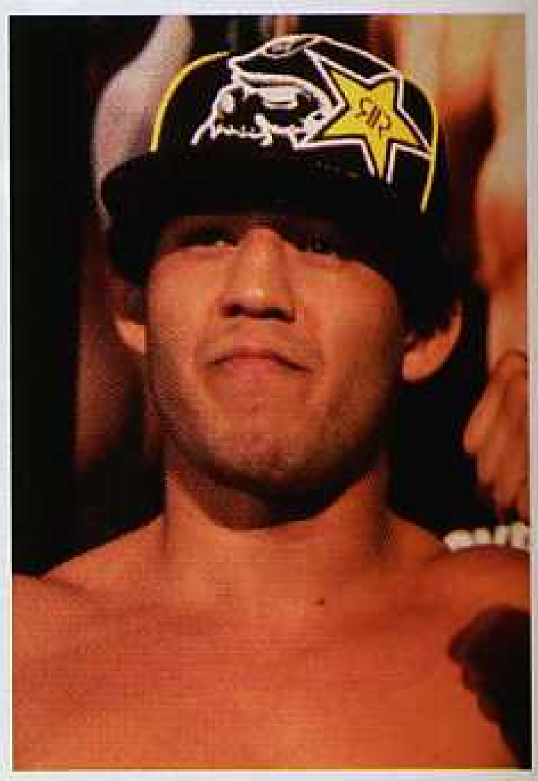
自称・DREAMの大黒柱にして世界が認めるライト級のトップファイター青木と、メレンデスをも下したストライクフォース王者トムソン。この一戦こそ、世界規模の闘い。ダブルタイトル戦もありうる。



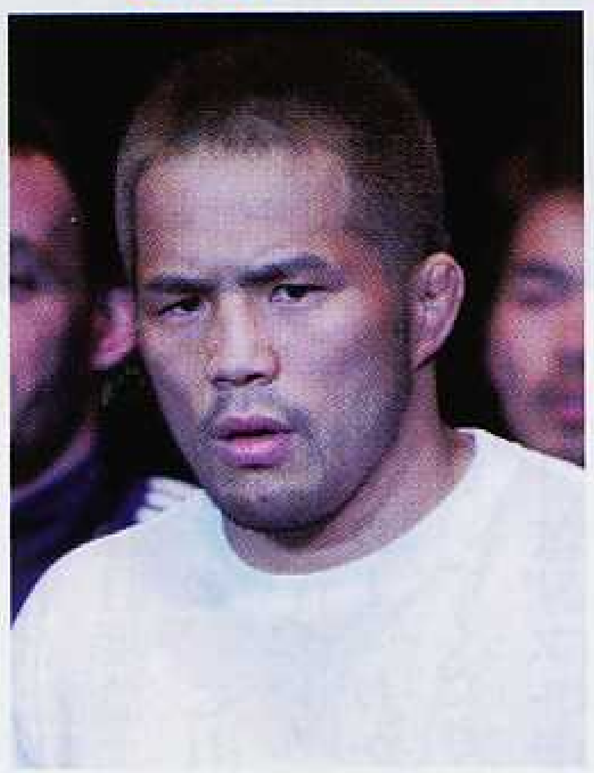
PRIDEから続く因縁の決着戦
川尻達也vsギルバート・メレンデス



06年大晦日の対戦ではメレンデスが僅差の判定で川尻に勝利。そして先日、メレンデスは石田にも勝っており、川尻にとっては絶対に借りを返さなければいけない相手。凄まじい打撃戦になることは必至だ。



ウェルター級の野生児対決
桜井“マッハ”速人vsニック・ディアス



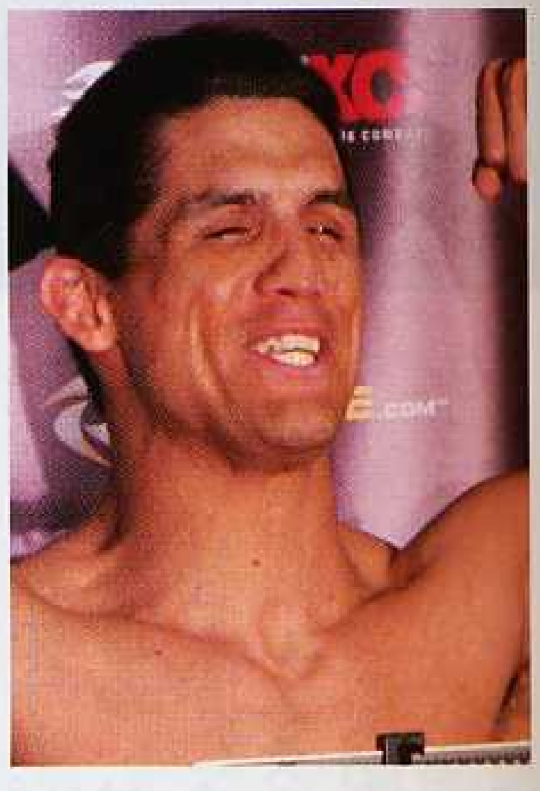
コーカーCEOが最も参戦を望む日本人選手の一人がマッハ。このウェルター級の第一人者の相手には、PRIDEラスベガス大会で五味隆典を絞め落としたニック・ディアスがピッタリ。日米が燃え上がる一戦。



日米レジェンド対決
桜庭和志vsフランク・シャムロック



いわずと知れた日米レジェンド対決。10年前から何度も対戦が噂されながら、なかなか実現しなかったこの闘いが、DREAMvsストライクフォースとしてついに実現するか？　ここに田村が絡むこともある？



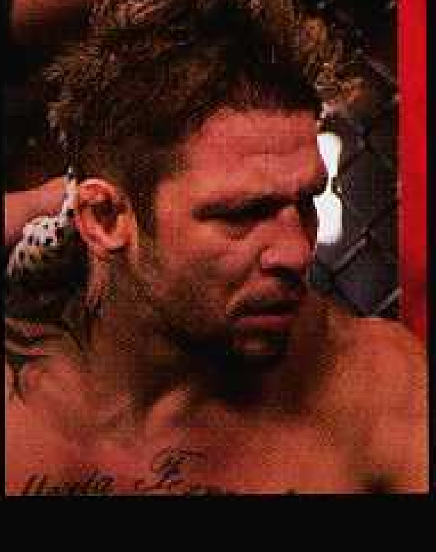
まだまだいる！ストライクフォースの有力ファイター



Cung Le
カン・リー
現ストライクフォース世界ミドル級王者。ベトナム系アメリカ人であり、現地のベトナム移民から絶大な人気を誇り、ムービースターでもある。



Jake Shields
ジェーク・シールズ
元エリートXCウェルター級王者。UFCがトップファイターを独占するこの階級で、唯一、世界トップクラスの評価を得ている本物の実力者だ。



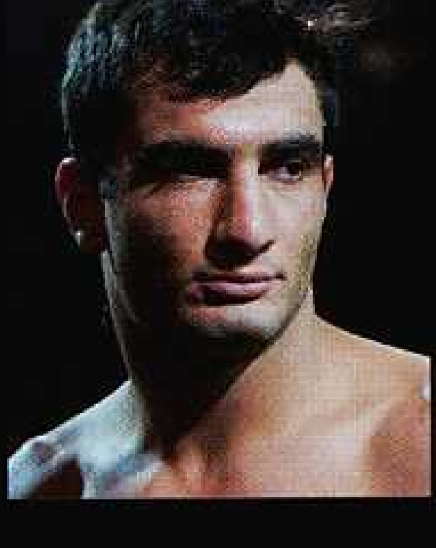
Renato Babalu
レナート・ババル
日本でもおなじみのババル。UFC、『アフリクション』で活躍したが、先の8.15サンノゼ大会ではムサシに秒殺負けを喫してしまった。復活なるか？



Fabricio Werdum
ファブリシオ・ヴェウドゥム
PRIDE、UFCでも活躍し、ADCC、ムンジアルを制した寝技のスペシャリスト。ヒョードルへの次期挑戦者としても名前が挙がっている。



Robbie Lawler
ロビー・ローラー
元エリートXCミドル級王者。先日、シールズに不覚をとったが実力は確か。ストライクフォースでメイヘム・ミラーとの対戦が噂されている。

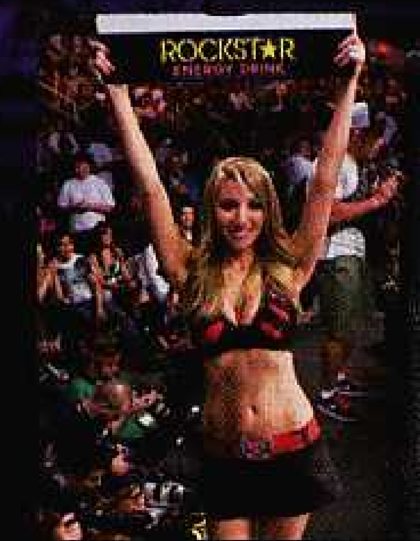


Gegard Mousasi
ゲガール・ムサシ
笹原EPいわく「ウチのムサシ」は、ストライクフォースの世界ライトヘビー級王者でもある。同階級の非UFCファイターでは最強との呼び声も高い。

ヒョードル獲得!　米4大ネットワークCBS放映決定!!









STRIKEFORCE

ストライクフォース その歴史と躍進の理由



スコット・コーカー

[ストライクフォースCEO]

皇帝ヒョードルの獲得に続き、米4大ネットワークのCBS地上派放映の契約までも獲得し、飛ぶ鳥を落とす勢いのストライクフォース。DREAMとの提携強化も発表され、日本の格闘技ファンの注目度も急上昇中だ。そこで本誌はストライクフォースのこれまでの歩みと、その躍進の秘密を聞くべくスコット・コーカーCEOを直撃。日本格闘技界と最も密接な関係を持つ米国メジャーMMA団体の実像に迫ってみた。

文&構成／堀江ガンツ　翻訳／Matthew Rock　撮影　Esthe Lin（STRIKEFORCE）

――今日はヒョードル獲得で、日本でも注目度急上昇中のストライクフォースの、これまでの歩みについてうかがいたいんですよ。

コーカー　わかりました。なんなりと聞いてください。

――まずストライクフォースはどのようにして始まったんですか?

コーカー　ストライクフォースはもともとキックボクシング団体だったんですよ。私は85年から93年までESPN（米国最大のスポーツ専門チャンネル）で放映されていたPKAというキックボクシング団体とビジネスをしていて、93年にPKAの放映が終わると、ESPNから私に「放送枠があるから新しい団体をやらないか?」と声がかかったんです。それがストライクフォースの始まりですね。

――キック団体だったストライクフォースが、MMA団体に生まれ変わったきっかけはなんだったんですか?

コーカー　直接のきっかけは、カリフォルニア州でMMA開催が合法になったとき、HPパビリオン（サンノゼにある大会場）から「MMAのイベントを開催しないか?」と、声がかかったことです。

――会場側からの提案でしたか。

コーカー　正確にはHPパビリオンを運営している、シリコンバレー・スポーツ&エンターテインメント社からの提案ですね。私とHPパビリオンとの付き合いは古く、94年にHPパビリオンができたときからキックボクシングの大会を開催していて、当時はまだ現役だったハビア・メンデス（現AKA会長）の試合を組んだんです。そして2000年代前半はカン・リーをメインにして、キックボクシングや散打の試合をやって人気を集めていたので、アリーナ側からは常に「MMAが合法になれば、ぜひ大会を開いてほしい」とオファーされていたんですよ。

――シリコンバレー・スポーツ&エンターテインメント社もMMAには注目していたんですね。

コーカー　UFC人気の爆発以降、MMAの注目度が増していたし、このエリアにはいい選手やトレーナーがたくさんいるので、MMAイベントを開催する条件は揃っていたと言えます。だから私自身、MMA解禁に向けてロビー活動を続けていたんですよ。カリフォルニア州アスレチックコミッションの担当者に「キックボクシングはできるのに、なんでMMAはできないのか?」と詰め寄ったり、逆に「MMAをやったら、州にもかなりの税金が入りますよ」というふうにそそのかしたりもしました。

――そそのかしましたか（笑）。

コーカー　こうした地道な活動によって、私はカリフォルニア州で初めてMMAのイベントを開くことができたんです。カリフォルニア州初のMMAは、UFCやKOTC（キング・オブ・ザ・ケージ）も開催を狙っていたんですが、私はこのエリアでプロモーターライセンスを取得してから22年間も興行を行なってきたので、一日の長があったんです。こうしてMMAイベントは、06年3月にテレビのスポンサードなしで始めたんですけど、フランク・シャムロックvsシーザー・グレイシーをメインにした第1回大会は、有料入場者数1万8

265人という北米のMMA興行の新記録を作ったんです。

――いきなり大成功のうちにスタートしたわけですね。

コーカー　そして、当初はテレビのスポンサーなしでライブイベントをプロモーションしていたんですけど、07年にはSHOWTIMEのスポンサードを受けていたエリートXCと、フランク・シャムロックvsフィル・バローニ戦を共同開催し、初めてSHOWTIMEのネットワークで全米に放映することができたんです。チケットの売り上げは約1万1000枚でしたけど、この大会によってストライクフォースが、ローカルから全米へと拡大していくきっかけになったと思っています。

――SHOWTIMEでの放映が、大きな転機となった、と。

コーカー　07年のテレビショーはこのイベントの一回だけでしたが、08年は計4回テレビ放映をすることができ、その後エリートXCの資産の一部を買収するなど、すべてが違ったものとなったんです。そのときを境にして、SHOWTIMEとの直接契約を締結。またジェーク・シールズやジーナ・カラーノといったトップファイターとの契約もでき、ローカルのライブイベント会社から完全に脱皮し、全米規模のMMAプロモーションとなることができたんですよ。

――この買収、拡大の背景となった資金はどこから調達したんですか？

コーカー　もちろんストライクフォースだけの資金で、ここまでくることはできなかったと思います。当然ながらシリコンバレー・スポーツ&エンターテインメント社のサポートがあってこそです。とくに昨年末、アメリカ全体が経済破綻に陥ったときも、強力なサポートを得ることができたからこそなんですよ。


現在はテレビコメンテーターも務めるフランク・シャムロックは、ここベイエリアの英雄。これまでのストライクフォースのビッグマッチは、ほとんどがフランク絡みであり、その貢献度は非常に高いのだ。

――やはり、それだけストライクフォースが投資のしがいがあるイベントだということですよね？

コーカー　はい。光栄なことにシリコンバレー・スポーツ&エンターテイメント社は、ストライクフォースの次のステップを信じてくれているんです。とくに今年4月11日から今日までの5カ月間というものを思い出してください。フランク・シャムロックvsニック・ディアス戦、ジェーク・シールズvsロビー・ローラー戦、ブレット・ロジャースvsアンドレイ・アルロフスキー戦、ジーナ・カラーノvsクリスチャン・サイボーグ戦というハイレベルなマッチメイクが実現できたこと。また世界中が最も注目しているヘビー級ファイター、エメリヤーエンコ・ヒョードルとの契約と、会社にとってとても充実した、今後への可能性を実感できた5カ月間でしたね。

――強力なスポンサードに応えるイベントをストライクフォースがやってきたわけですね。

コーカー　おそらく日本の格闘技ファンだったら理解できると思いますが、フジテレビがK-1やPRIDEをどのようにサポートしたか覚えているでしょう？　K-1やPRIDEが将来成長することを信じて、放映するだけでなく、さまざまなサポートをしてきた。それと同様、SHOWTIMEとCBSもストライクフォースの未来を信じて、プロダクションだけでなく、PR部門も含めて会社全体で強力にサポートしてくれているんです。これはストライクフォースにとってはもちろんのこと、MMA業界全体に与える影響も大きいことだと思います。

――いわばMMAが、CBSやSHOWTIMEというメジャーチャンネルのお墨つきをもらったようなかたちになるわけですからね。

コーカー　そしてファンにとっては、先日のジーナvsサイボーグ戦やムサシvsババル、メレンデスvsイシダといった好カードのすべてを、54・95ドルというPPV料金を払うことなく、SHOWTIMEでテレビ観戦できるわけですから、とてもいいことだと思いますよ。しかも、今回のヒョードル獲得においても、CBSとSHOWTIMEから「ぜひ契約締結しよう！」という後押しがあってのことなんです。そしてテレビのサポートを受けて、来年は今年以上に大会を開催する予定です。

――いや〜、イケイケですね。

コーカー　でも、これからが大事ですからね。とにかく今後ストライクフォースをより成長させるために重要なことは、いままで同様、各イベントごとにすべての試合でメインイベントクラスの好カードを実現させ、また4大ネットワークの一つであるCBSでストライクフォースのイベントを放映していくことだと思います。

――ただ、ストライクフォースが大きくなるにつれて、UFCからの妨害も多くなってくると思います。たとえば、大会をぶつけられたり、選手を取られたりということがあると思いますが、どういった防衛策を考えていますか？

コーカー　前にも触れたようにスト

ストライクフォースとCBSの関係は かつてのPRIDEとフジテレビの関係



ストライクフォースの本拠地

HPパビリオンとの関係

ストライクフォースがほかのMMAイベントに比べて優位な点の一つに、HPパビリオンという本拠地大会場を持っていることが挙げられる。

HPパビリオンは、北カリフォルニアのサンフランシスコ、サンノゼを中心とするベイエリア最大の多目的イベントホール。ベイエリアは多くの人口を抱えているにもかかわらず、ビッグイベントが開催できる大会場はHPパビリオンだけということもあり、93年にオープン以来、その稼働率はニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデン（MSG）に次いで、アメリカ国内で第二位を記録しているのだという。

しかも、サンノゼは、アメリカでも有数の裕福な地域であるため、リッチ層が多数訪れる会場でもある。つまり、高いチケットがさばきやすい会場でもあるのだ。

このHPパビリオンを運営するシリコンバレー・スポーツ&エンターテインメント社はストライクフォースの株主でもあるため、ストライクフォースはこの有力会場を独占使用することができ、本拠地のUFC進出を防いでいるのだ。

男女とも世界最強のファイターは ストライクフォースが握っているんです

Scott Coker

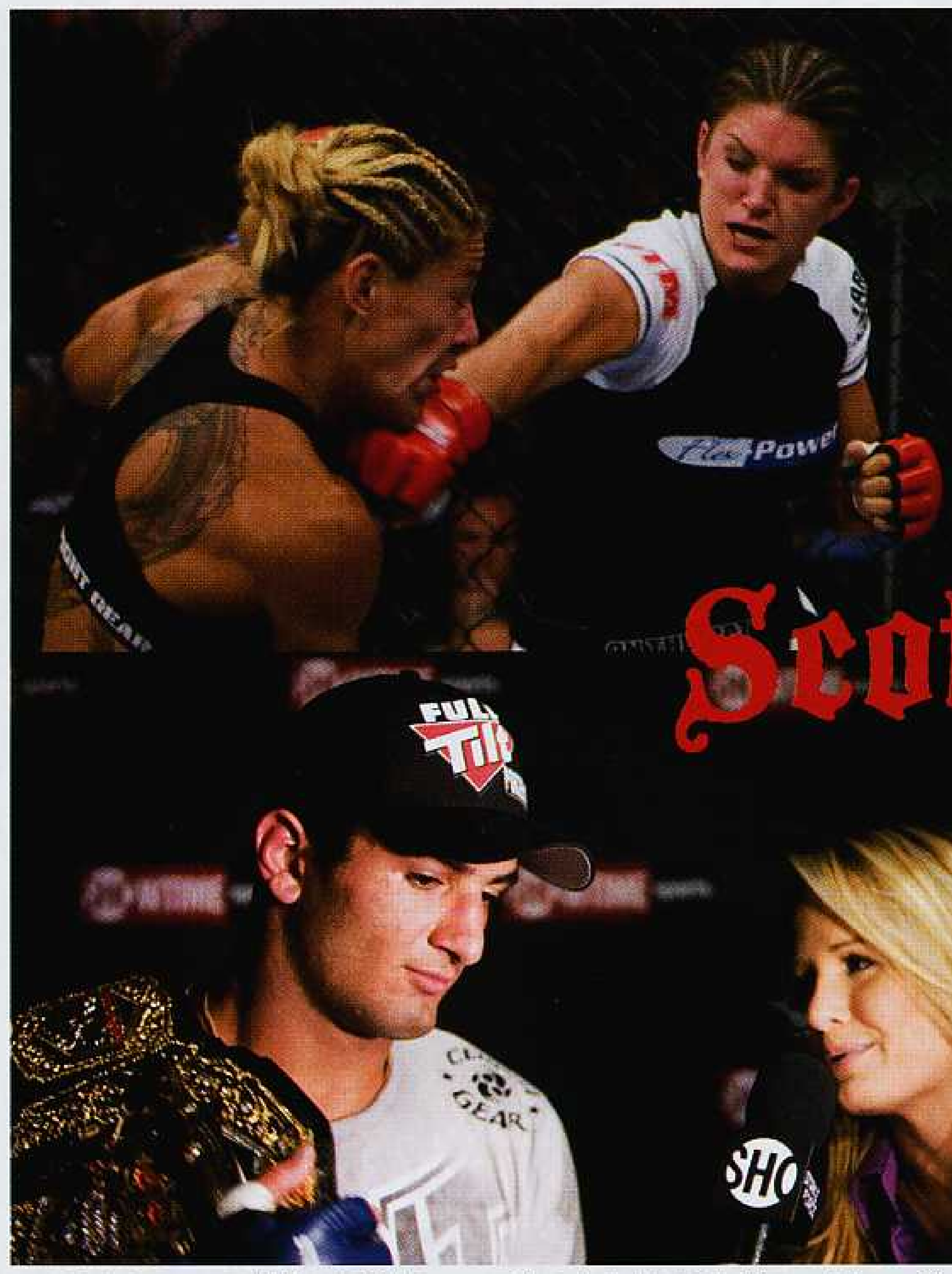
ライクフォースを大きくしていくために重要なことは、自分のビジネスに集中して計画どおり実行していくことなんです。もちろんMMA界で最大規模を誇るUFCのことは尊敬していますし、その動きはモニターしてますけど、だからといってUFCによって自分たちの方向性を変えることなんて考えていない。そこまでUFCを意識して防衛策なんて考えてるヒマもないですしね。

——選手に関してはどうですか？

コーカー　現在契約している選手に関しては契約書というものが存在するし、同時に私は選手を信じています。またこのMMAというスポーツが伸びてきていることによって、新しい良い選手がどんどん生まれてきているんで、お互いにベテランばかりを取り合う必要もなくなっていますしね。MMAは今後も大きな市場になっていくでしょうし、そのためにも複数のプロモーターが共存していくべきだと考えてるんです。事実8月15日の大会の裏では『UFC100』が再放映されていましたけど、ストライクフォースを放映したSHOWTIMEはMMAコンテンツとして記録的な数字をたたき出したんですよ。同時に『UFC100』のレーティングもとても良いものだと聞いています。両方のイベントが同時に放映されても、お互いにレーティングが良かったという事実が、市場の大きさと可能性を証明してると言えるんじゃないでしょうか。

——それはMMAの業界にとって素晴らしいことですね。

コーカー　それに、なぜ両方のイベントを観ようって考えにならないのかとも思います。私はストライクフォースのプロモーターであると同時にMMAのファンの一人でもあるので、UFCのイベントだって楽しく観ているんですよ。UFCのファンだってストライクフォースのイベントを観るのが自然だと思いますけどね。とにかくUFCはすでに完成したビジネスモデルで成功をつかんでいますが、ストライクフォースはまだ成長過程です。成功させるためには自分のビジネスにフォーカスしないといけないということですね。


ストライクフォース躍進の切り札の一つである人気絶頂の女性ファイター、ジーナ・カラーノ。また、ババルに完勝し世界ライトヘビー級王者となったゲガール・ムサシもキーマンの一人となることは間違いない。

——では、ストライクフォースがUFCに比べて、興行的に優位な点はなんでしょうか？

コーカー　各イベントごとのファイトカードが、アンダーカードからメインまでどれをとってもファンに喜んでもらえる注目度の高い試合を組んでいることと自負しています。この点は今後も一番重視していきたいことですね。

——8月15日の大会も好カード揃いでしたもんね。

コーカー　そうでしょう？　もう一つ、UFCは素晴らしい成長を遂げているけど、同時に制限も多い。それに対してストライクフォースは、成長過程なので制限が少なく自由度があることじゃないでしょうか。今回のM-1やDREAMとの提携はその良い例だと思いますね。

——DREAMとの提携では、どんな展開を考えていますか？

コーカー　これは個人的な希望ですが、DREAMと共催でストライクフォースの大会を日本で開催したいと思っていますよ。

——ストライクフォースの日本進出ですか！

コーカー　そうすれば、ヒョードルの試合を日本で開催することが可能ですし、休日に日本の正午開催にすれば、アメリカで夜9時から生中継することもできる。私としては、UFCの日本進出より可能性があるんじゃないかと思っているんです。

——それはぜひ実現してほしいですね。ところで、ヒョードルが出場する10月の大会は、ほかにどんなカードが組まれそうですか？

コーカー　ストライクフォースとしても今年最大のイベントになるので、オールスターをズラリと揃えたいと考えています。具体的にはゲガール・ムサシ、ジーナ・カラーノ、ホナウド・ジャカレイらを参戦させたい。対戦相手は今日現在未定ですけどね。

——ヒョードルの第2戦はいつ頃を考えていますか？

コーカー　おそらく来年の2月～3月頃になるんじゃないかと思います。まだ具体的には話は進んでいませんけどね。

——ジーナ・カラーノの人気が大変なことになっていますが、これからも女子に力を入れていく予定ですか？

コーカー　もちろん！　先日のジーナvsサイボーグは、人気だけじゃなく試合のレベルの高さも証明したと思います。ストライクフォースには世界最強の男ヒョードルと、世界最強の女性サイボーグ、そしてMMA最高のヒロインであるジーナがいる。それが、これからのストライクフォースの大きなセールスポイントになるでしょうね。

——ストライクフォースのこれからの目標は？

コーカー　先ほども言ったとおり、CBSとの契約締結を実現して、全米ネットワークを最大限に利用して、ストライクフォースを成長させていくことですね。ストライクフォースはこの3年間、順調に成功してきたと思いますが、これからも前進あるのみ。同時にMMA業界全体が大きなものになることを望んでいます。

——ストライクフォースのいま現在のテレビ放映はどんな状況になっているんですか？


コーカー　今年はSHOWTIMEがストライクフォース（本戦）を6大会、ストライクフォース版の"PRIDE武士道"であるストライクフォース・チャレンジャーシリーズを6大会放映予定です。来年はSHOWTIMEがストライクフォース、チャレンジャーシリーズを8大会ずつ、さらにCBSで2大会を放映し、その2大会は同時にPPVをする予定なんです。

——うわっ、それは凄いですね！

コーカー　来年は20大会近くを、これまで以上のマッチメイクを組んで開催しなきゃいけない。考えただけでも大変なことですよね（笑）。でも、こんな素晴らしいチャンスをもらったので、M-1やDREAMと協力して、ぜひ素晴らしいカードをどんどん組んでいきたいと思っています。

【09年9月9日／電話取材にて収録】

誰がために格闘技は鳴る



ゴールデン放送なので
やってきました

©DREAM

な展開を考えていますか？

——今日はケージの話も含めて、今
後のDREAMについていろいろと

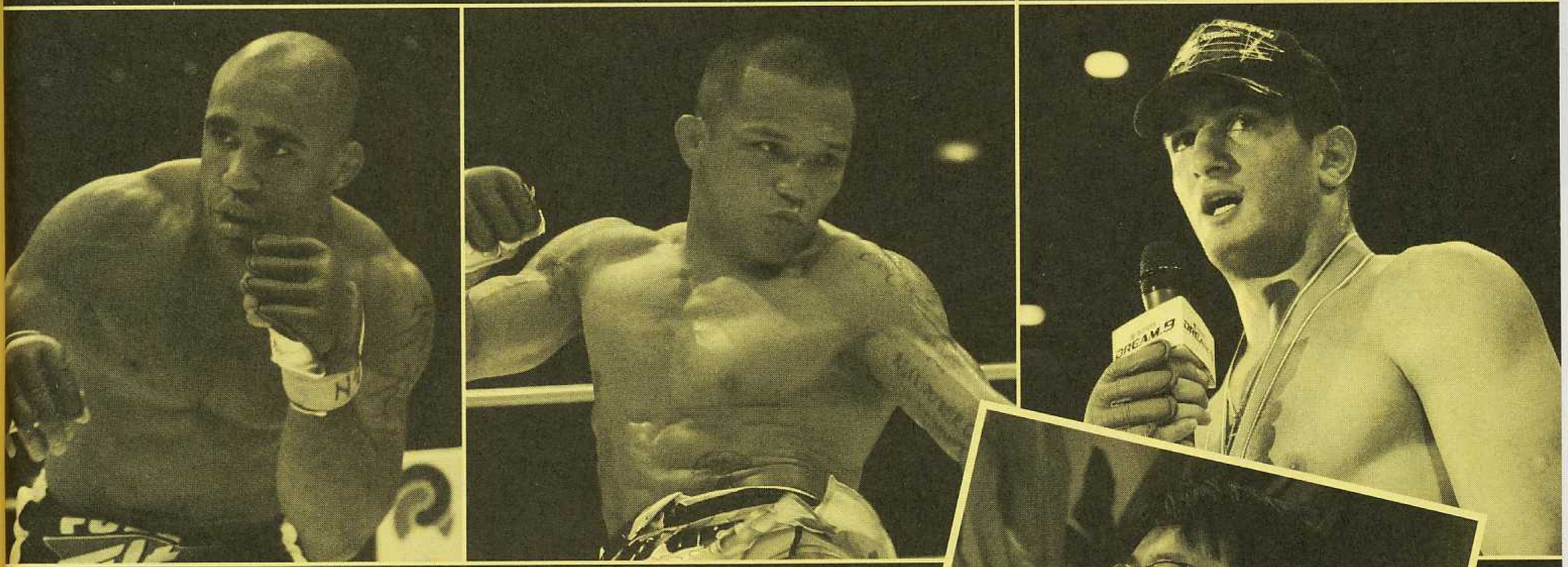
——KID選手のほうは未練がある
ようですよね。じつは笹原さんも離

——『DREAM・11』
への出場オファーはさ





ケージ導入、ストライクフォース
との提携についても直撃!
DREAMは“宗教”になれるのか?





DREAMイベントプロデューサー
笹原圭一

10月、ゴールデンタイム放送の『DREAM.11』と、“新しい仕掛け”を導入するという『DREAM.12』の2大会を立て続けに開催するDREAM。
その動向について笹原EPに話をうかがった。
ファン拡大、イベント自体のスケールアップを狙いたいDREAMだが、
そこに必要なのは“宗教化”だった!?

聞き手/ジャン斉藤　写真/乾晋也　平工幸雄

視聴率とイベントそのものの熱のベクトルは同じだけど重なってない

——今日はケージの話も含めて、今後のDREAMについていろいろとおうかがいします。

笹原　ケージ？　武藤敬司選手はDREAMには出ませんよ！

——（無視して）笹原さんが口にしている「ビビってたじろぐ」仕掛けはケージのことなんですよね？　10・25『DREAM・12』大阪大会で導入するんじゃ……。

笹原　ちょっと！　「ビビってたじろぐ＝ケージ」だなんて勝手に決めないでください！

——じゃあいったいなんなんですか？

笹原　……『kami.pro』の締め切りはいつですか？

——ちょっと待ってください（笑）。本当だったら8月中に発表するというお話でしたよね？　……この発表の遅さはDREAMイズム爆発なんですけど。

笹原　そうなんですよねぇ。ホントのホントはそういう予定だったんですけど、KID選手がアメリカに行くことを含めていろいろ調整することがありまして。

——KID選手といえば、突然の離婚発表がありました。

笹原　報道記事を見るかぎり、KID選手は相当落ちこんでるみたいですけど。

——KID選手のほうは未練があるようですよね。じつは笹原さんも離婚歴があるそうですが、男のほうはそういうもんなんでしょうか？

笹原　まあ、ボクの場合はま〜ったく未練はなかったですけどね!!（スーパーウルトラキッパリ）。

——ダハハハハ！　KID選手の離婚の件って、DREAM不出場と関係があったりするんですか？



復帰以降、まさかの2連敗を喫しているKID。8月28日にはアメリカ行き、そして9月3日にはブログで突然離婚を発表した。そこには「もう一回マリアと結婚する!」というコメントが。KIDの心境やいかに……。

笹原　どうなんでしょうね。ただ、ボクらが「離婚しないで！」とか言う話でもないですからね。プライベートのことですし、それも含めてもう一度自分を作り直したいという思いになってアメリカに行くことになったのかもしれないですし。

——『DREAM・11』への出場オファーはされてたんですよね？

笹原　もちろんしてました。『DREAM・11』はゴールデンタイムで放送しますから、2連敗といえどもKID選手はカード案には当然入ってます。だから、ずいぶん前からオファーはしてたんですけど、アメリカに行くという話も前からあったんですよ。

——しかし、KID選手の不在はテレビ番組としては痛手ですよね。

笹原　もちろんです。まあでも、ほかの選手からしてみればこれはビッグチャンスだと思いますけどね。KID選手に代わって露出されるチャンスが増えるわけですから。ボクらとしても欠場を嘆いていてもしょうがないので、それに代わるものを考えていますよ。で、前回の『DREAM・9』までとはいかないまでも、それに近い数字が獲れればとは思ってますけど。

——最近は数字と格闘技の熱があまり直結してないムードがありますよね。『DREAM・9』はコラボした内藤大助の世界戦効果で高視聴率でしたが、それがDREAMの勢いになってるという感じはあまりしないというか。

笹原　うーん、いまの時代って価値観が多岐に渡ってるんで、その意味では視聴率とイベントそのものの熱が合ってるかというと、ピッタリ合ってないと思うんですよ。逆にPRIDEの頃は「こんなに熱があるのに、こんなに数字が低いのか！」って感じでしたけど。

——小川直也vsヒョードルがあった『PRIDE・GP』なんて二桁いかなかったですからね。二日遅れなのにゴールデンタイムで放送というのも凄いですけど（笑）。

笹原　それにPRIDEのときはまずライブありきで、それがビジネスとして成立してたんですよ。だからDREAMも変わらずライブの熱を作りたいとは思ってるんですけど、あの当時とはやっぱり環境が違うんで、数字を獲らないといけないし、イベントはイベントでまた別の熱を作らないといけないんですよね。つまり、ベクトルは同じ方向を向いてるけどピッタリ重なっている感じがしないってことなんですかね。そもそも、会場に来てる人たちとテレビで観てる人たちってシンクロしてないですもんね。

——確かに違いますね。

笹原　だからザックリ分けると2種類の人たちを満足させるものを作らないといけないってことなんですよね。その難しさたるや『kami.pro』とはワケが違うってことですよ！

——（無視して）そういう中で、その10月の大会にはに桜庭（和志）選手と川尻（達也）選手が出るということですけど、対戦相手のほうは？

笹原　難しい質問しないでくださいよ……。

——難しいんですか（笑）。言い方はアレですけど、いまの時代って〝顔見せ〟が通用しなくなってますよね。それが〝顔見せ〟のみみたいになると、よけいに熱が高まらないなって。

笹原　まあ、そうですね。選手は闘うだけですから、そこは我々主催者がどうテーマを作るかってことなんだと思いますけど。

——何か向こうを見据えての〝前哨戦〟なら顔見せマッチはありだと思うんです。たとえば小川直也vsジャイ

青木vsヨアキムは落選!?
TBS地上波放送カード大予想!

亀田大毅の世界戦とのコラボ放送となる10.6『DREAM.11』地上波ゴールデンタイム中継は、前回同様1時間30分の放映枠となる予定だ。そうなれば、必然的にカット or ダイジェスト扱いになってしまう試合が出てきてしまうだろう。「地上波で観ればいいや」と考えてるアナタ、それは甘〜〜い!!　会場観戦やPPVじゃないとフルで観られない試合が出てくるんです。というわけで、TBSのプロデューサーになりきって、試合の放送順を予想してみた。あくまで予想です。

【放送順】
- 所英男 vs 高谷裕之
- なぜか山本“KID”徳郁 vs ジョン・ウォーレン
- ボブ・サップ vs ソクジュ
- ミノワマン vs チェ・ホンマン
- なぜか魔裟斗 vs 川尻達也
- 川尻達也 vs 外人選手
- 桜庭和志 vs 外人選手
- 〈超ダイジェスト〉ビビアーノ vs ウォーレン
- フェザー級GP決勝戦

もしかしたらトップバッターはミノワマンになる可能性も。ちなみにゲガール・ムサシ vs ソクジュだったら放送されてないと思う。そんなもんだ。

【放送されない試合】
- 青木真也 vs ヨアキム・ハンセン
- JZカルバン vs 中村大介
- DJ.taiki vs 宮田和幸

マニアの支持が高いであろう3カードはおそらく未放送と予想。青木 vs ヨアキム、カルバン vs 中村の好カードは放送してほしいが、TBSセンスからすればしょせんは“サップ以下”なのかもしれない。

※桜庭、川尻は試合があれば。カルバン欠場ってホント!?

kamipro推薦
ハルクトーナメント 代打出場はこの男!



モンターニャ・シウバ
ハルクなら、ぶっちゃけ本気でこっちのほうがいいでしょ! と推薦したいのが我らがモンタ。暴れだしたら止まらない"殺し"の塊には、きっと視聴者も釘づけだ!

©IGF



ジョン・アンダーセン
合い言葉は「ステロイドは使ってないぜ!」なジョン・アンダーセン。筋肉の発達具合はボブ・サップをも凌ぎ、このご機嫌な写真はどこかあの筋肉三兄弟を思い出させる。

©IGF



ネクロ・ブッチャー
流血してもギブアップはしねえ、脅威のデスマッチレスラー。映画『レスラー』の出演を考えると知名度は世界的。地上波放送は大丈夫? なんて、そんなことは気にしない!



澤田敦士
顔のインパクトならこの男! 文字どおり永田さんも顔負けの澤田なら、もの珍しい顔芸に惹かれチャンネルを変えられないはず。ソクジュにも劣らない意味不明な乱闘劇にも期待大。



ザ・グレート"ランディ"サスケ
最近"ランディ化"が進んでいるサスケ。電車内暴行事件など話題には事欠かないだけに知名度は抜群だ。この試合だけぜひヒジありルールにして、存分にランディを演じてほしい!

シルなんて全然オッケーだったじゃないですか（笑）。ただ、最近は競技性とドラマのバランスをとるのは難しくなってますよね。

笹原　興行論や競技論みたいな話をする環境って日本独自の文化ですよね。その議論自体は全然否定するつもりはないんですけど、なんかそうした各論に入っていくのって、明るい未来があるように思えないけどなぁ。熱のあるモノって、競技にしろ、ドラマにしろ、バランスなんか無視して突き抜けちゃってるものですからね。

――やっぱり興行論や競技性のどちらを柱にするせよ、どちらも宗教的要素がないといけないと思うんですよ。第二次ＵＷＦって試合はメチャクチャつまらなかったと思うんですけど、「これがホンモノの格闘技なんだ！」って洗脳されてムーブメントになったように。

笹原　そうなんですよ。ただ、価値観が多様化している中で、じゃあいわゆる宗教的なものが作れるかというのは凄く難しいと思うんですよね。で、たとえばＰＲＩＤＥが宗教化できたのは、やっぱり「世界最強」という「御神体」があったからだと思うんですよ。いまＤＲＥＡＭでそれに変わるような言葉があるかというと、それを見つけるのは簡単じゃないですよね。

――「んあ～！　我々は視聴率を獲りま～す！」って訴える宗教は相当怪しいですよね（笑）。

笹原　「数字を獲る」というのは確かに凄く下世話な響きがあるんですけど、そこに寄り添えるような信念とか思想が貼りついているんだったら、宗教化もできるかもしれないですけどね。

――ああ、思想と哲学は大事ですね。ここ４～５年の格闘技って、「視聴率さえ獲れれば成功するんだ」という雰囲気はあったと思うんですよ。でも、いまや「数字獲ってもそれってそもそもおもしろいのか？」ってムードが蔓延してるというか、視聴率を獲るために繰り出す企画に哲学や思想がなかなか見いだしづらくなってるのかもしれません。

笹原　それは「この先どうなるんだろう？」という不安があって、悲観的になってるということもあるでしょう。ＤＲＥＡＭが始まって1年半ですけど、長いスパンでの絵が描ききれていない。これって結局、さっき言ったような「御神体」とか思想の話になってくるんですけどね。

――格闘技って「世界最強」を目指してないとロマンは作りづらくないですか？

笹原　昔、『ＲＯＭＡＮＥＸ』旗揚げ大会のコピーで「最強？　笑わせるな。このリングからは英雄が生まれる！」というのがありましたけど、そういう「うーん……」ということしかないですもん。

――確かに「うーん……」って感じでしたよね（笑）。

笹原　だから、思っている以上に「世界最強」って説得力や幻想があって、使い古されているけどみんなを惹きつける言葉だというのをあらためて感じますね。ＤＲＥＡＭで何か新しいものだったり、そうした世界観を作り出せないってことじゃないですよ。たとえば、ＤＲＥＡＭのライト級はその価値観を作り出せると思うんですよ。ではライト級がそうならば、ほかの階級にだって波及させることはできるでしょうし。そのためには日本人選手ももちろん必要ですけど、外国人ファイターのクオリティを上げて、勝ち残ってもらわないとダメですよね。

――それは日本人じゃダメなんですか？

笹原　ダメです（キッパリ）。当然、日本人なんで我々は日本人選手にシンパシーを感じるし、ＪＺがケガで欠場になりましたけど、予定していた中村大介vsＪＺカルバンにしても中村選手に勝ってほしいという雰囲気になりますし、ＪＺを越えてくれば、会場は爆発するんでしょうけど、この先の興行のことのみを考えると、やっぱりＪＺが勝たないとダメなんですよ。そうじゃないとイベントとしてＤＲＥＡＭが広がっていかないんです。

――じゃあ青木vsヨアキムもヨアキムが勝ったほうがいいと？

笹原　先の青木vs川尻戦を考えないと、ヨアキムが勝ったほうがいいですよね。強くてイベントの顔になるような外国人がいないと。

――ただ、外国人だといつどこかに行っちゃうかもしれないという不安はありますよね？

笹原　それを心配しだしたらきりがないですから。とにかくいまは、幻想を抱けるような強い外国人ファイターを一人でも多く、育てることだと思いますよ。

――じゃあ次のＤＲＥＡＭはヨアキムに勝ってもらって、ビビアーノに優勝してもらって、と（笑）。

笹原　ハハハハ。まあ、それはそれでおもしろいかもしれないですよ。それって、要はかつてのノゲイラやミルコ、ヴァンダレイみたいな外敵を作る作業だということですからね。

――外敵といえば、いま青木真也が

笹原　（即答で）見づらいです。もしケージを導入するなら工夫はしますけど。

携ということですが、格闘技ビジネスにおける"提携"の意味合いっていまいち曖昧ですよね。

ースとは開いてる、と。

笹原　ただ外国の団体との提携って、お互い主張ばかりで話がもつれる場

すね。魔裟斗選手の引退やＫ―１甲子園がある中で、ＤＲＥＡＭの選手がどう絡むかというのは、それはそれ

DREAMは"宗教"になれるのか?

ミルコ、ヴァンダレイみたいな外敵を作る作業だということですからね。

——外敵といえば、いま青木真也がそういう立場ですもんね(笑)。

笹原 あるスタッフが言ってたんですけど、あの青木vsシャオリン戦ってみんな技術論とか興行論での議論になるじゃないですか。でも、そういうことよりも、そもそも日本人は潔さがないと乗れないって。

——なるほど。それを青木真也が聞いたら、ますます潔くない闘い方に徹しそうですね。ヨアキムを15分間完全に抑え込んだりして(笑)。

笹原 でも、ヨアキムもそこは想像してるかもしれないですよ。ヨアキムって非常に日本人的感覚がわかる選手なんで、青木真也という得体の知れない選手についてもヨアキムなりに理解してると思います。こうなるとボクは会場がどんな反応になるのかが楽しみなんですよね。青木選手にブーイングが飛んで、ヨアキムに歓声が起こるのか。何かちょっと新しいものが見られるんじゃないかって期待してますけど。

——ところで、冒頭でお話しした『DREAM.12』のケージマッチの話ですけど、そもそもケージを導入される目的はなんなんでしょう?

笹原 だからケージかどうかはわからないですよ!

——質問を変えます。正直、ケージって見づらくないですか?

笹原 (即答で)見づらいです。もしケージを導入するなら工夫はしますけど。

——もしかしたらケージのほうが活きる選手もいるかもしれないですね。ストライクフォースと提携する中で、向こうの選手にこっちのケージで闘ってもらうとか、DREAMでケージを経験した選手を送り込むこともできますから。日本人でもケージでやりたいという選手がいるんで、海を渡らなくても選手の選択肢を増やせるということにもなりますし。……なんで俺がこんなケージ導入の利点を熱弁してるんだ(笑)。

笹原 たいへんありがとうございました。次の質問をお願いします。

——……ストライクフォースとの提携ということですが、格闘技ビジネスにおける"提携"の意味合いっていまいち曖昧ですよね。

笹原 いわゆる一般企業の業務提携とは違いますからね。

——その昔、UFCのチャック・リデルがPRIDEに上がったことがありましたけど、ファイトマネーを払ったのはPRIDEなんですよね。

笹原 そうです。

——逆にPRIDEがUFCに選手を貸すといっても、UFCがそのファイトマネーを払うわけですよね。

笹原 そこでファイトマネーまで所属団体が持つというのはレアケースでしょう。ほかにもお互いに興行スケジュールがありますし、出してほしい選手も違いますし。だから"提携"というのは、お互いに交渉のテーブルにつける環境にあるということですよね。

——つまり、いまUFCとは交渉の窓は開いてないけど、ストライクフォースとは開いてる、と。

笹原 ただ外国の団体との提携って、お互い主張ばかりで話がもつれる場合が多々あるじゃないですか。そうならないように世界的な流れを見て協力していきましょう、と。選手もチャンピオンクラスの交流をしようとか、日本での合同興行みたいな話も進めてますから。代表のスコット・コーカー氏も、この座組みには積極的なので、絶対おもしろい絵が描けると思ってます。

——そのストライクフォースがヒョードルを獲得しましたけど、ヒョードルの大晦日参戦はありますか?

笹原 うーん、大晦日は微妙だなあ。もちろん可能性はゼロじゃないですよ。

——是が非でもという感じじゃないみたいですけど。

笹原 いやいや、そんなことないですよ。ヒョードルを日本で試合させたいという気持ちは変わらずあります。ただ、大晦日となると格闘技業界の事情に加えて、テレビ局側の事情も加わってきますからねえ。

——ただでさえ今年は魔裟斗さんの引退試合がありますし。そうなると、今年は『Dynamite!!』におけるDREAM色ってかなり薄れる気がしますね。

笹原 もしかしたらいままでにないような大晦日の風景になるかもしれないですね。魔裟斗選手の引退やK—1甲子園がある中で、DREAMの選手がどう絡むかというのは、それはそれでおもしろくなるかもしれないですよ。魔裟斗選手に黄色い声援が飛んでる中で、青木や川尻のド演歌ファイトを見せたいという気持ちもありますしね。

——ちなみに、来年のDREAMに関する動きってすでに何かあるんでしょうか?

笹原 来年はまだやってない階級を磨いていこうと思ってます。たとえばライトヘビーとか。あとは、ライト級が一巡して顔ぶれがさらに充実してきたので、ここでもう一回何か大きな仕掛けをやるとか。とくにライトは日本人・外国人ともにタレントが豊富ですからね。それから、女子なのかDREAM甲子園なのかわからないですけど、近々発表する"ビビってたじろぐ"計画に続く新しいことをやりたいと思ってますので、そこは期待して見ててほしいですね。

——お早めの発表を首を長くして待ってます(笑)。

【09年9月3日/都内・リアルエンターテインメントにて収録】



今年の大晦日は魔裟斗引退試合一色になる可能性は大。その中で青木や川尻はどう輝くことができるのか。ましてや、他局で格闘技を放送する可能性があるとなると、ますます『Dynamite!!』の真価が問われてくる。

青木真也という得体の知れない選手もヨアキムなりに理解していると思う

——谷川ＢＬ！（Ｂｏｙｓ Ｌｏｖｅ）
……じゃなくて、谷川ＥＰ！ 最近、
ある新聞が谷川さんにまつわる怪し

——どんどん規模が大きくなってる
みたいですね。
谷川 この勢いだと学校の中に「Ｋ―

ら、いまさ、道場を作ろうとかジムを
出そうとしてる選手がいたりするじ
ゃない。それを見ると、時代に逆行し

金を借りられるというのは、それだ
け立派な会社だということだよ。残
念だけどＦＥＧはそんなに立派な会

したい！」って言ってるじゃない。な
んかおもしろい二人だよねえ。残念
な話だけど、微笑ましいというか。頑









サダハルンバ
振りかかる"危機説"
に言及!!

過去を捨て前進宣言!!

K-1は潰れないよお〜！

FEG代表

谷川貞治

K-1に"危機説"浮上!? 恒例のサダハルンバインタビュー、
今回は一部報道で騒がれたK―1のあるウワサについて直撃した。
はたしてK―1は大丈夫なのか? そして日本のマット界の行方は……!?

聞き手／ジャン斉藤　写真／乾晋也　平工幸雄

——谷川BL！（Boys Love）……じゃなくて、谷川EP！ 最近、ある新聞が谷川さんにまつわる怪しい疑惑について書いてたんですよ。ズバリ、谷川さんは若い男の子が〝大好物〟なんじゃないかって。

谷川　へえ～、そんなウワサがあるんだ。ま、確かに若い男の子は好きだね（キッパリ）。

——んあ～！ それはどういう意味ですか？ プロモーターとして？ それとも……一人の男性としてですか？（笑）。

谷川　ウフフフ。一人の男性としても、プロモーターとしても好き。だって、なんかひたむきでいいと思わない？

——……報道によると、K—1甲子園の選手に対する谷川さんの発言が非常に〝そういうもの〟を連想させるとありました。ウチも〝ジャニー谷川〟の愛称を無理やり流行らせようとしたことがありましたけどね。まったく浸透しませんでしたが。

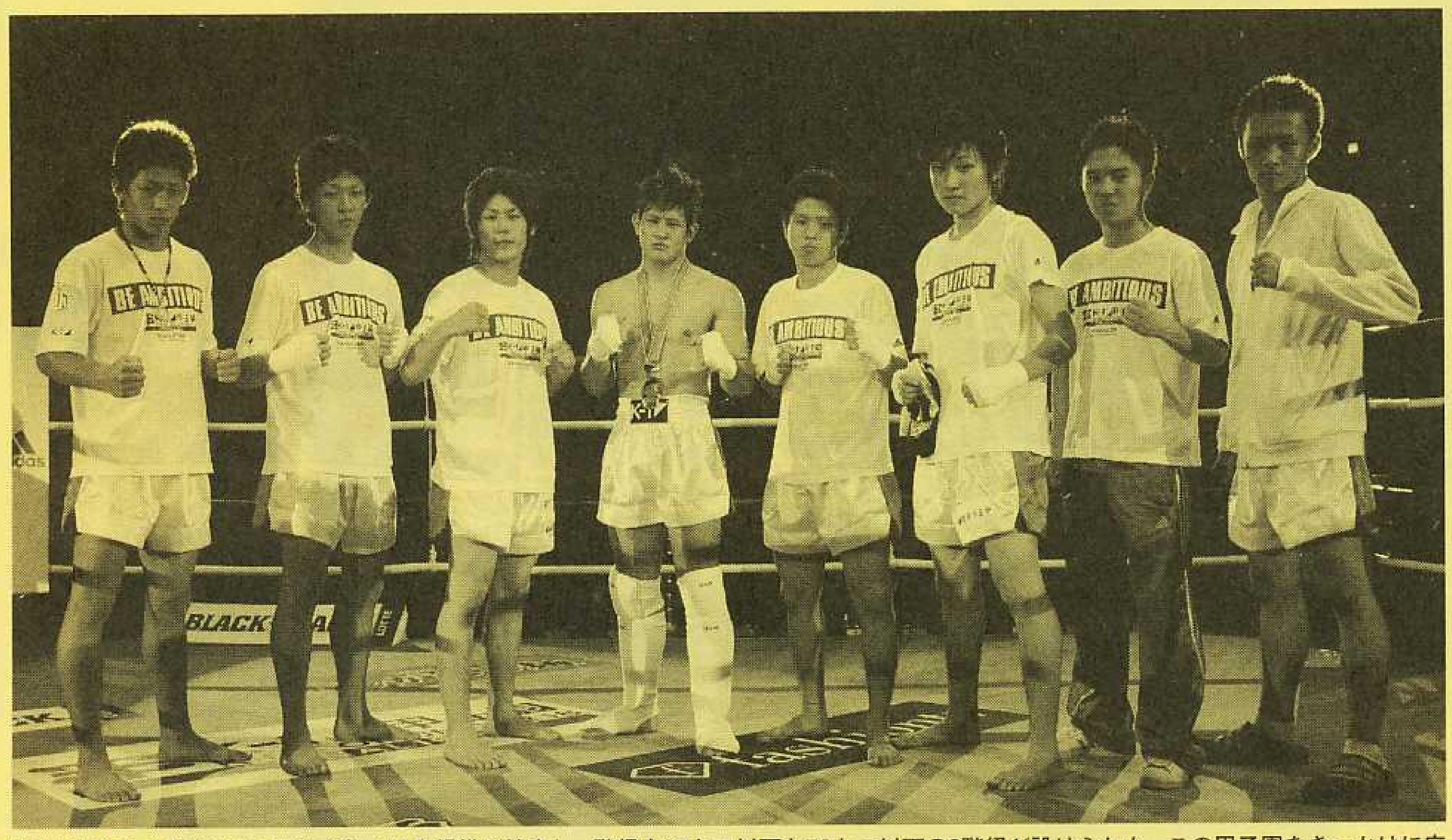
谷川　K—1甲子園、かっわいいよねえ（うっとり）。

——じゃあ、報道については否定はしない？

谷川　否定はしないです（キッパリ）。

——それは困りますよ！（笑）。

谷川　でもK—1甲子園はよかったでしょ？ あれは今年の中でベスト興行だよ。



8月に行なわれたK-1甲子園は去年よりも規模が拡大し、階級も60キロ以下と70キロ以下の2階級が設けられた。この甲子園をきっかけに底辺拡大を狙うサダハルンバだが、青少年にうっとりするサダハルンバを見ると、若干不安だ。

——どんどん規模が大きくなってるみたいですね。

谷川　この勢いだと学校の中に「K—1部」とかできそうだもんね。もうボクは嘉納治五郎とかサマランチ会長の道を歩んでいきますよ。

——全国でそういう動きが出てきてるんですか？

谷川　〝K—1部〟が本当に学校公認でできそうだし、九州とかでは早くやりたいって言ってるもんね。だから、いまさ、道場を作ろうとかジムを出そうとしてる選手がいたりするじゃない。それを見ると、時代に逆行しているように見えるんだよね。それこそ道場なんて流行り廃りがあるし、一代でやることなんて知れてるでしょ。それよりも、いかに学校体育に食い込むかということのほうが大事だよ。

——待ってるんじゃなくて、食い込んでいくべきだ、と。

谷川　だからたとえばいま空手でメシを食う人たちに対して柔道の嘉納治五郎さんがやったように、教員や警察官になれる道を作るとか、そういう道を作っていかないとK—1は残っていけないよ。それはいまボクの大きな夢ですね。

——そのほうが入れ替わりも激しくなりますよね。しかし、それ以前にK—1が多額の借金で倒産するんじゃないかというウワサもあるんですよ。

谷川　（即答で）それはないですね。そんなのマニアックな雑誌が書いてるだけでしょ？ その記事は読んでないから何が書いてあるかわからないけど、そこに書いてあるようなことはないですよ。

——記事によると借金が30億という話でした。

谷川　はーん。銀行とか企業からお金を借りられるというのは、それだけ立派な会社だということだよ。残念だけどFEGはそんなに立派な会社じゃないよ。

——でも、30億も借金があったらあっという間に立ちゆかなくなりますよね、普通。

谷川　ホントそうだよ！

——ついでに、その記事には谷川さんと石井館長のあいだに確執があるということも書かれてあるんですよ。要はK—1に関して石井館長と谷川さんが権力争いをしているというか。

谷川　ふーん。まあ、K—1を作ったのは石井館長だけど、今後はいかに〝世界のK—1〟、〝みんなのK—1〟にしていくかってことだよね。だから確執はないし、そこはプロレス的アングルではないなあ。

——猪木さんと次の世代が揉めるとか、そういったことではない、と。

谷川　だって、石井館長とは毎日しゃべってますよ。モメた話し合いもない。メル友だし。このあいだも「KIDが離婚するみたいですよ」って送ったら、石井館長が「えー！」って絵文字つきで送り返してきたんだから。

——谷川さんはKIDさんの離婚はご存知だったんですか？

谷川　まったく知らなかった。前日に聞いたかなあ。でも、KIDくんってやっぱりおもしろいよね。二人に何が起こったかは知らないけど、離婚するってなっても「もう一回結婚したい！」って言ってるじゃない。なんかおもしろい二人だよねえ。残念な話だけど、微笑ましいというか。頑張ってほしいよね、いろんな意味で。

——話を戻すと、借金の話はともかくとして、K—1の経営が苦しいというのはあるんですか？

谷川　それはいつだって苦しいよ。まあ過去の税金問題とかあって、時代的に厳しいというのはあるんだけど、興行としては利益はあるからね。イベントとして利益がマイナスになるようなことは絶対にやらないし、プラスになるって確信があってこそやるわけだから。

——たとえば、先日のK—1WGPは代々木第二で開催されたんで、あれは規模縮小なのか、と。

谷川　あれは見込んだ収入が最初から少なかったから会場を小さくしただけです。だから、たとえばアメリカでやった『Dynamite!! USA』なんて一晩で何億もかかるんですよ。でも、何億プラスアルファ入るアテがあるからやるんですよね。やってみたら入るんじゃないかぐらいの気持ちでやってるわけじゃないから。まあ時代的に苦しい時代だけど、潰れるような苦しさはないですね。

——そのWGPは地上波では深夜放送でした。それって最初から深夜だと決まってたんですか？

谷川　そこは年間契約で決まってます。最初から今年はゴールデンが3

いまは時代的に苦しい時代だけど潰れるような苦しさではないですよ



K-1初期から活躍しているこの3人だが、入れ替わりの激しいMMAに対し、K-1には“循環”してないイメージも。はたして新しい風は誰が吹かせるのだろうか?

本、深夜が4本という契約だからね。逆に海外で時差があるから、こちらから深夜にしてくれということもあるんだよ。それにゴールデンはそれなりに予算もかかるわけで、不測の事態が起こって選手を急きょ用意しないといけないってこともあるから。

——でも日本で開催されるK—1の興行が深夜放送というのは珍しいですよね。

谷川 そうだね。あれはもともと日本でやるつもりじゃなかったからね。海外イベントを予定していたから。それはボクが忙しくて仕切りきれなかったんで日本に持ってきただけなんですよ。でも、深夜でも視聴率よかったんですよ。だから、それはそれで評価の仕方はあるんだよね。

——単に深夜放送だからということが目安にはならないわけですね。

谷川 へんな話、「テレビのないスポーツというのはプロのスポーツとは言えない」って早稲田大学の教授が言ってたんだけど、確かにボクらのやってることってテレビもスポンサーも何もなく会場をとってカードを発表して、チケットだけでお客さんを集めるという興行は一回もやったことないしね。

——ただ、K—1はそうでもないですけど、DREAMは予算オーバーしてるイメージってないですか?

谷川 総合はK—1と比べて相場が高いというのはある。ただ、そこで下げても“どインディー団体”になっちゃうもんね。だから深夜といえども青木もマッハも必要だし、世界的に見ればMMAファイターのほうが高いですよ。それは、市場的に立ち技はK—1しかないけど、総合はUFCの価格があるから。だからオーバーしているように見えるのは実際にそういう一面があるからです。でも、そのなかでDREAMのスタッフは凄く頑張ってますよ。

総合をやる理由? 一つは立ち技とのバランス、もう一つは大晦日だね

K-1は潰れないよぉ〜!

——以前、『やれんのか!』があったときに記者と谷川さんが懇親会をやったじゃないですか。そのときに「『HERO'S』は毎回大赤字。でも総合は続けないといけない」みたいな話をしてた。そこまでして総合にお金をかけるのってどうなんでしょう?

谷川 そんなこと言ったっけ?（笑）。それはね、二つあって、世界のマーケットでいうと格闘技は立ち技と総合しかないし、そういう意味では両方のコンテンツを持っておかないとバランスが崩れちゃうんだよね。だから理想はK—1とPRIDEが仲が良かったら一番よかったんですよ。ただPRIDEと仲が悪かったから『HERO'S』が始まったわけなんだよね。そのバランスの問題が一つある。

——なるほど。もう一つは?

谷川 もう一つは、大晦日にイベントをやってるということが大きいですね。で、この大晦日というのは総合の試合を組まないと成り立たないんですよ。フジテレビで『Dynamite!!』を放送するんだったら、WGPの決勝戦に当てることもできるけど、K—1MAXの決勝戦だけで大晦日というのはムリだからね。そこはやっぱり大晦日らしい“祭り”にしないといけないし、“祭り”には総合の試合が必要なんですよ。だって、その大晦日がなくなったら日本の総合格闘技はかなりテンションが落ちちゃうよ。

——確かに。“K—1の危機”を記事で読んだときに、K—1が終わったら、格闘技は競技としては残りますけど、日本の格闘技文化はなくなるだろうと思いましたね。

谷川 そうなったら10年間ぐらいテレビはつかないだろうね。大沈没すると思う。頑張らないと。

——ただ、最近思うのはテレビは大事なんでしょうけど、数字を獲らなきゃダメだという話は、はたしてどこまで頑張ればいいのかよくわからないですよね。

谷川 いまの目標は15パーセントですよ。というのは、いまのトップのフジテレビのゴールデンの平均視聴率が12とか13なんですよ。TBSは少し低いけど、15は3年前の20ぐらいの価値がありますよ。

——でも、なぜか格闘技の視聴率だけが成績が悪いような言い方をされませんか?

谷川 いやいや、15はちゃんと獲ってるからぜんぜん悪くないですよ。今年はとくにいい! 15獲ったら週間ランキングでベスト10に入る可能性も充分あるからね。だから落としちゃいけない数字は10で、合格点は

15。でも本当にテレビって難しいからねえ。バレーなんかでも数年前は20を超えてたのが、いまでは10とかだって言ってたよ。

者推薦を実施するのはどうなんですか?

谷川 ホントはいらないんだよね。いまのK—1に必要なのはバリバリ

もしろいんだよね。だからUFCに関してはなんとなく“世界”みたいに見えるかもしれないけど、所詮ローカルです。

してないからですよ。バダ・ハリもチャンピオンになったらぜんぜん変わってくるもんね。世代交代には失敗してないけど、優勝してないからだ

『YouTube』格闘技になる可能性だってあるよ。だからターザン山本!さんなんかがいた頃の時代というのは、プロレス界全体が活字によ

ＦＥＧがそんなに武蔵を望んでない いま望んでるのはダニエル・ギタとか

15。でも本当にテレビって難しいからねえ。バレーなんかでも数年前は20を超えてたのが、いまでは10とかだって言ってたよ。

——たとえば、今回武蔵選手がファン投票でＷＧＰに出るというのはテレビ対策もあるんですか？ 武蔵選手って人気ファイターってわけじゃないですけど、知名度はありますよね。

谷川 テレビ対策……。うーん、それはどっかにあるかもしれない。ただ正直なこと言うと、ＦＥＧにいまその感覚はないんだよね。ＦＥＧがそんなに武蔵を望んでないんだよ。

——ＦＥＧが武蔵を望んでない（笑）。

谷川 うん。ＦＥＧがいま望んでるのはダニエル・ギタとかそのへんだよね。だから、Ｋ—１は世界で凄い人気があるんですよ。ＧＰってタダでも出たいという選手がたくさんいるぐらいだからね。

——でも、国内におけるＫ—１の求心力って凄い下がってるイメージがありますよ。

谷川 そのぶん世界からの反響は凄いからね。立ち技は世界にマーケットを作っていかないといけないという意識でやってるから。だから、いまのＫ—１に必要なのはバリバリに強いヤツだし、目指すはワールドカップやオリンピックですよ。そこで日本が盛り上がってくる。

——ワールドカップやオリンピックを目指す団体が、ファン投票や主催者推薦を実施するのはどうなんですか？

谷川 ホントはいらないんだよね。いまのＫ—１に必要なのはバリバリに強いヤツ。そういうヤツが16カ所で予選を勝ち抜いてできるのが一番いいんだけど……。

——なるほど。いまそれに一番近いのはＵＦＣなんですかね。スポーツとしてのダイナミズムがあるというか。

谷川 ……ＵＦＣ？ あまり思わないけどなあ。それに、アメリカがやることは所詮アメリカのローカルだからね。

——あ、ＵＦＣはローカルだ、と（笑）。

谷川 そうですよ。だって、たとえばカリフォルニア州だけで日本ぐらいあるじゃない。それに、いわゆるロスっていわれている地域だけで関東平野ぐらいあるんだよね。だからそこの中で物語が完結しちゃうんだよ。つまり、アメリカ人にとってはアメリカでチャンピオンを決めるのが一番おもしろいんだよね。だからＵＦＣに関してはなんとなく〝世界〟みたいに見えるかもしれないけど、所詮ローカルです。

——世界かローカルかはともかく、スポーツとしてみれば健全なおもしろさがあると思うんですね。Ｋ—１って功労者とはいえバンナや武蔵がトップ扱いで出てるじゃないですか。Ｋ—１は世代交代に失敗したというのはありますか？

谷川 まったくない。去年のＧＰだってベスト８に残ってるのは新顔の選手が多かったからね。そういうイメージがあるのは、若い選手が優勝してないからですよ。バダ・ハリもチャンピオンになったらぜんぜん変わってくるもんね。世代交代には失敗してないけど、優勝してないからだろうね。スポーツって何を見てるかというと世代交代しか見てないんだよね。

——幻想が崩れる瞬間と生まれる瞬間ですね。でも、日本人選手ってそういう勝負を受けて立たないことが多いですよね。

谷川 うーん、そこはまだ〝悪いプロレス〟を引きずってるんだろうね。ボクら主催者も選手を長く活かすことを考えるから、そこに〝人工の手〟が入っちゃうんだろうね。ただ立ち技ではあまりそんなことはないよ。

——ちなみにボクは競技志向な人間じゃあないですが、Ｋ—１にスポーツのダイナミズムを感じなかったりするのは、〝人工の手〟が入ってるように見えるからなんですよね。魔裟斗選手が凄いのはわかるけど、「これってどうなんだろう？」と思えることがホントに多すぎるというか。

谷川 そんなことないけどなあ。でも、またマット界の図式もガラッと変わると思うよ。それはなぜかというと、やっぱりメディアも変わっていくから。

——ＰＰＶの時代はそう長くは続かない、と。

谷川 続かないというか、ＵＦＣもＰＰＶで成功してるけど、海外で成功しないのはＰＰＶ文化が海外でないからだもんね。だから、やっぱり活字が全盛のときは「活字プロレス」になるしさ、映像だったら「ゴールデンタイム格闘技」になるし、これからは『ＹｏｕＴｕｂｅ』格闘技になる可能性だってあるよ。だからターザン山本！さんなんかがいた頃の時代というのは、プロレス界全体が活字によって幻想を生み出していた時代だったけど、いまはもうＤＶＤもなくなるような時代だからね。

——3年前の成功法を当てはめるのはナンセンスですもんね。

谷川 うん。だから、そこで一番よくないのは昔話をしちゃうことですよ。ボクなんて活字プロレスがいい時代というのはさんざん味わった人間なんだよ。かつては『格闘技通信』の告知でＫ—１のチケットが４０００枚も売れてたんだからねえ。

——４０００枚も！

谷川 でも「格闘技はこうあるべきだ！」というのをその時代をベースに語ったら終わりだし、そんな栄光はすぐ忘れたほうがいい。それに「新聞に記事が載ってないけど、大丈夫？」とか「視聴率、大丈夫ですか？」とか聞く人もいるけど、もうそういう時代じゃないし、いまって記者会見すら毎回やる必要ないからね。だからいまはいまのやり方があるんだよ。メディアもそうだし。だから重要なのは過去を語るんじゃなくて次を考えることですよね。

——過去は振り返るな、と。

谷川 そうです。俗世間の細かいことに惑わされず、前に進むことが大切だと私はつくづく思います！

——じゃあ借金を気にせずハッスルしてください！

谷川 んあ～！

【09年9月4日／都内・ＦＥＧにて収録】

©Josh Hedges/UFC



「UFCはアメリカのローカルだよお!」と熱弁するサダハルンバ。確かにそういう一面はあるが、UFCのスケールのデカさにはローカル感を感じさせない勢いがある。

——さあ、今回も『UFC102』を中心に、UFCのご意見番二人に解説していただきたいと思います。
ガンツ さあ、唯一景気がいいページが始まりましたねえ！
松林 ……それが、あんまり景気がいいとは言えないんだよ。UFCのPPV契約数のように『kamipro』の部数もドカーンと伸びてほしいんだけど、そうはならないんだよなあ。
ガンツ あ、打っても響かないですか（笑）。
松林 これは日本でUFCを観ている人がまだまだ少ないということだから、俺は残念でしょうがないよ！
ガンツ みんなもっとWOWOWを観ましょう、と（笑）。毎月たったの2100円（アナログの場合。デジタルは月々2415円）なんですけどねえ。
——たったの2100円！ これは観ないと！（しらじらしく）。
松林 うっかり見逃しても再放送もあるしさあ、それに10月からはいよいよ『TUF』まで始まるんだからね。
ガンツ 我が家のテレビは42型だし、松林さんの家は50型だからね。WOWOWのハイビジョン中継で観ると迫力あって最高だよ！ ただ悲しいかな、テレビからいまいち臨場感が伝わってこない。あれは音の問題ですよね。
松林 そう！ 惜しいことにWOWOWの中継では会場の音が抑えられてて、日本で実況・解説をかぶせて放送しているからね。
ガンツ 本当なら今回のランディvsノゲイラの試合なんて、異常なくらいの大歓声が起こってるんだよ。その大歓声の中で、現地の実況は声を張り上げて「ワァオッ！ ワァオッ!!」って言ってるのに、WOWOWだと一番盛り上がってるところで「ノゲイラはアンデウソンとも練習してますからね」という、いつでもいいよ！ って解説なんだもん（笑）。
——あ、解説の稲垣さん批判（笑）。
ガンツ べつにそうじゃないけど（笑）。アメリカンな番組なんだから、もっと実況席も盛り上がろうよ！
松林 どうせなら副音声を活用してほしいよね。これはWOWOWの方、ぜひお願いします！
ガンツ 現地の〝生音〟をガンガン使ってくれって！
——そのおいに盛り上がったノゲイラvsランディはいかがでした？
ガンツ UFCのオクタゴンでやってるんだけど、PRIDEみたいな試合だったね。競技を超えた部分で、男っぷりを競ってるというか。それを46歳がやってるのがまた凄いんだけどね。アラフォーじゃなくてアラフィフなんだから！
松林 しかも今回ランディは2回倒されたのに、倒れてもフィニッシュにまでいかせなかったもんなあ。
ガンツ レフェリーストップにさせない技術が長けてますよね。パウンドを打たれてるときも、ランディはずっとノゲイラの目を見て「対抗してますよ」というのをアピールしてるんですよね。
——今回はノゲイラも調子がよかったんですよね？
ガンツ ま、ノゲイラはUFCに来てからずっと動きが悪くて、打たれ弱いのが目立ってたけど、今回はもうバッキバキに仕上げてきてたから、身体を見ただけでも調子のよさがよくわかりましたよ。顔を見ても気合いの入り具合がわかるし。
松林 俺さ、大会前の前日計量後にやったプレスカンファレンスの映像をチェックしたんだよね、UFCのオフィシャルサイトで。
——そんなのがあるんですか（笑）。
松林 それ観たときにビックリしたんだけど、記者の質問に答えるノゲイラの顔がもうくたびれたチンパンジーみたいな顔になってたから「大丈夫なのか……!?」って思わずガンツに電話したんだよ。
ガンツ ま、もともとそういう顔なんですけどね（笑）。だから、「ただの寝坊じゃないんですか？」って。
——顔といえば、ヴァンダレイが整形したらしいですね。
松林 そうそう、目のあたりを整形してるみたいで、ヴァンダレイ特有

俺は家に帰って UFCを飲むぞ！

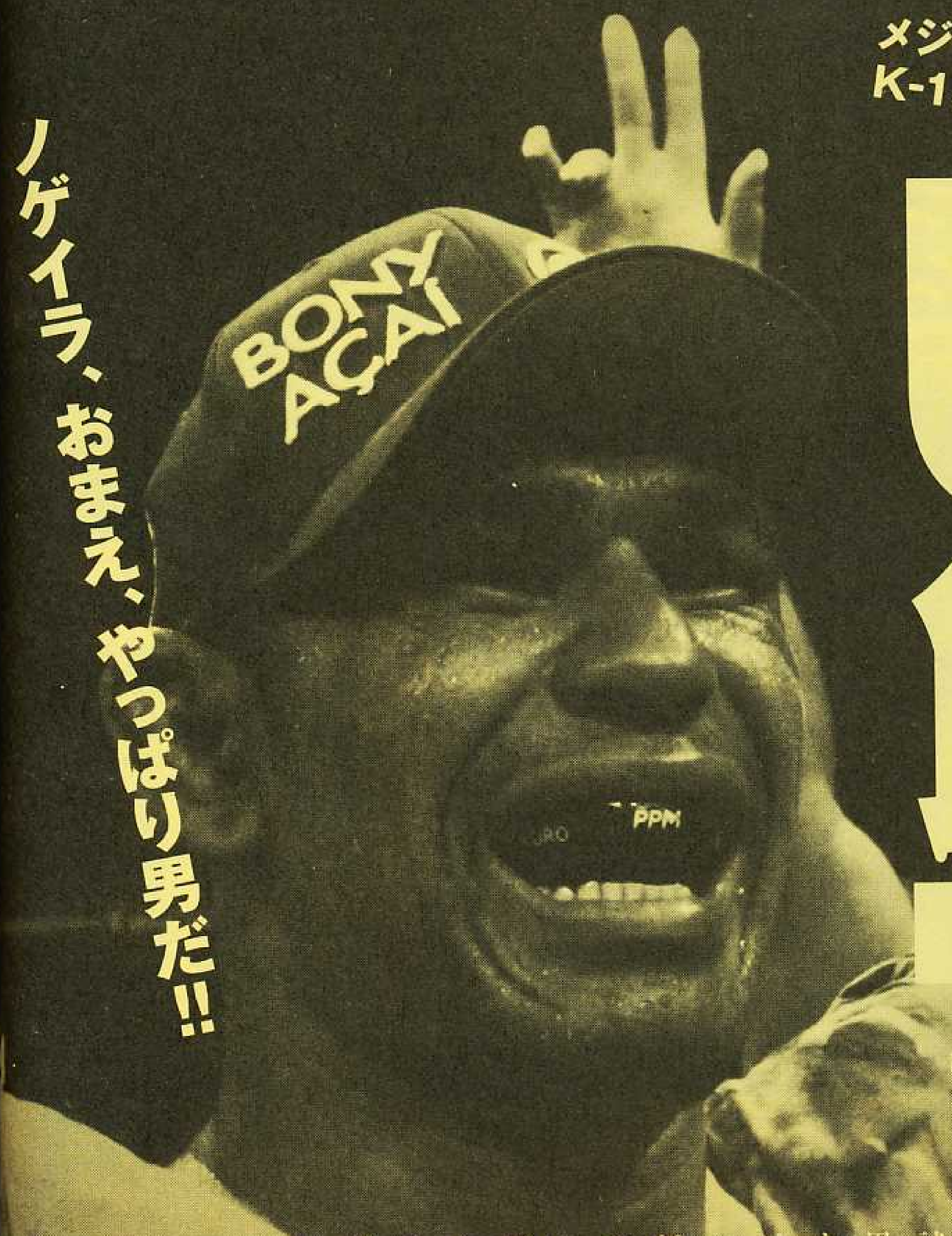
メジャースポーツの K-1なんて誰が飲むか！

ノゲイラ、おまえ、やっぱり男だ!!

座談会 8.29「UFC102」編

UFC座談会第3弾! 今回はノゲイラvsランディという大一番が行なわれた8.29『UFC102』についてのトーク。かつてのPRIDEを思わせるその名勝負に、二人の“UFC狂”はまたもやボルテージ全開ダー!

聞き手／ジャン斉藤　写真／Josh Hedges(UFC)



座談会出席者



堀江ガンツ
本誌・編集部員。変態座談会主宰者であり、その変態道は海を渡ってUFCにまで通じている。隣はいまだにジャイアン節が止まらないダナ様とのツーショット。



松林 貴
うまいものとおもしろいものがある場所には、ぶらりと現われる本誌・編集次長。写真はそのうまいものにつられて足を運んだカリスマちゃんこ料理人・浜亮太との一枚。

の野性味が薄れているんだよ（笑）。
——だから、ノゲイラもヴァンダレイの顔もそうだけど、PRIDEの
んだ？」って聞かれて、「ファンの望むものをやっていく」という。これが、凄いよねえ。まだスーパーマッ
再戦を観たいとは思わない。
——やっぱりトータル的にズバ抜けてないとダメなんですねえ。
前の自分に「3年後にはノゲイラがレスナーに壊されるんだ！」とか言ったら石投げられますよ（笑）。
る相手ですからね……。
——PRIDEが買収されたのが2年前くらいですけど、なんか格闘技

レスナー戦では柔術家の本領発揮である〝怪物退治〟が見られるかも

の野性味が薄れているんだよ（笑）。

――だから、ノゲイラもヴァンダレイの顔もそうだけど、PRIDEのときに抱いてたイメージで見たらもうダメなのかなって。

ガンツ　いやいや、やっぱりノゲイラはノゲイラだよ。ノゲイラやヴァンダレイの試合って、UFCでやってるのに「PRIDEの試合だな」って感じはするんだよね。今回だって、二人とも攻めることしかしないから、ホント「男だ！」っていう。ノゲイラのスイープとかも感動的だったじゃないですか。

松林　「クルッ」とね！（笑）。

ガンツ　あんなの観られないでしょ！　あの最高のバランス感覚を持つランディが上から抑え込んでて、自分が一番安全なポジションからヒジを入れまくってたじゃないですか。「もうヤバい！　切れちゃう!!」と思ったら、「クルッ」ですよ。この芸当の凄さ！　普段はあんなノンキな男なのにやっぱり凄いなあって。

松林　それに、試合後の「俺はランディみたいな偉大な選手と闘えて幸せだ」というマイクまで含めて最高だったよなあ。

ガンツ　また、負けたランディのさわやかな顔もいいんですよ。UFCは敗者にもオクタゴンの中でインタビューするんですけど、そのときにランディは「このあとはライトヘビー級とヘビーとどっちで闘っていくんだ？」って聞かれて、「ファンの望むものをやっていく」という。これが、凄いよねえ。まだスーパーマッチが観れるのか！　って。

――今回のノゲイラの勝利によって、次はレスナーに挑戦することになるんですよね？

松林　いや、レスナーは11月の『UFC106』でショーン・カーウィンとの対戦が決定したんでしょ？

ガンツ　そうですね。レスナーはカーウィンといういまだ無敗の選手と闘うから、おそらくノゲイラはレスナー戦の前にもう一試合挟むでしょう。それがミルコ。……というか、ミルコがドス・サントスに勝ったらという条件つきなんだけど。

松林　これがまた難関なんだけどね（苦笑）。あとは今回でいうと、デミアン・マイアvsネイサン・マーコートもとんでもなかったね。もう、ワンパンチで秒殺なんだもん。

ガンツ　デミアンって、UFCでは5連勝で5連続一本勝ちだったんですよ。そんな相手を秒殺しちゃうんですからね。ただ残念なのは、チャンピオンがアレなんで、もう再戦が観たいとは思わねえなって。

松林　アンデウソン・シウバと同じ時期に生まれなかったらよかったのにねえ……。

ガンツ　そんな選手ばっかりだもんね。ジョン・フィッチも同じで、この先どんだけ勝ち続けてもGSPとの再戦を観たいとは思わない。

――やっぱりトータル的にズバ抜けてないとダメなんですねえ。

ガンツ　でも、ノゲイラの試合で嬉しいのは、セオリーが決まってるような場面、たとえばテイクダウンを奪ったあとにパウンドじゃなくてスピニングチョークにいくってところなんだよ。そんな人いねえよ！　っていう。

松林　こうなると、やっぱりレスナーvsノゲイラは観たいよね。『Dynamite!』でのノゲイラvsボブ・サップ戦のような感動のシーンが再び観られるかもしれない！

ガンツ　あれこそノゲイラの魅力でしょ。いわゆる柔術家の本領発揮である〝怪物退治〟というか。その怪物退治ができる柔術家ってノゲイラくらいしかいないですからね。

松林　あのレスナーのフィジカルに対してノゲイラがどう凌いでいくのかっていうのは観たい画だよなあ。

ガンツ　でも、メチャクチャにされる可能性もありますよ。それに、レスナーと闘うことは勝つ負けるじゃなくて、単純に怖いと思うけどね。本当に壊されるんじゃないかって。

――ああ、でも3年前だったらこんな話をしてないですよねえ。たぶん3年前の自分に「3年後にはノゲイラがレスナーに壊されるんだ！」とか言ったら石投げられますよ（笑）。

ガンツ　プロレスの見すぎだって言われそうだよね（笑）。

――で、9月19日には次回大会『UFC103』がありますけど、その目玉はなんでしょう？

松林　ビクトー・ベウフォートが4年半ぶりのUFC復帰で、そのビクトーvsリッチ・フランクリンがメイン。いいカードだよなあ。

ガンツ　ビクトーは日本で思われてるよりも有名ですからね。日本ではあまり活躍できなかったけど、ここにきてまた復活してきてますし。

松林　で、セミがミルコvsジュニオール・ドス・サントス、……どうなるんだろうねえ。

ガンツ　ドス・サントスはミルコが苦手とする、若くて体力と勢いがある相手ですからね……。

――PRIDEが買収されたのが2年前くらいですけど、なんか格闘技界のスピードは速いですね。当時の幻想を保ってるのはもはやヒョードルぐらいだな。

ガンツ　逆に言ったらあの人たちって10年前ぐらいからずっとトップでやってて、いまだにこの位置にいるというのが異常すぎるんだよ。だってノゲイラなんてKOKで優勝したのが99年だよ。そっからずっとトップでしょ？　ミルコだってK－1で準優勝したのが99年で、ヒョードルもリングスでデビューしたのが00年で、そっからずっと無敗なんだもん。やっぱりとんでもないタマだよ。

――ここは決してWOWOWの広告ページじゃないですけど、まだまだUFCからは目が離せないですね。

ガンツ　じつはそのWOWOWを見終わる頃に、浅草キッドの玉ちゃんからメールが来たんですよ。「ノゲイラvsランディ、おもしろすぎるだろ！　日本でやれよ～！」って。

――玉ちゃんもWOWOWに入ってるんですか！

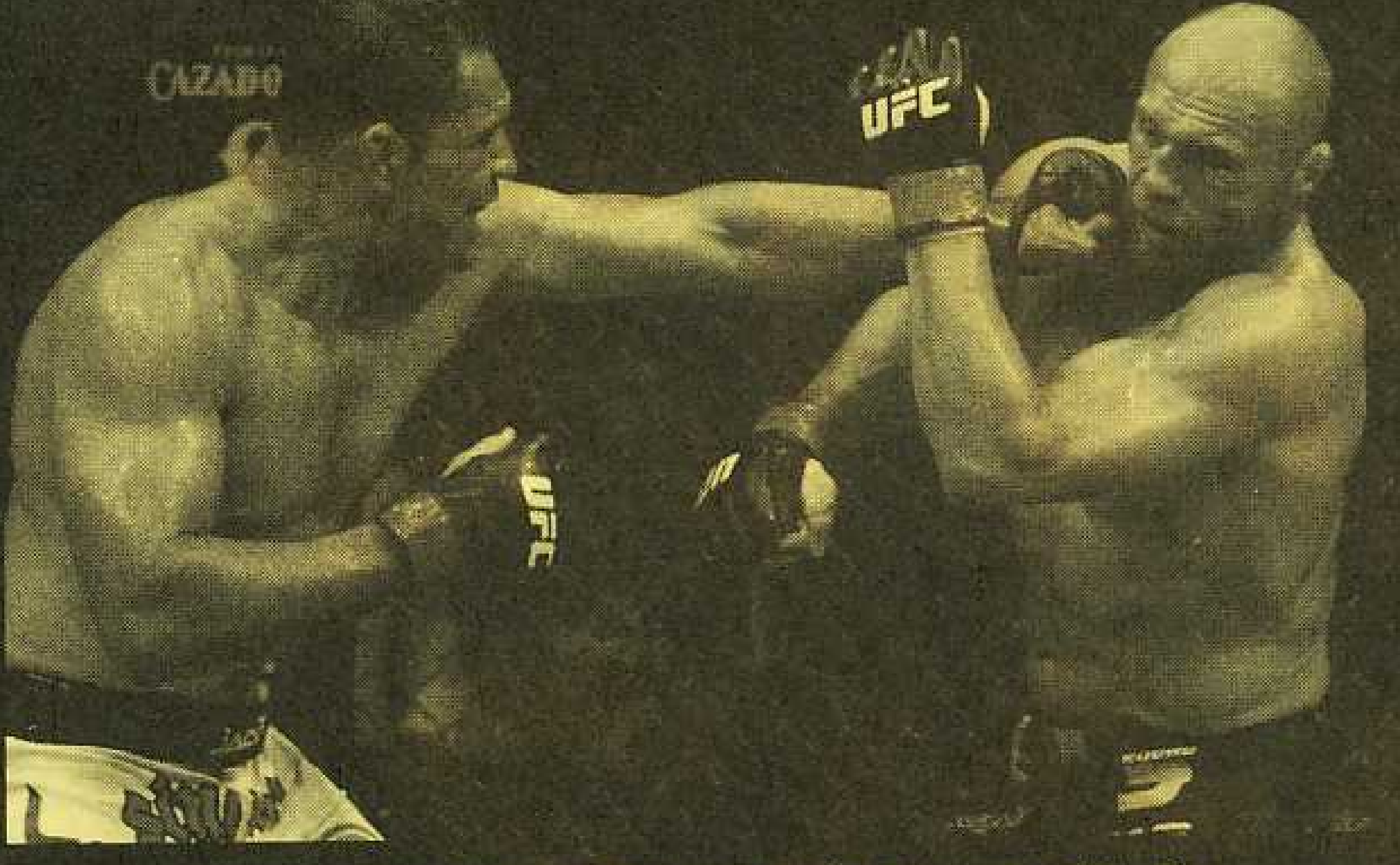
ガンツ　そして「あの国立競技場の夏はもうはるか遠く、俺はもうあの地べたに落ちたセミの死骸みたいなってたけど、まだまだ俺は土に還らない。ミンミン鳴き続けるよ！」って書いてありました（笑）。

――ワハハハハ！

松林　やっぱファンとしての姿勢が美しいなあ、玉ちゃんは。

――では、我々も力を振り絞ってミンミンと鳴き続けましょう！

【09年9月3日／都内・エンターブレインにて収録】



［09.8.29『UFC102』］米国オレゴン州ポートランド・ローズガーデン
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ランディ・クートゥアー×
（3R終了 判定3-0）

UFCとPRIDEのレジェンド対決は、「男だ!」と親指を立てたくなる名勝負に。ノゲイラの右ストレートでランディが倒れるが、ランディはこれを凌ぐ、ランディが上になればノゲイラがスイープという一時も目を話せない展開に。最後は判定勝利でノゲイラ完全復活達成!

——今日はアメリカから見た日本のマッ
ト界についてうかがいたいんですが、ズバ

それは仕方がないですよねえ。
——実際、ファイトマネーには差があるん

えてますよね。たとえば、カードがなかな
か出ないとか……。

感覚で、たとえばカジノや大会場でやる
となると、2ヵ月前にはチケットを刷ら

UFC日本侵略のウワサは本当か?



©Josh Hedges（UFC）

日本はアメリカにどう見られているのか?



アメリカ在住スポーツマネージャー
シュウ・ヒラタ

毎大会、超スーパーカードが組まれるUFC。その本拠地であるアメリカの選手、関係者はいったい日本格闘技界をどう見ているのか? 今回もアメリカ在住のシュウ・ヒラタ氏にアメリカと日本の現状を語ってもらった。はたして日本格闘技界の生きる道とは!?

聞き手／ジャン斉藤　写真／乾晋也　平工幸雄

——今日はアメリカから見た日本のマット界についてうかがいたいんですが、ズバリ、いま日本のマーケットってアメリカからどう見られてるんでしょう？

ヒラタ 正直、そんなに悪くはないと思いますよ。やっぱり5～6年前はPRIDEがありましたんで、日本のリングに上がることがファイターの夢でしたよね。でも、いまはテーブルがひっくり返ったという感じで、やっぱり成功するならUFCだという気持ちでやってる選手がほとんどです。ただ、DREAMとか『戦極』に関しては選手も認識してますし、日本に行きたいという選手もまだまだたくさんいますよ。

——その動機はなんなんですか？

ヒラタ まあ選手も利口なんで、一つの階級に50人とか100人いるUFCで揉まれるよりは、とりあえず日本で経験を積もうという人はたくさんいるでしょうね。ただ、ステップアップというと、いかにもDREAMや『戦極』がマイナーリーグみたいに聞こえますけど、そうではないんですよ。たとえが適切かどうかわかりませんが、ニューヨーク・ヤンキースとシアトル・マリナーズの違いに似てますよね。ヤンキースのほうがスポットライトはあたるからという、そのくらいの違いだと思いますよ。

——それでも日本で闘いたいというファイターはいるんですね。

ヒラタ たくさんいます。たとえば『TUF』のシーズン1に出た選手なんかはそろそろUFCとの契約が切れますし、負けてリリースされてる選手もいますけど、そういう選手は十中八九、次に目指すのは日本だと思いますね。一時期に比べるとギャラが下がったというのは言われますけど、それは仕方がないですよねぇ。

——実際、ファイトマネーには差があるんですか？

ヒラタ いや、たとえばUFC初参戦の選手ってファイトマネー3000ドル、勝利者賞3000ドルぐらいじゃないですか。それって日本とあまり変わらないでしょ？ 成功したときのジャンプはUFCのほうが大きくなるとは思うんですけど、スタート地点は変わらないですし、DREAMも『戦極』もグランプリをやる場合は優勝賞金があるんで、そこを目指せるという点でも悪くはないですよ。

——でも、日本の団体はけっこう問題を抱えてますよね。たとえば、カードがなかなか出ないとか……。



カード発表が遅いことを逆手に取り、郷野に焦点を絞って練習しまくったというダン・ホーンバックル。そういう推測も含めての闘いになると、逆に日本のイベントで不利なのは日本人のほうかもしれない。

ヒラタ それはありますねぇ（苦笑）。でも、日本は3ヵ月前とか4ヵ月前に決めてくれる流れじゃないというのはみんなもう納得してますから。たとえばボクのクライアントでも文句を言ってきたりしますけど、ボクが最後に言うのは「ミルコの相手でも1週間前にしか出ないんだぞ！」って（笑）。

——ワハハハハ！ じゃあジャパニーズ・スタイルというのもちゃんと理解されてるんですね。

ヒラタ 本当はイヤなんですけどね。スポーツとしては2ヵ月前に決めてもらって思うように練習させてあげたいですよ。

——アメリカの場合はかなり早いですよね。それってPPVの告知があるからですか？

ヒラタ PPVもありますけど、それよりもコミッションに話を通さないといけないからですよね。そのときに全カード出す必要はないんですけど、メインのカードは出さないとダメなんですよ。で、そうなるとマスコミにはどうしても漏れちゃうじゃないですか。そのときに選手にちゃんと話してないと問題になりますんで、もちろん選手にも話を通している状態なんですよね。

——それだと早く決まるはずですね。

ヒラタ だから、メインは3ヵ月以上前に出すんですよ。で、なぜ2ヵ月前というラインがあるかというと、これは興行の感覚で、たとえばカジノや大会場でやるとなると、2ヵ月前にはチケットを刷らないといけないとか、ポスターを貼ってどんどんマーケティングしないといけないとかそういったプレッシャーが凄くかかるんです。

——その点、日本はチケット先行発売が1ヵ月前にあるくらいですね。

ヒラタ だから日本の場合は、ボクはもう推測するんです。「おまえの相手はA、B、Cのどれかだから、この3人を想定して練習せい！」って。で、いまだから言えるんですけど、ダン・ホーンバックルの相手が郷野選手だということはボクは4ヵ月前に推測してたんですよ。

——そんなに前に！

ヒラタ じつはホーンバックルは『戦極〜第八陣〜』に出る予定だったんですけど、対戦相手の関係で出られなかったんですね。だから「次の大会でお願いします」って言ってたんです。そのときはもちろん『戦極』さんも対戦相手は教えてくれないし決まってないんですけど、でも考えたらウェルター級で日本人選手を連れてくるとなると、もう郷野選手しかいないんですよね。だから山かけてトレーナーと4ヵ月前からずっと郷野対策をしてたんですよ。だから1ヵ月半ぐらい前に「郷野選手でどうですか？」って打診がきたときに1秒で返事しましたもん（笑）。

——凄い！ でも、そうでもしないと選手のモチベーションも上げられないでしょうね。

『TUF』出身ファイターなんかはリリースされたら次に目指すのは日本

うふうに言ってますけどね。
ヒラタ　でもあたりまえの感覚ですよね。新しいものが参入するときに抵抗がある

ベガスじゃないですか。その裏庭でWECをやってるからどうしても食われちゃうんですよね。だから本当ならWECは

ヒラタ　うーん、やっぱり一般的な認識はありますよね。アイスホッケーなんかと同じように、レギュラーで観ている人は多

うのもアリなのかなと思うんですけどね。
ヒラタ　あ、でもDREAMさんでは金網

ヒラタ　そうなんです。やっぱりボクとしては選手に少しでも情報をあげて、練習に打ち込んでほしいじゃないですか。1週間前まで相手がわからないのにもモチベーション上げるのってキツいんですよ。だから日本でやるときは「前日に抽選で相手が決まるトーナメントに出るつもりで行け！」って言ってますね。
――そんな覚悟が必要ですか（笑）。そんな状況でも日本のリングに需要があるんですね。



UFCライト級のトップで闘うケニー・フロリアンやジョー・スティーブンソン。BJペンは別格だが、このあたりを日本の興行に呼び寄せると日本が誇るライト級も厚みと説得力が生まれるはずだ。

ヒラタ　日本はちゃんと興行をやってますし、アフリクションや韓国のFMCみたいに突然大会がなくなるなんてことはないですから。で、DREAMも『戦極』も『HDnet』でライブでやるようになりましたし、UFCやWEC、ストライクフォースの次はみんな『HDnet』でやってる大会を観てるわけなんですけど、その中ではDREAM、『戦極』を観てる人が一番多いと思いますよ。やっぱりトップの選手が出てますし、評価はまだまだ高いですよね。
――ほかに日本の興行に何か問題点ってありますか？
ヒラタ　うーん、これは素敵なことなんですけど、控室には弁当や飲み物が置いてあって素晴らしい待遇じゃないですか。こんだけ気を使ってくれる団体って凄いと思うんですけど、ボクは食べ物が置いてあるのはちょっとおかしいかなあと思うんですよね。というのは、そこに混ぜてへんなもん食べさせることもできるわけですからね。だからインチキする選手はラッキーと思うと思うんですけど、一緒にくっついていく人間にとっては嬉しい気遣いですから首はかしげますけど、絶対に変えろとは思わないです（笑）。

日本の興行で変えてほしいと思うのはやっぱりステロイドテストですかね

――ハハハハ。よく日本はいたれりつくせりだというのは聞きますもんね。
ヒラタ　だけど、変えてほしいなと思うのはやっぱりステロイドテストですかね。
――現実問題、できると思いますか？
ヒラタ　莫大なお金が必要だと思いますけど、できないことはないと思いますよ。だって、一番つらいのはステロイドでビンビンの外国人選手に日本人選手がボコボコにされることですよ。そういう試合をいっぱい観てきましたからねぇ。日本人はぜんぜん使ってないじゃないですか。「日本の興行なのになんで甘くするの？」というのは思いますよね。
――あまり気分はよくないですよね。
ヒラタ　外国人だってちゃんと言えば言うこと聞きますよ。ただやっぱり日本はテストをやってないという印象がありますからね。
――話は変わりますが、UFCの日本進出というのはどのくらい信憑性があるんでしょう？
ヒラタ　うーん……。このあいだWECの会場に行ったらスタッフはその話でもちきりでしたけどね。でも「会場決まってるの？」って聞いたら「NO」だったんで、ムリだろうなって。でも興味はあるみたいですよ。
――なかなかMMAでビジネスが成り立つ国はないですから、可能性のある日本には注目するでしょうね。
ヒラタ　それに、昔からPRIDEをやってた基盤がありますからね。まだ日本にファンのベースがあると踏んでるんでしょう。PRIDEのときにあれだけ人が集まって燃えたわけだから、なんかやれば集まるし求心力はあると思ってますよね。あとはテレビ局もお金につながるコンテンツだと認識してるというのもあるんでしょうね。そういう国ってなかなかないですもんね。
――でも、UFCがヨーロッパ進出のやり方をそのまま日本に持ち込むのは難しいと思うんですけど。
ヒラタ　難しいでしょう。イギリスでは50人ぐらい雇ってズッファの支店を作ってますけど、それはできないですよね。
――日本興行を打つとしたら、どういうのがベストだと思いますか？
ヒラタ　ボクは興行師じゃないんでわからないですけど、少なくとも日本には日本のルールがあるんで、やっぱり現地のプロモーターと組まないと難しいんじゃないですか？
――たとえばの話、DREAMと一緒にイベントをやるとか。
ヒラタ　理想はそうなんですけど、彼らはやらないでしょう。過去に揉めた団体同士ですからね。だから唯一現実的なのは、WOWOWを巻き込んでやることじゃないんですかね。そこがしっかりやれば興行ぐらい打てるのかなって。まあ、それ以外に理由があるとすればよくわからないですけど……。
――ダナ・ホワイトは〝邪魔をする〟とい

オクタゴンの商標は無効ですよねえ それってMMAが広がらない理由の一つ

うふうに言ってますけどね。

ヒラタ でもあたりまえの感覚ですよね。新しいものが参入するときに抵抗があるのは当然じゃないですか。

——そういうダナの妨害もけっこう凄いですし（笑）。

ヒラタ だからUFCはもうちょっと市場を理解しないと難しいです。そこはアメリカ人のいけないところですよね。だって、英語はみんなしゃべれるもんだと思ってますから。UFCのホームページでも日本語版ができましたけど、クレジットカードの決済ページは全部英語なんですよ。これは絶対に買わないですし、凄く横柄ですよ。

——もう一つ、アメリカ国内ではWECがUFCに吸収されるんじゃないかという話があるようなんですが。

ヒラタ どうなんでしょうねえ。最近そのディレクTVの中のWECを放送しているバーサスというチャンネルがなくなったんですよ。だから凄く普及率が悪くなったんで、別のチャンネルに変えるのかなと思ってボクは見てますけどね。ただ現状はウェルター級もUFCに吸い取られましたし、そろそろライト級もかなとは思われますね。

——それはWECがあまりうまくいってないからですか?

ヒラタ たぶん彼らの狙いだとWECとUFCをうまく対抗させていって、いつか対戦させることを考えてたと思うんですけど、いかんせんUFCって本拠地がラスベガスじゃないですか。その裏庭でWECをやってるからどうしても食われちゃうんですよね。だから本当ならWECはベガスを無視して、海外でやってたほうがよかったのかもしれないですよ。でも選手にとっては吸収されたほうがいいんじゃないですか? ボーナスだってWECのボーナスは1万ドルなのに、UFCでは10万ドルですから。

——じゃあ、格闘技というよりも、UFCがブームなだけなんですか?


c Josh Hedges（UFC）

オクタゴンの商標を取るなど、MMAを独り占めにしようとするダナ・ホワイト。ヒラタ氏からは厳しい指摘もあるが、ぶっちゃけ儲かってるUFCの一人勝ち感はまだまだ続くのか……。

ヒラタ うーん、やっぱり一般的な認識はありますよね。アイスホッケーなんかと同じように、レギュラーで観ている人は多いと思います。やっぱりUFCの隆盛って『TUF』がきっかけだったと思うんですけど、最近は正直ちょっと廃れてきた感はあったんですよね。だけど、今度のキンボ・スライスの出演が話題になってるので、また持ち直すと思いますね。

——日本の興行が巻き返すにはアメリカがコケないかぎり難しいんじゃないかなって気がするんですけど（苦笑）。

ヒラタ ハハハ。まあ、でもボクは日本人チャンピオンが出れば変わってくるんじゃないかと思うんですよ。たとえばイチローみたいな選手が出てきてバッタバッタと外国人選手を倒すような選手がいれば、これはけっこう燃えるじゃないですか。だから、青木選手なんかはランキングによっては1位なわけですから、どんどん倒していって、「おまえら、勝てないからUFCでやってるんだろ?」みたいになったらいいですよね。

——つまり、UFCには上がらない世界最強のヒョードルみたいな存在を作る感じですね。

ヒラタ そうそう。そのときにDREAMさんは頑張っていい選手を捕まえることが大事ですよ。契約いかんではケニー・フロリアンやジョー・スティーブンソンとか、いまのうちから口説いていれば、契約を取るのは難しくないと思いますよ。ただ、怖いのは負けたら終わりということなんですけどねえ。でも、青木選手や川尻選手、フェザーだったら日沖選手なんかは充分にそれはできると思います。

——あと刺激があるとすれば、カードを工夫するというほかに、ルールを変えるというのもアリなのかなと思うんですけどね。

ヒラタ あ、でもDREAMさんでは金網をやるんですよね? あれってオクタゴンですか?

——いや、ヘキサゴン（六角形）みたいです。なんかオクタゴンでやるとUFCに訴えられるという話も耳にしますし……。

ヒラタ でもケージフォースはオクタゴンですけどね。

——あ、そうですね。

ヒラタ ボク思うんですけど、あの法律は日本では無効ですよね（苦笑）。だってオクタゴンで商標を取るなんておかしいですもん。そんなの球場のダイヤモンドで商標取るのと一緒じゃないですか。そんなことスポーツであっちゃいけないですよ。だからボクが思うに、MMAがいまいち広がっていかない理由っていっぱいあるんですよ。商標の件もそうだし、どのスポーツにそんなのがありえるんですか? って言いたいなって。

——野球はいいけど、バットは商標があるから使えません! とか、ありえないですもんね（笑）。

ヒラタ ダナは自分がMMAを作ったと言ってますけど、それはありえないですよ。どう考えたってアンタの前にやってる人いっぱいいるよ! って（笑）。だからおそらくシルク・ドゥ・ソレイユの舞台の商標を取るのと同じ感覚で取ってるんでしょうね。

——まあ、しばらくはダナ様の猛威は止まらないんでしょうけど（笑）。

ヒラタ なんとか頑張ってほしいですね。日本の格闘技界にも頑張ってもらわないともの足りないですからね。

【09年9月8日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

第46回

TUF放送決定が嬉しい

花くまゆうさく

豆リングの汁



今成選手のDEEPベルト防衛戦、上になったらおもいっきし蹴り上げる、あの殺意ある蹴りよかったね。試合に締まりを与えるし、戦術的にもいいと思った。

寝てガードしてる相手に足一本差し出すと、その足をヒールなど足関で絡まれる危険あるけど、そうなったら十段には好都合だもんね。足の取り合い上等な人は、上になったらバシバシ蹴っていけばいいのかも。足の取り合い上等な人は、世界で数少ないだろうけど。

UFCの『TUF』がやっとWOWOWで放送嬉しい。欲言えば、キンボが参加する新シーズンからやってほしかったけど。過去シーズンもどんどん放送してUFC盛り上げて、UFCつまらないとネガティブキャンペーンしてる人たちを少し慌てさせたいね。

そのUFC、リョートの飲尿もショッキングだけど、デミアン・マイアKO負けがショック！　残念!!　アブダビで本領発揮してほしい。



Hanakuma Yusaku
◎ジェフ・グローバーのDVDおもしろい。

いや～、今月は何を書こうかな。いまケータイサイト『kamipro MOVE』でも毎日コラムを書いて、いつもネタ探しに四苦八苦してるからさ、ただでさえネタがないのにケータイと雑誌の両方は大変だよ（笑）。

いまは10月10日のDEEP後楽園大会で試合をするために、ひたすら練習するだけの毎日だからね。じゃあ今月は練習についてちょっと書いてみようかな。

試合に向けての練習は、まず早い時期にウエートトレーニングで身体を作ることから始めるんだよね。それからしばらくしたら日体大レスリング部に行って、レスリングの練習をしながら体力をつけて、最後にTKのジム『A-SQUARE』で、実戦スパーリングをする感じ。

『A-SQUARE』では、打撃だけ、寝技だけじゃなくて、常にグローブを着けて実戦練習をするから、試合に向けての練習には最適なんだよ。やっぱり寝技だけやってても、グラウンドに持ち込めなきゃしょうがないし、打撃で崩したり、総合的に練習することが重要だからね。

その『A-SQUARE』では菊野克紀くんとも一緒に練習してるんだけど、素晴らしい青年だね。彼は薩摩の田舎もんだからさ、キャッチフレーズも「『薩摩の荒法師』とか、そういうのにすればいいのに」って言ったんだけど、「僕はヒーローになりたいんで、もっと広く興味を持ってもらえる呼び名がいいです」とか言ってね。その「ヒーローになりたい」っていうのも、べつに目立ちたいとかちやほやされたいとかじゃなくて「自分がヒーローになることで、いろいろと社会貢献をして、少しでも世界平和に役立ちたい」っていう思いからなんだって。

最初に聞いたときは「ホントかよ!?」って思ったんだけど、周りの奴らに聞いたら、彼は昔からずっとそういうことを言ってて、そこだけはブレてないんだって。入場テーマ曲を『ウィーアー・ザ・ワールド』にしているのも、世界平和を願う思いからだっていうんだよ。

世界平和のためにヒーローになりたいって凄いよね。俺なんて「いい車乗って、いい家に住んで、うまいもん食って、いい女連れて」とか、ヨコシマな考えで、これまで20年近くプロとして練習頑張ってきたのに（笑）。

まあ、俺だって社会貢献はしたいけど、彼ほどは思ってないよ。菊野くんは、まだファイトマネーだってそれほど稼いでないはずなのに、毎月、ユニセフを通じて募金活動をしているらしいしね。そんな青年が格闘技界にいるとは、驚いたよ。

菊野くんは目標がしっかりしてるから、練習もちゃんとやってるし、彼は打撃のイメージが強いけど、寝技も強いからね。あと、やっぱり三日月蹴りは凄いよ。俺も何度か悶絶させられてるから。いつも練習してるとタイミングもわかってくるから、なかなか食らわないものなんだけど、それでもたまにおもいきり入れられたりするからね。

だから俺も「この蹴りは使えるな」と思って「菊野くん、俺も三日月蹴り使っていい？」って聞いて、練習で使ったりしてるんだけど「金原さん、それは三日月蹴りじゃなくて、前蹴りです。もっと回し蹴りの要領で蹴って突き刺してください」って、ダメだし食らっちゃったよ（笑）。やっぱり一朝一夕でできるもんじゃないね。

彼がこれからどこまで強くなるのか、練習仲間として楽しみだよ。そして、そういう青年と練習すると俺も刺激を受けるしね。

俺も10月にいい試合して勝てるように頑張るよ！



金ちゃんのどこまでやるの？

第38回　世界平和を願う菊野くんの巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

特集 ○○らしい!?

なんと!

マット界の気になるトピックを徹底チェック!!

「○○が凄いらしいよ」「△△がたいへんらしいよ」――
というわけで、今回はマット界の気になるウワサや注目トピックを探ってみる特集です。
ちなみに本誌・阿修羅チョロがとうとう入れ歯を入れるそうです。
その件に関しては特集しておりませんが、価格はなんと上下で2万円だそうです。

阿修羅チョロが入れ歯を入れるらしい!?



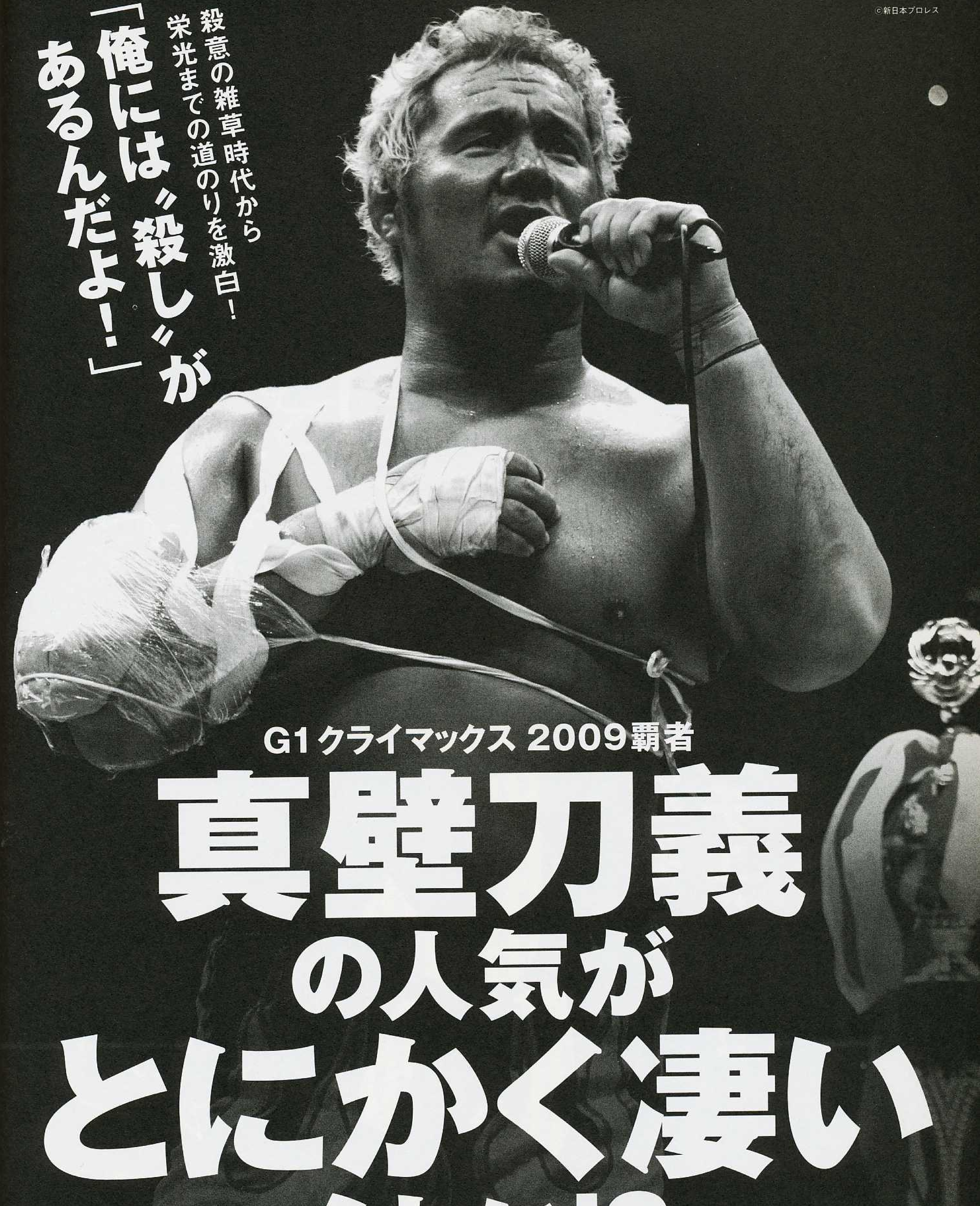
（真壁が少し時間に遅れて登場）
真壁　よぉ、待たせて悪いな！　しかし、『kamipro』が俺の取材

れからだよ、これから（ニヤリ）。
——けっこうお酒はイケるクチなんですか？

撮影してるんだけど、そのあとに俺、身体が硬直して動けなくなっちゃったんだよ。

ない！（キッパリ）。昔からアホみたいに食ってたわ。寮生の頃なんかは環境が閉鎖的だからストレスも溜

ブーイングを飛ばす客だけじゃなく、新日本の会社やレスラーにも闘いを挑んでたから。



殺意の雑草時代から
栄光までの道のりを激白！

「俺には〝殺し〟があるんだよ！」

G1クライマックス 2009覇者

真壁刀義の人気がとにかく凄いらしい!?

レスラー人生12年目にして、G1初制覇をはたした暴走コングの人気が止まらない！
不遇の若手時代、鳴かず飛ばずの中堅時代から一気にトップレスラーとして大躍進をはたした真壁。
学プロ出身の〝雑草〟がいかに現在の地位を築いたのか、その秘密を探る！　これが現実だ!!（真壁調）。

聞き手／鈴木佑

アパッチに左遷された俺を支えてくれたのが「刀義団」だった

（真壁が少し時間に遅れて登場）

真壁　よぉ、待たせて悪いな！　しかし、『kamipro』が俺の取材なんて初めてだよな。どういう風の吹き回しなんだよ？

――いやぁ、今回は「いま、プロレス界で真壁刀義の人気が凄いらしい」ということを聞きつけまして、どうやってそこまで上り詰めたのかお聞きしたいな、と。

真壁　おぉ、嬉しいじゃない。まぁ、なんでも聞いちゃってくれよ！（噛みタバコをクチャクチャさせながら）。

――G1覇者の貫禄タップリですねぇ（笑）。優勝後は取材殺到だったんじゃないですか？

真壁　まぁな。新聞や雑誌やら、何本やったかわかんねえくらいだよ。あとはスポンサー関係の挨拶回りもあったし、優勝してからこの一週間はろくに寝てねえな。

――三澤威トレーナーのブログには優勝祝いとして、クルーザーで豪遊する様子が載ってましたね。

真壁　ああ、あれね。俺さ、シークレットブーツの会社に宣伝キャラで使われてるみたいなんだけど、そこの社長が接待してくれたんだよ。

――プロレス関連のサイトでよく見かける広告ですね、「はくとモテる」っていう（笑）。

真壁　そうそう（笑）。でも、まだ豪遊らしい豪遊はそのくらいだな。これからだよ、これから（ニヤリ）。

――けっこうお酒はイケるクチなんですか？

真壁　いや、昔から自分からはそんなに飲むほうじゃねえな。正確には飲まされてた、だな。

――それは若手の頃に？

真壁　当時は先輩のいうことは絶対だからよ。いまでも覚えてるのがさ、一番ペーペーだった頃に道場近くの河川敷で、橋本（真也）さんとヤングライオンで花見をしたんだよ。そんときにテキーラをショットグラスじゃなく、サワーグラスになみなみ注いだやつを3杯も一気飲みさせられてな。

――うわ～、致死量に近いですね（笑）。

真壁　それを橋本さんがプライベートビデオで撮影してたんだけど、「おい、真壁、なんか言え！」って命令されて、俺も泥酔してわけわかんなくなってるから、その場にいない先輩の悪口をバンバン言っちゃってさ。「てめえ、○○！　いつかぶっ殺してやる！」とかな（笑）。

――日頃のうっぷんが爆発しましたか（笑）。

真壁　で、橋本さんはそれを喜んで撮影してるんだけど、そのあとに俺、身体が硬直して動けなくなっちゃったんだよ。

――え～、急性アルコール中毒とか？

真壁　まぁ、まだ意識はうっすらあったからよかったんだけど、全然身動きとれなくてさ。橋本さんに「おい、何しとるんや？　帰るぞ！」って言われても、こっちは返事すらできねえんだ。それで結局、その頃に道場で飼ってたイヌのワカに引きずられて寮まで帰ったんだけどな。

――ダハハハハ！　酒にまつわる話は新日の伝統ですよね（笑）。でも、酒飲みにもかかわらず真壁さんは大の甘党とも聞いたんですが？

真壁　そうそう、甘いモンには目がない！（キッパリ）。昔からアホみたいに食ってたわ。寮生の頃なんかは環境が閉鎖的だからストレスも溜まるわけだ。だからよけいに身体が甘いモンを欲するんだよ。よく自腹切って「おい井上（亘）、コンビニで甘いモン大量に買ってこい」って行かせてたよ。で、若い奴らに「は～い、これから甘いモノパーティを始めま～す！」って集合かけてさ（笑）。

――女の子みたいですね（笑）。

真壁　みんなもストレス溜まってるから食うんだよ。まぁ、ゴツい集団がシュークリームとかをむさぼる姿は、いま考えるとゾッとする光景だけどさ。

――確かに（笑）。あと、真壁さんの熱烈サポーターとして会場を沸かせてる「刀義団」のことも聞きたいんですけど、結成のきっかけは？

真壁　ちょうど俺がアパッチプロレスに出始めた頃に、俺の地元の相模原で知り合いの若い社長たちが「真壁くんを盛り上げていこう」ってことで集まってくれたんだよ。で、大井町の行きつけの居酒屋の大将も、「俺たちも真壁さんを応援しよう」って呼びかけてくれて支部もできたってわけ。でも、最初はたった4人だけだったんだよな。

――それが会場でノボリを立ててる「大井町刀義団」ですね。

真壁　もともとアパッチなんかに一人っきりで出てたときは、アウェーだからブーイングが凄いんだよ。その中で「刀義団」の野郎どもがバックアップしてくれてな。当時、俺は「この野郎、見てろよ！」って感じでブーイングを飛ばす客だけじゃなく、新日本の会社やレスラーにも闘いを挑んでたから。

――と、言いますと？

真壁　俺は新日からアパッチに派遣されてたのは左遷だと思ってたからさ。当時の俺はレスラーとして試合もパフォーマンスも全然しょっぱかった。それこそウンコチンチンだよ（笑）。だから、自分の価値を上げるのに必死になってたってわけだ。

――「刀義団」はその頃から支えてくれた、と。

真壁　「刀義団」のみんなは「俺たちはいいときに真壁さんと知り合った。真壁さんが命懸けて駆け上がるときに応援できたのが嬉しい」って言ってくれてな。俺、本当にこいつらのためにもやってやろうって思ったよ……（しみじみと）。

――苦難を一緒に乗り越えてきたわけですね。さて、真壁さんの半生を振り返っていきたいんですが、もともとプロレスファンで？

真壁　もうバリバリの新日派だよ。男の子だから強い者には憧れるだろ？　で、小5のときに観たロス五輪で山下泰裕が金メダルを獲ったのに感化されて、柔道を始めたんだよ。そこからは柔道一直線だったな。

――当時はバリバリの体育会系だった、と。

真壁　そうだな。まぁ、行ってた学校が地域で一番おバカなところだから、ダチもリーゼントやパンチパーマにぶっといズボン穿いて、眉毛が細いのばっかりだったけどな。『ビー・バップハイスクール』みたいな感じでさ（笑）。

©新日本プロレス



G1優勝後、美女をはべらせて豪遊を満喫する真壁。「流血ファイトでたかぶった夜には女を抱いて身体を鎮める」とうそぶく真壁だけに、非常に絵になっているのである。まさに劇画の世界だ!

こてっつぁんの一言のおかげで

真壁刀義ヒストリー

入りで入団してきて、俺が彼に勝るものは何もなかった。唯一あるとすれば

タバコを出すんだよ。俺は「デビューするまでタバコはやめたんだよ」っ

——真壁さんはそういう方面には？

真壁　俺はかぶれなかったな。でもケンカはよくやってたよ、補導されたこともあるし。まぁ、まず学校じゃケンカは売られなかったけどな。だから修学旅行なんかに行くと、遠征試合と称して目が合っただけで「なんだ、この野郎!?」ってケンカふっかけたりな。

——不良の定番ですね（笑）。でも、ちゃんと大学にも進学して。

真壁　あのさ、俺の兄貴が凄い頭よかったんだよ。だからここで就職したら一生兄貴と比べられるなと思って、頼み込んで一年浪人させてもらって大学に入ったわけだ。

——そこで学生プロレスと出会った、と。

真壁　そうそう。最初はキャンパスライフとやらを、女をコマしながら楽しみたかったんだけどな（笑）。たまたま学プロの前を通ったら、凄いガタイのいい先輩に声かけられてさ。

——プロレス自体はずっと見続けてたんですか？

真壁　いや、その頃はそれほど熱心じゃなかった。自分の中でプロレスラーになるなんて選択肢もなかったし。でも、学プロの先輩の話を聞いてみると柔道で新潟県2位だったとか、レスリングの九州大会でベスト16とか、骨法やら大道塾やら格闘技をまじめにやってる人ばっかりだったから、「こいつら単なるオタクじゃねえんだ、じゃあ入ってみようかな」って思ってな。

——なるほど。で、リングネームが……。

真壁　プリン真壁（笑）。当時、俺は学食で女の子を目で追っちゃあ、「あのおっぱいたまんねえな、プリンプリン揺れやがって」なんて言ってたんだよ。それが名前の由来。

——プリンは甘いモンじゃなくおっぱいだったんですね（笑）。

真壁　最初はさ、プリンだけだったんだよ。でも、それじゃ安い源氏名みたいだから、プリン真壁になったんだけど。まぁ、そのほうが逆に恥ずかしいって話もあったけどな（笑）。

——そこから今度はプロを目指すわけですね。

真壁　あの頃はUインターのリングを借りて活動してたこともあって、俺らは大会のときにバイトとして駆り出されてたんだよ。そこで丸坊主の桜庭（和志）選手や雑用で走り回ってる高山（善廣）選手を見て、「この人たち輝いてるなぁ」って感化されてな。それで就職活動するときに、それまで親に迷惑かけたから公務員とか堅い仕事をやろうとも考えたんだけど、やっぱりスポットライトを浴びてリングで試合をやりてえなって思ったわけだ。

——入門するなら新日本って決めてたんですか？



会場でノボリをはためかせて、声がかれんばかりに真壁を応援する「大井町刀義団」。ちなみに川越支部も存在するとの噂もあるが、真壁によれば「俺は聞いたことねえな。でも応援するのはノー・プロブレムだぜ」とニヤリ。

真壁　ああ。命懸けでやるのであれば最高峰のところで試したかったんだよ。で、一回はテストに落ちたんだけど、受かったヤツが辞退したから再度試験を受けて入門できてな。そのときは嬉しかったよ。でもいま思うと、それが地獄の始まりだったんだけどな。

——ヤングライオン時代はかなり不遇だったらしいですね。

真壁　俺が入ってから次の新弟子の井上や柴田（勝頼）が入門するまで、2年くらい開いてるんだよ。で、俺の前の新弟子とも2年開いてるから、要は同期らしい同期がいないわけだ。俺の1ヵ月あとに藤田（和之）くんが入ってきたんだけど、彼は別格というか猪木さんについて回ってたから、ほぼ雑用は俺に回ってきてな。そのときの練習や雑用は若手を育てるためじゃなく、辞めさせるためにやらせるようなもんだったからさ。もう、俺一人に集中砲火なわけよ。

——相当追い詰められた、と。

真壁　何よりきつかったのは練習を正しくやってようがなんだろうが、問答無用で怒鳴られて殴られたことだな。そういう理解できないことが毎日続くと、心が折れてくるんだよ。たかだか50回のスクワットでも恐怖心で身体がこわばってしんどくなってくる。何度も「クソ！　辞めてやる！」って思ったよ。

——よくそんな状態でも逃げ出さずに持ちこたえましたね。

真壁　「辞めたら負けだ！」って吹っ切れるきっかけがあったんだよ。こてっつぁんのおかげでな。

——山本小鉄さんですか？

真壁　そう。ある日の練習中、○○の野郎に「おまえしょっぱいからいらねえ、出てけ！」って言われたんだよ。俺は「まだやらしてください！」って食いついたんだけど、「うるせー！」ってぶん殴られてほっぽり出されてな。それで落ち込んでシャワーを浴びてたら、こてっつぁんが入ってきて。そんときの俺はまだ入門して日も浅いのに、こてっつぁんは名前を覚えててくれてさ。普通、新弟子の頃は挨拶しても誰も一言も返してくれないんだよ。俺なんて存在自体が空気みたいなもんだったし。

——デビューするまではそういう扱いだっていいますよね。

真壁　で、こてっつぁんが「どうした真壁。なんかあったのか？」って話しかけてくれたんだよ。俺が「いえ、なんでもないです」って返したら、「そんなわけねえだろう！　言え、このバカ野郎！」ってなぜか怒りだしてな（笑）。だから俺は「誰よりも正しいフォームで大声出してるけど食らわされるんです。いったい何が正しいのかわからないんです」って正直に言ったんだよ。実際、精神的にかなり追い込まれてたから。そしたらこてっつぁんが「バカ野郎！　いいか、レスラーなら誰よりも強くなれ。誰よりも強くなったら誰も文句言わなくなるぞ！」って。そのときに、俺はハッと気づいて心の整理ができたんだよ。「よーし、強くなって全員ぶっ殺してやる!!」ってな。

——小鉄さんに救われたわけですね。しかし、ぶっ殺してやるってのも凄いですね（笑）。

真壁　○○はいまでも殺してやろうと思うよ（笑）。でも、ほかの先輩たちに対してもみんなそうだったよ。寮の台所の出刃包丁で刺し殺してやろうって。俺が会社辞めるときは捕まるときだってリアルに思ってたからな。

——壮絶ですね〜。そんな真壁さんを見て、外国人レスラーまで心配してたって話も聞いたんですが？

真壁　あー、あったあった。あれはリック・スタイナーだったな。俺が雑用で外国人控室に入ったときに、リックが「Ｈｅｙ　Ｂｏｙ！　Ａｒｅ　Ｙｏｕ　ＯＫ？」とか、俺をケアするように話しかけてくれたんだよ。で、俺が「ノー・プロブレム。ディス・イズ、ニュージャパンスタイル！」って強がって答えたら、あんないかつい

顔したオッサンが優しげに笑って、ポンポンって肩を叩いてくれてな。

──やっぱり学プロ出身ってことで風当たりの強さとかも?

真壁 そりゃあったよ。「こんな中途半端な奴は辞めさせろ」って感じだったと思うしな。たぶん、新日の歴史の中で学プロ出身からデビューしたのは俺が最初なんじゃねえかな。

──棚橋弘至さんが入門したときに学プロの話はしました?

真壁 一切してない。あの色男、計算こきやがって最初は学プロ出身のこと隠してたから。俺はバカ正直に履歴書に書いちゃってたもん(笑)。まぁ、あとでバレてクビになるのは嫌だったからさ。

──当時、真壁さんは長州さんの付き人をしてましたよね。相当厳しかったんじゃ?

真壁 いや、怒るのは雑用をミスしたときぐらいで、リキちゃんマンは基本的に俺を守ってくれてたよ。リキちゃんマンはほかの先輩が俺に雑用を頼もうとすると、「おまえなんだコラ、顔じゃねーぞコラ!」とか言ってさ。やっぱり自分の付き人だから他人に使われるのはよしとしなかったんだろうな。

──あとかわいがってくれた先輩というと橋本さんですか?

真壁 そうだな。でも理不尽なこともあったぜ。道場で橋本さんがピリピリしてるときに、橋本さんの付き

こてっつぁんの一言のおかげで「辞めたら負けだ」って吹っ切れた

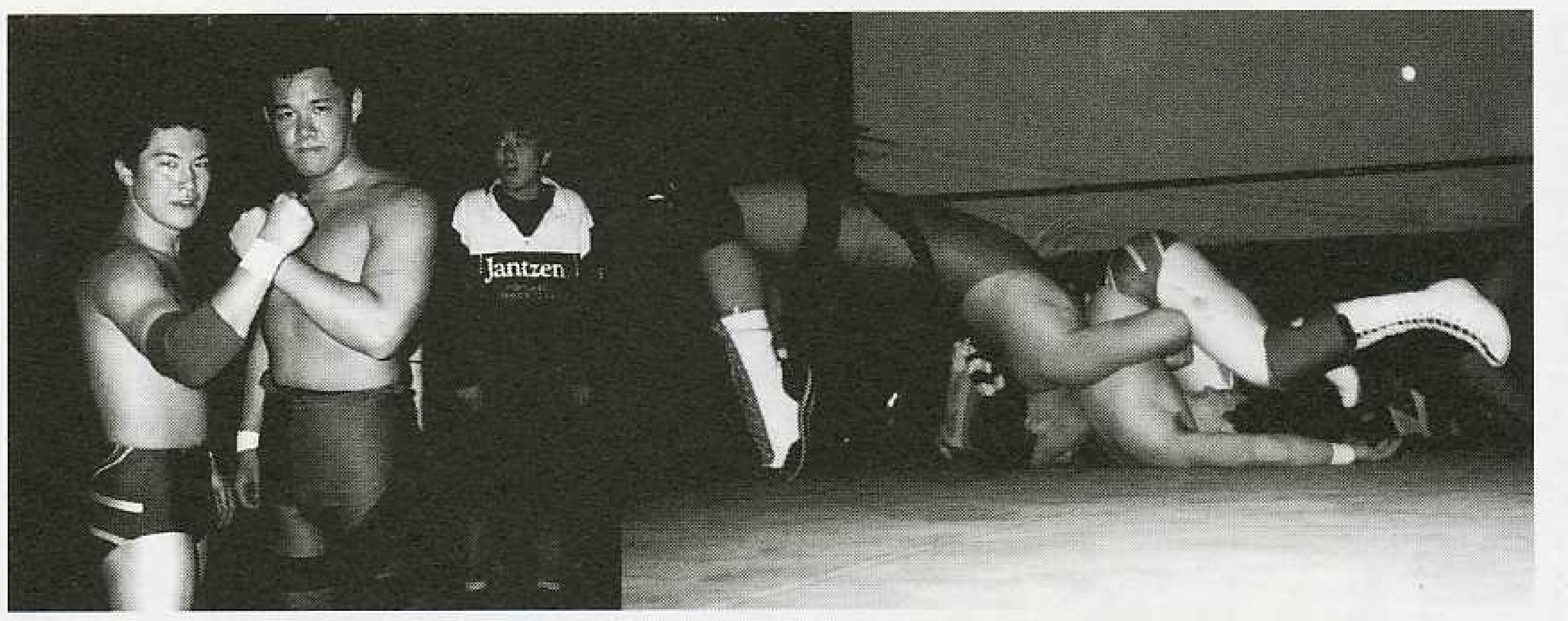
人やってた先輩がパチンコに行ってたんだよ。それで橋本さんに「おい真壁、あいつどこ行った?」って聞かれたから、俺は「すいません、パチンコに行かれてるかもしれないです」って言ったんだよ。そしたら「すぐ呼べ、この野郎!」って橋本さんに怒鳴られたから、等々力にあるパチンコ屋全部に電話して見つけてさ。で、そのあとに先輩が帰ってきたのはいいんだけど、橋本さんに「クリーニング屋に行ってました」って嘘つくわけだよ。その瞬間、橋本さんが俺に「おまえ、適当なこと抜かすな!」ってブチギレてさ。10発ぐらいバンバンぶん殴られて、だんだん意識が遠のいてって、地面に鼻血の水溜まりができてな。

──うわ〜、ひどいとばっちりですね……。

真壁 で、俺が鼻血を洗面所で洗い流してたら、デビュー前の藤田くんが駆け寄ってきて「いまの、真壁さんは絶対悪くないよ!」って気にかけてくれてな。俺も「オッケー、大丈夫!」って返して。たぶん藤田くんとはそれがきっかけで仲良くなったんじゃねえかな。それまでは彼とは冷戦状態だったから。

──藤田さんが入門してからは半年間、お互い口を利かなかったんですよね。それはジェラシーで?

真壁 反骨心だな(キッパリ)。彼はオリンピック予選が終わって鳴り物入りで入団してきて、俺が彼に勝るものは何もなかった。唯一あるとすればプロレスへのガッツだから、「ふざけんなよ、俺はプロレスじゃ負けねえぞ」って態度が出てたんだろうな。彼は俺より2歳上だし、「なんなんだ、こいつ?」って思ってただろうし。



"プリン真壁"時代の写真を公開! この当時から抜群のブリッジワークを誇る真壁。ちなみに学プロの後輩にはDDTのHARASHIMAがいる。つまり、今年の夏は2週連続で両国のメインを、同サークルの学プロ出身者が飾ったのだ!

──エリートに対するライバル意識というか。

真壁 そうそう。でも打ち解けてからは藤田くんがデビューするまで、毎日のように洗濯が終わったあとに一緒に酒飲んでさ。そこで藤田くんが「真壁さん、どうぞ!」ってスッとタバコを出すんだよ。俺は「デビューするまでタバコはやめたんだよ」って断って。一応、若手はタバコ吸っちゃいけないことになってんのに、藤田くんは隠れて吸ってたから(笑)。

──さすがは大物新人(笑)。

真壁 でも、俺もストレス溜まってきて、あるとき「藤田くん、タバコ持ってる?」って聞いたら、彼は「お、なんつってな(笑)。どーぞ、どーぞ!」なんすか? 吸うんすか?」って聞いたら、彼は「お、

──やっぱりエリートと言いつつも、藤田さんは藤田さんでストレスがあったんですかね。

真壁 俺とは扱いこそ全然違うけど、そりゃあ彼もあっただろうな。藤田くんは繊細なところがあるから、夜寝れなくなったりもしてたし。ある日、俺が練習でしごかれて「藤田くん、今日は疲れたからもう寝るわ」って部屋に帰ったら、彼は「いやいや、ちょっと飲み行きましょうよ〜!」ってドアをドンドン叩きやがってさ。それでも無視してると、今度は部屋に電話かけてきて「ごめんなさい、痛み止め持ってませんか? すっげー身体が痛くなってきちゃったんです……」って苦しそうに言うんだよ。で、俺も「わかった、すぐ行く!」つって、彼の部屋のドアを開けるわけだ。すると、満面の笑みの藤田くんが「いらっしゃい!」とか言って酒を用意しててさ(笑)。

──仮病してまで真壁さんと飲みたかった、と(笑)。

真壁 もうバカ負けだよな(笑)。藤田くんとのエピソードならいくらで

真壁刀義ヒストリー

1996年
2月 新日本プロレス入門

1997年
2月15日 神奈川県大和体育館における大谷晋二郎戦でデビュー。

1998年
10月 先輩の吉江豊よりプロ初勝利。

2000年
4月9日 『SUPER J CUP』に出場。
5月5日 ヤングライオン杯で準優勝を飾る。

2001年
3月20日 長州力とのタッグで、天山広吉&小島聡の保持するIWGPタッグ王座に初挑戦。
6月8日 全日本プロレスに参戦、永田裕志とのタッグで垣原賢人&長井満也とアジアタッグ王座決定戦を行なう。
8月 海外武者修行へ出発。
10月 イギリスで英連邦インターコンチネンタル王座を獲得。
11月 プエルトリコへ戦場を移す。

2002年
9月30日 KAI-ENTAI DOJOで凱旋試合。
10月14日 新日本のリングに本格復帰。

2003年
7月16日 高山善廣とのコンビで小橋建太&本田多聞の保持するGHCタッグ王座に挑戦。

2004年
8月 現在のリングネームに改名。

2005年
8月6日 G1クライマックスでの中邑真輔戦で、左足アキレス腱を断裂。

2006年
1月8日 ケガより戦線に復帰。
7月2日 越中詩郎とのタッグでIWGP暫定タッグ王者に就く。
9月24日 アパッチプロレス軍に参戦し、金村キンタローを下してWEWヘビー級王座を獲得。
10月 天山広吉らとヒールユニットGBHを結成。

2007年
3月21日 NEW JAPAN CUPで準優勝を収める。
7月6日 永田裕志の持つIWGPヘビー級王座に初挑戦をはたすも敗れる。

2008年
2月17日 矢野通とのタッグでジャイアント・バーナード&トラヴィス・トムコを破り、IWGPタッグ王座を獲得。
8月 ZERO1・MAXの「火祭り」に参戦、準優勝を収める。

2009年
4月5日 盟友の矢野に裏切られ、本間朋晃以外のメンバーがGBHから離脱。
8月16日 G1クライマックスで中邑真輔を破り初優勝をはたす。
8月30日 ZERO1で"火祭り"覇者の崔領二を破り、"真の夏男決定戦"を制す。

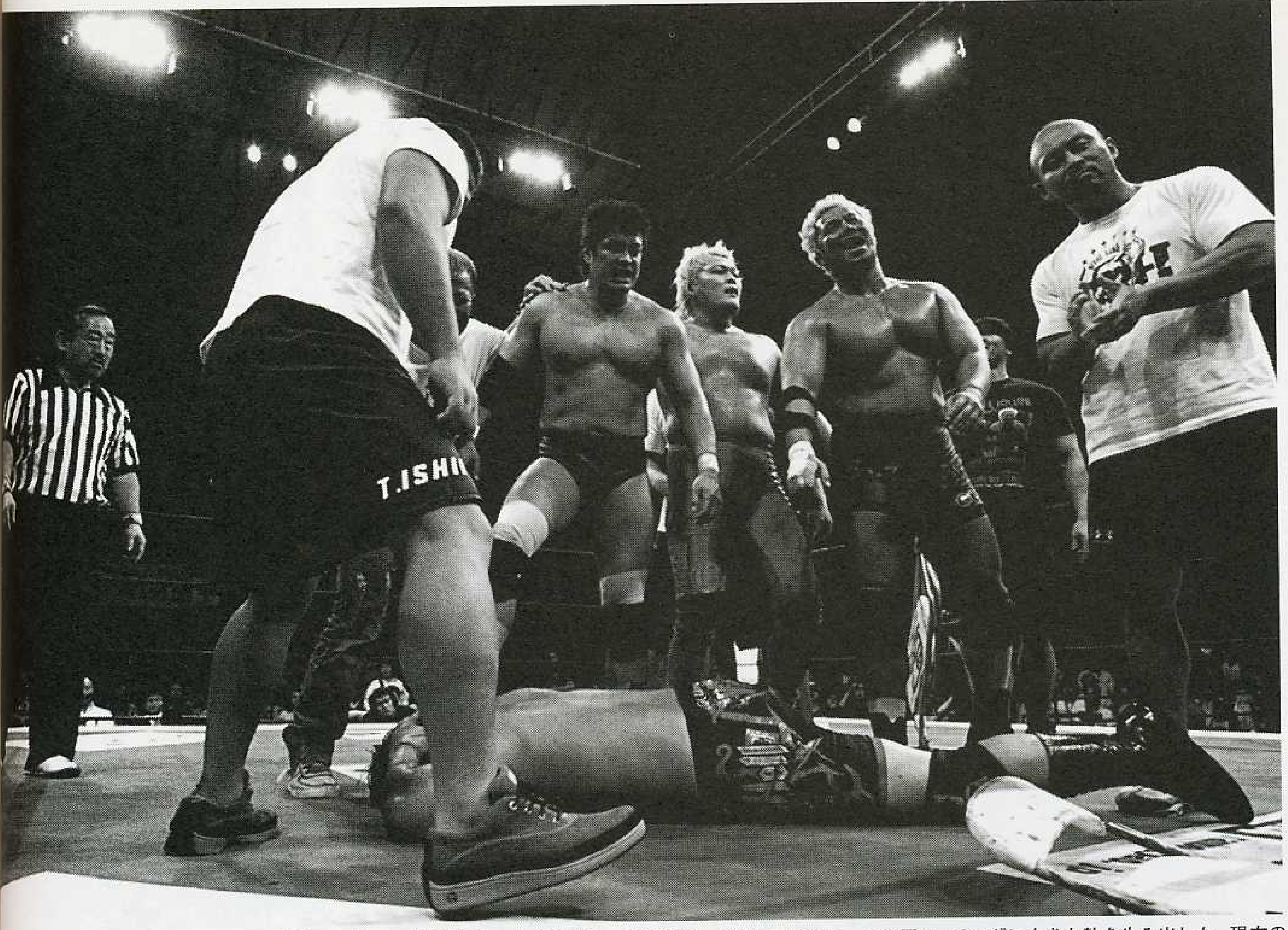
雑草であればあるほど花開いたときは綺麗に咲くんだよ

もあるよ。

——お互いいい刺激を受けてたわけですね。

真壁　俺は藤田くんみたいに学生選手権4連覇なんてしてない。でも、そんな人間があれだけの仕打ちを受けても、生き残ってレスラーになろうとしてる姿を見て、彼も刺激を受けたんじゃねえかな。

——真壁さんもいろいろ後輩ができてからは楽になりましたか？



GBH時代、真壁は飯塚高史と結託して"いい人"天山をハメたことも。その極悪っぷりは観客のヒートを買い、リングに大きな熱を生み出した。現在の真壁はベビーフェイス人気が沸騰中。本人いわく「俺はヒールもベビーも超越した存在なんだよ」だとか。カッコよすぎでしょ！

真壁　楽なんてもんじゃねえよ。俺、1ヵ月で8キロ太ったから。

——8キロ！

真壁　もう、ようやく奴隷から解放された気分だったよ。そのあとには寮長もやったしな。

——あれだけ先輩にしごかれて、いざ自分が上になったときに後輩に対してはどう接しました？

真壁　俺は下の人間はいろんなことから守ってたと思うぜ。たとえばほかの先輩から若い奴が口出されても、「これは寮の話なんで、俺が話つけますから」って言ってさ。

——男らしいですね〜。

真壁　もちろん指導自体は厳しくしたけどな。鈴木健想が寝坊で掃除をサボったときには、プッシュアップ1000回やらせたり。俺が「コイツはダメだ」って思ったやつは全部辞めさせたし。でも、自分がやられたような理不尽な仕打ちは一切やらなかった。

——ヤングライオンを卒業したあとは海外遠征に旅立つわけですが、相当嬉しかったんじゃないですか？

真壁　いや、片道切符だったし「俺、いつ帰れるんだ？」っていう不安のほうが大きかったよ。一番最初にカナダの大剛（鉄之助）さんのところに行って身体作って。で、イギリスでサーキット回って、そのあとには物騒なプエルトリコにまで行ってな。

——平成に入ってから新日の若手でプエルトリコに遠征したのって真壁さんくらいですよね。

真壁　そうだな。あのときは会社として、未開の地から新しい選手を引っぱりたいっていう思惑もあったんじゃねえかな。それで俺が飛ばされたんだろうけど、ぶっちゃけ「島流しか？」って思ったよ。向こうじゃ誌面にはとても載せられないような悪いこともやったしな。しかもプロモーターとケンカしたりして、ほかの選手とのコミュニケーションもうまくとれなくて、ほとんどノイローゼ状態になって最悪だったわ！（吐き捨てるように）。

——相当苦労した、と。

真壁　でも、一緒のサーキットにスペル・クレイジーがいて、あいつは日本語がちょっとしゃべれるからいろんな部分でケアしてくれたよ。だからあいつがWWEで活躍し始めたときは嬉しかったな。で、そのあとに行ったロスではTAJIRIと仲良くなって。メジャーリーガーなのに偉ぶるわけでもなく、この俺と対等にしゃべってくれてな。当時、俺はホント心が乾いてるときだったから、そういう優しさがありがたかったよ。

——で、帰国後にはノアに殴り込みをかけて。

真壁　そのときに俺がラッキーだったのは、"帝王"と呼ばれた高山選手とコンビを組めたことだよ。あのときはすべてを吸収しようと思った。でも屈辱的だったのは、ノアでどんなにいいパフォーマンスをしても、新日本に戻ったらまたゼロからのスタートだったってことだな。

——会社に実績として認められなかった、と。

真壁　そんときは「くだらねえ会社だな！」って思ったよ。まぁ、あの頃はとにかく荒れてたわ。ストレスが溜まって女遊びにしろ、とにかく金使いが荒かった。

——フェラーリまで買ったらしいですね（笑）。

真壁　当時はみんなベンツが多かったから、俺は誰も手を出してない車に乗ろうと思ったんだよ。でも、結局1年ちょいで売っちゃったけどな。ほら、新日本に思いもしないような不況の波が来やがって、給料も下がったからさ（笑）。正直、あの頃は俺も辞めようと思ってふさぎ込んでたよ。

——選手も大量に離脱していって。

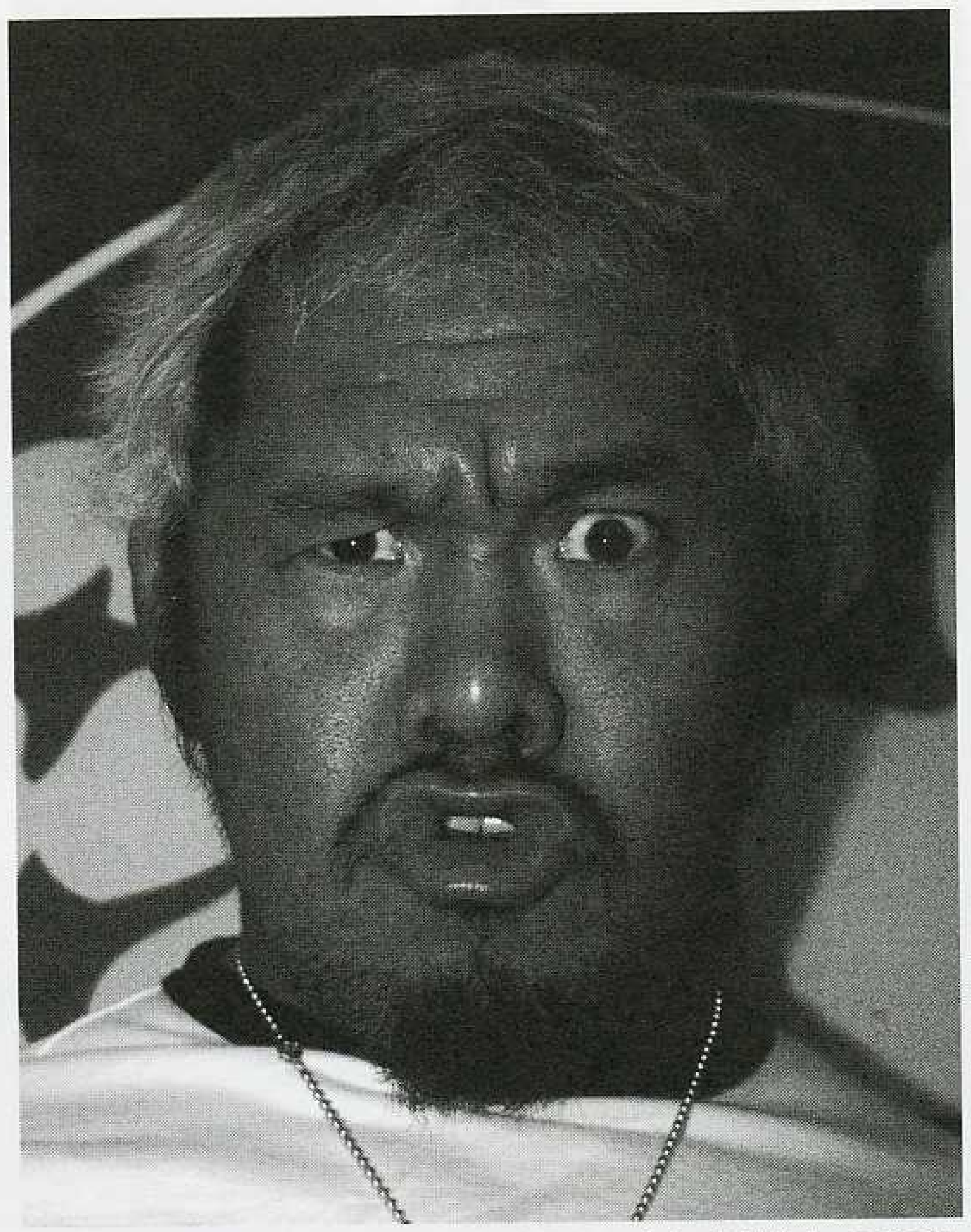
真壁　俺も何人かの人からは声をかけられたよ。でもある友だちから「新日本が潰れるんだったら、動くのは潰れてからでもいいじゃん」って言われてな。それで「俺が夢にまで描いて十数年やってきた団体なんだ。辞めるのはなくなってからでも遅くねえ」って思い直したんだよ。それと05年のG1でアキレス腱を切ったのもいい転機になったな。

——時期的には「伸也」から「刀義」に名前を変えた頃ですね。

真壁　そうそう。改名した矢先になんでアキレス腱切れるんだよとも思ったけどさ（笑）。でも、それで療養してた時間が、先のことをいろいろ考えるいいきっかけになった。入院してるときに、友だちとかレスラーが見舞いに来るだろ？　そうすると友だちが居合わせたレスラーを憧れの目で見るんだよな。そのときに「ああ、こいつらが喜んでくれるなら、そのためにも自分のためにも、もう一回死ぬ気でやってみよう」って思ったんだよ。あとはやっぱりロックアップに参戦したこともターニングポイントになった。

――金村キンタローさんに「真壁は呼んでないよ」って言われたんですよね。
真壁 その一言で観客から笑いが起きてな。凄い恥さらしだよ。でも、俺も言い訳のしようがなかった。逆に「だからなんだよ、この野郎！」って気合いも入ったし。そこからだな、俺の戦争が始まったのは。
――ロックアップやアパッチではデスマッチが多かったですけど、抵抗はなかったですか？
真壁 ないって言ったら嘘になる。でも、「これを否定したら俺の生きる道はねえな」って腹くくったよ。アパッチのリングに上がったら俺は外敵。だったら「俺が最高のヒールになってやろう！」ってな。とにかく俺は新日本で俺を笑ってる連中を見返してやりたかったから。
――新日本では周囲から軽く見られてるという意識が？
真壁 それはあったよ。俺が試合しても「頑張ってるけど中堅より下なんだろ？ 永田とか中西より下なんだろ？」とか思われるのがしゃくでしょうがなかった。でも自覚もあるんだよ。だから「新日のレスラーがやったことのないようなデスマッチ、客が狂喜乱舞するようなことをやって、インディーからのし上がってやる！」ってな。案の定、あのときは俺の一人舞台になったから。
――ヒールとして開眼したわけですね。そしてそこで培ったものをGBHに活かした、と。
真壁 でもやっぱり新日本は頑ななんだよ、外のリングのことに関しては。そのときに「またノアのときみたいに下からやらせんのか？ おお、やらせてもらおうじゃねえか！」って開き直ってさ。そこから好き放題にやってきて、気づいたらこのとおりってわけだよ（ニヤリ）。
――不遇の時代を経て、今回のG1優勝につながったわけですね。
真壁 もうさ、時代が俺みたいな男を求めてたってことだよな。俺は確かに雑草でしかなかった。でも、雑草であればあるほど花開いたときには綺麗に咲くもんなんだよ。
――名言ですね～！ そしていま、藤田さんとの再会マッチも期待されてますけど。
真壁 それは彼との約束だから。俺がまだ寮長やってる頃の話なんだけど、正月のドームが終わったときに、藤田くんが急にかしこまって「真壁さん、長いあいだお世話になりました」って挨拶してきたんだよ。「え、どういうことよ？」って聞いたら「じつは次から『PRIDE』に参戦することになりました」って。最初は朝一番だったから「コイツ寝ぼけてるな」って思ったんだよ。でも、話を聞いたらマジだったから「そんだけ覚悟決めてんならしょうがねえな。またどこかのリングで会おうよ」って藤田くんと握手したんだよ。
――グッとくる話ですね～。
真壁 そしたらさ、真っ暗闇の中から「ヒグッ、グスン……」って嗚咽が聞こえるから、パッと見たら棚橋がこの話を聞いて号泣してんだよ！
――感極まって（笑）。
真壁 「おいおい、泣くのは俺だろ？」って話だぜ。棚橋が泣くから俺は泣くに泣けなくてさ（笑）。
――藤田さんのMMAの試合はご覧になってますか？
真壁 もちろん観てるさ。藤田くんも最近は苦戦が続いてるみたいだけど、俺との約束をはたすために頑張ってほしいよな。それに藤田くんにかぎらず、俺はMMA自体が好きだからよく観てんだよ。DREAMとか日曜の夜中にやってるやつとか。
――『戦極G！』も押さえてますか！ 気になる総合格闘家はいます？
真壁 負けちゃったけど、北岡はいい選手だよな。
――へ～、まさか真壁刀義の口から北岡悟の名前が出るとは（笑）。
真壁 ああいうキャラが強い選手っていうのは生き方も強いんだよ。次も観てみたいって思わせてくれるよな。
――でも、北岡選手はあの敗戦で引退を匂わせてるんですよ。
真壁 そうなんだ？ 俺、プロレスだから分野は違うし、MMAはいち視聴者としてしか観てないよ。でも、MMAの選手も危険を冒してリングで最高のパフォーマンスを見せてるわけだから、共感する部分もあるんだよ。北岡にもあれだけ惹きつけるものがあるんだからさ、まだまだ踏ん張ってほしいよ。
――ちなみに一時期新日もMMAとシンクロしてましたけど、真壁さんは興味ありました？
真壁 前はあったよ。
――あ、そうなんですか？
真壁 やっぱりその頃は道場でボクシングだったり、それ用の練習もやってたぜ。いつでも出陣できるようにってな。まぁ、あの当時の新日は迷走してたからさ（笑）。
――真壁さんのMMAも観たかったな～。以前、元『週刊ファイト』のI編集長（井上義啓）が、まだ台頭する前の真壁さんを称して「真壁には〝殺し〟がある」って言ってたんですよ。
真壁 へ～。まぁ、俺はいつ何時誰でも「ぶっ殺してやる！」って思ってたから、そりゃあ俺には〝殺し〟はあるだろうな（笑）。
――ダハハハ！ そっちの〝殺し〟ですか（笑）。
真壁 でも、そういう殺気みたいなのはレスラーである以上、絶対に必要だと思うぜ。
――いまのプロレスは昔に比べて殺気が足りないって言われがちですから、そういう意味じゃ真壁さんみたいなレスラーは貴重というか。
真壁 殺気がねえと試合に説得力も出てこねえしな。
――しかし、最近の新日は業界の盟主として、すっかり上昇気流に乗ってますね。
真壁 そうだな。誰のおかげだと思う？ 俺のおかげだよ！（笑）。でもな、そんくらいの自負がないとダメだぜ。棚橋だったり、おぼっちゃまくんの中邑（真輔）だったり、あとVシネ俳優みたいなリアルな顔した……後藤（洋央紀）か。
――確かにVシネっぽいですね（笑）。
真壁 あいつらにそんぐらいの自負、こだわりがあるかってことだよ。俺が動かしてるんだぐらいの気持ちがねえとトップなんか獲れやしねえ。ましてや雑草から這い上がったこの俺がいるかぎりトップは獲らせねえってこと。これが現実だよ（ニヤリ）。
――なるほど。今日は真壁さんの人気の理由を垣間見ることができました、ありがとうございました！

【09年8月25日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】



まかべ・とうぎ■1972年9月29日、神奈川県出身。本名、真壁伸也。97年2月、vs大谷晋二郎戦でデビュー。04年8月に現在のリングネームに改名。06年10月、天山広吉らとヒールユニットGBHを結成し、トップヒールとしての地位を確立。現在は本間朋晃と行動をともにする。9.27神戸ワールド記念ホール大会では中邑真輔とのIWGPヘビー級王者決定戦に臨む。181cm、110kg。

――今回特集でマット界の「○○○らしい」という噂を検証してるんですけど、「飯伏幸太は宇宙人らしい」

飯伏　ボクが宇宙人と言うよりも、そこが気になりますね。

――そうですか。で、飯伏さんというらしいですけど、キャンプ場プロレスは〝プロレス〟ではなく〝プロレスごっこ〟になるんですか?

飯伏　そうです、そうです。逃げ惑う相手を観るのが凄く楽しかったです。

にHARASHIMAさんがベルトを持ってたので、結果的に勝った自



KO-D無差別級王者

飯伏幸太は宇宙人らしい!?

長州も口あんぐり! DDTの新エースの正体は!?

「宇宙人ではない気がします」

DDT初の両国大会でHARASHIMAを下し、KO-D王者に輝いた飯伏幸太。新日本やノアなどDDT以外でも大活躍の飯伏は「宇宙人らしい!?」との噂を入手。プロレス界で宇宙人と言えば、かつて長州がTAKAみちのくに言ったことで有名だが、はたして飯伏は宇宙人なのか!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄　キャンプ場プロレス撮影／三田佐代子

――今回特集でマット界の「○○○らしい」という噂を検証してるんですけど、「飯伏幸太は宇宙人らしい」という噂が広まってるみたいで。

飯伏　あ、そうなんですか！（笑）。

――プロレス界で"宇宙人"と言えば、飯伏さんはファン時代に新日本をよく観てたみたいですし知ってますよね？

飯伏　はい、TAKA（みちのく）選手が長州さんに言われたってヤツですよね？

――そうです。このあいだのDDTの両国大会で飯伏さんの試合を初めて観たという人もけっこういると思うんですが、飯伏さんの空中殺法を観て「コイツは宇宙人か!?」と思った人も多いと思うんですよ。

飯伏　そうなんですかねぇ？　残念ながら、ボクは宇宙人ではない気がするんですけど。

――気のせいですか（笑）。新日本にも何度か上がってますけど、長州さんと話をされたことはあるんですか？

飯伏　長州さんとは挨拶ぐらいで、普通の会話とかしたことないですね。

――あ、そうなんですか。それこそ「おまえは宇宙人か!?」なんて言われたこともない？

飯伏　ないですね。というか、ボクの試合を観たことがあるのかどうかもわからないです。

――いや～、さすがに試合は観てると思いますけどね。

長州さんとは挨拶ぐらいで、会話はしたことないですね

飯伏　ボクが宇宙人と言うよりも、そこが気になりますね。

――そうですか。で、飯伏さんといえば、先日のDDT両国大会でHARASHIMAを下してKO-D無差別級王者に輝いたわけですが、そのあとにあったキャンプ場プロレスは、ある意味、両国のメイン以上に気合いが入ってたみたいですね。

飯伏　はい、そうですね！

――試合前には「今日はプロレスをやるつもりはない」みたいなことを言ってたみたいですけど。

飯伏　プロレスをやるつもりは一切なかったです（キッパリ）。

――飯伏さんは、ちっちゃな頃から"プロレスごっこ"ばっかりやってたらしいですけど、キャンプ場プロレスは"プロレス"ではなく"プロレスごっこ"になるんですか？

飯伏　このあいだの試合はプロレスでもプロレスごっこでもなく、単純にボクの遊びですね。

――遊びでしたか（笑）。でも、飯伏さんの遊び観たさに山梨の山奥に200人以上の観客が集まったんですよね。

飯伏　いっぱい来てくれたんですけど、いつもプロレスの試合だったら、お客さんの目を意識して盛り上げようとかそういうのがあるんですけど、もう一切関係なかったんで。ボクの個人的な趣味ですから！

――個人的な趣味（笑）。なんでも、1万5000円分の花火を持ち込んだとか？

飯伏　はい、かなり気合いを入れて用意しました。

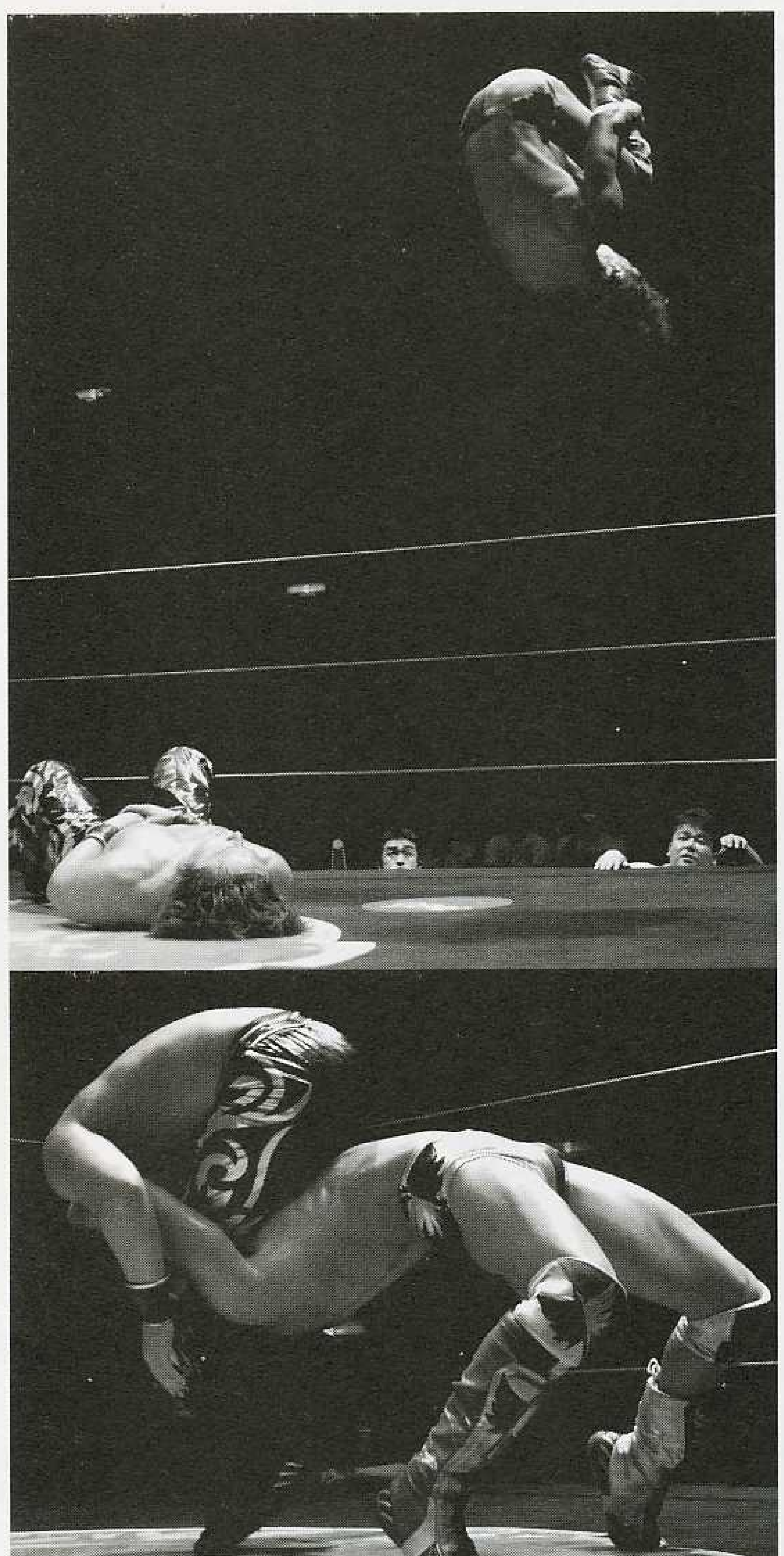
――試合そっちのけで、花火を相手目がけて発射していたんですよね。

飯伏　そうです、そうです。逃げ惑う相手を観るのが凄く楽しかったです！（目をキラキラさせながら）。

――それはよかったです。

飯伏　凄くよかったんですけど、5千円分残っちゃったのが、ちょっと悔いが残るなぁって。

――キャンプ場プロレスにも両国大会で奪取したベルトを持参してましたけど、やっぱり、王者としての自覚も芽生えてきたんですかね？



8.23DDT両国大会でHARASHIMAを下しKO-D新王者となった飯伏。得意のフェニックス・スプラッシュをはじめ、重力を無視した宇宙人らしい攻撃を連発した飯伏がフィニッシュとして使用したのはフェニックス・プレックス・ホールド!

飯伏　自覚はないですね（さらりと）。

――自覚はない（笑）。

飯伏　へんな意味はないんですけど、ボクにとって、あのベルトは、ただ付いてきただけだと思ってるんで。

――チャンピオンのHARASHIMA選手に勝ったら、もれなくベルトが付いてきたと？

飯伏　そうなんですよ。ボクとしては両国でHARASHIMAさんとメインの試合がしたかっただけなのにHARASHIMAさんがベルトを持ってたので、結果的に勝った自分にベルトが巻かれたってだけで。それに、正直、ベルトとしてはボクの中では、それほど価値があるモノだとは思っていないし。

――飯伏さんにとって価値があるベルトっていうのは、なんのベルトになるんですか？

飯伏　キャンプ場プロレスのスタートのほうを観てもらえればわかると思うんですけど、入場のときにKO―Dのベルトと、あともう一本、OPCっていうベルトも持っていったんですよ。

――KO―Dは両国でHARASHIMA選手から奪取したベルトですけど、OPCっていうのは？

飯伏　アマチュアプロレスのベルトです。

――あ、そうですか。ちなみに、OPGって、なんの略なんですか？

飯伏　えっとですね、"俺たち・プロレス・軍団"です！（嬉しそうに）。

――確かに略すと"OPG"になりますけど、飯伏さんはそこのチャンピオンなんですか？

飯伏　そうです！　ボクは両方のベルトを持って入場して、KO―Dのベルトを捨てたんです。

――べ、ベルトを捨てた!?

飯伏　それがもう完全に答えというか。あのときのボクの気持ちはプロレスごっこの延長だったんで、自分の個人的な遊び場のOPGのベルトをつねに持ち続けたんです。

――う～ん、ちょっと理解に苦しみますけど、キャンプ場プロレスにはKO―DよりもOPGのベルトのほ

メジャーから路上、キャンプ場まで！ 飯伏幸太とプロレスごっこ



今年5月に開幕した新日本の「ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア」に初出場し、ベスト4に輝いた飯伏。大会後には「最高峰の舞台だと思います。次も必ず出ます」と早くも参戦表明。これまで他団体から優勝者は出てないが、"宇宙人"飯伏なら優勝の可能性もある!?


小学生時代から海岸や本屋やスーパーなど、リング上以外でもプロレスごっこをやりまくっていたという飯伏。アスファルトの上でも涼しい顔でジャーマンスープレックスやムーンサルトを決めまくるこの男は、やはり"宇宙人"なのでは？ どうですか、サスケさん!?


両国大会から2週間後の9月6日、山梨で開催されたキャンプ場プロレス。誰よりも、この日の試合を楽しみにしていた飯伏は1万5000円分もの花火を持参し、ところかまわず花火を乱射しまくるというクレイジーぶりを披露。やはり、この男、宇宙人なのかもしれない。

うがふさわしいという解釈でいいんでしょうか？

飯伏 そういうことです。あの場においてはOPGのほうがKO－Dよりもかなり価値が高いんで。

——やっぱり、飯伏さんは宇宙人かもしれないですね（笑）。

飯伏 あれ？ そうなんですか（笑）。

——かなり可能性は高くなったと思います。

飯伏 いやいやいや、大丈夫です。

——そんな飯伏さんですが、DDT初の両国大会のメインを務めて凄いプレッシャーもあったと思うんですけど、全然緊張はしなかったって言ってましたよね？

飯伏 そうですね。緊張しなさすぎて、入場前に眠くなっちゃって。で、入場曲が鳴ったぐらいで、さすがに「ヤバイ！」って思って、とりあえず緊張したフリをしようと思いました。

——なぜだ!?（笑）。

飯伏 だから、入場のときは、かなり演技ですね。

——それはお客さんの目を意識して、緊張してるほうがいいだろうという判断で？

飯伏 それもあるんですけど、緊張しないといつもケガするんで。だから、無理やり緊張したふうにしたら、入場して花道に出た瞬間に、お客さんが多すぎて、「DDTでこんなに入るんだ」と思ったら、ちょっと感動してしまったっていう。

——そこは演技ではなく、素の感情だった、と。フィニッシュは初公開のフェニックス・プレックス・ホールドでしたけど、あの技は10年以上前からあった技なんですよね？

飯伏 そうです！ 14年前に開発しました。たぶん13歳か14歳ぐらいだと思うんですけど。ちょうど、そのときに技をかけたヤツが偶然、観に来てたんですよ。

——偶然ってことはないと思いますけど。

飯伏 試合が終わって家に帰ってから、そいつからメールが来てて。「最後の技は見たことがある。あの技、俺、食らってなかったか？」と。

——あんな危険な技、かけられたほうは忘れないと思いますよ。

飯伏 でも、ボクはそのメールを観るまで完全に忘れてて、「あっ、そうだ。アイツによくかけてた」って思い出して。これは凄くいい出来事だったんじゃないかと。

——素敵なエピソードですね。

飯伏 ですよね。ボクの中でけっこう感動しました。

——説得力もある、いい技だと思ったんですけど、今後はあまり使う気はないみたいですね。

飯伏 とくに興味はないですね。あの技に関しては。

——せっかく、ケニー・オメガに技の名前も付けてもらったのに？

飯伏 そうなんですけど、また使うかもしれないし、使わないかもしれない。

——そのへんもなんか宇宙人っぽいなぁ。

飯伏 （気にせず）プロレスごっこ技っていうのは、まだまだたくさんあるんで、べつに出そうと思ったら、違うプロレスごっこ技や、もっと難易度の高いプロレスごっこ技はもっとほかにもいろいろあるんで。

——へえ～、プロレスごっこ界も奥が深そうですね。

飯伏 奥が深いっていうか、自由なんですね、プロレスごっこは。

——あ、そうですか。飯伏さんといえば、鹿児島の高校から上京して、DDTに入るまでの4年間について、あまり語りたがらないという謎もあるみたいで。

飯伏 あ？ あ～～～、そこですか!?（動揺して）。

——空白の4年間については語りたくない何かがあるわけですか？

飯伏 そこはかなり危険かもしれない（笑）。

——高校卒業してから成田空港で働いていたっていうのは、わりと知られてますよね。

飯伏 そうですね。空港で1年間働いて……、そのあとですよね。どうしてもしゃべらなきゃダメですか？

——そう言われると余計聞きたいですけど。

飯伏 そのあとはいろいろあって（苦笑）。危険な部分に踏み込んでしまったというか。いや、踏み込まされた、みたいな？

——なんか、ややこしそうなので話題を変えたいと思います（笑）。そう

いえば、飯伏さんって団体の合同練習にはあまり参加せずに、近所のアマチュアプロレス団体の手作りリングとかで練習してるんですよね？

るだけなんで。

——飯伏さんにとっては、新日本に上がってもノアに上がっても、やってることはプロレスごっこって、よ

……そんなにないですよね？（笑）。

飯伏 そうですねぇ。いま思ってる自分の中のプロレスっていうものをやって、引っ張れるんだったら引っ

ど、東京に出て来るときは「絶対凄い有名人になるんだ」っていう気持ちが一番強かったんですよ。

——そういう気持ちはいまでもあり

いですね。最後に、KO－D王者になって、キャンプ場プロレスも満喫したみたいですが、今年中に実現させたい目標は何かあります？

いえば、飯伏さんって団体の合同練習にはあまり参加せずに、近所のアマチュアプロレス団体の手作りリングとかで練習してるんですよね?

飯伏　あ、はい。合同練習は行かないです。

――それは何か理由でも?

飯伏　う～ん、なんですかねぇ。まず、プロレスがうまくなりたくないっていうのが一つと……。

――ち、ちょっと待ってください! うまくなりたくないんですか?

飯伏　はい。プロレスがうまいって言われる人のプロレスがおもしろいと思ったことがないんで。

――あ～、それはなんとなくわかる気もします。

飯伏　綺麗な受け身を取って何がおもしろいんだ、と。みんな同じ受け身、みんな同じ走り方、そんなのはボクは全然観たくないですね。そんなプロレスはまったくボクの中にはないんで。

――飯伏幸太のオリジナルのプロレススタイルを確立させたい、と?

飯伏　そうですね。ボクは正直、プロレスはあまりできないと思うんですよ。……わかんないですけど。

――DDTのチャンピオンなだけでなく、プロレス界のゴールデンスターと言われる飯伏さんはプロレスはあまりできない?

飯伏　よく言ってることなんですけど、ボクはプロレスごっこをやってるだけなんで。

――飯伏さんにとっては、新日本に上がってもノアに上がっても、やってることはプロレスごっこって、よく言ってますよね。

飯伏　そうです。基本はプロレスごっこです。

――チャンピオンにこんなことを言うのも失礼だとは思いますが、これからも誰かにプロレスを教わろうという気持ちはとくにないんですか?

飯伏　とくにはないです。まあでも、いろんな知識は得たいんで。教えていただけるんだったら教えてもらって。ただ、それを自分で吸収するか吸収しないかはべつですけど。

――DDTのチャンピオンとして自分の団体はもちろん、プロレス界を引っ張っていきたいという気持ちは……そんなにないですよね?(笑)。

飯伏　そうですねぇ。いま思ってる自分の中のプロレスっていうものをやって、引っ張れるんだったら引っ張りたいですけど、たぶんですけど、ボクが思ってるプロレスっていうのは、いまあるプロレスっていうものとはちょっと違うような気がするんで、引っ張れないと思います!(なぜか自信満々に)。

――そうですか。でも、飯伏さんが思ってるようなプロレスがお客さんに受け入れられればいいわけですよね。

飯伏　そうなるんなら、引っ張れるのかなって思います。

――プロレスが地上波で流れるような環境にしたいとも言ってましたよね。

飯伏　したいですね。それはよく思ってます。

――やっぱり、「有名になりたい」とか「人気者になりたい」っていう気持ちもあったりするんですか?

飯伏　ボクは鹿児島出身なんですけど、東京に出て来るときは「絶対凄い有名人になるんだ」っていう気持ちが一番強かったんですよ。

――そういう気持ちはいまでもあります?

飯伏　それはまだ自分の中のどっかにありますね。「まだ、このへんでは終わらない」と。むしろ「プロレスだけでは終わらない」って。

――ほぉ、それは意味深ですね。3年前にK－1MAXに出るという話もありましたけど、最近キックのジムにもまた行き始めたみたいですし、そっち方面での色気もある?

飯伏　う～～～～ん(しばし熟考)。やっぱ、K－1とかテレビで観て、技術もドンドン上がってるにもかかわらず、ボクはキックだけで考えると徐々にレベルは下がってるわけですよ。プロレスごっこばっかりやってるんで。

――原因はそこですか(笑)。

飯伏　だから、だんだん去年ぐらいから、そっち系に関してはちょっと気持ち的には落ちてきましたね。

――プロレス以外といったら、どういう方面に進出したいんですか?

飯伏　たとえばですけど、筋肉番付的なモノとか、ああいうヤツとかなら、まだ若干、可能性はあると思うんですよ。

――それは向いてるかもしれない。

飯伏　そこで活躍できたら、プロレスも注目してもらえると思うし、そういった地上波的な番組で身体が使えるようなモノだったら、少しはイケるんじゃないかって自信はいまでもあるんで。

――そっち方面での活躍も期待したいですね。最後に、KO－D王者になって、キャンプ場プロレスも満喫したみたいですが、今年中に実現させたい目標は何かあります?

飯伏　そうですねぇ～、ヨシヒコ(現アイアンマン王者のダッチワイフ)とタイトルマッチができればいいかな、と。

――ヨシヒコとタイトルマッチ!?

飯伏　それは本気で実現させたいです!(目をキラキラと輝かせて)。

――防衛する自信はあります?

飯伏　う～ん、半々ですね! アイツは最強だと思ってるんで。

――〝最も強い〟の最強ですか?

飯伏　そうです。最も強いです、ヨシヒコは。

――そのへんの願望も、なんだか宇宙人的な気もしますねぇ。

飯伏　それっていいことですかね?

――いいことだと思います! 長州さんもTAKAさんに「アイツは宇宙人か!?」と言ったのは誉め言葉ですからね。ほかのプロレスラーとは、いろんな意味で違うってことだと思いますし。

飯伏　あ、それは嬉しいです。

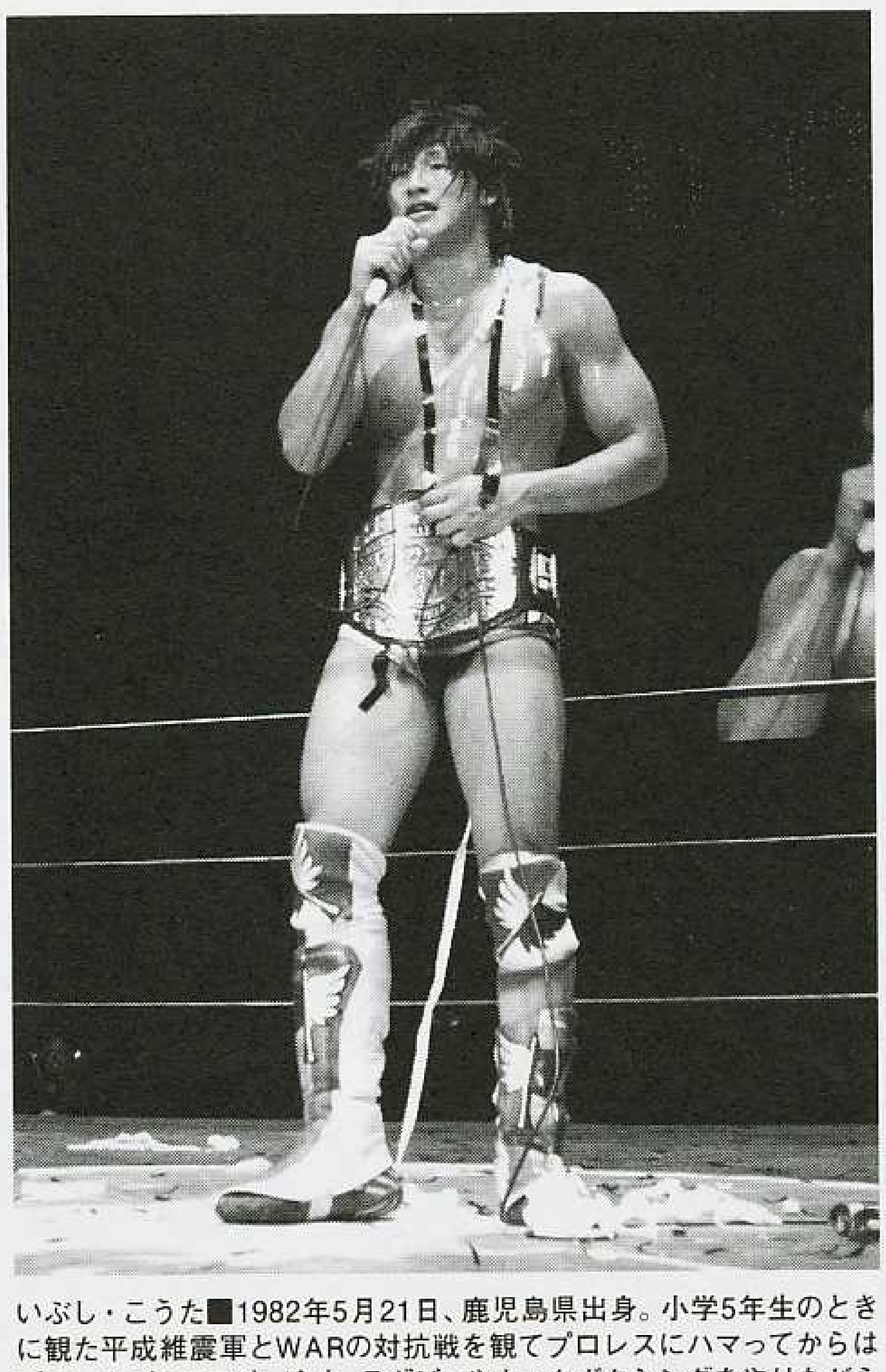
――機会があれば、長州さんに飯伏さんについてどう思ってるか聞いておきますので。

飯伏　あ、ホントですか! ゼヒお願いします!!

――恐いんで積極的に機会を作ろうとは思わないですけど(笑)、今後も〝宇宙人〟飯伏幸太の活躍を期待してます!

飯伏　はい、長州さんに認めてもらえるように頑張ります!

【09年9月7日／都内某所にて収録】



いぶし・こうた■1982年5月21日、鹿児島県出身。小学5年生のときに観た平成維震軍とWARの対抗戦を観てプロレスにハマってからはプロレスごっこ三昧。途中、ラグビーやキックボクシングをやりながらも、04年7月のDDT後楽園大会でのKUDO戦でデビュー。その後は、さまざまな団体で活躍し、今年8月にKO-D王者に。181cm、86kg。

「プロレスだけでは終わらない」っていう気持ちもあります

伝説その4
飯伏幸太は



プロレス界最後のファンタジスタのトンデモ素顔とは!?

飯伏幸太 “○○らしい”伝説

今回の特集テーマは「○○らしい!?」ですが“プロレス界最後のファンタジスタ”飯伏幸太にはさまざまな「○○らしい!?」伝説があるみたいです。ドインディープロレスマニア説や謎に包まれた過去、女にモテモテとの噂まで、そのトンデモ素顔に迫ってみました!

構成／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄、乾晋也、三田佐代子

伝説その1



飯伏幸太は ドインディープロレスマニア らしい

小中学生の頃から砂浜に廃材を使ってリングを作りプロレスごっこをしまくっていた飯伏。現在はメジャー団体でも活躍しているが、その一方で偏執狂的なインディープロレスマニアとしても有名。業界内でも飯伏しか知らない団体や選手が存在するほどの情報収集力とネットワークを持っている。学プロの会場で嬉しそうに観戦している飯伏の目撃談は多い。

伝説その2



飯伏幸太は 受け身のこだわりが凄い らしい

「プロレスの魅力は『受け』だと思う」と小中学生の頃から受け身の練習は人一倍積んできたという飯伏。垂直落下式等のエグい技が飛び交っていた全日本・四天王プロレス全盛時には自ら垂直落下式に落ちる練習をしていたんだとか。後頭部から落ち続けるうちに、慣れもあってか垂直に落下してもそれほど痛みを感じないレベルまで達したという。凄いよ!

伝説その3



飯伏幸太は ゲームが大好き らしい

18禁の物騒なモノから初期ファミコンまで、ゲーム全般が大好きだという飯伏。試合中のケガも多いが、ゲームのしすぎで腱鞘炎になることもしばしば。負傷欠場中もゲームをやり続けるのが飯伏流治療法とのことで、何十時間もかけてゲームをクリアすると大量のアドレナリンや成長ホルモンが分泌され、ケガの治りが早くなると言い張っているんだとか。

伝説その7
飯伏幸太は

伝説その4

飯伏幸太は
ジブリ映画で癒されるらしい

見かけによらず（?）スタジオジブリのアニメが大好きだという飯伏。ジブリ映画の公開初日には1日中、何度も繰り返して観るというからかなりのジブリマニアと言えるだろう。「現代っぽくなく、あの自然な感じの絵に癒されてます」とジブリ作品の魅力を語る飯伏。数ある作品の中でもお気に入りは『となりのトトロ』と『千と千尋の神隠し』なんだとか。

伝説その5

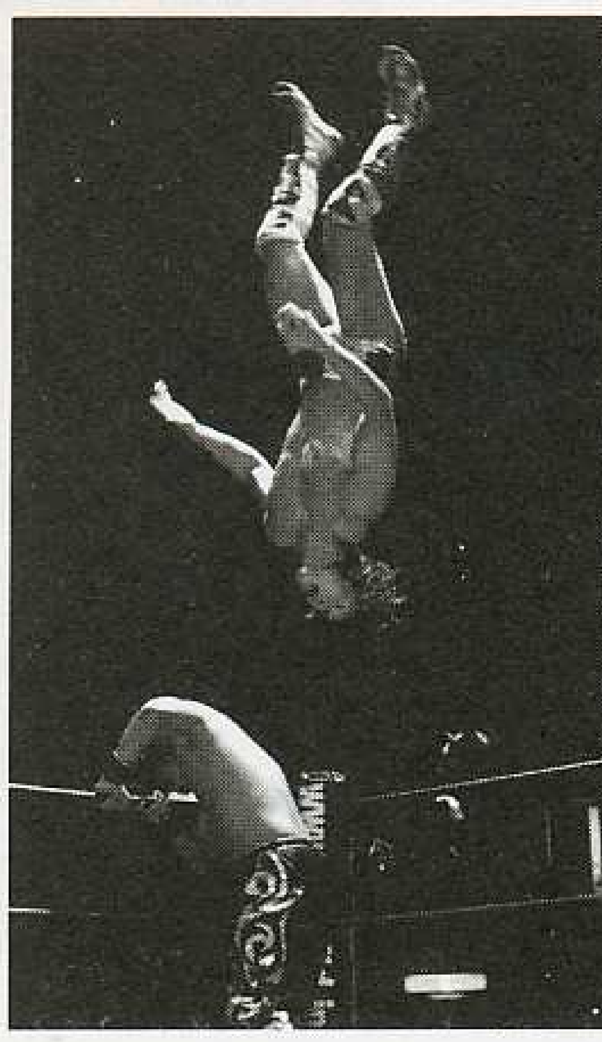
飯伏幸太は
謎に包まれた過去があるらしい

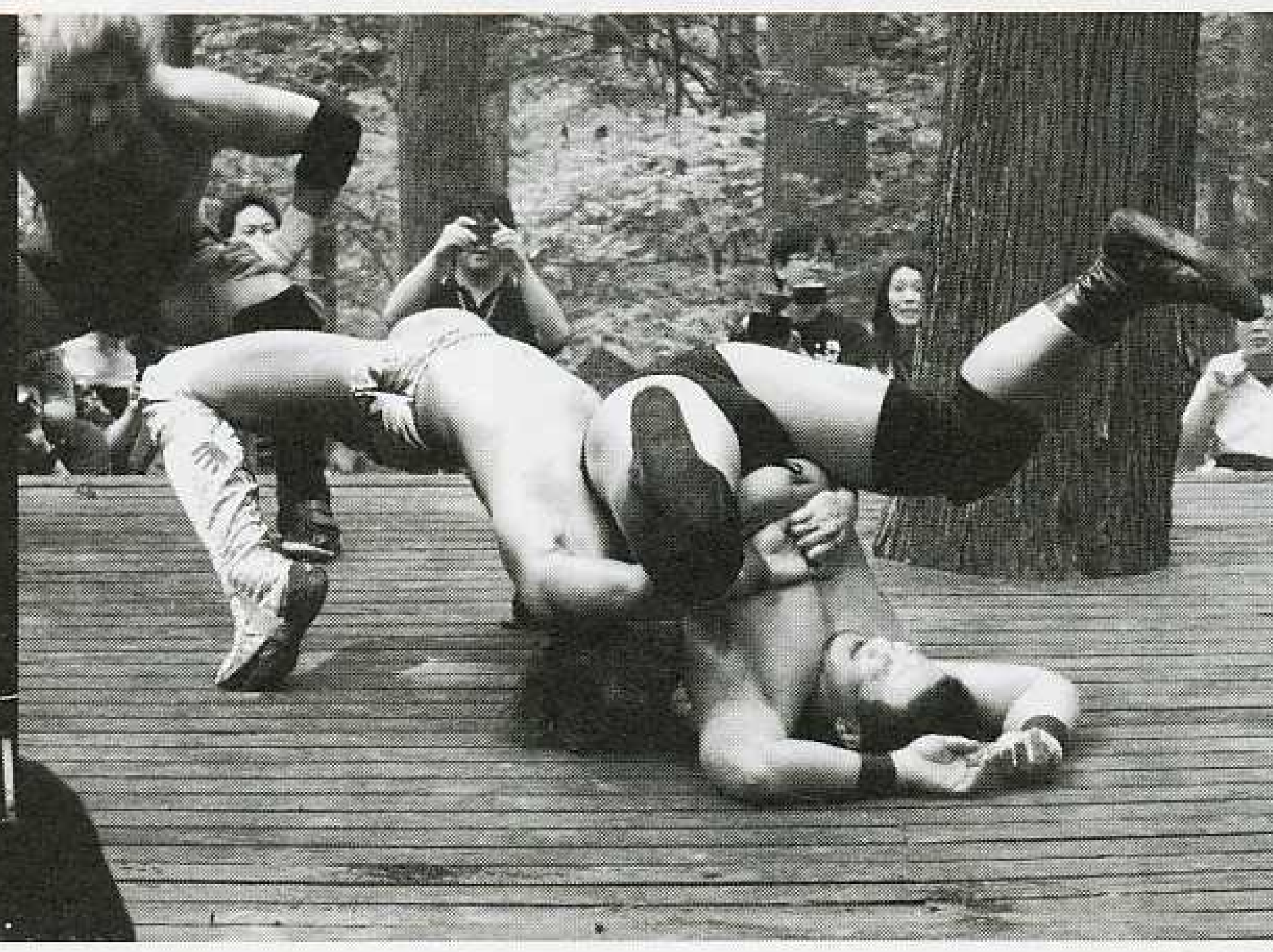
インタビュー中でもチラっと触れているが、高校卒業後、上京した飯伏はDDT入門までの約4年間の出来事は親しい仲間以外にはほとんど口を開こうとしないんだとか。マッスル坂井情報によると、その頃、飯伏はアウトローマガジン『BURST』で連載されていた写真家・吉永マサユキ氏の「若き日本人の肖像」に登場したこともあったという。怖っ⁉

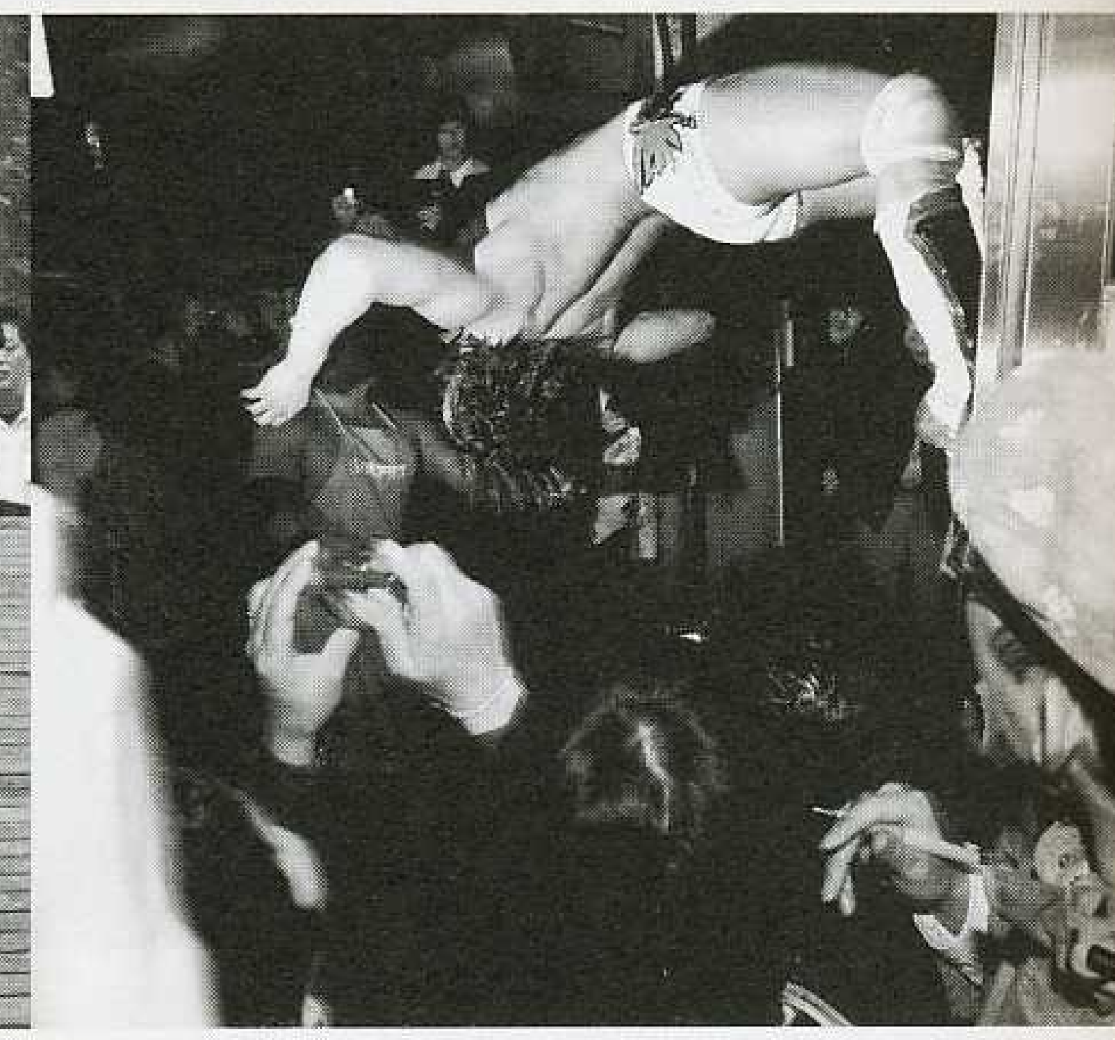
伝説その6

飯伏幸太のフェニックス・スプラッシュは
初代タイガーの影響らしい

飯伏のこだわりの技フェニックス・スプラッシュ。この技はハヤブサの得意技としても有名だが、飯伏がこの技を習得しようと思ったきっかけは、中学1年の頃に古いプロレス雑誌に載っていた初代タイガーマスクの「タイガー・トルネード・プレス」。飯伏はこの技を完成させたあと、ハヤブサの技を観て「やっぱり、この技は凄い」と衝撃を受けたんだとか。







リング上はもとより、路上でのムーンサルトやキャンプ場でのジャーマンなど、なんの躊躇もなく繰り出すのが飯伏の魅力の一つ。華麗な飛び技や威力抜群の打撃技に目が行きがちだが、本人が一番こだわっているのは〝受け身〟らしいです。

伝説その7

飯伏幸太は
カンペが手放せないらしい

先日の両国大会では「DDTはいまから出発です」と意気込みを語った飯伏だが、基本的にマイクアピールは苦手で毎回カンペを使用。そんな飯伏が今年の6月にサムライTVの『Sアリーナ』では無謀にもスペシャルMCにチャレンジ。案の定、大量のカンペを持ち込んだ飯伏は、男色ディーノを「おとこいろ・でぃーの」と読んだり悪気はないのに大暴走！

伝説その8

飯伏幸太は
肉が大好きらしい

さすがに最近はしていないらしいが、かつては食パンのあいだにハイチュウをはさんで食べていたこともあったというぐらい食についてのこだわり（?）を持つ飯伏。選手同士で焼肉屋に行った際には、肉が盛られた皿が運ばれると、自分の取り皿やどんぶりに大量の生肉を確保。その上で自分のペースで肉を焼きはじめるというのが飯伏スタイルなんだとか。

伝説その9

飯伏幸太は
とにかく女にモテるらしい

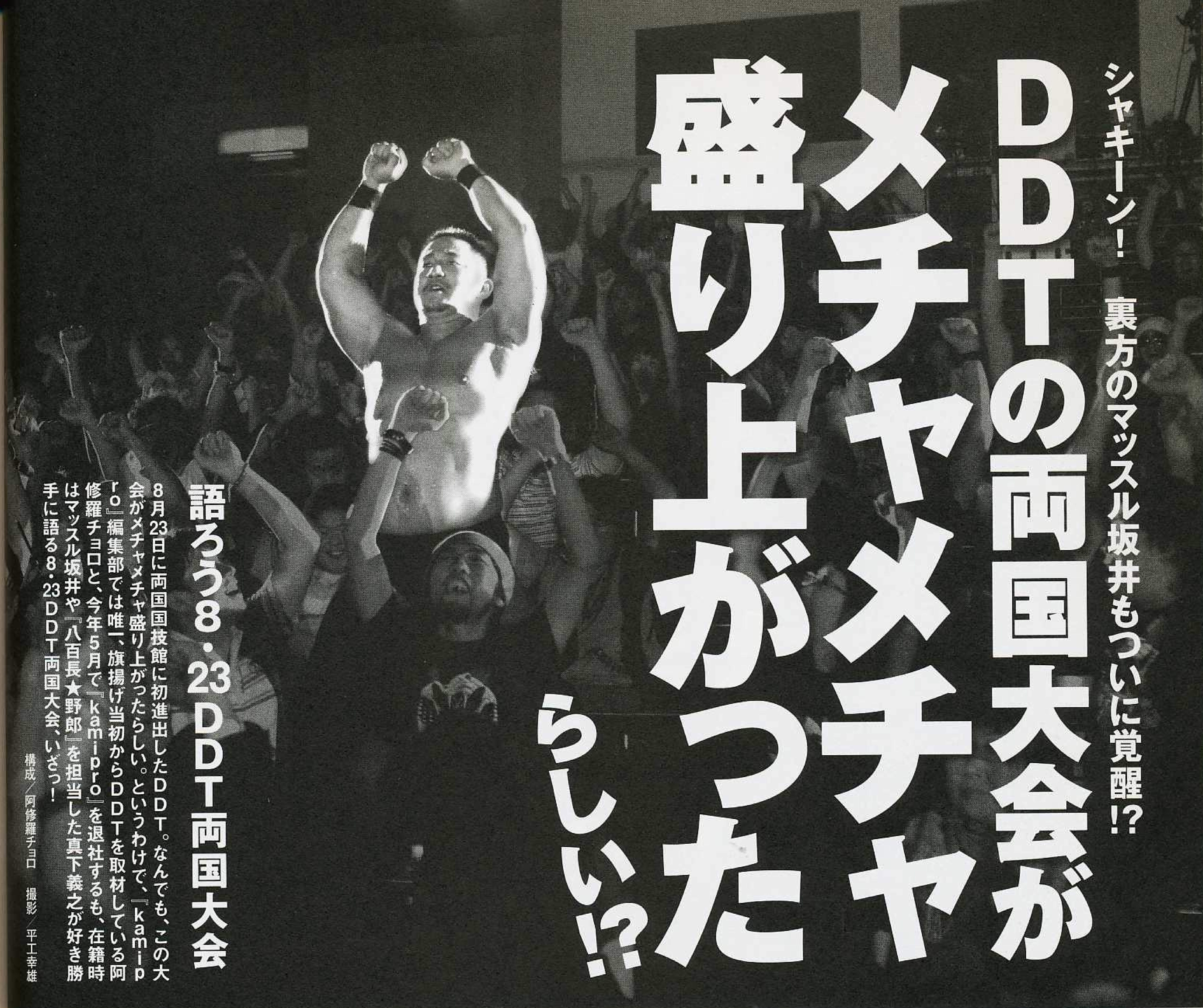
リング内外での華麗なファイトスタイルはもちろん、雑誌モデルも何度か務めたことがあるほどのルックス&スタイル、そして母性本能をくすぐりまくる性格もあってか、女性からモテモテらしい飯伏。あるイベントのオークションではデート券が○十万円で売れてしまったという。〝飯伏女〟という熱狂的なファンが存在するのも業界では有名。おわりおわり。

マッチメイクをはじめ、DDTの

か？　でも、逆にマッスル坂井の表

才映画監督がメジャー第一作を撮っ

チョロ　お互いの嫁はもちろん、D



シャキーン！　裏方のマッスル坂井もついに覚醒!?

DDTの両国大会がメチャメチャ盛り上がったらしい!?

語ろう8・23DDT両国大会

8月23日に両国国技館に初進出したDDT。なんでも、この大会がメチャメチャ盛り上がったらしい。というわけで、『kamipro』編集部では唯一、旗揚げ当初からDDTを取材している阿修羅チョロと、今年5月で『kamipro』を退社するも、在籍時はマッスル坂井や『八百長★野郎』を担当した真下義之が好き勝手に語る8・23DDT両国大会、いざっ！

構成／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄

出席者

阿修羅チョロ
本誌・編集部員。DDTは旗揚げ当初から取材し、ジャイ子が一夜限りのマネージャーデビューをはたした板橋大会もしっかり目撃。マッスル坂井の初代担当を務めた37歳。

真下義之
元本誌編集部。5月で『kamipro』を退社。在籍時はマッスル坂井の担当として、さまざまな対談企画や『八百長★野郎』などを制作。DDTは今回がほぼ初観戦の37歳。

チョロ　『kamipro』を卒業した真下さんですけど、『八百長★野郎』をはじめ、マッスル坂井さんの担当を長くやってきたのもあって、DDTの両国大会は個人的に観に行ってたんですよね。

真下　そうですね。去年、『八百長★野郎』を作ったあと、坂井さんの対談企画をよく担当してたんだけど、ちょうどDDTの両国大会を発表したぐらいで、坂井さんのこの大会への意気込みを知っていたから、必ず行こうと思ってたんです。

チョロ　両国大会開催の発表は昨年12月のDDT後楽園大会でしたね。

真下　大会まで時間はあったから試行錯誤はあったようだし、坂井さんからもいろんなアイデアを聞いたりもしてたし。

チョロ　それこそ、ディーノvsHGの学プロ対決だったり、『ハッスル』のような、いわゆる芸能人枠なんかの話も構想として出てましたよね。

真下　DDTにとっては初めての大箱での勝負だし、その大箱でマッスル坂井という人がどういう演出的な工夫をするのか楽しみで。

チョロ　ただ、DDTのファン以外にとっては、マッチメイク的に弱いんじゃないかっていうところは正直あったじゃないですか。

真下　それはありましたね。

チョロ　いわゆる、プロレス界のビッグネームといえば蝶野正洋、グレート・サスケぐらいで、あと大物と言えば一宮章一扮する武藤敬司やブル中野のニセモノぐらいだったし(笑)。

真下　でも、最終的に自分たちのコンテンツで真っ向勝負した潔さが素晴らしかった。

チョロ　スクリーンや花道で向正面を潰してたとはいえ主催者発表で8865人超満員札止め。しかも、招待や優待券はほとんど撒いていないって高木社長も胸を張ってたし。それに、マッチメイクに関しては、わりと早い段階から純血勝負というか、大物ゲストに頼らないマッチメイクを打ち出してましたよね。

真下　普通はビッグマッチの論理って、足し算で大物選手をドンドン足していくけど、そうじゃなく「自分たちだけでやるんだ」っていう打ち出しに男気を感じたというか。

チョロ　両国大会が決まってから高木さんが盛んに言っていた「限界を作るな」というメッセージのもとに所属選手が一致団結してた感じだよね。

真下　煽りVでも流れてたけど、こんな不況で元気のない時代に無謀だけどチャレンジするんだ、的な空気感がうまく出たから札止めになったんじゃないかなって。もともとプロレスってそういう普通の人にはできない無茶な生きざまや心意気を見せるものだったし。普通に考えたら、両国で飯伏幸太vsHARASHIMAがメインってのも無謀じゃないで

マッチメイクをはじめ、DDTの戦略すべてがハマった感じがする

すか？ 「若手にチャンスをあげる」っていうDDTのスタンスなんだろうけど。だから、逆にメインとかメチャクチャ緊張感ありましたよね。

チョロ 「どうなっちゃうんだ？」というか、「大丈夫か？」って意味も含めて、確かに緊張感があった。

真下 プロレスなのに、ボクは飯伏の入場を観て、ちょっと青木真也に見えたし（笑）。

チョロ それはどういう意味で？

真下 「ここでコケたらシャレにならない」っていうプレッシャーの大きさだよね。本人は「緊張しなかった」と言ってたけど、顔を見たら絶対にしてたと思う。緊張感と決意がビンビン伝わってきたもん、JZカルバン戦の青木みたいな感じで（笑）。

チョロ 飯伏は他団体で両国クラスの大舞台は経験してますけど、やっぱり自分の団体のメインとなると、さすがに緊張もするだろうし。

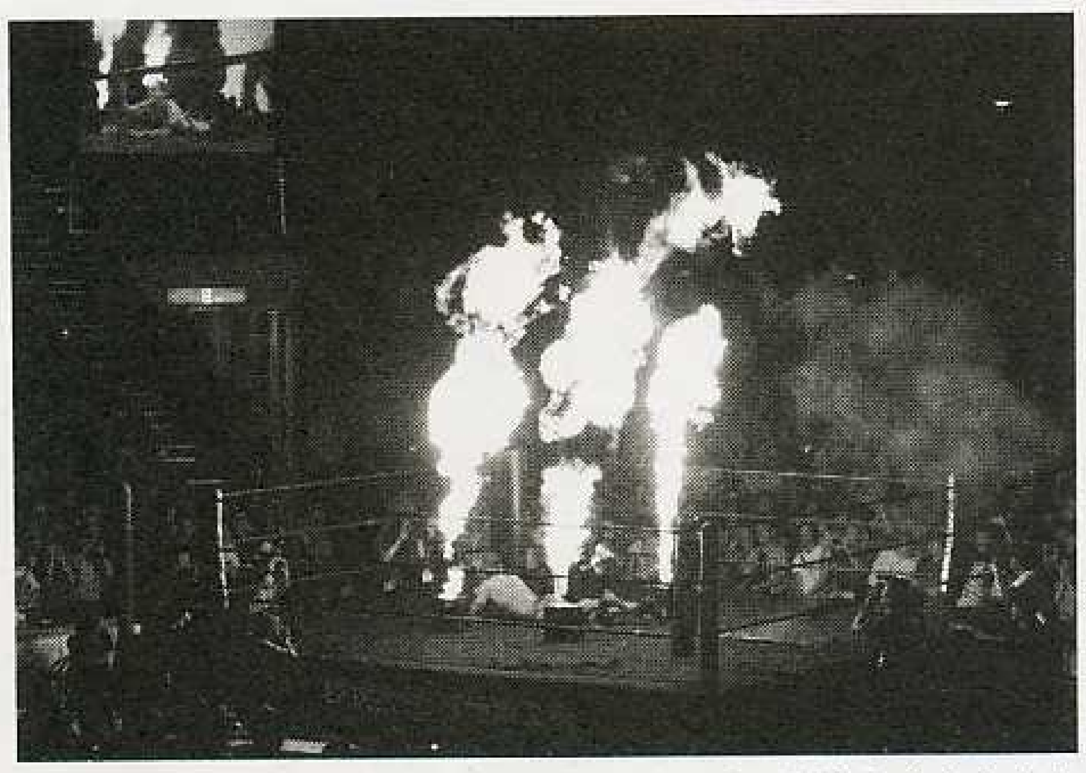
真下 飯伏が才能があるのは多くのファンが知ってるけど、それに応えたことはDDTにも凄く大きいと思う。試合をリードしたHARASHIMAも素晴らしかったし。結局、プロレス好きでもDDTに興味がない人は、スポナビの速報とか『週プロ』の表紙を見るぐらいじゃないですか？ そこで、飯伏が初戴冠でガッツポーズしてたら、「なんか新しいことが起こったのか？」って感じると思うし。そういうことも考えた上でのマッチメイクだろうし、DDTの戦略すべてがハマった感じで。

チョロ DDTという団体をアピールできた大会になりましたね。

真下 じつは、ボクはDDTはほとんど観たことなくて、『マッスル』やマッスル坂井さん目線でしか話せないんだけど、今回の大会タイトルは『両国ピーターパン～大人になんかなれないよ～』だったじゃないですか？ でも、逆にマッスル坂井の表現としては、いままでエッジの効いた『マッスル』から格段に成長してる感じがして、いい意味で「凄い大人になってるな」と。

チョロ オープニングでも大会場を意識して、わかりやすくて、かつ疾走感のあるスカパラの『ルパン三世78』をセレクトしたって言ってたし。

真下 『マッスル』でため込んでいたもの、突き詰めて試行錯誤していたものを、メジャーな大箱で展開するときにはわかりやすく見出しをハッキリさせて、シンプルだけどセンスがあるって感じで。インディーの天



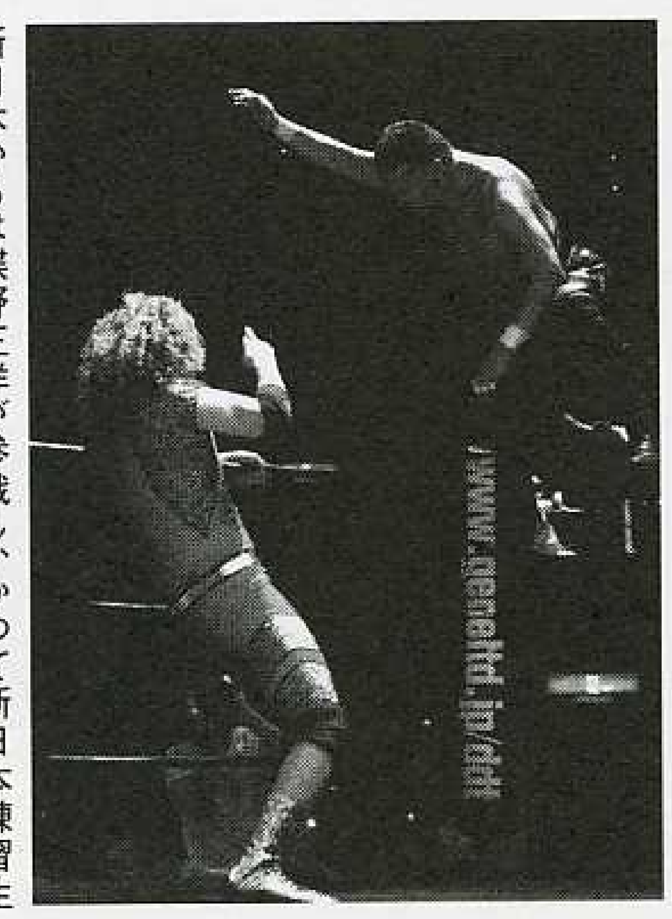
『両国ピーターパン～大人になんてなれないよ～』との大会タイトルが付けられた今大会。オープニングでは中澤マイケルの肛門が爆破され、それと同時に特効が大爆発するというド派手なスタート！



DDT初進出の両国大会のメインはKO―D無差別級王者HARASHIMAに飯伏幸太が挑戦したタイトルマッチ。試合は大熱戦の末、初公開のフェニックス・プレックス・ホールドで飯伏が勝利し、新王者に。



なんと9本ものベルトが懸けられた男色ディーノとマサ高梨の一戦。試合中に互いの心情がビジョンに映し出されたり、松井レフェリーが巻き込まれまくった試合はディーノが勝利し、9冠を統一！



新日本からは蝶野正洋が参戦し、かつて新日本練習生だったポイズン澤田と対戦。最後は呪文にかかった蝶野にポイズンが雪崩式ブレーンバスターを決めるも呪文のしすぎでパワーを使い果たし無念の敗戦。ガッデム。

才映画監督がメジャー第一作を撮ってキッチリ着地させたみたいな、痛快さがありましたね。

チョロ 坂井さんは以前から「大箱用の見せ方も自分はできる」ってよく言ってましたよね。

真下 「自分が裏方に回ったら『ハッスル』に勝てる」と言ってたこともあったから（笑）。

チョロ 今回の大会である意味、それを証明できたかもしれない。

真下 あと、中身的に言えば、今回の大会で象徴的だったのが男色ディーノの試合。

チョロ ディーノはマサ高梨と、サスケもビックリの9冠戦を敢行したわけですけど。

真下 ただ、高梨選手って失礼かもしれないですけど、そんなにメジャーな選手ではないじゃないですか。

チョロ メジャーというか、思いっきりインディー寄りの選手ですね（笑）。

真下 でも、ディーノにとっては一世一代の晴れ舞台だったし、興行的にもヘソになる重要な試合だった。どういう試合をするんだろうって思ったら、同士討ちや自爆も含めて（松井）レフェリーをこれでもかってぐらい徹底的に使いまくった。このアイデアにはうならされましたね。

チョロ ジョー樋口なんて目じゃないぐらいの巻き込まれ方で（笑）。

真下 たぶん世界初じゃない？ あの試合が今回のDDTを象徴してるって思ったのは、安易な足し算じゃなく、お金をかけなくたって身内で考え抜いてやれば絶対おもしろいことはできる、っていう気迫。もの凄くクリエイティブな感じがしましたね。

チョロ お互いの嫁はもちろん、DDTや、みちプロの所属選手がウェポンとして登場した三四郎 vs サスケ戦なんかも、いってみれば凄いクリエイティブだったし（笑）。

真下 でも、一番のクライマックスは休憩明けの「札止めになりました」って発表だったんじゃない。これで「勝った！」って感じで。

チョロ それは誰に対して？

真下 正直、いまのプロレス界って知らない人にとってはどうでもいいわけじゃないですか。

チョロ ここ最近のプロレス関連のニュースといえば、訃報か不祥事がほとんどだったし。

真下 でも、そういう外野の人に情報を届かせるには、「なんか盛り上がってるな」っていう雰囲気とか、とにかく数の論理で「超満員札止め」っていう結果を出さないと絶対に届かない。とりあえず、今回の成功でプロレスに興味のある人は無視できなくなったと思うし、「動員はいまいちだったけど、試合はよかった」ってのはプロレス村の中でしか通用しないから。

チョロ それでは広がりがないですからね。

真下 あと、今回のパンフレットで高木さんは「両国大会はDDTのプレゼンテーション」って言ってたけど、実際に「これがDDTなんだ」って世界観が今回で凄くわかったし。

チョロ そういう意味では、あらためて高木三四郎って人は凄いなっていうのは感じましたね。

真下 それは思った。あと、へんな話だけど、「高木さんって若いんだな」って（笑）。昔から活躍してるか

DDTの両国は経営や数字が上がった!?

他団体と違うのは、DDTには〝佐藤大輔〟がいるってこと



ら、もっと年が上かと思ってたけど、まだ39歳なんだよね。

チョロ　同い年の自分と真下さんの2個上ですからね。

真下　同世代なんだなって。以前、菊地成孔さんやペールワンズの井上（崇宏）さんと話したときに、いま30代後半のいわゆる〝変態世代〟ってのは消費や批評するばかりで表現に向かわない、ちょうど狭間の世代だ、と。一回り上の菊地さんや、『ハッスル』の山口（日昇）社長、自分の師匠の村上隆さんとかの世代はガンガン表現をやってるけど、30代後半ぐらいで影響力のある男のクリエイターって全然いないんですよ。その下だと佐藤大輔さんとか、それこそマッスル坂井さんとか出てくるけど。でも、高木さんを見て、「こんなに頑張ってる人がいるんだな」って。

チョロ　ちなみにサスケさんも同年代です（笑）。

真下　高木さんは、今回の両国ではベタにメインでvs蝶野とか、vs健介をやるのかなって思ってたけど、それをやらなかったのもスマートだったし。

チョロ　高木さんの憧れの存在でもあり、以前イベントで絡んだこともあるストーンコールドを本気で招聘しようとしていたみたいですし。結局、スケジュールの都合で無理だったみたいだけど。

真下　へぇ～、そうなんだ。そういう、やりたいことに直結した足し算なら、お金をかけるのは全然いいと思うし。あと、どこまでやってたのかはわからないけど、『マッスル』における鶴見亜門みたいな感じで、坂井さんが一番自分を投影している選手は高木さんだろうから、坂井さんの伝えたい気持ちを込めて、高木さんが社長や選手としてアピールしていた部分もあったと思う。実際、興行では出ずっぱりだったし。

チョロ　多少なりともそれはあったでしょうね。

真下　そのバランスもよかったし、高木さんみたいな人がいれば坂井さんも『マッスル』のように前に出て苦しまなくてもすむんだなって（笑）。「俺は高木さんのうしろでいい」っていうのが見えて美しい師弟関係だなって。結局、最後まで表には出なかったじゃないですか、坂井さんは。

チョロ　大会当日、パソコンのハードディスクがクラッシュしたのもあって、大会中も編集作業とかをしてたっていうし、ホントに裏方に徹してましたよね。

真下　「少しは出るのかな」って思ってたけど、最後まで出てこなかったから、ちょっと驚いた。

チョロ　『マッスル』のイメージがあって、演出から進行まですべて坂井さんの作品と思っている人も多いと思うんですけど、本人いわく「自分はそんなにやってないです」と謙遜して言ってましたし。確かに、坂井さん以外のスタッフの力もあっての成功だったとは思うけど。



大会当日は本部席から指示を出したり、パソコンのハードディスクがクラッシュしたため試合中も編集作業を行なったりと大忙しだったマッスル坂井。今後もDDTの裏方に専念するのかと思いきや、『ハッスル』入団とは!?



エンドロールに合わせ、対戦者同士がカメラの前でポーズを決めるというエンディングのあとには、来年の7月25日に2年連続で両国大会が決定したというサプライズがビジョンに映し出され、最後の最後も場内は大爆発!

真下　もちろんそうだよね。DDTの結束力というか、チームワークがホントにいいのにも感動したし、それはエンディングにも凄く現われてたなって。

チョロ　あのエンディングもよかったですね。簡単に説明すると、映画でいうところのエンドロールに合わせて、バックステージで対戦した同士が次々にカメラの前に登場して、最後はみんなが集まって楽しそうに拳を突き上げるという。坂井さんいわく、1週間前に同じく両国のG1で優勝した真壁さんのビールかけをイメージしたみたいですけど。

真下　そうなんだ（笑）。でも、バックステージでベビーもヒールも楽しそうにワイワイやってたのを見せたっていうのは意外と凄いことだなって。

チョロ　なんだか凄く楽しそうだなっていうのは伝わってきたけど、要はプロレスの控室だし（笑）。

真下　今年はバックステージの様子も描いた映画『レスラー』が公開されて、一部のレスラーや関係者を除いてプロレス界は反応しなかったけど、初めてアンサーみたいなものが出てきたなって。逆に、あそこに蝶野さんだけ出てこなかったのもよかったし。

チョロ　蝶野さんが出てなかったのは見方によっては意味深でしたけど、誰よりも『レスラー』にインスパイアされているサスケさんによれば「おそらく、深い意味はなく、出番が終わったから帰っただけ」と（笑）。

真下　そうなんだ（笑）。

チョロ　サスケさんは「自分は古いタイプのレスラーなんで、バックステージを映すのはあまり感心はしない」とも言ってましたね（笑）。

真下　でも一方で、今回、みちのくやバトラーツみたいにインディーが大会場に進出して、そこで弾けるんじゃないか、みたいな見方もあるじゃないですか。

チョロ　バトラーツなんかも、両国は成功したけど、そのあとが尻すぼみになってしまったし。

真下　でも、エンドロールのあとで、次回の両国大会を発表したのは、「ちゃんと先のことまで考えてるぜ」って感じで、最後まで考え抜かれていた。あれはDDTの総意かもしれないけど、やっぱり坂井さんの貢献度は大きいだろうし、言ってみればDDTの佐藤大輔だよね（笑）。

チョロ　マッスル坂井がついに佐藤大輔になった（笑）。

真下　ホント、みちのくやバトラーツと違うのはDDTには佐藤大輔がいるってことだと思う。もちろん坂井さんだけじゃないでしょうけど、しっかりした演出チームがあるってのは大きいなって。選手や関係者も坂井さんを信頼してるんだろうなって感じたし。今回の両国でDDTがどういう団体かが伝わった。初めて観戦した人も「次も観たいな」って気持ちになったと思いますよ。

チョロ　そういう意味でも、高木さんが言っていた「プレゼンテーション」っていう意味では今回の両国大会は大成功だったと言えるでしょうね。逆に『マッスル』はこれからどうなるんだろう（笑）。

真下　あの大会を観たら、『マッスル』はもうやる必要ないんじゃないかって。『マッスル』より、DDTの続きのほうが観たい気分ですね。

チョロ　『マッスル』に関しては、それこそ坂井さん次第なんでしょうけど、どうやらマッスル坂井は、これから〝ハッスル坂井〟として『ハッスル』に上がるみたいなんですよ。

真下　え～っ、そうなの!?　『ハッスル』はいったいどこに向かってるんだ（笑）。

【09年9月2日／都内・某所にて収録】

女子格闘家にカワイイ子が増えているらしい!?



16ページ大特集!!

強くてカワイらしい新世代女子格闘家に注目!!

ボンヤリと女子格闘技を観ていた人に朗報です!!　なんと、いつのまにか気がついたら、カワイくて強い子が増えていた!?　そんな夢のような状況が生まれつつあるんです、本当に!!　というわけで、女子格闘技の強くてカワイイ子たちのインタビュー、さらにはそんな状況に興奮する中年二人の鼻息などを中心にお届けします!!

撮影／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

なす術もなく1ラウンドKO負けを喫してしまった。





女子格闘家
カワイイ子
増えている

北米MMA界人気ナンバーワンファイターは女性らしい

Gina Carano

ジーナ・カラーノ

たった一人でUFCに対抗できる女戦士

いまや世界のMMAを制圧したかのようなUFC。
しかし、アメリカで一般層に最も訴求力を持つMMA選手はUFCファイターではない。
人気絶頂の美女ファイター、ジーナ・カラーノこそ、北米の"ミスMMA"なのだ。
はたしてジーナはどのようにして、そこまでの影響力を持つようになったのか。
女子格闘技の枠を大きく超え、MMAの枠をも超える勢いのジーナ人気に迫ってみた。

文/高橋ターヤン　撮影/Esthe Lin(STRIKEFORCE)　構成/堀江ガンツ









GINA CARANO■1982年4月16日、米国テキサス州出身。抜群のプロポーションと美貌で大人気を誇る女子ファイター。ムエタイをベースに06年MMAデビュー。エリートXC等で無敗の快進撃を続けるが、今年8月15日、ストライクフォースのメインイベントでクリスチャン・サイボーグに初黒星を喫した。MMA戦績7勝1敗。173cm、64kg。

北米MMA界の存亡はUFCとジーナ・カラーノが握っている。

いきなり強烈な出だしで恐縮だが、ジーナ・カラーノという女性MMAファイターは、いまの北米MMA界ではたった一人の存在だけでUFCと同列に語られるほど、その存在価値は巨大なのだ。

世界一強いわけでもなく、世界一美しいわけでもない、たかだかいち女子MMAファイターが、なぜそれほどまでの影響力を持ちえているのか。今回はその辺りを掘り下げてみたい。

ジーナは1982年にテキサス州ダラスで、元ダラスカウボーイズのクォーターバックであったグレン・カラーノ（のちにネバダ州アスレチックコミッション勤務）の3人姉妹の真ん中の娘として生まれた。ラスベガスの高校を卒業後、ネバダ州立大学に進学。そこでは心理学を学びながらバレーボールとソフトボールの選手として活躍していた。

ジーナに転機が訪れたのは、その大学在学中のこと。81キロまで太ってしまったジーナは、ダイエットのためにムエタイを始める。本来の目的を忘れてムエタイに夢中になったジーナは、プロのムエタイファイターとしての活動を開始。本場タイでも試合をするなどして12勝1敗1分という好成績を残した後に、『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』で大ブレイクしたUFC人気に沸くMMA業界へと転向する。そしてネバダ州アスレチックコミッションに認可された最初の女子MMA選手となったジーナは、2006年6月にローカル団体でプロMMAデビューし、1ラウンド秒殺KO勝ちという鮮烈なデビューを飾った。

その後も連勝を続け、新興団体エリートXCとの契約を結ぶことに成功。エリートXCはCBSによる地上波放送という北米MMA史上初の快挙に、世界一有名なストリートファイターであるキンボ・スライスと、女子MMA界随一の美貌を誇るジーナを投入。その放送は、北米MMA史上始まって以来の視聴者を獲得し、ジーナのネームバリューは一気に上がったのだった。

同時期にリアリティー番組の『アメリカン・グラジエーター』（プロスポーツ選手と戦う、アメリカ版『筋肉番付』）に女戦士「クラッシュ」役で出演。またアメリカのグラビア誌『マキシム』の選出するアメリカで最もホットな女性ベスト100の16位に選出されたり、ペプシコーラのCMキャラクターに起用されるなど、単なるMMAアイドルとしての枠を超えた人気と名声を得ていく。しかし2009年8月、本業のMMAで無敗を誇っていたジーナは、ついに挫折を味わうことになる。

北米MMA界の存亡はUFCと
このジーナ・カラーノが握っている

今年8月15日に開催されたストライクフォース、サンノゼ大会は、北米のメジャーMMAイベントとしては初めて女子の試合がメインに組まれた大会だった。相手はクリスチャン・サイボーグ。日本でもPRIDEや『戦極』で活躍したエヴァンゲリスタ・サイボーグの奥方で、夫同様ゴツイ肉体に肌を覆う刺青がトレードマークの武闘派ファイターだ。当然、闘いの構図は、ヒロインのジーナにヒールのサイボーグが挑むかたちとなった。しかし全米の視聴者の願いもむなしく、ジーナはサイボーグの暴力的かつ圧倒的な攻勢の前になす術もなく1ラウンドKO負けを喫してしまった。

しかしジーナの人気はいまだ衰えず、むしろサイボーグにボコボコにされたジーナへの同情的な人気は高まっていると言える。ジーナは『アメリカン・グラジエーター』などでの露出によって、全米的な人気者となってきたのだが、彼女はいわゆるアメリカ人の好むステレオタイプの女性ではない。アメリカで好まれる女性像は、金髪碧眼で、グラマーで、チアリーダーで、あまり頭が良くなく……といったステレオタイプであるのだが、知的かつスポーツ万能で黒髪のジーナはそれからはかけ離れた存在なのだ。ではなぜジーナは絶大な人気を獲得するにいたったのだろうか。

ジーナは典型的な「ガール・ネクスト・ドア（隣の家のお姉さん）」なのだ。すべての面において平均点を大きくクリアしながら、最高点を獲得しているわけではない。自分にも手が届きそうな、全米の視聴者にとってジーナはそんな存在なのである（個人的にはジーナの人気の秘密は「萌え」にあるのではないかと想像するのだが）。暴力性を誇示し、男勝りで刺青だらけの女子MMAファイターが多く登場する中で、ジーナの存在はその対極に位置し、そして際立っている。

そんなジーナの芸能面の活動としては、アカデミー賞監督であるスティーブン・ソダーバーグの新作『ノックアウト』に主演するというニュースも飛び込んできている。しかしそんなニュースよりMMAファンとしては、初めての敗戦を喫したジーナが、はたしてどのような復活ロードを歩むのかが楽しみで仕方がない。僕らの知っているジーナは、やられてそのまま済ますようなタマじゃないからだ。

——優勝おめでとうございます。
レーナ　言うことないですね！　凄く嬉

たね。原因は家族のことです。両親のこと
で……。

強くてかわいいSBのエースは現役バリバリの



格闘技をやっていなかったら不良か引きこもりですね（笑）

女子格闘家にカワイイ子が増えているらしい!?

強くてかわいいSBのエースは現役バリバリの

女子高生らしい!?

Girls S-cup2009優勝

RENA

8月23日に品川ステラボールで開催された『Girls S-cup』にて女子格闘技の新世代を担う"強くてかわいい＝ツヨカワ"な選手たちが集結、シュートボクシングルールで1dayトーナメントを行なった。本命のRENA（レーナ）には現役女子高生のエースということで、地上波放送のスポーツニュースや『FRIDAY』での水着グラビアで取り上げられて試合前から注目度は急上昇!!　そんなプレッシャーがかかる中で優勝を勝ち取ったのだ。女子格闘技の新世代スターがどんだけ凄いのか、優勝した直後に打ち上げ会場で話をうかがってきました。

聞き手／坂井ノブ　撮影／梅木麗子　試合写真／丸山剛史



―優勝おめでとうございます。

レーナ　言うことないですね！　凄く嬉しいです。

―大会前から強気なコメントをしてましたけど自信はあったんですか？

レーナ　自信マンマンでしたね（笑）。誰にも負けない練習量をやってたという自信がありましたから。地元の及川道場でもやってたし、シーザージムでも合宿しましたし。一日中練習でした。

―男性とも練習を？

レーナ　はい。そこまでガチガチにじゃないですけど、普段も男性相手の練習がほとんどです。及川道場で一緒に練習できる女の子は二人だけで、もう一人は中学生なんです（笑）。

―中学生ですか（笑）。

レーナ　でも、その子は本当に凄い天才なので、将来的には私より強くなると思います。

―優勝直後にはお母さんもリングに上がって、レーナさんも号泣してましたね。

レーナ　まあ、昔は親に凄く迷惑をかけてたんで。引きこもりで、周囲にも迷惑かけたんですけど、そんな中でも見捨てずに見守ってくれてたんで「ありがとう」という気持ちでしたね。

―じゃあ、優勝した瞬間はつらかったいままでの人生の記憶がフラッシュバックしてきた感じですか？

レーナ　そうですね。すべてが頭の中を駆け巡りました。格闘技をやってなかったら、こんなに皆さんに必要とされることもなかったし、たぶん、いま頃不良とかになって逆に迷惑をかけてたりして（笑）。

―いつ頃、引きこもりだったんですか？

レーナ　小学校5～6年生がピークでしたね。原因は家族のことです。両親のことで……。

―リング上では「私は何で生まれてきたんだろう？　って考えた」と凄いことを言ってましたが、それもその頃ですか？

レーナ　そうですね。「私はこのままどうなるんやろ？　なんで生まれてきたんやろ？」って考えてました。凄くつらかったですね。

―格闘技を始めたのは？

レーナ　小学校6年生の頃です。私、お姉ちゃんが3人いて4人姉妹の末っ子なんです。末っ子ってバシバシにやられるじゃないですか？　私、けっこう生意気なんで（笑）。凄くボコボコにされて、「こいつ、いつかシバいたんねん！」って思って、いろんな道場を見に行ったんです。寸止め空手の練習も見学したけど、そんなん本当の強さとは違うと、自分の中で思いまして。

―寸止めじゃ満足できませんでしたか。

レーナ　「止めてるやん？　型やろ」って思いまして。いまのシュートボクシングの及川道場に行ったときに、ガチガチじゃなくて楽しく笑って顔面も叩いてるんで「ここや！」と思いました。

―格闘技を始めてからは引きこもりも解消したんですか？

レーナ　そうですね。引きこもりだった頃は昼夜逆転した生活をしてるから、戻すのに時間がかかったり、学校を休んでたから人づきあいとか勉強の部分でも成長してなかったし。苦労しましたね。

―そんなときにお母さんはどんな支え方をしてくれたんですか？

レーナ　見捨てずに声をかけてくれたり、見守っててくれたんです。でも、それに気づいたのは最近ですね。自分が一番つらいんやと思ってた部分があったから。

―周りを見る余裕もなかったというか。格闘技を始めて、わりと早い段階から注目を集めてたんですよね？

レーナ　グローブ空手をやって、40戦で1敗しかしてないですね。中学2年生から相手がいなくて、一般の部に出て3連覇してました。その頃からシュートボクシングのプロになれとは言われてたんですけど、やっぱりプロ選手を間近で見てるだけに厳しいというのはわかってたんで……。でも、プロデビューが可能な16歳に近づいてくると「やっぱりやろうかな」って。

―プロになってみてどうでした？

レーナ　アマチュアとプロは全然違うなって思いました。結果がすべての世界ですからね。アマチュアは練習しなくたって参加料を払えば試合に出られるじゃないですか？　プロはお金をもらって試合をするから、ヘタなことはできないし、責任がついてくるんで。

―16歳でプロデビューとなると、お金の感覚もないですよね？

レーナ　試合してお金がもらえるなんて！　っていう感じでしたね（笑）。でも、負けたんで「あぁ……」って感じでした。アマチュアでいい成績をおさめてたんで、天狗の鼻をボキッと折られましたね。

――初めての挫折ですね。

レーナ　そうですねぇ。でも、負けた試合では自分の弱い部分がわかるんで。たとえば、昨年11月さいたまスーパーアリーナの『S―cup2008』のMIKU戦では投げ技の対応が甘くて負けてしまいましたし。それはもう克服しましたけど。一戦一戦、修正してますから。

――あの試合はMIKUさんの投げが決まって、判定負けでした。

レーナ　いまはあの試合に負けてよかったと思います。あのとき負けたから今回のトーナメント1回戦（吉田正子戦）でも投げられたし、ずっと投げで勝ちあがってきたV一さんに決勝では投げられずに勝てたし。いまは体重94キロの柔道の先生に投げを教えていただいてるんで、それは凄い自信になりました。坂本先生という方に教わってるんですけど、高校時代の秋山成勲さんと柔道で1勝2敗でライバル的存在だったんですね。

――魔王のライバル！　凄まじく強そうですね。

レーナ　先生にはヒョイッと持ち上げられちゃうんですけど、最近はこらえられるようになってきたんで自信はだいぶつきました。それでもMIKU戦のトラウマがあって試合中は投げが怖かったんですけど、今回のトーナメントで克服できました。だからMIKU戦の負けもいまにして思えば意味があるなって、意味のない試合はないなって思いました。おもしろいですねぇ（笑）。

――そりゃおもしろいと思いますよ。自分が強くなってるのを実感して、結果も出したし、お客さんもレーナさんを観に来てるし。楽しくてしかたないでしょう（笑）。

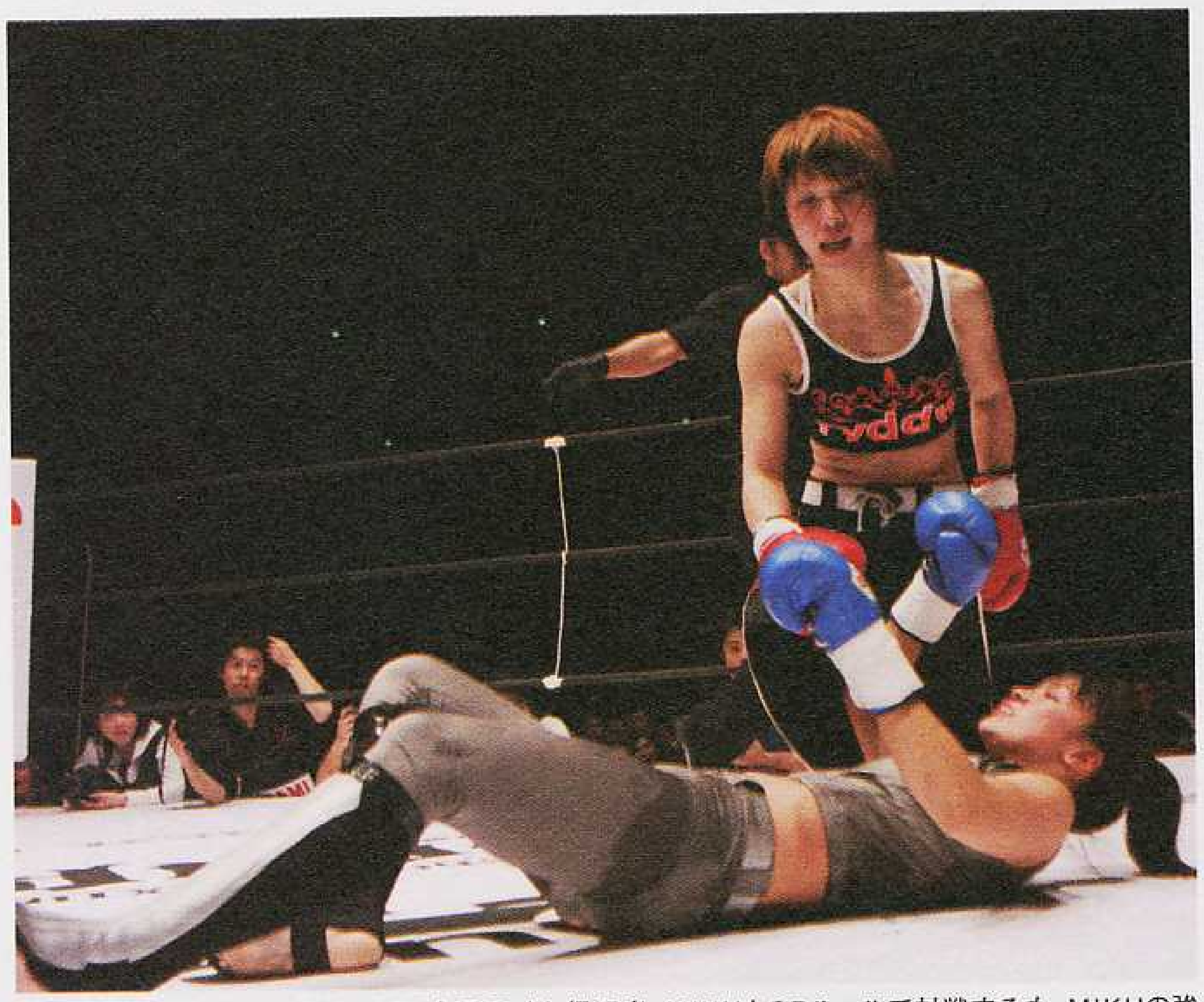
レーナ　ファンの方に応援していただいてるのは凄く力になってますね。ブログのコメントにも励まされます。

――活躍の場も広がって今年はK―1韓国大会でイム・スジョンと対戦しましたね。

レーナ　飛行機に乗ったのも初めてだったんでワクワクでした。アウェイだけど気持ちよかったですよ。絶対に噛ませ犬で呼ばれてると思って行ったんで、「おまえら見とけよ、噛みついたんねん」って思ってました（笑）。そのときから入場テーマ曲をいまのものに変えたんです。

――「♪絶対負けない～」って曲ですね。あれ、誰の曲なんですか？

レーナ　エイジアエンジニアさんです！あまり有名じゃない曲かもしれないですけど、及川先生の誕生日のときに子どもたちがCDをプレゼントしたんですよね。



08年11月『S-cup2008』でDEEP女子ライト級王者・MIKUとSBルールで対戦するも、MIKUの強烈なヒザ蹴りと投げ技が炸裂。この敗戦にレーナは控室で号泣して出直しを誓った。

RENA

それを聞かせてもらって、「うわ、これや！」って（笑）。いままでずっと暗い曲を使ってて、ずっと緊張してたんですよ。あの曲に変えてから試合が楽しくてしかたないんです。

――ああ、確かに『Girls S―cup』でレーナさんは誰よりも楽しそうにリングに上がってましたもんね。入場曲に合わせて歌ってたし（笑）。たぶん、レーナさんの中にはいろいろネガティブな部分もあると思うんですけど、そういう部分が入場とか試合にはまったく出てなかったですもんね。

レーナ　あの曲に変えてからは楽しくて、はっちゃけちゃうんですよ。試合前も口ずさんだりしてリラックスしてます。

――いま女子総合格闘技の『ジュエルス』とシュートボクシングが提携して交流も始まっています。レーナさんも『ジュエルス』のリングに上がってSBルールで試合をしてましたよね。総合格闘技の人たちと組んでやっていくというのはどうですか？

レーナ　女子の格闘技選手というのがあまりいないので凄くいいと思います。一緒に盛り上げないと、女子が盛り上がっていかないし。女の子だからという部分でへんな目で見られる部分も絶対にあるじゃないですか。でも、そこで終わってほしくないですから。世の中のいろんな人に「女子格闘技っておもしろいんだよ」って、もっと伝えていきたいです。

――いずれは総合をやりたいとか、そういう希望はあるんですか？

レーナ　それはないです！（キッパリ）。総合って怖くて観られないんですよ。腕をバキッていったりするでしょ？

――でも、立ち技もバーンって派手にダウンしたりしますよね。

8.23『Girls S-cup』レーナ優勝までの軌跡ダイジェスト



一回戦から決勝までレーナは総合格闘家と3連戦！　一回戦の吉田正子には自分の距離を保ってパンチとキックを入れ、フロントチョークと首投げでシュートポイントを獲得して判定勝ち。



シーザージムの高橋藍を大差の判定で下して勝ちあがってきた『ジュエルス』のエース・石岡沙織と激突!!　3Rに石岡が肋骨を痛めてしまいタオル投入。TKOでレーナが決勝進出した。



一回戦から投げまくって勝ち上がってきたV一との決勝戦では、組み付いてくるVとレーナの打撃が交錯。一度も投げられることなく判定3―0で勝利が告げられた瞬間に号泣した。



お母さんを呼び寄せ、「昔は引きこもりで迷惑をかけました。ここまで育ててくれて、この姿を見てくれて嬉しいです。これからもよろしくお願いします」と頭を下げた。いい子です！

レーナ　それは一瞬だからいいんです。
関節技って精一杯こらえてるのに、その腕

です！　やっぱり私は格闘技の女子選手
だし、グラビアをやりたいかっていったら

べないんです。宿泊費も交通費もかかる
んで、大きい大会にしか来てとか言えない

って、それに向かって頑張ってる私を羨ま
しいと言ってくれるんで、凄く嬉しいです

水着グラビアは後悔してないです！ でも、もう水着は着ないと思います

レーナ　それは一瞬だからいいんです。関節技って精一杯こらえてるのに、その腕を無理やり伸ばして極めたりするじゃないですか。あと、昔はプロレスをテレビでやってるのを観て泣きましたもん！

――なぜ！（笑）。

レーナ　あんな投げられて落ちるのとか無理です。

――シュートボクシングにも投げはありますよね？

レーナ　でも、リングの外に落とすことなんてないじゃないですか！（笑）。

――ああ、ノアですかね。そりゃ無理ですね（笑）。やっぱり立ち技が一番自分に合ってるって感じですか？

レーナ　そうですね。シュートボクシングは突っ込んでいくだけじゃ勝てないんです。攻めも、守りも、投げも、すべてができないと勝てないリングなんで。

――そこで今回、最高の結果を残して注目されますよね。地上波放送のスポーツニュースやワイドショーで特集されたし、『FRIDAY』に水着グラビアで登場したりして、今後も露出度が上がってくると思うんですが。

レーナ　（さえぎって）水着はもう着ないです！　やっぱり私は格闘技の女子選手だし、グラビアをやりたいかっていったらそんなことないし。『FRIDAY』に出させていただいたのは凄く嬉しいことなんですけど。

――あれは反響は大きいと思いますよ。

レーナ　後悔はしてないです！　でも、もう水着は着ないと思います。お母さんが心配しちゃうんで（笑）。まだ子どもですから。

――お母さんは娘が格闘技をやっている！　ということは心配してないんですか？

レーナ　今回は私が頑張っている姿を見てるだけに、「負けたときにへこむ姿を見るのが怖い」とは言ってました。東京で試合することがほとんどなので、なかなか呼べないんです。宿泊費も交通費もかかるんで、大きい大会にしか来てとか言えないんですよね。



れーな■1991年6月29日、大阪府出身。シュートボクシングで活躍しGirls S-cup2009優勝。中学時代からグローブ空手で活躍。07年にプロデビュー。及川道場所属、160cm、52kg。

――昔、レーナさんが引きこもってた頃のお母さんは黙って見守っていたんですよね？　プロで活躍するようになってから、レーナさんがヘコんでるときはどんな感じで声をかけてくれるんですか？

レーナ　「心配や」「怖いわ」って言ってくれるんで、昔とは違いますね。私も「大丈夫や」って答えられるようになってるし（笑）。

――昔、さんざんケンカしていたお姉さんたちはどんな感じですか？

レーナ　去年の『S-cup』にはお姉ちゃん二人と甥っ子、姪っ子、お母さんも来てくれたんです。そこから変わりましたね。以前は私が生意気なこと言うと、すぐにお姉ちゃんがケンカ売ってきてたんですよ。

――プロになってからも？

レーナ　そうですね。でも、『S-cup』のあとに「凄いねんな。感動したわ」って、一つ上のよくケンカしてたお姉ちゃんがメールを送ってくれて。最近は私が生意気なことを言っても、流してくれるというか、凄く優しくなりました。

――家族の中でようやく居場所を勝ち取った感じですか？

レーナ　お姉ちゃんに手は出しちゃいけないんで……。そうですね、勝ったなって思います（笑）。

――お姉ちゃんに勝ちたいっていう思いは、レーナさんにとって闘い始める一番大きい動機でもあったわけじゃないですか。

レーナ　あらゆる部分でお姉ちゃんに負けてたんで、お姉ちゃんにないものを持とうと思ってたんですよ。いまは目標があって、それに向かって頑張ってる私を羨ましいと言ってくれるんで、凄く嬉しいですね。

――今後の目標は？

レーナ　今回で話題性だけではないということが証明できたと思うんです。いままでは女子高生がエースということで雑誌とか出させていただいたんですけど、話題性だけやろ？　と思われてた部分もあったと思います。これからはアンディ・サワーさんや緒形（健一）さんのように、シュートボクシングのチャンピオンは強いんだということをもっと証明していきたいですね。

――しかし、女子高生とは思えないほど発言が立派ですよね。

レーナ　いえいえ（笑）。やっぱり一番になるということは、同時に責任もあるじゃないですか。先頭に立つのは一番しんどいことなんですけど、立てない人の方が多いですから。自分ではつらいと思うこともありますけど、その責任は幸せなことだなって思います。そのぶん期待していただいているということだと思うので、凄く嬉しいです。

【09年8月23日、東京・パセラリゾート銀座店にて収録】



打ち上げ会場ではパセラ名物ハニートーストを杉山しずか（禅道会横浜支部）とともに「いただきまーす!」。女子格闘技にかわいい子が確実に増えてますよ!

掟

映画『スリーカウント』は新人女子プ

勝敗だけが気になっちゃって。

で背負い投げのトレーニングとか。

かないよねぇ?」って。



女子格闘家にカワイイ子が増えているらしい!?

女優もプロレスも格闘技も
とにかく一番になりたい

アイスリボンで映画主演女優が活躍してるらしい!?

掟ポルシェの萌え萌え女々花DX

女優兼プロレスラー、ときどき格闘家
志田光

た、大変だ〜〜〜!! かつて小学生レスラーや元ひきこもりレスラーをデビューさせてきた超絶女子プロ団体アイスリボンに、女優と格闘家も兼務する凄い新人がやってきた! プロレス映画『スリーカウント』でいきなり主役を演じた志田光選手が、のっけからアイスリボンと女子プロレスの未来を背負って立つ宣言ですよ!

構成/阿修羅チョロ 撮影/丸山剛史

柔道は県でベスト8で、剣道は高校時代に県で3位になったのが最高です

掟 映画『スリーカウント』は新人女子プロレスラーの物語ですけど、いきなり主役に抜擢されたんですよね。元々タレント活動はされてたそうですけど、それまでに主演の仕事は？

志田 まったくないです。それまでは隅にいる人の役で（笑）。

掟 グラビア的な仕事は何かやってたんですか？

志田 いや〜、ないですね。映画とかCMとか……。

掟 デカい仕事ばっかりじゃないですか！

志田 いや、その隅にいる人でした（笑）。

掟 でも、今回はセリフも多いだろうし、いきなり主役は大変ですよね。

志田 セリフを覚えるということが初めてだったんで。でも、台本を何度も繰り返し読むと知らないあいだにセリフが頭に入ってるというか。

掟 役者に向いてますよ！

志田 年齢も性格も役と近かったんで。家庭環境も役と似てて、私にも妹がいるんですよ。

掟 格闘家の家系なんですよね。お父さんが柔道の国体選手だったと。

志田 兄弟4人、全員柔道をやってましたね。あと、剣道も。中学に柔道部がなくて、武道つながりで剣道でいいかなって（笑）。

掟 とにかく武道がやりたかった。

志田 はい。チームプレイがあまり得意じゃないので、団体戦より個人戦のほうが好きでした（笑）。団体戦やっても自分の勝敗だけが気になっちゃって。

掟 自分勝手ですね〜。でもそこがプロレスラー向きです！ 戦績は？

志田 柔道は県でベスト8で、剣道は高校時代に県で3位になったのが最高です。

掟 柔道の世界は厳しかった？

志田 お父さんが常に目を光らせてたんです。通ってた道場は小さい子が多くて、みんなでワイワイやってたんですよ。お父さんがたまに練習を見に来るんですけど、壁の影でこっそり見てて（笑）。

掟 『巨人の星』でいうと星明子ポジションですね（笑）。



こちらが志田が主演を務め今年6月に公開された『スリーカウント』のポスター。すでに都内での上映は終わっているが、10月24日から大阪の『シネ・ヌーヴォX』にて上映が決定! 詳細は以下のHPを参照→ http://3count.ne07.jp/

志田 気づかないで小さい子たちと一緒にワイワイやってると、あとで「バコーン」って殴られて「何をふざけながらやってるんだ！」って言われて。

掟 あ、明子から急に一徹に（笑）。鉄拳制裁！ 昭和です！

志田 家に帰ってからも、布団を敷いて技の練習をしてました。二段ベッドにも自転車のチューブが結び付けてあって、そこで背負い投げのトレーニングとか。

掟 ミスター高橋も推奨しているチューブトレーニングを！ じゃあ、いつでもプロレスラーになれる環境はあったわけですね。

志田 そうですね。

掟 家庭環境的にプロレスに対してはどうだったんですか？

志田 喜んでましたよ、「プロレスやんの⁉」って。私は観たこともなかったんですけど、お父さんはテレビをつけたらプロレスをやってる世代だったんで、小さい頃からプロレスごっこをやってたみたいで。私もアントニオ猪木とかは知ってるけど、試合を観たことはないし。

掟 志田さんが子どもの頃は既に対戦相手が人間じゃなくなって、国会に卍固めしてました（笑）。

志田 始めた頃はお父さんのほうが技とか知ってて「光、教えてやるよ」って。やたらノリノリでした（笑）。

掟 この映画でプロレスラーデビューすることになるのは、最初からわかってたんですか？

志田 普通のオーディションだと思って行ったら、そこで「プロレスラーになってもらいます」って言われて（笑）。

掟 『電波少年』みたいな展開ですね。「明日からプロレスの道場に行ってもらいます」って？

志田 本当にそうでしたね。みんな「？」みたいな感じでした。ただのスポーツ選手的な役ってことだけしか知らされてなくて、みんな「体力には自信があります！」みたいなことは言ってましたけど（笑）。ただ、プロレスラーになるということが、どういうことなのかわかりませんでしたね。「プロレスラーってライセンスとかないよねぇ？」って。

掟 ライセンスを発行すべきかどうかという話はいましてるところです（笑）。

志田 プロになるってどういうことなんだろう？ 試験とかあるのかな？ とか。本当にそんな話をしてたんです。プロレスがなんなのかもわからないのにトレーニングしてました。

掟 格闘技のトレーニングとは違う？

志田 いや、同じですよ。最初はマット運動から始めたんですけど、柔道もマットは基本なんで普通に楽しくやりました。体力的にはつらかったですけど、つらいのが楽しいみたいな感じで（笑）。トレーニングを始めてからは、「おもしろいじゃん！」って思いました。それに「いけるかもしれない」って。周りの子にはたぶん負けないだろうなと。

掟 強いという自信はあったんですね。

志田 ありました。そのときはプロレスがどうこうじゃなくて、「役は獲れるな」って（笑）。

掟 この中では体力的にみて主役は自分しかないだろうと。

志田 そうです（笑）。プロレスじゃなくて、演技でもなくて、体力的な部分では一番だろうなって。プロレスの難しさもわからなかったし、言われた練習をこなす中では私が一番できると思って。そんなレベルでしたけど楽しくなっちゃいました。

掟 映画公開までの1年間にトレーニングを兼ねてプロレスをやったわけですよね。そして映画の公開が終わった頃の8月23日、アイスリボンの後楽園大会で卒業するはずだったのが、プロレスがおもしろくなって辞めるのをやめたとか？

志田 1年間という約束だったから1年で辞めて、次の仕事をやろうという感じだ

ったんです。でも、完成した映画『スリーカウント』を観たら、一緒に観てるお客さんの反応も含めて「おもしろい！」と思ってしまって（笑）。自分がプロレスをやっている姿も、自分だからというわけじゃなくて、ただ単純に観てておもしろいし、かっこいいし、凄く刺激されるものがあって。

掟 プロレスという競技の魅力が、『スリーカウント』という映画を観ることで、誰よりも自分に伝わっちゃったわけですね？

志田 そうなんです。いま辞めてもプロレスの何ができたわけでもなし、いままでやってたのはプロレスじゃないと思ったんです。

掟 まだ役者がやってるプロレスの範囲は出ていなかった、と？

志田 結局、そうだったんです。1年間トレーニングをやって、やっとスタートラインに立ってるぐらいのときに辞めたらもったいないなと思って、さくら（えみ）さんにお願いして続けさせてもらいました。それまでは皆さんが「もったいないよ」って言ってくださってたんですけど、「私は女優になりたいから」って一線を引いてた感じだったんです。かなり突っ込まれましたけど（笑）。

掟 プロレスラーとして役者業も並行してやっていくということで、現在、芸能事務所の代表をやられているミスター雁之助さんの主演映画にも出たんですよね？

志田 はい。ちょっとずつ他の出演作品も決まってます。

掟 井口昇監督の『ロボ芸者』にも出演してるんですよね。

志田 はい。本当にアホらしい映画だったんですけど（笑）。

掟 井口監督の映画は総じて設定がアホらしいですが、そこがいいところです（笑）。

志田 凄い勉強になりました。あんなにアホらしいことをしたことがなかったんで、初めての経験でした。衣装もかつらに白塗りでピンクのビキニっていう（笑）。

掟 しかもロボット役だから口のところにピノキオみたいな線が描かれてて（笑）。



今年8月23日にはアイスリボンが初の後楽園大会を開催。この大会で志田は凰香、長野美香とビジュアルタッグを結成し、しもうま和美&星ハム子&赤城はるなのアイスリボン雑草ガールズと対戦。試合は志田がしもうまから3カウントをゲット!

Hikaru Shida

自分の性格ですか？　最悪ですよ。自己中だし、かわいくないし。

そこでは緊張しなかったんですか？

志田 しませんでしたねぇ。カメラの前ではあまり緊張はしませんね。

掟 試合では？

志田 むちゃくちゃします。3日前から始まって、試合前日がピークですね。

掟 プロレスって難しいですもんね。セリフを覚えていけばいいという世界とは違うし。

志田 全然違います。柔道とか剣道とかの試合でも3日前からずっと緊張してました。試合は何度やっても緊張しますね。

掟 テレビとかカメラが向いても全然緊張しないんですよね？

志田 なんでですかね？

掟 負けず嫌いだからじゃないですかね。本業と違ってテレビの仕事は勝ち負けと無関係だと思ってるからリラックスして出来るんですよ。バラエティ番組の芸人さんなら「目立った方が勝ち」っていう闘いはあるかもしれないですけど。

志田 じゃあ、私は格闘技が本業ってことになるんですかね。

掟 だと思います！　で、プロレスだけじゃなく今度は格闘技でもデビューしますね。この号の発売日には試合は終わってしまってますけど。現時点では対戦相手はXとなってますが……あの、これはXJAPANのYOSHIKIと対戦するわけじゃないですよね？

志田 違うと思います（笑）。

掟 TOSHIでもない？

志田 （即座に）ないです！

掟 安心しました（その後、対戦相手はACCの浜崎朱加に決定）。打撃のないグラップリングルールはどうですか？　柔道と変わらない？

志田 いや、練習してみたら違いますね。グラップリングの練習をすることでプロレス面でも自信はついたかな、というぐらいです。アイスリボンの人たちにはグラウンドでも負けないぞって。

掟 「アイスリボンを背負って立っていこう！」ぐらいの気持ちは出てきましたか？

志田 ……ああ、いいですねぇ、それ（笑）。

掟 そういうことを言うと引く人が多いんですよ。「そんな！　私、無理です！」って。プロレスラーは「俺が！　俺が！」みたいに前に出てくる人がいままでトップを張って業界を盛り上げてきたんです



©橋本欽也

すでに終わっているが、志田は9.13ジュエルズ新宿FACE大会で"フジメグ2世"浜崎朱加とグラップリングルールで激突。強豪相手に勝利することはできたのか、各自調査！　写真は同じ大会に出場したプロレスラー江本敦子、森居知子との3ショット。

けどねぇ。

志田　もともとエースになりたい性格なんですよ。負けず嫌いだし。さくらさんがマッスルビーナス8人を色で区別しようとして、「自分のテーマカラーを選んで」って言われたことがあって。それぞれ好きな色を選んで、それに合わせてコスチュームを作ったらいいよって感じで。

掟　戦隊ヒーローものみたいですね。

志田　何色にしようかなって思ったときに、さくらさんから「赤はエースの色だから、赤は注意したほうがいい」って忠告されたんですけど、「じゃあ赤で！」みたいな（笑）。さくらさんは「えっ!?　いまの話、聞いてた？」って（笑）。

掟　そこで「赤で！」と即答できるのは向いてますよ。そういう人がプロレスラーとして大成するんです。本来、プロレスラーだったら、そこで全員が「赤で！」って言わなきゃいけないと思いますよ。

志田　じつは、もう一人赤を選んだ人がいて、内心「何、赤を選んでんの？　赤は一人でいいだろ」みたいな（笑）。

掟　「おまえピンクにしろよ！」みたいな。ちょっと裏に連れてったり？

志田　そこまではしないですけど（笑）。

掟　ロッカールームでその選手の赤い水着をハサミで切ったり？

志田　しないですよ！

掟　文句があったら正々堂々と殴るタイプというか。

志田　……どっちかというとそっちですね（笑）。

掟　ちなみに、自分で自分の性格はどう思いますか？

志田　最悪ですよ。自己中だし、かわいくないし。こんな女は自分だったら絶対嫌ですもん。

掟　付き合っても凄くアッサリしてるんですか？

志田　してますね！　ダメですよねぇ。でも、そういう部分は隠してます（笑）。スポーツの世界だとそれを押し出していいじゃないですか？　楽ですよね。

掟　恋愛に比べてスポーツは楽！　頑張る方向が決まってますからね。プロレスのことをあまり知らないということなので、ではここでプロレスクイズを出します。日本のプロレスの父と言えば力道山ですが、プロレスラーの凄みを見せつけるために、あるものを食べてよく人に見せていたそうです。さて、何を食べて人をビビらせていたでしょう？

道場破りっていい響きですよね。私は潰すのが大好きなんで！



おきて・ぽるしぇ■1968年5月3日、北海道出身。ロマンポルシェ。のボーカルをはじめ、役者、ライターなど幅広いジャンルで活躍。一部、女子レスラーのあいだでは"掟会"なるものが存在するらしい。ライブやその他の情報は掟ポルシェブログをチェック! http://porsche.exblog.jp/

しだ・ひかる■1988年6月11日、神奈川県出身。映画『スリーカウント』への出演をきっかけにプロレスラーとなり08年8月の新木場大会での星ハム子戦でデビュー。プロレス以外にも柔道9年、剣道7年の経験があり、9月13日にはジュエルスで格闘技デビューもはたした。164cm、55kg。

潰すの大好き！　プロレスラーに向いてると思います！

志田　バリバリしてる感じがいいですよね？

掟　バリバリしてます！　答え知ってるんじゃないですか？

志田　知らないですよ。えーっと……。蛍光灯!?

掟　惜しい！　確かにバリバリしてますけど、もっと、お酒を飲む場所で、手元にいつでも手に取れるものです！

志田　あっ、お酒を飲んで、そのコップもバリバリ食べる!?

掟　正解！

志田　おおっ（拍手）。凄いですね～。私は何をしたら凄いだろう？

掟　ジプシー・ジョーってレスラーは自分の頭をイスで叩いても大丈夫～！　という持ちネタをやってましたけどね。ちなみにコップはいま空き家ですよ！

志田　でもコップは血が出ちゃうからなぁ。

掟　無茶なことをやるからプロレスラーなんです！

志田　そっかー。なんか考えてみます。

掟　プロレスラーは凄いということを見せつけるために、よくやってたそうです。昔は道場破りもよくあったらしいですから、戦わずして戦意喪失させたりというのも必要だったんでしょうね。

志田　剣道のときに、私も道場破りをやりたいと思って……。

掟　えっ!?　剣道に道場破りってあるんですか？

志田　全然ないです！（笑）。そういうのが好きなんです。学校同士の練習試合があると先鋒から順番に全員倒して、私一人でその学校を潰す、みたいなことを勝手にやってました。

掟　それって道場破りじゃなくて、ただの団体戦の練習試合じゃないかと（笑）。でも、気持ちは道場破りだったわけですね？

志田　そうです。一人で一校を潰したいんです！（笑）。

掟　潰すの大好き！　プロレスラーに向いてると思います！

志田　道場破りっていい響きですよね？

掟　自分は遠慮しておきます（笑）。では、最後にファンの方々に何かメッセージをお願いします。

志田　私は『スリーカウント』を観てプロレスっておもしろいなと思ったんで、ぜひ皆さんにも観ていただいて、やりたくなったらアイスリボンに来て練習すればいいと思うんです。

掟　男性でもいいんですか？

志田　大丈夫です！

掟　アイスリボンに道場破りに来い、と。

志田　どんどん来てください（笑）。

掟　そして自分が完膚なきまでに叩き潰す、と（笑）。

志田　そんな感じで（笑）。プロレスをやるのは無理という方でも、観に来ていただいて盛り上がって発散していただければいいなと思いますので、ぜひアイスリボンをよろしくお願いします！

【09年9月3日／埼玉・アイスリボン道場にて収録】

——今日は女子格闘技を語らせたらうる

熊久保　ちがっ！　前後の話を取って言

っけないし、石岡は男に媚びを売らない

女子格闘家にカワイイ子が増えているらしい!?

女子格はエッチな目で見ていいらしい!?



見てみい、このスケベ顔!!
クマクマンボとサエキングがイヤらしくみだらに語る!!



聞き手／ジャン斉藤

ないないないっ!! ボクは下心なんかぜんぜんないですよ（熊久保）

――今日は女子格闘技を語らせたらうるさい"スケベ"なお二人に、その魅力を語っていただきます。いきなりですけど、オススメの選手は誰ですか?

佐伯 いま一番のオススメは長野（美香）さんじゃないですか。

――最近佐伯さんがカメラマンとして撮影された選手ですね（79ページ参照）。

佐伯 その写真は『FRIDAY』にも載ったしな！（鼻息荒く）。

熊久保 ボクは女子キックの神村江里香かな。彼女の存在はまだあまり知られてないと思うんですけど、この子はホントに強いんですよ。男子と比べても遜色ないぐらいの試合をやるんです。それでまだ16歳。

――カワイイんですか?

熊久保 カワイイですけど、ボクはそこにはあまり興味ないんですよ。

――またまた～ぁ。

熊久保 いや、ホント。へんな話、ビジュアルはジャンルの間口を広げるうえで必要だと思うんですけど、やっぱ基本的には"強い子"がいいですね。

――でも、熊久保さんは女子格のテレビ解説で「これは決してエッチな意味じゃないんですけど、杉山（しずか）選手のオシリがいいですね！」っていう名言を残したらしいですね?（右ページの左側の選手）。

熊久保 ちがっ！ 前後の話を取って言うからへんな意味に取られるんであって（笑）。その前後でボクはちゃんと理由を説明してるんです！（ムキになって）。たしかに杉山選手はかわいくて、しかも強くなりそうな雰囲気を持ってるからいいと思いますよ。

佐伯 ボクは石岡（沙織）さん（右ページの右側）が間違いなく"来る"と思うんですよ。天才だし、それに女性が憧れるタイプだと思うんですよ。





ボンヤリ知ってる方が多いと思われるが、国内では二つの女子格闘技イベントが活動している。写真上は『ヴァルキリー』。GCMが主催、『ケージフォース』のケージを使用。辻結花がエース。写真下は『ジュエルス』。リング使用。基本的にどちらの団体もパウンドなしである。詳しいことはエッチな目線で調べてくれ！

熊久保 女子格の長与千種ですか。

佐伯 そう。もっと言うと、"女・青木真也"なんですよ。

――グラップラーなんですか?

佐伯 いや、性格が似てる（キッパリ）。

――それ、ぜんぜんほめてないような……。

佐伯 冷たそうな目だし、無愛想だし、そっけないし、石岡は男に媚びを売らないタイプですよ。そこが魅力なんですが。

熊久保 ツンデレ系なんだよ、ツンデレ系。

佐伯 男に媚びを売らないから、どっちかというと女の子から慕われるほうなんですよ。で、何より本番に強いし、何をするかわからないイメージがある。2～3年後には頂点に立ってると思いますよ。

――でも、"女・青木真也"っていう呼び方はやめたほうがいいと思います（笑）。

佐伯 実際ホントに似てるんだもん！

――ところで女子格における男性問題はどうなんですか?

佐伯 そこが一番心配なんだよな～。オトコに振り回されないような存在にならなきゃいけないから。あと女子の場合、難しいのはスポンサーなんですよ。純粋に応援しようと思ってお金を出してくれるのかどうなのか……。

――ククク。

佐伯 そこが難しいんだわ。だから女子格を応援するっていう人が現われても、それが純粋な気持ちなのかどうなのか難しいよね。

――まあ、100パーセント純粋ってことはなさそうですよね。

佐伯 記者なんかもそうだよな（ジロリ）。

熊久保 ボクは下心なんかぜんぜんないですよ。

佐伯 あるあるあるっ！

熊久保 ないないないっ！

――二人とも落ち着いてください（笑）。

佐伯 じゃあ、もしも杉山さんが「今日ちょっと食事でもいかがですか」って言われたらどーすんの?

熊久保 食事ぐらいだったらべつにいいじゃないですか。

佐伯 で、「熊久保さん、ワタシ今日は帰りたくないの……」と。

――いったいなんのシミュレーションですか（笑）。

熊久保 無理矢理帰しますよっ！ そういう目で選手を見ないって。だってかわいさだけで言ったらアイドルのほうが上じゃないですか。

――アイドルなら帰さないのか（笑）。取材してて女子の選手は大変ですか?

熊久保 ボクが取材したことのある選手はそうでもないですけど、でもやっぱ男子と同じでちょっとおかしいヤツのほうが強いですよ。そこは男子でも女子でも間違いないですね。

佐伯 そうだね。でも、女子の場合は男子よりもビジュアルが重要なんですよ。

――やっぱりかわいくないとダメ?

佐伯 うん。女子格の間口を広げるためにいろんな企画をやる必要があるの。サイン会をやったり写真集を出したりさ。

熊久保 いまは男子と同じ方向に向かう必要はないですよね。将来的に男子と同じぐらいに競技的に確立できればいいですけど。

――MMAじゃなくて"女子格闘技"と

座談会出席者

熊久保英幸
格闘情報ウェブサイトGBR編集長（アドレス→http://gbring.com/）。元『ゴング格闘技』編集長。本誌では"スケベ声"解説者として、一度聞いたらハマってしまう性質を持っている。いちおうアイドル評論家的な活動もしている。ブログ→http://blog.livedoor.jp/gbrkuma/

佐伯繁
DEEP代表。『ジュエルス』スーパーバイザー。"100円を使って110円を稼ぐ"堅実な経営術で生き馬の目を抜くマット界をサバイヴする男。10年後にも確実に生き残ってるのは佐伯さんだ！ ちなみに熟女好きでもあります。

いうジャンルを作れってことですね。

佐伯　そうそう。実際、女子格ってまだまだ定着してないんだよ。で、ダメな人がホント多いの。「女子の格闘家を認めない」っていう男子格闘家はオレの近くにもいっぱいいますよ。んで、関係者も半分はそういう人だと思いますよ。

熊久保　格闘技記者にもいますよ。「女が殴り合う時点でまずNG」っていうのがあるんじゃないですかね。

佐伯　「危ない」というのは、あくまでイメージなんだよな。たとえば、『ジュエルス』はパウンドなしだから凄く危険なわけじゃないし、俺はレフェリーとドクターがちゃんと止めればいいと思ってる。だって、倒すパンチ持ってねえもん！

——それはレベルがまだまだ達してないということですか？

佐伯　達してない。実際に倒すパンチ自体を持ってる選手は少ないなから。

熊久保　〝殺す技術〟を持ってないですよね。

佐伯　そうそう。だから実際に大事故は起きていないしね。そんなことを言ったらいまの男子の試合だって危険だし、そういう話はキリがない部分があって。実際の話、鍛えられない部分は男子でも鍛えられないじゃん。

熊久保　だから実力差がある人間同士が闘ったとき危ないっていうだけだと思いますね。

佐伯　で、ボクが思う女子格のすばらしさっていうのは、もちろん格闘技だから強さは必要ですよ。だから強さも含むんだけど、現状のメンバーの中で強さを競い合う選手の数はまだ揃ってない。

熊久保　そこまで選手層は厚くないですねぇ。

佐伯　まずは女子格に興味を持ってもらうことが必要。おまえも正直、誰と誰が闘ってもあんまり変わらんだろ？

——まあ、そこまで女子格をマニアックに観る人はもの凄く限られてきますよね。

佐伯　だから、いまは間口を広げて興味を持ってもらう段階なんですよ。じゃあね、ビーチバレーやってますけど、浅尾（美和）選手とカオル姫（菅山かおる）以外に誰か知ってますか？

——知らないです。

佐伯　バドミントンにしても、オグシオ以外は知らないでしょ。ボクはそういうことだと思う。メディアが取り上げやすくて、ヘンな話だけど、所詮観てる人も興味をそそる人間は男子なんだよ。で、多少なりとも異性として見てる部分があるわけ。だから最終的にビジュアルがよくなかったら間口を広げる作業はうまくいってない。それはアメリカのジーナ（・カラーノ）と同じことだと思うんですよ。

——アイコンがジーナじゃなかったら、あんなに話題になってないでしょうね。

佐伯　「えっ、こんなカワイイ子が格闘技やってんの？」。そこがないと誰がビーチバレーなんかに観に行くか！　ビーチバレーはまず「えっ、こんな水着でやんの！」ってとこでしょ!!　バンバン!!（机を叩きながら）。

——佐伯さん、唾が飛んでおります（笑）。

佐伯　（無視して）あれが短パンでやってたら話題にならんって！

熊久保　たしかに雨の日に全身タイツでやったときはちょっと興ざめでしたからねぇ。

——しかし詳しいですねぇ（笑）。

佐伯　だから、あの水着はわざと着てるに決まってるよね。じゃあさ、短パンでやればいいじゃんって話になる！

——競技性でいったらそうですよね。





本文中でも何度か触れられている石岡選手も以前は"おヘソ"を隠すコスチュームだったが、佐伯さんの指導があったのか、"おヘソ"を見せるコスチュームに変身! これで熊久保さんも大喜びだ。ちなみに石岡さんは本誌No.136で特集しております。

佐伯　ね、そんな話になってくる。そんなギリギリ見えそうなみだらな水着を着なくてもいいわけでしょ？

——みだらな水着って（笑）。とにかく、まずは男性に興味を持ってもらう、と。

佐伯　ただ、例外があります。全日本女子プロレスが一番よかった頃のクラッシュギャルズには女性ファンがついていたんですよ。だから一つの問題は、どこかの時点で女性からも憧れるようなタイプを作らなきゃならないです。いまのアイドル路線だけじゃなくて、女性から「あの人カッコイイ。ああいう人になりたい」と思わせる選手を育てていかないとダメだと思いますよ。

——宝塚路線というか。

熊久保　女子格って、格闘技を一般層に届かせるという一つのキーワードになると思うんですよ。「女子」ってなるともうマスコミの食いつきが違う。谷川さんが言ってましたからね。「K−1甲子園をやるよりも女子をやるっていったときの食いつきが全然違う」と。

——それは取材現場にスケベな人間が多いってことなんじゃないですか（笑）。

佐伯　そのとおりっ!!（指差して）。

——ダハハハハ。

佐伯　じゃあさ、じゃあさ、○○○○とかね、強いに決まってんじゃん。誰が見たって「アンタ強いに決まってんじゃん!!」って思うでしょ。それでマスコミが取り上げるかっていったら、悲しいかな、ならないでしょ。

——難しいですねぇ。

佐伯　女子格が一つの競技として定着してて世界中でやってるんだったら、誰が一番強いか決めてもいいと思うよ。でも、まだまだそんな世界じゃないんだもん。選手なんか全然いないんだもん。

熊久保　なんでもそうなんですよ。女子スポーツ、まずどこから入るかっていったら、絶対にビジュアルなんです。フィギュアスケートがなんで注目されかっていうと、ミキティ（安藤美姫）と浅田真央がいたからですよ。食いつきやすいんですよ。マスコミが食いつけばそれにファンも食いつくっていう。

佐伯　逆にいうと、男子よりも一般マスコミが飛びつく世界。

——『Dyamite!!』で女子の試合をやってもいいはずですよね。絶対に視

聴率が獲れますよ。

佐伯　嫌がる関係者は多いけどなあ。

佐伯　うん、ハッキリ言ってね、そのなかから強い選手が出てきて、石岡選手みた

れにレーナ選手も入れたいな？　まだ交渉してませんがね。

女子格のコスチュームはヘソを出さなきゃダメだがやっ!!（佐伯）

聴率が獲れますよ。

佐伯　嫌がる関係者は多いけどなあ。

――そこでカッコつけるなら、キン肉マン太郎に文句を言えって話ですけど（笑）。先ほど、記者に反対派が多いって話でしたけど、女子格好きの記者ってじつは多くないですか？

佐伯　実際、選手たちに会ってちゃんと接したらそうなってくると思いますよ。

――みんな恋に落ちちゃいますか（笑）。

熊久保　格闘技マスコミで女子格が好きな人ってたくさんいるんですけど、不思議なのは、だいたいみんな個人的に好きなんですよ。

――仕事に直結してませんか（笑）。

熊久保　なんでも求婚したヤツがいるらしいですからね。

――求婚まで！　いったい何をやっとるんでしょうか（笑）。

佐伯　だからプロレスの興行でも女子プロのほうが当日券が売れるんだよ。男子は行かないのに女子プロレスだとスケベ心で飛びつきが観に来るんだよ、おっさんが！

――当日券を安く販売する全女方式は間違っていなかったんですね（笑）。

佐伯　そう。ましてや『ジュエルス』なんかだと、いま試合が終わったあとにサイン会をやってるんですよ。そうすると、客が途絶えないんだよな。それってもうオレの戦略どおりなんですよ。

熊久保　売り方がAKB48みたいなもんですね。

佐伯　うん、ハッキリ言ってね、そのなかから強い選手が出てきて、石岡選手みたいなのが育っていけばいいんですよ。

熊久保　そうやって話題になって人気が出れば「私もやりたい」って人が出てくるんですよ。そしたらそのなかに、さらにかわいくて強い選手がいるかもしれないじゃないですか。

――かつて全女もそうやって時代を築いていったわけですもんね。

熊久保　ボクが前から言ってたのは、女子格は女子プロレスを参考にするべきなんですよね。女子のファンもつくし、男のファンもついていた。あの路線を目指すべきなんですよ。ほら、女子プロはプロとしてコスチュームにも気を使っていたじゃないですか。

佐伯　だからオレがよくコスチュームのことで文句を言うのはそこなんですよ。

――おヘソを出せ、と（笑）。

佐伯　女子格の選手はヘソを出さなきゃダメだがやっ！（立ち上がって）。やっぱ露出じゃないけど多少見せ方を考えてやれっていうのはそういうことなんですよ。

――女子格のコスチュームはどうですか？

熊久保　みんなダメですねぇ（苦虫を噛み潰したような表情で）。

――そんなイヤそうな顔しなくたって（笑）。

熊久保　（無視して）女子格闘家でコスチュームに気を使ってない選手はいったい何を見るんだ、と！（身を乗り出して）。自腹を切ってでもコスチュームには気を使ってほしいですね。やっぱ魅せる職業なんだから。

佐伯　でも難しいのは、スマックがBSフジで放送してたときにアイドル路線で売り出そうとしたら選手サイドから文句がきたらしいよ。「こんな見せ方しやがって！」っていう。それはやっぱり主催者が説明もしてあげなきゃいけないけど、選手も理解しなきゃダメだよな。

熊久保　それこそトップクラスの選手4人でユニットを組んでCDを出したほうがいいぐらいだと思いますよ。そしたら「格闘技で強くなったらCDデビューできるんだ」と。

佐伯　だからボクがいまDVDを出そうとしてるのはその理由なんですよ。そのDVDには試合も入れて「彼女たちはこういう試合もしてる」と。12月発売に向けて実際に動きたいのですが、時間の調整ができてない。

――誰のDVDを出すんですか？

佐伯　石岡選手、杉山選手、長野選手、それにレーナ選手も入れたいな？　まだ交渉してませんがね。

――へえ～、それは売れるんじゃないですか。

佐伯　売れると思う。自分の試合が終わったあとのサイン会でもけっこうな量がサバけると思う。あとチケットの売り上げあるじゃないですか。いまはどこの団体も選手の手売りが多くなってるけど、石岡選手や杉山選手は手売りもけっこう売るけど、一般販売も凄いよ。DREAM、『戦極』、K－1以外だったら、一般販売の売り枚数はトップだと思います。

――それだけ一般エロ層が集まってる、と（笑）。

佐伯　そういうことよ。売り上げが大会ごとにどんどん上がってきてるんですよ。そうはいってもまだまだ小さいパイだけどな。

――そういえば女子格の記者や関係者って、パイのわりにはみんな仲があまりよろしくないですよね。ウチも「○○派だから」とか言われるらしいんですけど、そんな派閥があるんだって（笑）。

佐伯　それはな、もう男子ではあきらめてるから揉めるんだ。

――え？　どういうことですか？

佐伯　まだ女子格は手つかずだし、メジャーになれる可能性が凄くある。だからビジネス的まだ小さくても揉めるんだよ。

熊久保　確かに女子格は将来性は高いですからねぇ。

佐伯　メジャーになれるよ。でも、ほかの男子格闘技がメジャーになれるか？　なれるわけないわ！

――DEEPも女子格もメジャーになる日を待ち望んでおります！（笑）。

【09年9月1日／都内・DEEPジムにて収録】



じつはカメラマンでもある佐伯繁が長野美香を激写!!　クマクマンボが編集長を務めるGBR（アドレス→http://gbring.com/）で見られるぞ! ちなみにタオルの文字はクマクマンボからの要請であって本誌のセンスではないことを強く否定するのである。

魅惑のコンテンツが満載の携帯サイト

kamipro Move
カミプロムーブ



掟ポルシエの『萌え萌え女々苑Move』
アイスリボン 志田光





MIKU
『格闘ブロガール』

毎日更新

金原弘光
『金ちゃんのどこまでやるの!?』



充実のコラム連載陣は見逃し厳禁!!

月	郷野聡寛の『MONDAY NIGHT FEVER』	『戦極』参戦中の郷野聡寛が本音で送る! 試合やパフォーマンス同様に文章でもマルチな才能を発揮してます!
火	ニュース特選『kamiの一週間』	ここ一週間の出来事をヨタ話で振り返るいろんな意味で反響が大きい爆弾企画。これを読まずにマット界は語れない!
水	橋本宗洋の『格闘裏グルメ』	昨年、激痩せした元・重量級ライター(現在はライトヘビー級?)橋本宗洋が格闘技界の見どころをズバリ解説!
木	高橋ターヤンの『This Week MMA』	最先端と言われる北米のMMAを中心に日本の目線で読み解きます。海の向こうの気になる話題を掘り下げろ!!
金	柳澤健の『1993年の女子プロレス外伝』	『kamipro』本誌と連動する柳澤健の女子プロレス連続インタビュー企画で、誌上には掲載されなかった話をお蔵出し!!
土	マット界の事件を徹底追求『kamipro事件簿』	マット界には日々、さまざまな事件が起こる。そんな迷宮入りの事件をピックアップして真相を解明する大反響連載!
不定期	青木真也の『週刊!? ワオ木真也』	"バカサバイバー"青木真也が最低でも週1回、勝手気ままに書きまくる不定期更新コラムが9月から連載開始!!


主要3キャリア全端末対応(※端末により一部非対応コンテンツあり)

アクセス方法				
iモード	iメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
EZweb	EZトップメニュー	スポーツ・レジャー	格闘技	
Yahoo!ケータイ	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

サービス利用料 月額315円(税込)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1

[お問い合わせ] 株式会社エンターブレイン カスタマーサポート TEL.0570-060-555(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00~17:00) メールでのお問い合わせは support@ml.enterbrain.co.jp まで。



グラバカのポジティブ王 横田一則の言い訳が凄いらしい!?

時には言い訳も必要！
でも、おまえの場合は……

そんなことないと思うんだけどなぁ

証言 グラバカのアニキ 郷野聡寛

横田一則は強い。しかし、試合後は毎回、言い訳めいたマイクアピールをしてしまうことでも知られている。そんな横田について、先輩でありマイクアピールには人一倍こだわりを持つ郷野に、今後の横田の進む道を考えてもらいました！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

——今回は〝らしい〟特集ということで、マット界のさまざまな〝○○らしい〟というネタを掘り下げていこうと思っていまして、グラバカでは郷野さんと横田さんの対談をセッティングしてみました。

郷野　てことはアレだな、グラバカの郷野と横田は〝ハゲてるらしい〟みたいな感じで来たんだろ！

——そ、そういうわけではないです。

横田　でも、そんなことといったら、○○○も「ハゲてるらしい」じゃないですか。

——○○さんも年齢のわりには、ちょっと来てるかもしれないですね。

郷野　まあ、格闘技界は多いからなぁ。

——郷野さんは自分でもよくネタにしてますが、それほど気にならないですよ。

郷野　きっちり予防線張っとかないとな（笑）。自分で言ってると、ちょっと軽減するところがなくないすか？「ハゲも売りにしてる」みたいな感じで。

——横田さんはそこまでは振り切れない？

横田　いや〜、自分も来てるのはわかってるんですけど。

郷野　そりゃ当然、自覚はあるわな。

横田　でも、いかにそう見せないように努力するかってところが重要かなって。

——それはヘアスタイルでカバーする、みたいな？

横田　そうです。魔術師がいるんで。

郷野　試合のときは、頭中フェイントだらけになるもんな（笑）。

横田　ラインを入れたりもそうだし。自分はM字ハゲなんで、そこが目立たないようにいろいろ努力してるわけですよ！

郷野　そこは熱く語らなくてもいいと思うけど（笑）。

横田　あ、そうか。でも、そういう技術がある人にやってもらってるんで。だから試合のときの俺しか見てない人はハゲてるってわかんないと思うんですけどね。

郷野　いやいや、わかるって！　そこまで自分を買いかぶっちゃいけないッ！

横田　かなり、マジックだと思うんだけどなぁ（不満げに）。

——で、今回は〝ハゲてるらしい〟ではなく、横田さんの〝言い訳が凄いらしい〟というテーマなんですよ。

郷野　確かに、横田の言い訳というか、ポジティブさには感心させられることが多いからね。

——一部では〝グラバカの言い訳王〟と呼ばれてるみたいですよ。

横田　そうなんですか。それは嫌だなぁ。

郷野　でも、言い訳とかポジティブって、プロにとっては凄く大事なことなんだよ。

——と言いますと？

郷野　自分をなぐさめる術を知ってると、失敗したときに必要以上にとらわれないで、すぐに次のステップに進むことができるでしょ？　だから、俺はその性格は凄くいいと思うし、見習いたいよね。……でも、なんだろうな？　このあいだのKO負けをカバーする言い訳は（笑）。そこは横田に教えを乞いたい。

——というわけで、今回は、ポジティブで素晴らしい性格の持ち主の横田さんの魅力を郷野さんに語っていただければと。

郷野　魅力ねぇ……仲間内にとっては、あまりにも魅力的すぎるキャラなんだけど、あくまで内輪で止まっちゃってるところがあるからね（笑）。そこがちょっともったいないんだよなぁ……。

——その魅力を広く伝えてもらうには郷野さんの話術が必要だと思いまして。

郷野　プレッシャーかけますね。でも内輪でも「言い訳が凄い」とか「ポジティブすぎる」っていう評価でしかないんですけどね（笑）。

——あ、そうなんですか（笑）。

横田一則in戦極 言い訳(!?)全集



『戦極』初参戦となった08年8月の『第四陣』。初来日のボーヤン・コセドナーに判定勝利した横田は「すいません、言い訳させてください！　昨日は絶好調だって言ったんですが、ホントはケガをしてて全然練習できませんでした。すいませんでした」とマイクアピール。ここから横田の言い訳伝説が始まった!?



08年9月の『戦極〜第五陣〜』では、いまはなき〝S4〟としてリングに上がった横田は「前回、ほかの3人はいい試合をして、いい勝ち方したんですけど、自分だけしょっぱい試合をして、マイクでも〝言い訳王〟みたいになって、そのことを叱られたので、次は試合もマイクも優勝します」とアピールするも有言実行ならず。残念。

〝○○らしい〟特集？ グラバカの郷野と横田は〝ハゲてるらしい〟ってことか!?



横田　あ、そうか。でも、そういう技術が

勝します」とアピールするも有言実行ならず。残念



試合のときの俺しか見てない人はハゲてるってわかんないと思う

郷野　ただ、もっと掘り下げてというか、本人の実像に近いところから見ると、よりおもしろいというか（笑）。ファンが思っている横田一則よりも、もっと強烈で濃いですから。俺は解説のときも、できるだけ横田一則っていう選手のおもしろさを引き出そうとはしてるんだけどね。

横田　あ、ありがとうございます！

郷野　まあでも、そういう話をしても、笑ってくれるのは古川（誠一／パワーオブドリーム）会長ぐらいだけどね（笑）。

横田　「横田はマイクだけじゃなくて歌もヘタなんですよ」とか、そういうこと言ってくれるとウケてくれますからね。

郷野　横田は致命的にリズム感がなくてねぇ。それが歌のヘタっぷりにつながってるんだろうなぁ。

――5月にあったグラバカのファンイベントでも、いろいろと横田さんは大活躍してたみたいですし、グラバカのアイドル的存在って感じなんですかね？

郷野　間違いなくアイドルではないけど、酒の席での盛り上げ方というか、そういったところでの自己犠牲の精神というのはモノ凄いね。まさにパトリオットって感じでさ（笑）。

横田　郷野さんには、自分がまだ練習生の頃に一回、飲みの席に誘ってもらったんですよ。そのときに「コイツは使える」って言っていただいて。試合よりも飲みのほうで先にプロになった感じなんで。

――飲みの席でのプロでしたか（笑）。

郷野　最初から黒帯の腕前だったなぁ。

――でも、酒の席で盛り上げるといっても、いろんなタイプがいると思うんですけど、横田さんはどんなタイプですか？

郷野　横田は持ちネタが多くて、次から次へと芸が事切れず出てくるから、ホント、こいつに任せておけばいいや、ぐらいの信頼感がありますね。

――郷野さんは入場パフォーマンスでも、早くから横田さんをダンサーとして使ってましたけど、やはり、盛り上げ役として外せない存在だったと？

郷野　外せないというか、パフォーマンスは本人が喜んでやってくれたんですよ。

――喜んで協力してくれる人はあまりいなかったわけですか？

郷野　そう。でもその中で、横田だけは「俺は言ってくれればいつでもやりますよ！」ぐらいの勢いで。だから、PRIDEのときもずっとやってもらったし、凄い助けられてる。だから、マイクで外したときは解説者として、なんとかフォローしてやりたいとは思ってるんだけど……、これがなかなか難しい（苦笑）。

――正直、試合後はことごとく郷野さんからダメ出しをされてる感じですよね。

横田　まあ、そうッスねぇ。

――イメージ的にはマイクを持つたびに、なんらかの言い訳が入ってるような気がするんですけど。

横田　そうッスか？　レオ・サントスとやったときは、まったく言い訳してないと思うんですけどね。「相手は強かったです」って言って、「北岡選手、もう一回、キミとやりたい」って感じで、言い訳はしてないと思うんだけどなぁ。

郷野　相手を認めるのはいいけど、でも、「キミとヤリたい」は卑猥な感じだよな。

横田　いや、普通に「北岡選手とやりたいです」って言ってもおもしろくないから「キミとやりたい」と言ったんですけど。ちょっとあれは自分の中で頑張ったつもりだったんですけど、ダメですか？

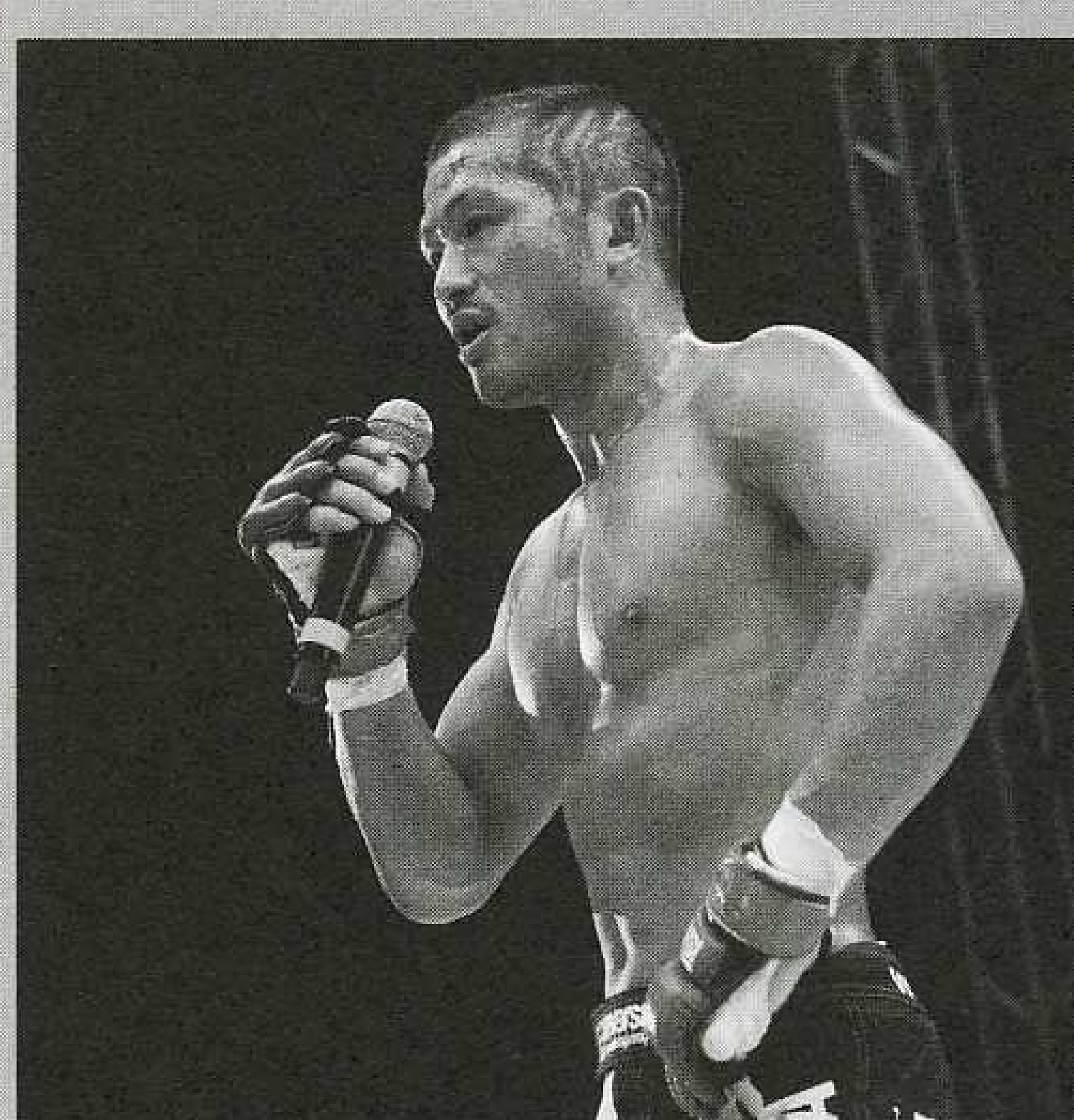
郷野　残念ながら。

――でも、いろいろ考えてるんですね。

横田　すっごく考えてます、なにげに。あんまり、ほかの選手が言ってないようなことを言いたいなっていうのはあるし。



08年11月の『戦極～第六陣～』のライト級GPでは決勝で北岡に敗退した横田。「根性負けですね。相手はスタミナが切れてたけど、勝ちたいという気持ちが向こうのほうが強かったですね。俺は5分6Rやったけど、それは言い訳になっちゃうんで。ワンマッチなら絶対勝てると思います」。言い訳万歳。ポジティブ最強！



今年5月の『戦極～第八陣～』ではレオ・サントスにスプリット判定で勝利した横田。「予想以上に強かったです。北岡選手、近くで観てたんで、目も合ったと思うんですけど、今日は本当キツかったんだけど、もう一回キミとやりたい。すいません、試合はしょっぱくなっちゃったけど、やり直してきます」。やれんのか？

それで、俺はちょっとおもしろいキャラのほうがいいかなと思って言ったのが「キミとやりたい」だったんですけど。

郷野 おもしろいキャラとか言ってんのに、どっかで、カッコマンとどっちにしようかなって感じで、どっちつかずみたいなところが見えるんだよな。それがイカンのよ、それが！

横田 ちょっと恥ずかしさが残ってて。

郷野 そこを振り切らないと。振り切ったら一皮剥けるよ。仮性、カントン真っ青な剥けっぷり確実よ！(笑)。

横田 でも、俺がそれ系でいくと郷野さんと完全に被ってしまうじゃないですか。

郷野 あん？ 剥けるのか被るのかハッキリしろや！

横田 す、すみません……。

――横田さんにカッコマンの一面があるのは周りからも言われたりしてるみたいですけど、そういう自覚はあります？

横田 やっぱ、カッコよく見られたいっていうのはどっかにあるじゃないですか。

郷野 鏡を見ろ！ もう俺たちゃダメなんだよ。黙ってても女がワーワー言うような感じじゃねえんだよ。

横田 アハハハハハハ！

郷野 笑うとこじゃねぇだろ！ 外見がダメなら中身で勝負するしかないんだよ。

横田 でも、俺らって試合のときしか、いいとこ見せられないじゃないですか。

郷野 入場からマイク、退場まで全部引っくるめて表現しなきゃダメなんだよ。あとは失敗したときの開き直りや男っぷり。そういうのを見せて「なんかおもしろいかも？」って思わせないと。おもしろいのは顔だけで終わったら悲しすぎるだろ。

横田 たいへんなんですねぇ。

郷野 誰よりもおもしろい顔してんのに他人事みてぇに言ってんじゃねぇよ！

――いろいろと先輩から教育的指導が入ってますが、横田さんの凄いと思う部分も聞かせていただければ、と。本人はワンマッチだったら同じ階級では負けないという自信があるみたいですけど。

郷野 確かにそれぐらいの自信を持っていいぐらいの力はあるよね。スピードもバネもあるし、いろんなおもしろい顔……いや、動きもできるからね。組み技でもなかなかつかまえられないし、打撃でもそうだし。とくにねぇ、打撃はセンスがホントないんですよ。

――打撃のセンスはないんですか？

郷野 ないですね。でも、センスがないのに速いっていうのが一番やりづらいんですよ。それはホントに大きな武器だし、これからもうまくなる必要はないよな。

横田 はい。

――そんな横田さんは『戦極』では、いまだタイトルマッチまでたどり着けてないわけですけど、現王者の廣田さんと闘っても勝つ自信はあるわけですよね？

横田 ありますねぇ。実際、前にやって勝ってるし、そのときも打撃ももらってないですからね。

郷野 でも、さすがに次の相手に勝ったらタイトルマッチじゃないのかね。

横田 いや、たぶん違うんですよ。

郷野 違うの!? それは厳しいなぁ(笑)。

横田 なんか、みんなにスゲー言われるんですよ。「横田選手はいじめられてるんじゃないかぐらい道のりが遠いですよねぇ」とか。一応、俺は『戦極』ではGP決勝は別にして、与えられた試合は全部勝ってますからね。3戦3勝なんで。

――そういうところも、ついてないと感じるわけですね。

横田 いや～、ホントそう思いますねぇ。

――横田さんは会見とかでも「自分は強い相手ばっかり当てられてる気がする」ってボヤいたりしてますけど、思ったことはすぐ口に出しちゃうタイプというか。

横田 そうなんですよ。空気を読めない部分もあるんで。

――そういう意味では、郷野さんは空気を読めるほうだと思うんですけど？

郷野 空気はともかく、俺は最初徹底的に嫌われるところから始めたけど、そこを一回通るのもいいと思うんだよね。好かれようじゃなくて嫌われようっていう。

――パンクラス時代は嫌われようと意識してやっていた部分もあると？

郷野 結果的にそれで盛り上がればいいよなって思って。そういうふうに嫌われてもいいって思うと、逆に怖いモノなしでなんでも言えるから逆に際立つよね。

横田 あそこぐらいから急にキャラが変わったんですよね？

郷野 そうだな。でも、あれが一番いいパターンじゃない？ 不良がだんだん更生していくじゃないけど、悪魔超人がキン肉マンに負けて、だんだん正義超人になっていくようなね。

横田 あ～、はいはい。

郷野 まあ、俺も最初からそれを意図してたわけじゃないけど、それぐらいの覚悟でやるっていうのは必要だと思う。「カッコ悪く思われたくない」って意識だと何やるにしてもブレーキがかかっちゃうんだよ。それを一回外すにはとことん嫌われてやるぐらいが一番いいと思うぞ。……ただ『戦極』はパンクラスと違ってプロレス色があんまりないからなぁ。ヒールっていうのも難しいだろうし。それは俺のときと違って難しいところだよな。

――『戦極』でも北岡さんぐらい徹底してキャラを押し通すと、ファンにも受け入れられたりしますけどね。

郷野 そうそう。いま、いい例で北岡の名前が出たけど、北岡だって、控室では失笑されたりもしてるわけじゃん。でも、逆にあそこまでやり続ければきちんと色がついてくるわけだよ。結局、よく思われようと思ってたら、なかなかうまくいかないだろうな。

横田 勉強になりますねぇ。

――横田さんといえば、試合後、マイクアピールをして、解説席の郷野さんに謝りに行くっていうのがおなじみになってますけど、郷野さん的に、あのマイクはよかったっていうのはあります？

郷野 このあいだのサントス戦はほめましたけどね。マイクというより、やっぱ、あの相手に勝つっていうのは大変なこと





ひさびさの日本マット登場となった郷野は入場パフォーマンスで郷ひろみの「GOLDFINGER '99」ネタを披露。PRIDE時代と同様、横田と山宮恵一郎がダンサーとしてサポートした今回の入場は反応は微妙だったが、次回の入場も期待だ！

だから。その大変さがわかるだけに、マイ

強いのにもったいない

やって上に行きたいっていうだけでなく

Gなんですよね？

だから。その大変さがわかるだけに、マイクだけでダメ出しはできなかったよね。あの試合はホントに頑張ったと思う。

横田　そう言ってもらえると嬉しいです。

――サントス戦に続いて、次はライアン・シュルツという強豪が相手なんですよね。『戦極』では結果が出てないですけど、決して弱い選手じゃないですからね。

横田　そうなんですよ。ハッキリ言って、シュルツってメチャメチャ強いと思いますよ。最初のGPの計量のときも一番いい身体してたし。それに今回は負けたら終わりだろうし、凄い気合いを入れてくると思うんで、そこが怖いですけどね。

――シュルツは強い選手だってことをファンにも理解してほしいわけですね。

横田　そうッスね。これは言い訳じゃないですよ。

郷野　文句とか言い訳しても状況が変わんないんだったら、言うだけイメージ下がるから言わないほうがいいぞ。その文句も笑わせようとかっていう意図があるんなら別だけど、ただのホントのボヤきだったら、それは言わないほうがいい。ノムさん（野村克也）みたいなボヤきキャラだったらいいけどさ（笑）。

横田　あ～、あれはおもしろいよなぁ。

郷野　これからは徹底的にボヤくか!?

横田　今度勝ったら「○○選手は楽な相手だったけど、自分はキツい相手だったなぁ」とかボヤこうかなぁ。

郷野　それはやめとけ。比較対象を出してボヤくと、ひがみにしか聞こえなくなる。自分と相手のことだけにしないと。

横田　やっぱ、それじゃあダメですか。でもホント、プロの格闘家って実力以外のキャラの部分って大事ですよね。

郷野　大事だよ。あとは人と違うことを

強いのにもったいないんだよ。カッコいいと思われたいと思うな！



ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。96年に修斗でプロデビューをはたすと、その後はパンクラス、PRIDE、UFCなどで活躍。8月の『戦極～第九陣～』で日本復帰戦を行なうもダン・ホーンバックルにKO負け。176cm、77kg。

よこた・かずのり■1978年4月3日、千葉県出身。高校、大学と柔道に打ち込んだあと、グラバカに一般会員として入会。プロデビュー後は無敗でDEEPライト級王者に。その後は『戦極』を主戦場としつつキックルールにも挑戦。172cm、70kg。

次の試合までに自分のキャラを考えておくんで期待してください！

やって上に行きたいっていうだけでなくてさ、その中でどれだけ周りに楽しんでもらえるかっていう意識だよね。それがあるとないのとでは大違いだから。そういう意識はもうちょっと持とうよ。

横田　そうッスねぇ。

郷野　ホント、強いのにもったいないんだよな。いいところまで来てるのに損してるっていうか。もうね、カッコいいと思われたいと思うな！

横田　はい。

郷野　カッコよく見せようと思わないで、嫌われるんだったら開き直って徹底的に嫌われる。そういう意識が、逆に自分をエンターテイメントな存在にしてくれるかもしれないぞ。

横田　それは凄い大事なことですよね。プロを名乗ってたら、そっちもプロじゃないといけないと思うし。

郷野　そのためには自分がこう見られたい、ああ見られたいという欲は二の次にしないとね。自分の都合で考えちゃダメ。

横田　だったら、スベリキャラでいこうかなぁ。

郷野　そこには俺がいるけどな。（笑）。俺の二番煎じでよければどうぞ。

――前も一回取材をお願いしたことがあるんですけど、横田さんは○○ネタはNGなんですよね？

横田　ちょっとそれはNGですね。

郷野　おまえ、それはまだ「あわよくば」を狙ってるだろ？（笑）。

横田　いや、そういうのはないんですけど。……いや、多少はあるかな（笑）。

郷野　だから、そこがダメなんだって！

――横田さんのキャラが定まらない、象徴的な出来事のような気がしますね（笑）。

郷野　○○○○○ってことを大っぴらにして、「○○○○○」って思われるような男にならなきゃ。

横田　いや、そういうんじゃなくて、怖いから逆に言えないんですよ。頭上がんないですからね。

――逆にそういうキャラを打ち出したらいいと思うんですけどね。○○キャラ。

横田　後輩にはジャイアンキャラなのに、じつは○○っていう（笑）。

郷野　いいじゃん、○○キャラ。それでいこうぜ！

横田　いや、それはちょっとキツいなぁ。

郷野　……確かにプライベートの切り売りはキツいよな。ふと自分に置き換えたら、「絶対やだな」って思った（笑）。

横田　ですよね。それはやめましょう！

――横田さん、おもしろいですねぇ（笑）。

郷野　でもね、今日は俺と一緒だから、やっぱり先輩の前だと横田の魅力が半分も出てないですよ。

――後輩と一緒じゃないと、ジャイアン横田の素顔は見えないわけですね。

郷野　そうそう。で、結局、どういうキャラでいくの？

横田　次の試合までに考えておくんで、期待してください！

郷野　お、期待してもいいんだな？（笑）。

【09年8月28日／都内・グラバカジムにて収録】



“軽量級の世界最高峰”

WECで大活躍している日本人がいるらしい

あのミゲール・トーレスと互角の大激闘を展開!!

水垣偉弥

今年日本ではDREAMと『戦極』がともにフェザー級GPを開催し、軽量級が盛り上がりを見せたが、その一方で“軽量級の最高峰”と呼ばれるWECで大活躍している日本人がいるらしい。それが水垣偉弥だ。水垣は今年4月WECデビュー戦でいきなり世界バンタム級王座に挑戦し、王者ミゲール・トーレスと激闘を展開。いま世界のベルトに最も近い位置にいる日本人でもあるのだ。そんな水垣とはどんな男なのか、所属するSTG八景の渡辺喜彦会長とともにインタビューに答えてもらった。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges

――今日は「WECで活躍している強い日本人がいるらしい」という噂を聞きつけて、やってきました！

水垣　ありがとうございます（笑）。

――こんな〝噂〟が出始めたのも、今年4月5日のWECで、いきなり世界バンタム級王者のミゲール・トーレスと5ラウンドフルに闘ったのがきっかけだと思いますが、やはりあの試合って反響ありましたか？

水垣　そうですね。日本に帰ってきたあと、格闘技の会場に行くと、いろんな人に「いい試合だった」って声かけてもらって。まあ、反響は大きかったですね。

――軽量級世界最高峰ともいえる団体で、いきなりチャンピオンとほぼ互角の闘いですからね。

水垣　ただ、やっぱりあらためてビデオで見返してみると、ラウンドごとにしっかり最後は取られてる部分が多いし、完全に負けたなって思います。ただ、トーレスという評価の高い選手とあれだけの試合をしたことで、自分の評価も上がってアメリカで名前が売れたのはよかったと思います。

――渡辺会長から見て、トーレス戦はいかがでしたか？

渡辺会長　水垣はね、試合が決まったあと、足をケガしたんですよ。だから走ったり、自転車こいだりという心肺機能を高める運動ができなかったんです。それで5ラウンドですからね、もう途中からスタミナはゼロのはずなんですよ。これはもう感服しました。

――スタミナをつける練習ができずにフルラウンドでしたか。

デビュー前から五味さんと打撃のスパーをガンガンやってました

渡辺会長　でも、もちろんキャンセルはできませんからね。これでキャンセルするようであれば、もう呼んでいただけないというような前例がありますから。これはもう頑張るしかないってことでやったんですけど、よくやってくれましたよ。

——トーレス戦では、打撃のおもいきりのよさと、多彩なパンチが印象に残ったんですけど、やはり打撃には自信があるわけですか？

水垣　そうですね。ボクが打撃でやられたら、それはもう実力不足というぐらいの気持ちでやってたんで。とくにトーレス戦では、早い段階でKOするしか勝ち目はないと思ってたんで、おもいきりいきました。

——打撃はどのようなかたちで練習してるんですか？

水垣　打撃に関してはここで会長に習って。あといろんなところに出稽古に行ってます。

——会長から見て水垣選手の打撃はいかがですか？

渡辺会長　やっぱり打撃はボクシングが基準になると思うんですけど、ライト級の日本ランカーになれるぐらいの実力はあると思いますよ。ただ、総合で使えるボクシング技術は4割ぐらいだと思うんですよ。そこの判断をしっかり見定めて練習しないと、ボクシングを漠然と習ってる総合格闘家で、使えない技術を習ってる人ってけっこう多いんです。距離感だとか、パンチの種類もそうですしね。その中で水垣は、最小限の振りで狙いを定めてフェイントをかける、あるいはカウンターで当てるという部分では一番うまいと思います。

——会長はそうおっしゃってますけど、水垣選手はいかがですか？

水垣　いや、自分ではわかんないですけど（笑）。会長にそう言ってもらえるのは嬉しいです。

渡辺会長　トーレスに負けた原因は首相撲とヒジなんですよ。

——とくに金網際の攻防は嫌がっていた感じでしたよね。

水垣　そうですね、押し込まれて。

渡辺会長　それをこれからは中心に練習していこうかと思ってます。首相撲ができないとヒジは使えませんからね。なにしろ水垣は「首相撲を練習しろ」と言ってきたのにやりませんでしたから。パンチだけでいけると過信してたんですよね。

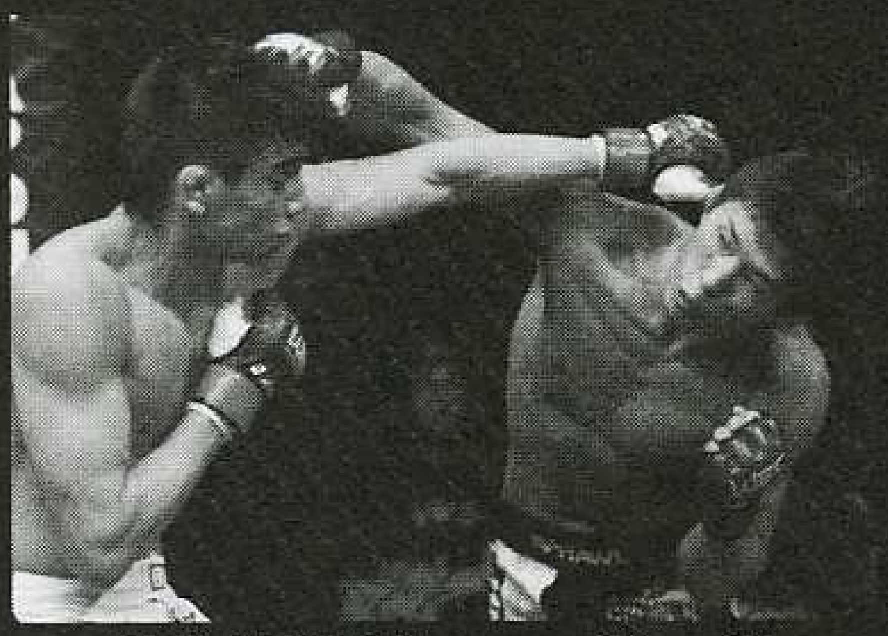
——5ラウンドをフルに闘ったことで、自然と自分の課題も見えてきたし、自信にもなった感じですか？

水垣　そうですね。一応チャンピオンと5ラウンド闘いきって、てっぺんの実力がどのくらいだかわかったので、それは大きかったですね。

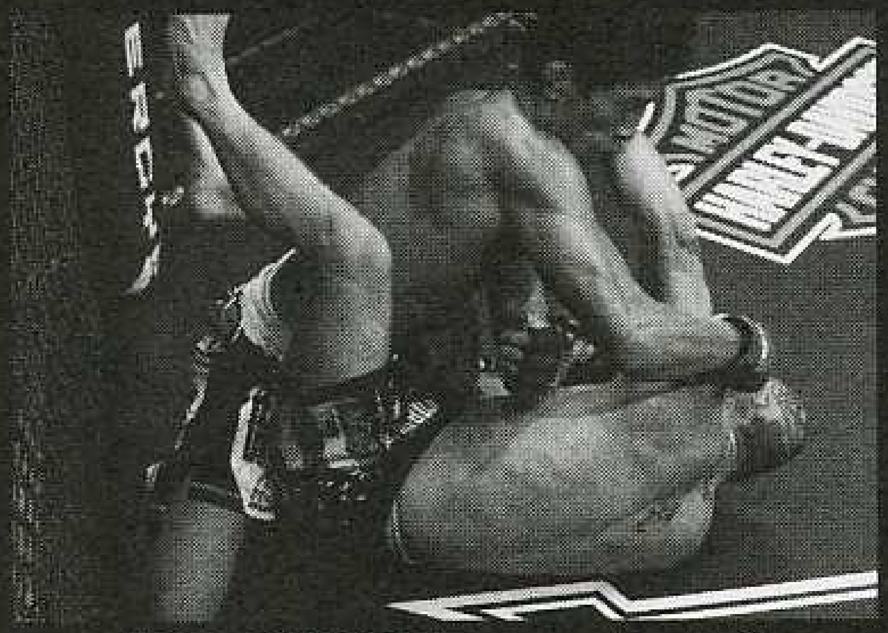
——試合後の充実感はありました？

水垣　それは試合中からありました。やってて楽しくて仕方がなかったですね。向こうもガツガツ来てくれたんで。ひさしぶりに打って打たれてっていう展開になったんで。

渡辺会長　やっぱり相手が逃げるとKOできないんですよ。五味選手もそうですよね、来てくれるとそこで倒すチャンスが生まれるんですよ。でも、日本ではもう水垣の打撃に付き合ってくれる人があまりいないんで、KOのチャンスが少なかったんですよね。水垣はあの（身体の）状態であれだけできたんだから、次にトーレスとやったら、絶対に負けないと思いますよ。



[2009.4.5 WEC40:Torres vs Mizugaki]
米国イリノイ州シカゴ、UICパビリオン
× vs ミゲール・トーレス○
（5R終了 判定 0-3）
トーレスと対戦予定だったB・ボウルズの負傷欠場によって、WEC初参戦で王座挑戦のチャンスをつかんだ水垣は、序盤から打撃で真っ向勝負。判定で敗れたものの、5ラウンドフルに渡り合う激闘で評価を上げた。



[2009.8.9 WEC42:Torres vs Bowles]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロックホテル&カジノ
○ vs ジェフ・カラン×
（3R終了 判定 2-1）
水垣のWEC第2戦は、ZSTやPRIDE武士道にも上がったベテランのカラン。水垣は3ラウンドに三角絞めを取られかけ、ひやりとする場面があったものの、終始上のポジションを奪い、嬉しいWEC初勝利を挙げた。

——ケージフォースでも金網は経験してますけど、一回り大きいWECのケージに違和感はありませんでしたか？

水垣　全然違和感はありませんでしたね。あんまりそういうの気にならないんで。リングチェックするには、凄く早い時間に会場入りしなきゃいけないって言われて、それだとメインまで待ち時間が長くて面倒くさかったんで、試合のとき初めてWECのケージに入りましたから。

——それは精神的にタフですね。海外での試合は、日本で闘うのと違う部分がいろいろあると思いますけど、そういった細かい違いも気になりませんでしたか？

水垣　逆に「あ、こんななんだ」って、初めての体験がいろいろできて楽しかったですね。ボクはいきなりメインイベントだったんで、試合前にいろんな取材を受けたり、記者会見に出席したり。試合の一週間前に現地に入ったんですけど、毎日新鮮でおもしろかったです。

——いろんな取材受けて、その気になっちゃって（笑）。

水垣　もう全部楽しんじゃいましたね（笑）。

——やはり水垣選手がWECで活躍できたのは、昨年12月にケージフォースのトーナメントで優勝して、それが自信になって、一皮剥けたのが大きかったんでしょうかね？

水垣　そうだと思います。修斗で壁に当たって、それを破ったのはケージフォースでの5試合に勝てたことですから。あれでまた勝つ勘を取り戻して、一回り強くなれたかなっていう部分はあります。

渡辺会長　それは違うね。

——あ、違いますか（笑）。

渡辺会長　水垣が一時期勝てなかったのは、結局、レスリングをバカにしてやらなかったからですよ。それで山本篤くんに負けて、そのあと一生懸命レスリングをやって一皮剥けた、そこですよね。あと、彼はなんで気持ちが強いかっていうと、ずっと五味くんのスパーリングパートナーだったんですよ。あの五味くんとガチンコで平気で殴り合ってますからね。

——そうだったんですか！

渡辺会長　総合系の選手はみんな怖がって五味くんとは殴り合わないんですよ。でも、水垣は平気でやってましたから。いまの誰と殴り合っても腰が引けない強さは、そこで鍛えられたんですよ。

——五味選手のスパーリングパートナーだったっていうのは、いつ頃の話なんですか？

水垣　五味さんがPRIDEに出始めるちょっと前から、ずっとやってました。ボクがプロデビューする前からですね。

——じゃあ、五味選手が一番勢いがあって、ブイブイ言わせてる頃に、ジムで殴り合ってたのが水垣選手だった、と。

水垣　その頃スパーリングやったり、目の前でトップに上り詰めていく状況を見させてもらったんで、強くなればああやって上にいけるんだっていう背中も見れましたから。そ

僕はWECでトップになることが世界のトップだと思いますから

ういう意味では、五味さんからはいろんなものをもらいましたね。

渡辺会長　水垣と五味くんは体重が10キロ違うんですよ。普通、10キロ違ったら殴り合わないですよね。それが調子がいいときは五味くんが押されちゃうぐらいでしたから。

——あの五味選手が打撃で押されましたか。

渡辺会長　だから水垣の打撃レベルは相当高いと思いますよ。

——五味選手とは木口道場での練習で一緒になったんですか？

渡辺会長　ウチと木口道場は友好関係にありますから、レスリングは木口道場で教わってたんです。そして打撃の練習では、五味くんがここに来てね。ただね、結局五味くんはPRIDEで気持ちが燃え尽きたんじゃないかなあ。

——次の目標が見えないのかもしれませんね。

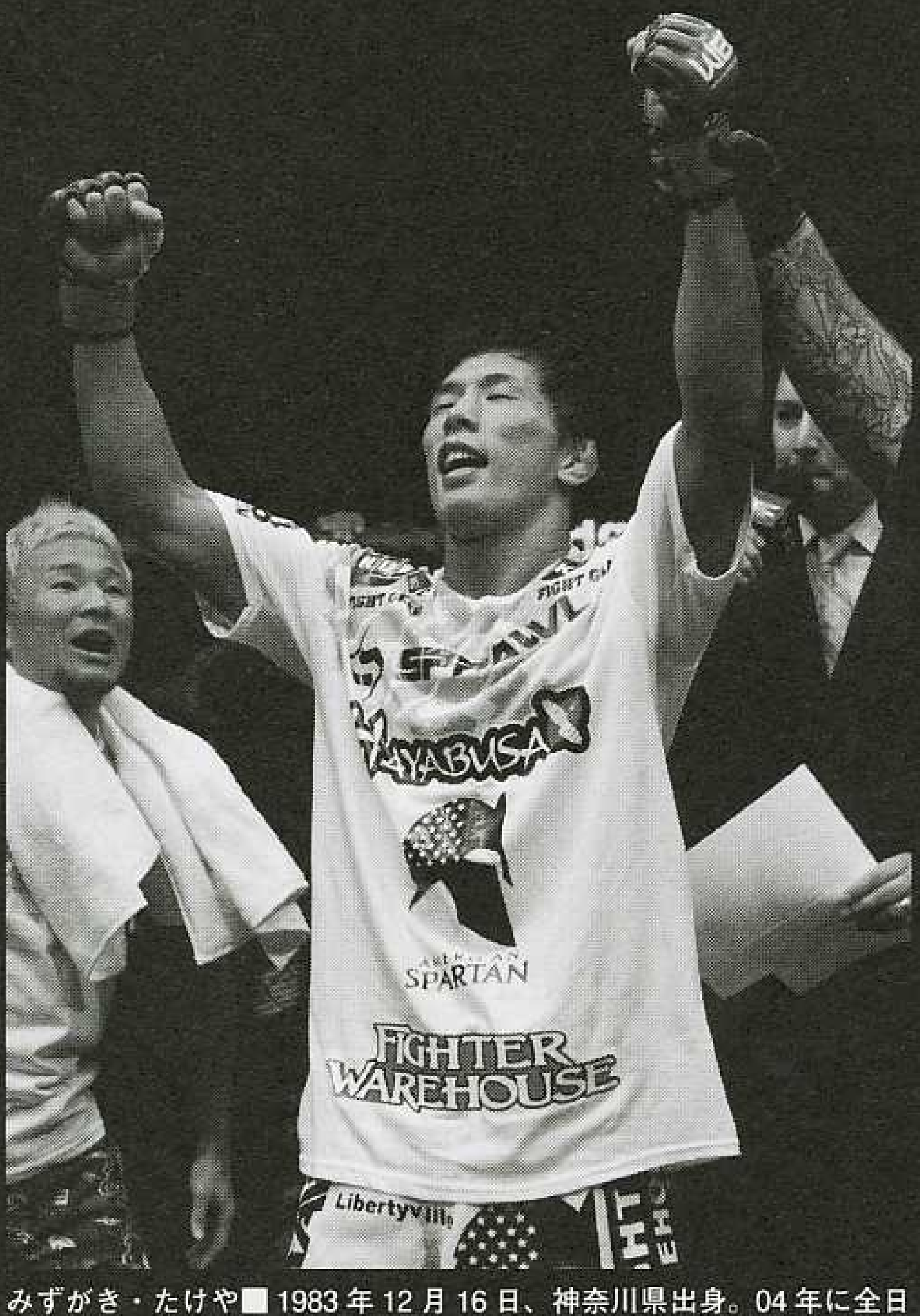
渡辺会長　五味くんは欲がないんですよ。ケガもないし、体調もいいから、ちゃんと練習すれば、もっともっと強くなりますよ。もし体調がよくて練習ができていれば、北岡選手にも勝っていたと思いますから。

——逆に水垣選手は五味選手が上がっていく姿を見て、欲が出てきた感じですか？

水垣　強くなって、あんなふうになりたいっていう気持ちはありました。

渡辺会長　やっぱり日本では当時はPRIDE、いまはDREAMさんがメジャーな舞台じゃないですか。で、実際にDREAMさんからお誘いはあったんです。でも、同じ時期にWECからもオファーがあって、水垣は日本のテレビで有名になるより、ちゃんとスポーツとして認められた世界に身を投じたんですよ。その決断には感心しましたね。

——WECと同時期にDREAMからもオファーがあったんですか。



みずがき・たけや■1983年12月16日、神奈川県出身。04年に全日本アマ修斗フェザー級で優勝し、05年にプロデビュー。同年、修斗新人王に輝く。08年にケージフォース初代バンタム級王座決定トーナメントで優勝。今年4月からはWECに参戦し、1勝1敗の戦績を残している。シューティングジム八景所属。171cm、61kg。

水垣　ケージフォースで優勝したあと、ほぼ同時にお話をいただきましたね。DREAMに出て勝てば、日本で有名になれるっていう気持ちもあったんですけど、体重的にもWECのバンタム級（約61キロ）のほうが合ってたんで、もうアメリカに行こうっていうのは決めてました。

渡辺会長　あと打撃でガンガン攻めるスタイルが好まれるから、水垣はアメリカでスポンサーさんにもついていただけるんですよ。それで相当助かってます。

——アメリカでは、ファイトマネー以外にスポンサーフィーも大事だっていいますもんね。

渡辺会長　それはシュウ・ヒラタさんに、ホントによくやっていただいてるんですよ。朝日昇さんに紹介していただいたんですけど、シュウさんにお願いして大正解でしたね。向こうに行ってからのフォローもすべてやっていただいて、向こうの判定基準なんかのアドバイスももらったりして、ホントに助かってます。

——スポンサーはどのくらいついてるんですか？

水垣　どのくらいだろう？　10社ぐらいですかね。バナーフラッグに載せてるんですけど、あれは全部スポンサーです。

——あの試合前に金網の前にぶら下げるフラッグは、スポンサー一覧なんですね。

水垣　そうです。パンツとTシャツと、あのフラッグにロゴを載せるっていう契約なんです。

——ちなみにファイトマネーとスポンサーフィーの割合は？

水垣　WECはまず基本ファイトマネーがあって、試合に勝つと勝利者賞でそれが倍になるんですけど、最初の基本給よりスポンサー料のほうが多いですね。

——ファイトマネー以上ですか。それは選手にとってありがたいというか、そういうビジネススタイルができてるんですね。

渡辺会長　でもまあ、代理人によりますよ。全然スポンサーを取ってこない代理人もいらっしゃるし、ある選手なんてアメリカで試合して、赤字で帰ってきたらしいですからね。

——赤字はキツいですねえ。

渡辺会長　あとWECはスポンサー料以外に、ファイト・オブ・ザ・ナイトとかに選ばれると、ボーンと10 0万円とかくれちゃいますからね。

——それでまた気合いも入る、と。

水垣　だから、とにかく勝つ、いい勝ち方をするっていう意識がみんな高くて、WECのファイターはみんなアグレッシブですよ。

——そんな中で、水垣選手はもちろん、もう一回タイトル挑戦を狙ってるわけですよね？

水垣　はい。ベルトを目標にしているし、トーレスともう一回やりたいですし。契約もまだだいぶ残ってるんで、今年もう一試合して、また来年タイトル挑戦できるくらいに自分を持っていきたいと思います。

——日本ではDREAMのフェザー級GPが、水垣選手とあまり変わらない体重で行なわれていますけど、気になりませんか？

水垣　ボクは向こうで一番になれば、世界で一番っていう基準でやってるんで。自分と試合をしたことがある選手がDREAMとかに出てると気にはなりますけど、ボク自身はアメリカでの闘いに完全に集中してるんで、そういう意味では気になってないです。

——将来的に山本KID選手とやってみたいとか、そういう気持ちはありませんか？

水垣　やってみたい気持ちはもちろんありますけど、いまはWECのチャンピオンになることしか考えてないです。向こうで闘うとぞくぞくするんで、とにかくベルトが巻けるように頑張ります！

【09年8月31日／神奈川県横浜市・シューティングジム八景にて収録】

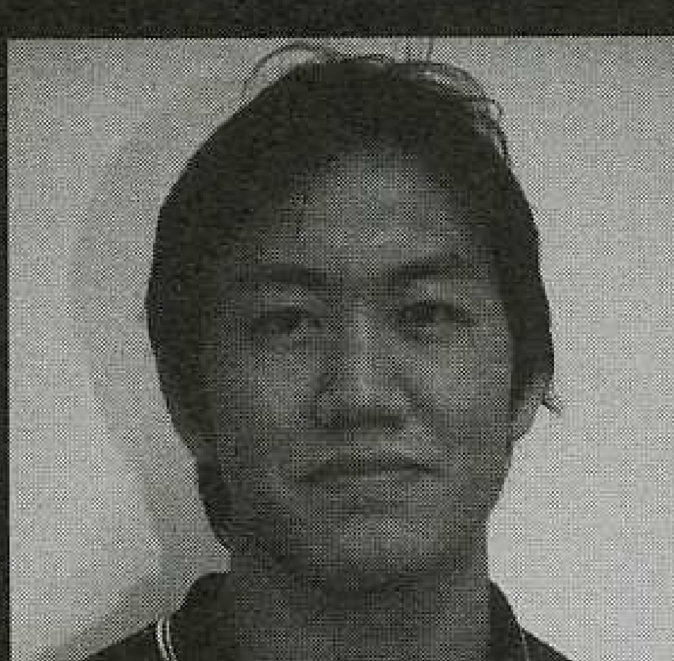


UFCやWECで試合前に金網の前にぶら下げるバナーフラッグ。そこに掲載されているロゴはその選手のスポンサーなのだ。見よ、このスポンサーロゴの多さを！



ミドル級絶対王者
アンデウソン・シウバに
最も近い日本人

UFCで超活躍している日本人がいるらしい



UFCで8戦7勝1敗
岡見勇信

MMAメジャーリーグであるUFCを目指す日本人選手は数多いが、この男ほど活躍している選手はいない！　そんなわけで「UFCで超活躍している日本人がいるらしい」という"いまさら"なテーマで、本誌4度目の登場となる岡見選手にインタビューを敢行！　今年5月のケガで欠場していたが、10.24『UFC104』で10ヵ月ぶりの復帰戦に挑む心境、そして知られざるプロレスLOVEを激白してもらいました。

聞き手／坂井ノブ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

――いまさらで恐縮なんですが岡見選手はアメリカで活躍してるらしいということで質問をぶつける非常に失礼なインタビューになります。よろしくお願いいたします！

岡見　はい（苦笑）。

――8戦7勝1敗でまもなくUFCミドル級王座という世界の頂点に挑戦目前という凄い実績の持ち主なのに、日本にいるとUFCってどうしても遠いイメージがありますよね。

岡見　そうですよね、一般の方々はなかなか生で観る機会もないでしょう。WOWOWでは放送されていますけど、地上波でやってるわけではないので、ホントに格闘技を好きじゃないと観ないというか、コアな方々じゃないとなかなか身近に感じられない世界なのかもしれないですね。

――UFCがWOWOWで放送されるようになって、日本でも注目される機会もわりと増えてはきてますか？

岡見　いろいろ声をかけていただいて、それはホント嬉しいですね。

――いままでにはなかった広がり方というか。

岡見　WOWOWさんでUFCをやるようになって、ちょっと街で声かけられたりとか。

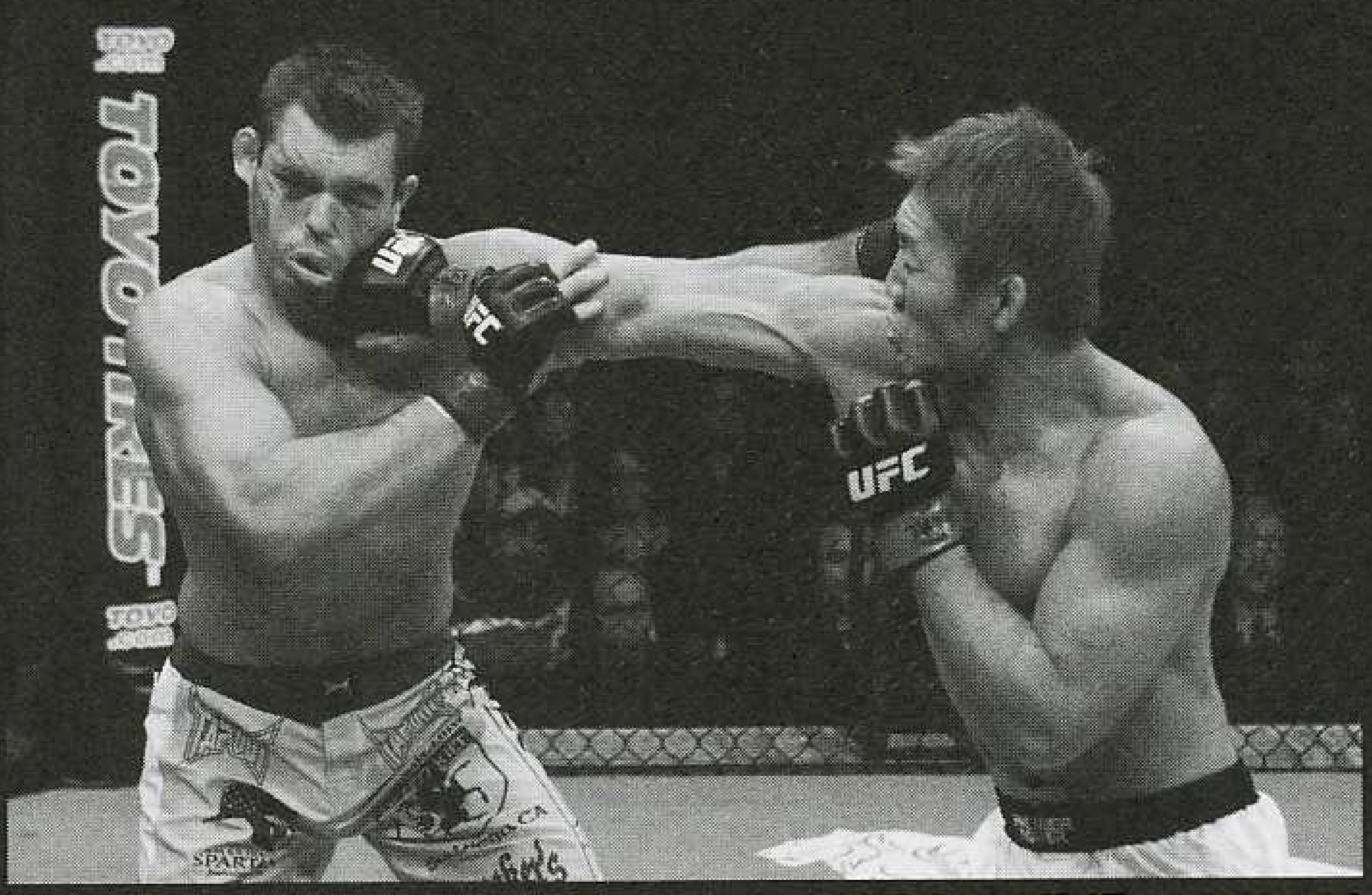
――増えましたか。

岡見　ちょっと増えましたね、WOWOWさんのおかげで（笑）。

――解説もこの前やられてましたね。

岡見　あれはあまりうまくできなかったですけど（笑）。しゃべりは基本的には嫌いじゃないんですけどね。でも高阪（剛）さんをはじめ、話し上手な方々の中に入ると、やはりなか

なか……。
—髙阪さんは解説の達人ですからね。まあ、解説はともかく、アメリカというアウェーで勝つのは大変だと思うんですよ。実際、日本人は苦戦してたじゃないですか。
岡見　はい。僕も最初は海外で勝てなくて。ホントにいろんなところで試合して、いい思い出がほとんどなかったんですね、海外に対して。
—試合以外の部分で気を取られることも多かったでしょうし。
岡見　それは凄く感じましたね、最初の頃は。イベントはハチャメチャだし（笑）。日本の舞台に慣れていると最初は凄く戸惑ってしまう。勝ったかなと思っても違ったり、環境も違う。そういったものも含めて勝つことがなかなか難しい世界だなっていうのは感じました。でも、そういう経験があったからUFCで闘うことができるのかなっていうのは感じますね。
—岡見さんの場合、判定でもキッチリ勝ちますよね。UFCに参戦した日本人が判定で負ける、たとえばスプリットで負けるってことが結構多かったと思うんですよ。
岡見　UFCの判定基準っていうのを熟知してないと、いろいろ難しい面もあるかもしれませんね。たとえば、試合中は弱みを見せちゃいけないというか。
—弱みですか。
岡見　そうですね、たとえば前半から中盤は有利でも、最後にちょっとでも印象が悪くなるとそのラウンドを持ってかれたりするんですよね。時間的には長く有利なポジション取ってるのに、最後の最後で下になっちゃったり、パウンドもらっちゃったりするとジャッジに弱みを見せるというか、印象を悪くしてしまう。アメリカの本土っていうよりはヨーロッパのほうが厳しい気もしましたね……。まぁ、それはあくまでも印象ですけど。
—宇野薫選手のときもそんな感じでしたよね。
岡見　アウェーの雰囲気の中でも、そういったところで弱みは見せない。ラウンドの最後は凄く重要なんです。
—時間にすると最後の1分ぐらいですか？
岡見　そうですね。1分は大事です。それで、ほかの日本人選手を観ていて、勝っただろと思っても、ラウンドを取られいて、「なんで？」って思いました。
—逆に海外の選手はその最後の1分を狙ってくるっていうところもあるんですかね。
岡見　1ラウンドマストなので、印象をよく終わらせたいという狙いがあるので、そこらへんはけっこう重要だと思います。そこにはわりと早めに気づいたと思います。下のポジションから関節技を仕掛けていたとしても、極められないとなかなか厳しい。アメリカのレスリング文化が根底にあるのかもしれないですけど。
—今回、10ヵ月ぶりの試合ですよね。
岡見　膝の靭帯を損傷してしまって、5月の試合はキャンセルしてしまったけど。しっかり治っていまは完璧な状態です。
—次の『UFC104』チェール・ソネン戦に勝てばそろそろタイトル挑戦も見えてくるわけですが。
岡見　あと2試合ぐらいは勝たないとダメでしょうね。
—UFCから言われたんですか？
岡見　言われてないけど、しっかり今回の試合に勝って、次、上の選手が何人かいるので、まずその選手にしっかり勝てば、それでやっとチャンスが見えてくるとは思います。



おかみ・ゆうしん■1981年7月21日、神奈川県藤沢市出身。和術慧舟會東京本部所属。PRE-PRIDEで優勝して『PRIDE武士道』や『HERO'S』に出場。UFCミドル級では8戦7勝1敗で快進撃を続ける。身長188cmと日本人離れした体格を誇り、通常体重は98kg。大正生まれの母方の祖父が身長188cmあったという。「ひい祖父ちゃんかひいひい祖父ちゃんかどっちかが僕と同じぐらいあったんです」と大柄な家系。UFCでの通称はサンダー。

橋本真也選手がトニー・ホームに勝ったときほんとに嬉しかった

—しかし、勝っても勝ってもなかなかタイトルにたどり着かないという部分ではモチベーション維持が大変じゃないですか？
岡見　まあ、僕のケガもあったので仕方がないです。そのおかげで得られるものもあったので、次の試合に備えたいと思います。
—自分が挑戦するとかいうイメージはもうできてますか？
岡見　いまキツい練習をしていて、常にアンデウソンの顔が浮かんで、もっと頑張らなきゃとか、ここで自分には負けられないなとか、彼を倒すための練習っていうのを常にしています。次の試合ももちろん大事ですし、それもわかってはいて、その練習もしています。最終的にはそこを倒すためになにをしなければいけないかっていうトレーニングは常にやっていますね。
—それまでにどんどん日本でも岡見人気というか、UFC人気が盛り上がっていくといいですね。で、その一環というわけではないですが、UFCのゲームが10月に発売になります。その中に岡見選手のキャラも入ってるんですよね。
岡見　はい、嬉しいです。夢だったので。
—ゲームのキャラになるのが？
岡見　『ファイヤープロレスリング』時代からの夢でした（しみじみ）。だから本当に嬉しいですね、自分の名前がこうやってゲームに入ってるのは。
—昔はプロレスのゲームをやり込んでたんですか？
岡見　僕はプロレス大好きだったんです。
—ちなみに当時は誰のキャラを使ってやってました？
岡見　誰だったかなあ？　カール・ゴッチとかルー・テーズとか、ズルいヤツでやっていたかもしれないです（笑）。
—プロレスは誰のファンだったんですか？
岡見　橋本真也選手です。超大好きで憧れてました！　第1回の『G1 CLIMAX』も観てました。あの頃からのめり込み始めた感じです。
—橋本さんに憧れたのはどんな部分ですか？
岡見　やっぱり強さですね。男はみんな橋本さん好きでしたよね？
—ええ、もちろんです！
岡見　なんだろう？　あの風貌と、カッコよさと、蹴りと……強さを象徴してるっていうか。人間性も凄く応援したくなるっていうか。
—豪快ですもんね。
岡見　優しさもあるし弱いところも見せるじゃないですか。そういった部分で凄く共感できたっていうか。
—隙だらけという説もありますけど（笑）。
岡見　ハハハハハ！
—まあ、逆にそこが魅力でしたもんね、橋本さんの場合は。

岡見　そうですね、人間味が凄く共
—ハハハハハ！「ダメ！（敬礼）」
岡見　そうですね。まだ、夢はあった
スナーもやってますからね。
ルな部分をお客さんも楽しめている

岡見　そうですね、人間味が凄く共感できました。トニー・ホームに何回も負けて、最後に勝ったのはホントに嬉しかったです。

――少林寺まで行って特訓して（笑）。

岡見　あのときの水面蹴りはホントに感動しましたよ。

――岡見さんが格闘技を始めたのもプロレスラー志望っていうところがあったんですか？

岡見　そうです。ホントは格闘家になる気は全然なかったんです。プロレスラーになりたかったけど、新日本プロレスの入団テストに落ちちゃって、それで鍛え直そうっていうタイミングで慧舟會を紹介されました。それでどんどんのめり込んでいってしまった。だからホントに格闘技はやるつもりなかったですね。

――こんなはずじゃなかった（笑）。

岡見　こんなはずではなかったです。ホントは新日本でデビューしてるはずだったんです（笑）。

――それがまわりまわって、新日本プロレスの親会社が作っているゲームになってるっていう（笑）。不思議な因果ですよねぇ。

岡見　ホント嬉しいですね。

――ちなみに受けたのは新日本プロレスだけですか？

岡見　はい。新日本ラブだったので。1年間で2回受けたけどダメでした。じつは永田（裕志）さんに落とされたんです。

UFCでベルト獲って永田さんに挑戦？ おもしろそうですね

――ハハハハ！「ダメ！（敬礼）」って？

岡見　1回目はやりきったんですけど、ちょっと動きが遅かったんですよね。やる気も感じられなかったみたいで、そういったところで永田さんに落とされてしまいました。その後、永田さんとは和解はしたんですよ（笑）。

――あ、そうなんですか（笑）。「落としてごめんね」みたいな。

岡見　いやいや、とある結婚式で目が合ってしまって。「知ってるよ、頑張ってるね」って言われて、凄い嬉しかったです。

――へ～、永田さんは覚えてたんですね。

岡見　凄い嬉しかったです、覚えてくれてたんだって。テストではスクワットを500回やらなきゃいけなかったんですけど、それまでは練習を自己流でやるじゃないですか、トレーナーもいなくて。だから腰を痛めちゃったんですよ。あれは厳しかったなあ……。

――でも、そこで挫折があったからこそのいまがあるわけですよね。プロレスを諦めきれずに慧舟會に入ったわけじゃないですか。



岡見がやっているのは10月15日発売の『UFC 2009 Undisputed』（ユークス）。岡見は自分のキャラを選択して、ミドル級の絶対王者アンデウソン・シウバと対決!!　打撃でダウンを奪われるも最後はテイクダウンしてパウンドでKO勝利。岡見も大興奮のこちらのゲームは素晴らしい完成度の高さだ。

岡見　そうですね。まだ、夢はあったんですよね、やろうとは思ってたんですけど。

――まだプロレスラーになる夢は、諦めてなかったりします？

岡見　いまからですか？（笑）。

――いまはUFCで実績を積んで、いずれ新日本プロレスに再挑戦（笑）。

岡見　ああ、それはちょっとかっこいいですね、UFCでチャンピオンになって。

――一本筋通ってますよね。かっこいいじゃないですか。

岡見　UFCでベルト獲って、永田さんに挑戦ですか（笑）。それちょっとおもしろいかもしれないですね。

――いまUFCでは、元IWGPヘビー級チャンピオンのブロック・レスナーもやってますからね。

岡見　レスナー選手はホントに、ザ・フィジカルみたいな感じで。ホントにアスリートっていうか、デカくて動ける、ウサイン・ボルトみたいなもんですよね。デカくて速い、みたいな。あれが最強ですよね、やっぱり。

――確かに。デカくて強くて、なによりわかりやすい。

岡見　格闘技もそうだと思いますよ。デカくて速くてパワーがある、それがすべてですよ。

――華とかキャラも凄いですよね。

岡見　もちろんWWEでスーパースターだったんで、みんな知ってるし。キャラクターっていうか、話も凄いし。やっぱりみんな観たいですよね、レスナー選手の試合は。

――プロレス的なアピールというか、トークとかもそうですけど、そういう部分で批判があるじゃないですか。

岡見　はい、僕はおもしろかったです。

――スポンサー批判とかしちゃって。

岡見　凄いなと思いました（笑）。あいうふうに言っちゃって大丈夫なのかなと思いましたけどね。

――ダメだったみたいですね（笑）。

岡見　そうですよね（笑）。そうだろうなあ。

――でも、そういうところも楽しめるんですね、岡見さんは。

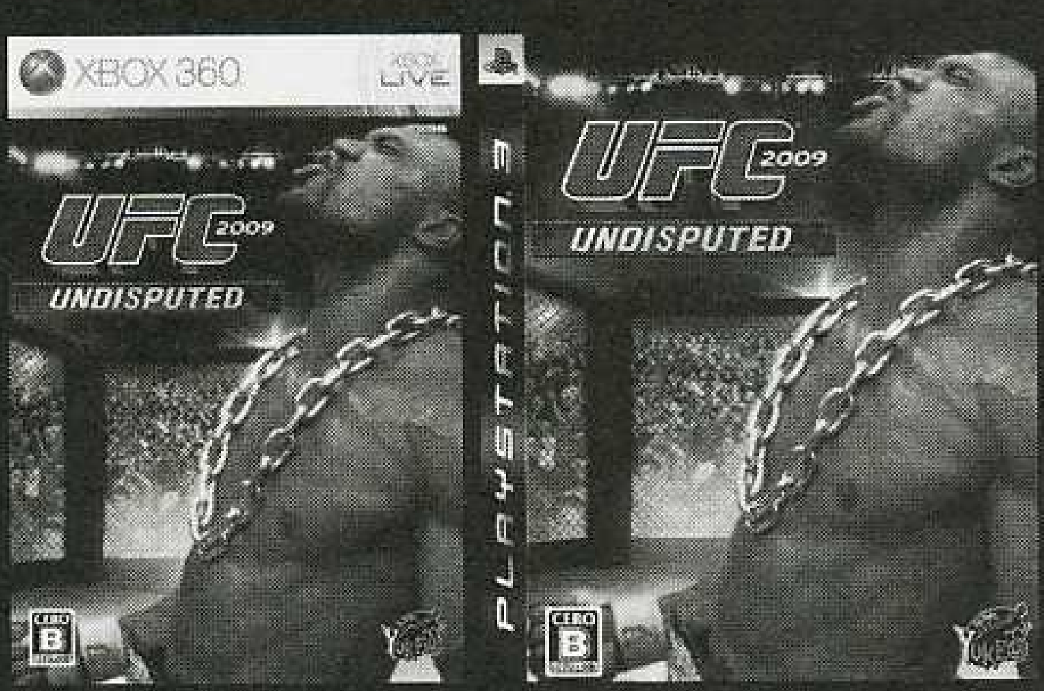
岡見　そうですね、やっぱり競技は競技ですけど、ストーリーっていうのも大事ではあると思うんです。UFCの場合、ストーリーとかぶっ飛んじゃうっていうか、リアルな闘いで、ストーリーを築こうとしても強いヤツが勝っちゃう。そういうリアルな部分をお客さんも楽しめているんじゃないですか。ストーリー性とリアルな競技的部分、その混ざり合いがちょうどいいというか、お客さんも満足できるのではないですかね。

――そういう中で岡見さんもストーリーと勝利を重ねていきたい、と。

岡見　まずは10月の試合に溜めに溜めた力をすべて出して、自分が納得できる試合をして勝利したいと思います。この10ヵ月間……ホント長かったですから。この日のためにずっとトレーニングしてきてるので、それをぶつけたいですね。

【09年9月5日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

2009年10月15日発売『UFC® 2009 Undisputed™』



[対応機種]　Xbox 360®、PlayStation® 3
[プレイ人数]　1～2人（オンライン時2人）
[発売予定日]　2009年10月15日
[予定価格]　7,140円（税込）
[CERO]　B（12歳以上対象）
[オフィシャルサイト]
http://www.yukes.co.jp/UFC2009/
[問い合わせ]
ユークスカスタマーセンター
大阪府堺市堺区戎島町4-45-1
TEL／072-224-7211
営業時間／10:00～12:00 13:00～17:00
（土日祝を除く）
※ゲームの攻略法などに関するお問い合わせにつきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

――兄弟はまだ学生さんなんです

――ベネズエラの生活はたいへんで

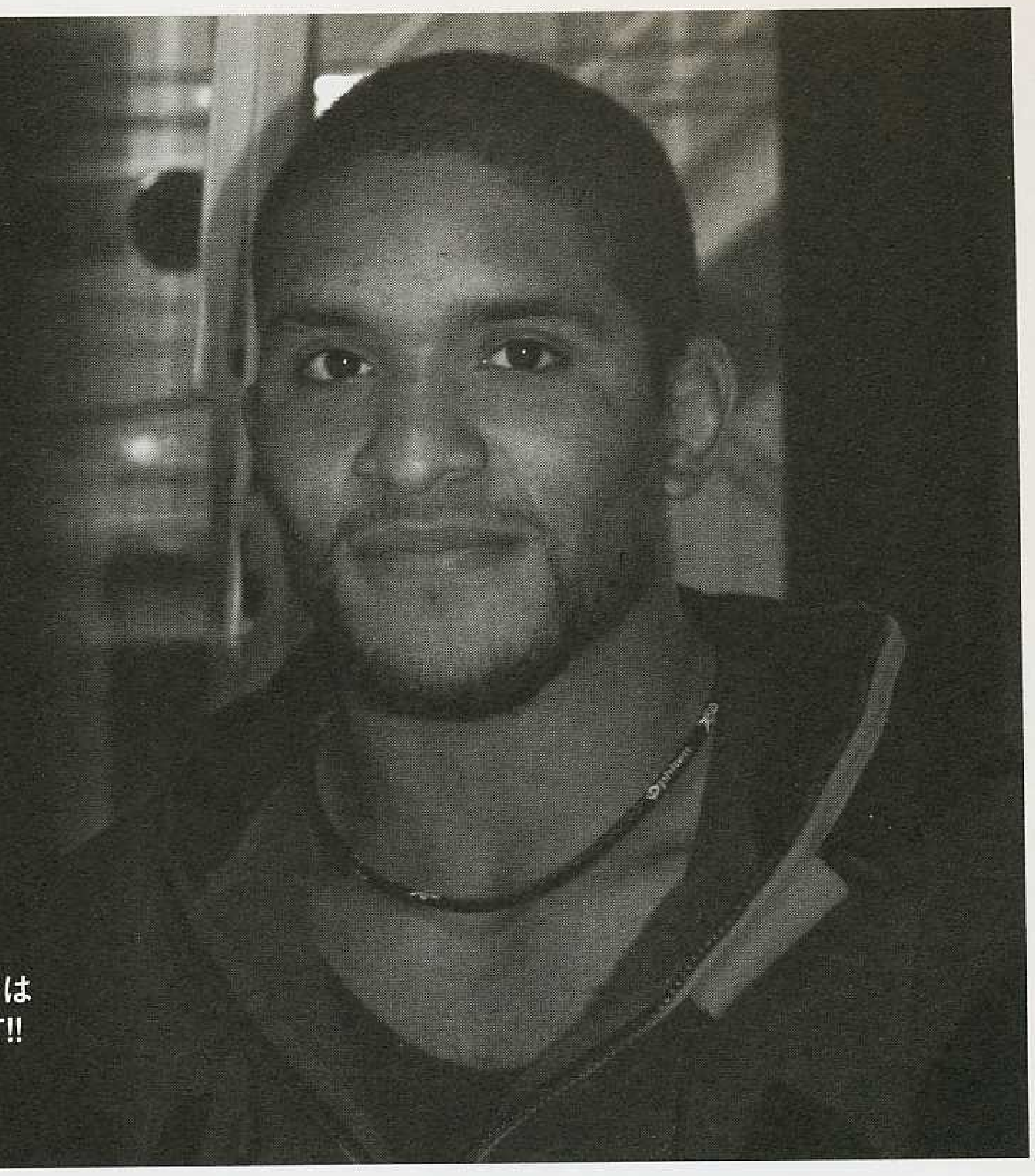
れるんですか?

感じで、一生懸命頑張ってます。

こと愛してくれる人。

『戦極』育成選手にして
パンクラスライト級チャンピオン

真騎士は
ベネズエラ人
らしい!?



「らしい」というか、ウワサでもなんでもなく、れっきとしたベネズエラ人の真騎士。『戦極』育成選手として吉田道場でトレーニングに励み、最近ではパンクラスライト級のチャンピオンに。将来を嘱望されているのであります!!

聞き手／阿修羅チョロ

――真騎士選手は南米ベネズエラの出身らしいですね。

真騎士　ハイ、そうですよ。

――日本にはベネズエラのことを知らない人が多いので、いろいろと教えてください!

真騎士　ハイ、いいですよ。

――まずベネズエラには世界一高い滝(エンジェルフォール)があるんですよね?

真騎士　(即座に)あそこには行ったことないです。

――え? どうしてですか?

真騎士　あそこは観光地なので。ワタシの家族は貧しかったので、そういうところには行けなかった。

――そうなんですか。ベネズエラは恋しくありませんか?

真騎士　ときどきね。今でも月一回は電話しています。電話代が高いから、あんまり話せないけど。

――兄弟は?

真騎士　4人兄弟の長男です。お父さんは3回結婚しているので、ワタシは1番目のお母さんの子で、2番目の母さんのときに一人、3番目(いまの)母さんのときに二人です。

――けっこう苦労されてきたっぽいですねぇ。

真騎士　たいへんだった。7歳のときに両親が離婚して、ワタシはお父さんと一緒に生活することになった。お父さんが3回目の結婚をしたときに4人兄弟になって、おばあちゃん、両親、3人の兄弟で住むことになった。3階建ての家の一番下の階はお父さんの妹家族。2階はお姉ちゃん家族。で、3階にワタシの家族が住んでいました。

――へぇ〜、同じ家に一族で住んでいたんですね。

真騎士　そう。日本に来るまでそこに住んでいました。

――お父さんはなんのお仕事をされてたんですか?

真騎士　お父さんはもともとコカコーラのトラック運転手さん。でも、それを辞めてキヨスクに変えました。

――ベネズエラにもキヨスクがあるんですか?

真騎士　そう。なんかコカコーラ会社で売り上げが伸びないとかそういう問題が起きちゃって、キヨスクの仕事に変えたみたいです。

――ベネズエラにはキヨスクがいっぱいあるんですか?

真騎士　いっぱいある。みんな自分で作ったキヨスクばっかり。

――マイ・キヨスクですか(笑)。ベネズエラって石油ビジネスが有名ですけど、そういった関係の仕事はやらないんですか?

真騎士　石油の仕事をする人は凄く少ない。エリートばっかりで普通の人はできない。で、お父さんは2年ぐらい前に脳梗塞になってしまって、いまは母さんと兄弟がキヨスクを手伝っています。

――うわ、たいへんですねぇ。

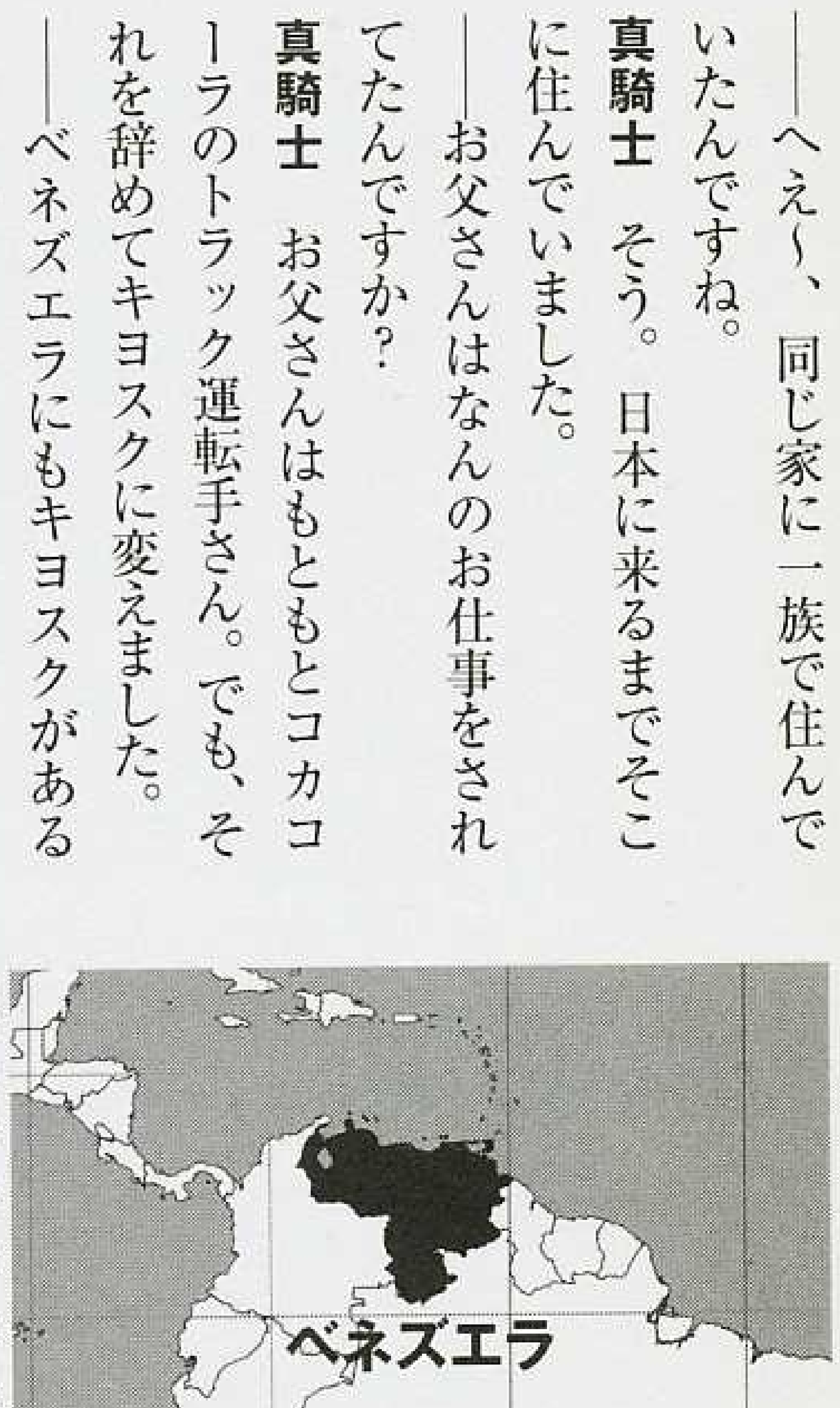
真騎士　それで、ワタシは日本に来てからお金を少し送っていました。自分のお小遣いからベネズエラにお金を送って、それでなんとかみんな生活していた。でも、今年になってからは、お金を送っていません。

――送らなくても生活は安定したんですか?

真騎士　大丈夫じゃない。じつは、去年1年間いろんなことをガマンして貯めた20万円をお父さんに送ったんです。20万円はベネズエラで大金なんだけど、2ヵ月後にお父さんから「もっとお金をくれ!」って言われて、凄いショックだった。ワタシが1年間かけて貯めたのに、たった2ヵ月で使っちゃった。ワタシはショックで「なんで2ヵ月で使っちゃうんだ」って怒ったら、お父さんの体調が悪くなってしまって、兄弟からは「なんでそんなヒドイことを言うの?」と言われました。

――そこからあまり関係が良くないんですか。

真騎士　そんなことはないですけど。ワタシもプロになって、食べ物のことも考えなくちゃいけないし、身体のケアもしなきゃいけない。プロとして勝つために、自分のことにもお金を使いたい。だからもっと強くなって、いっぱいファイトマネーをもらえるようになったら、また家族に送る。それまではゴメンナサイ。



正式名称ベネズエラ・ボリバル共和国。南米大陸に位置する。首都はカラカス。人口2858万人。公用語はスペイン語。世界でも有数の産油国である。スポーツは野球がさかんで多くの選手をメジャーリーグや日本プロ野球に送り込んでいる。オリックスのカブレラ、巨人のラミレスもそう。格闘家には亀田興毅と対戦したファン・ランダエタがいる。ちなみに猪木さんがベネズエラの大統領に闘魂モーターを売りつけようとしたこともある。失敗ダーッ!!

ベネズエラの軍隊に入ろうと思っていたら、留学の話があった

——兄弟はまだ学生さんなんですか？

真騎士 そうです。

——真騎士さんがパンクラスのライト級チャンピオンになったことは知ってるんですか？

真騎士 知らないと思う。ワタシ自分のことは何も言わないから。

——そうなんですか。真騎士さんは高校生のときにレスリング留学されたんですよね？

真騎士 仙台の高校にベネズエラ人の先生がいたからね。

——そのつながりで来日したんですね。

真騎士 そう。でもその先生にはいっぱいしごかれた。だからいまでも苦手です（笑）。ほかの人は言葉が通じなくて苦労したけど、みんな親切にしてくれました。

——日本大学に入ってから結果を残すようになったんですね。

真騎士 はい。富山（英明）監督との出会いでワタシの考え方が変わったかな。いろんな基本を教えてもらって、それを信じながら頑張ったということ。

——ホームシックにはかからなかったんですか？

真騎士 ホームシックはあったんですけど、しょうがないって感じでした。それにベネズエラに帰ったらまた同じ生活だから。家族のためにこっちで頑張るしかないって。

——ベネズエラの生活はたいへんですね。

真騎士 そうですね。だからワタシ、ベネズエラの軍隊に入ろうと思ってました。軍隊に行けば国がお金を出して生活ができるから、それで国を守ればいいなと思った。でも日本に来る話があって、それを選ぶのもいいかなと思った。

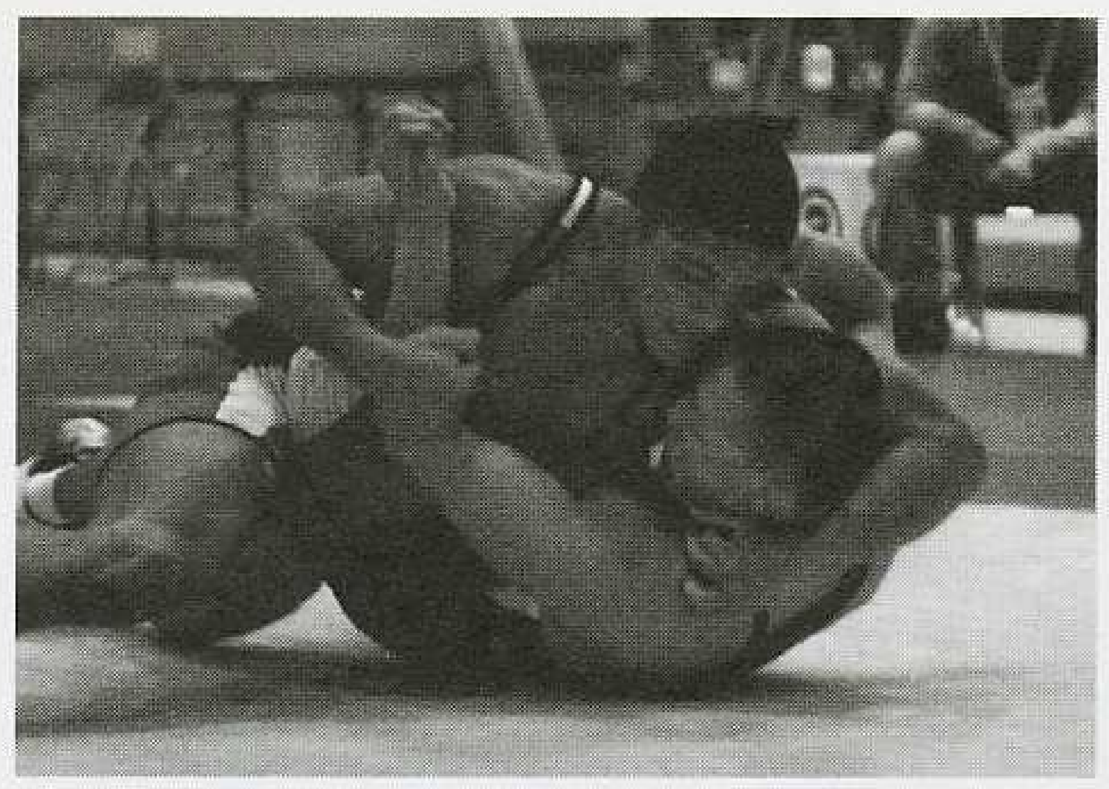
——日本の生活はいかがでしたか？

真騎士 う～ん、ビックリした。人が多すぎて。最初は凄い迷ってたし、違う駅に降りたりとか、慣れるのは難しいなと思った。時間をかけてやっと楽しくなってきた。

——日本で一番楽しかったことはなんですか？

真騎士 なんだろね？ いろいろ。

——真騎士さんはお酒なんかは飲まれるんですか？



15歳のときに仙台育英高にレスリング留学。高校時代の成績は振るわなかったが、日本大学進学後に開花。谷津さんの後輩だ！

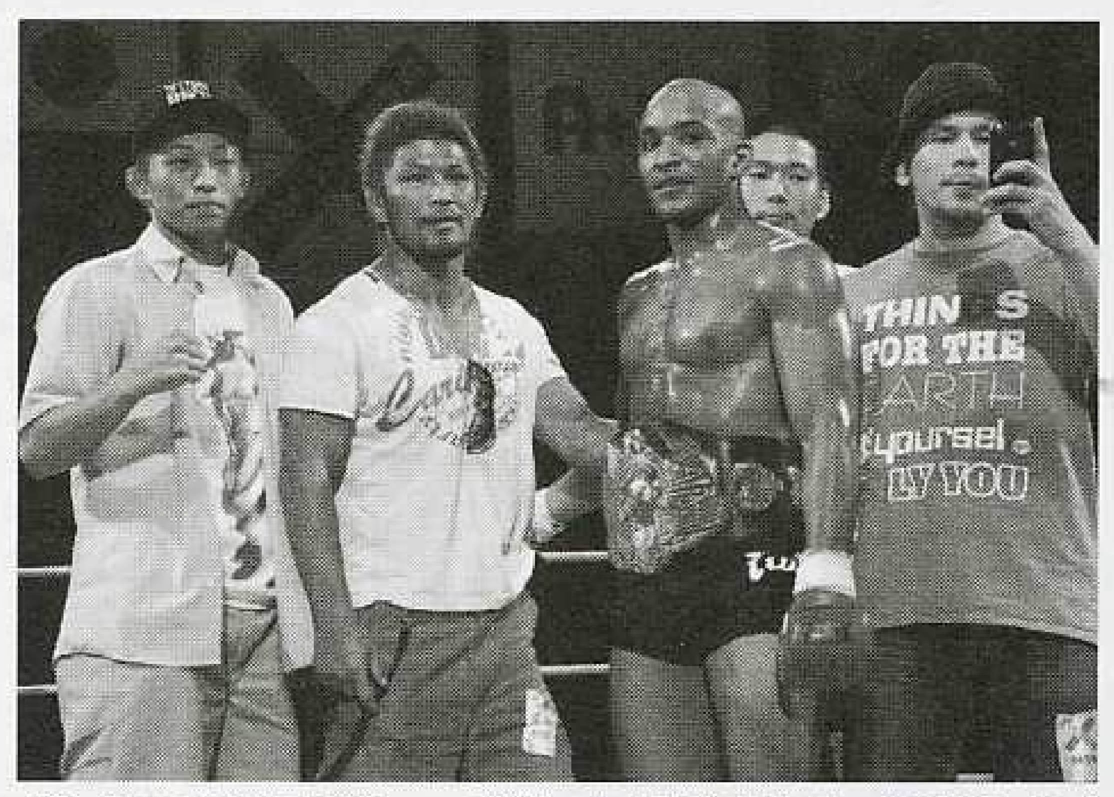
真騎士 先輩に飲まされたときに大喧嘩になっちゃった。あれから自分が怖くなってお酒は絶対に飲まないようにした。

——そこまで酔いましたか（笑）。で、総合格闘技はヒクソン・グレイシーの試合を観てやろうと決めたんですよね？

真騎士 そうだったかな、よくわかんないね。高校のときから冗談で「いつかやるかな」とか言ってたけど、でもホントにやると思わなかった。

——PRIDEに出るという話もあったんですよね。

真騎士 オリンピックでメダルを獲ればPRIDEでデビューするはずだった。でもオリンピックの予選で負けちゃったし、PRIDEも終わっちゃったし。だからしばらくのあいだ「これからどうしよう……？」ってなっちゃったんですよ。でも、そのあとに『戦極』の育成選手になる話をいただいて、「ぜひよろしくお願いします！」って感じで、一生懸命頑張ってます。



パンクラスでプロデビュー。難敵・井上克也を右フックでKO、ライト級チャンピオンに輝いた。9.23『戦極』では山田哲也と対戦する。

——いまはどんなスケジュールなんですか？

真騎士 24時間マラソン。

——それはテレビの企画です（笑）。

真騎士 いや～、12時間マラソン。

——一日12時間ぐらい練習してるんですか？

真騎士 ときもある。

——いまはけっこうハイペースで試合してますけど、このぐらいの試合間隔で問題はないですか？

真騎士 問題ないです。いつも減量がつらいけど、いっぱい試合をして、全部勝って、早く上に行きたいです。

——選手で仲が良い人は誰ですか？

真騎士 小見川先輩。たまたま、横にいるからじゃないですよね（笑）。

小見川 みんなと仲良いッスよ。

——そのなかでも小見川先輩？

真騎士 いつもいろんな技を教えてもらえる。ありがたいですね。

——真騎士さん、ネコは好きですか？

真騎士 ネコ、大好き！ ネコの写メールもあるよ。

——ネコを飼ってるんですか？

真騎士 そのへんのネコ。

——野良猫ですか（笑）。ネコを飼いたいと思いますか？

真騎士 飼いたくない。ネコは小見川先輩にまかせます。ワタシ、ネコより恋人がいい。

——いま恋人はいないんですか？

真騎士 いまは募集中。

——どんな女性がタイプなんですか？

真騎士 やさしい人。あと、ワタシのこと愛してくれる人。

——真騎士さんって、まだオリンピック出場は狙ってるんですよね？

真騎士 はい。ロンドンオリンピックを目指しています。そんなに簡単じゃないので、まずは出場すること。その次にメダルです。あとはベルトかな。

小見川 いまはルイ・ヴィトンのベルトのほうがほしいんです（笑）。

——ワハハハ！ そうなんですか？

真騎士 ルイ・ヴィトンのベルトは使えるからねぇ。パンクラスのベルトは普段は使えないから。

——確かにそうですけども（笑）。北岡選手はよくベルトを巻いて街を歩いてましたよ。

真騎士 北岡さんは似合うからねえ。

——真騎士は似合わないんですか？

真騎士 わからない。どうですか？

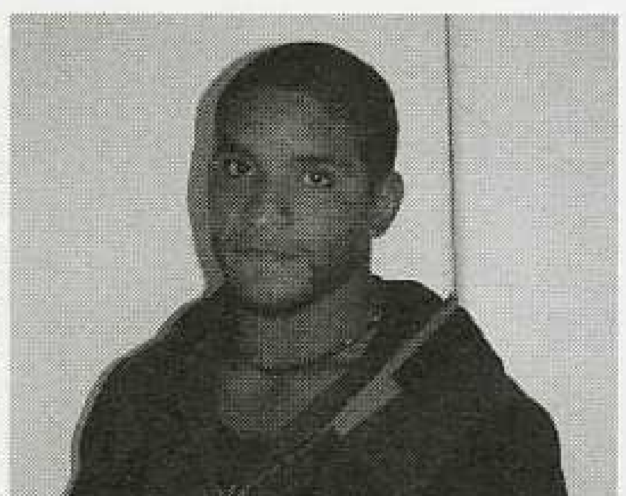
——イヤ～、似合っていると思いますけど。

真騎士 まあ、次に目指すのは『戦極』のチャンピオンです。

——チャンピオンになってベネズエラに凱旋してください！

真騎士 ……そうしたいね。

【09年8月31日／戸越銀座『J-ROCK workout studio』にて収録】



まきし■本名マキシモ・ブランコ。1983年10月19日、ベネズエラ出身。吉田道場所属。ロンドン五輪のレスリング代表を狙いつつ、総合格闘技にチャレンジしている。日本人離れした身体能力を持つ（あたりまえ）。戦績は6戦3勝2敗1ノーコンテスト（一つの反則負けを含む）。175センチ、70キロ。

対戦要求したことで消えるもんでもない





三者をめぐる"因果律"とは?

マッハに挑戦表明した高瀬に挑戦表明した男がいるらしい!?

M-1初代ライトヘビー級チャンピオン 寒川直喜

人気カリスマブロガーの高瀬大樹が桜井"マッハ"速人に対戦表明! はたして試合は実現するのか、その行方に注目が集まっている。ここに"ポジティブ"に割り込んできたのが、キックボクシングを主戦場とする寒川直喜だ。いったいなぜ高瀬に迫るのか、その真相を激白!

聞き手/橋本宗洋　構成/鈴木佑

――高瀬選手がマッハ選手に噛みついて話題になってる中、さらに寒川選手が高瀬選手に対戦を表明しているということで、さっそく取材させてもらいに来ました!

寒川　この件はちょっと、黙ってらんないなって思ったんですよ。マッハさんはお世話になった人なので。

――マッハ選手と寒川選手は、ガッツマン修斗道場時代の先輩・後輩なんですよね。

寒川　はい。いまのジム(バンゲリングベイ)に入る前ですね。俺はアマチュアだったんですけど、出稽古に連れてってもらったりして、付き人みたいにかわいがってもらって。いまも、たまに会って一緒に飯食ったりしてますし。

――一方で高瀬選手とも面識があるそうですね。

寒川　そうなんですよ。べつに関係は全然悪くなくて(笑)。一緒に練習して、ミット持ったこともありますし、俺が「寝技教えてください」ってお願いしたこともあるし。むしろ、高瀬さんを尊敬してるから闘いたいって部分もありますね。凄いキャリアというか、自分の糧になるなって。

――寒川選手から見た、高瀬選手の印象っていかがですか?

寒川　普段は爽やかな人ですね。練習したときも、最初は無視されるんじゃないかって思ってたんですけど、ちゃんと話してくれますし。凄い謙虚なんですよ。前、道端で会ったときに「今度、打撃教えてください」って頭を下げられたこともあって。

――じゃあ「マッハさんが噛みつかれて黙ってらんない」という気持ちと、「尊敬できる選手の高瀬さんとやれたらいい経験になる」っていうのと半々なんですね。

寒川　それに、マッハさんと高瀬さんの試合が実現するかどうかっていう話は、俺が

普段の高瀬さんは爽やかで謙虚な人 尊敬してるからこそ闘ってみたい

対戦要求したことで消えるもんでもないじゃないですか。逆に、高瀬さんが俺とやって勝ったらマッハさんとの試合に近づくってわけでもないと思いますし。「壁になってやろう」とか、そういうつもりはないんですよ。まあ、先輩があいうふうに言われて、少しでも高瀬さんのマッハさんに対する攻撃を弱められればいいなとは思いましたけど。やっぱり、マッハさんもいい気持ちはしてないと思うんで。

——ブログに対戦要求を書いたら、凄い数のコメントがついたじゃないですか。あいう反応に関してはどう思いました？

寒川　自分に対しての批判もありますけど、そういうのは全然、気にしてないですね。それで心が動かされるほどヤワじゃないんで（笑）。笑って見てますよ。

——高瀬選手からも反応がありましたよね。ブログの中で「いま、○○って店にいるから電話してこい」っていう。電話番号も載せてあって。

寒川　あれ、マッハさんのブログのパロディになってたんですよね。

——そうですね。マッハ選手が高瀬選手に触れたときのブログと似た感じになってて。

寒川　俺、それ知らなくて、書いてあった電話番号に3回くらい電話したんですよ（笑）。そしたら全然つながらなくて。違う店の電話番号だったみたいで。

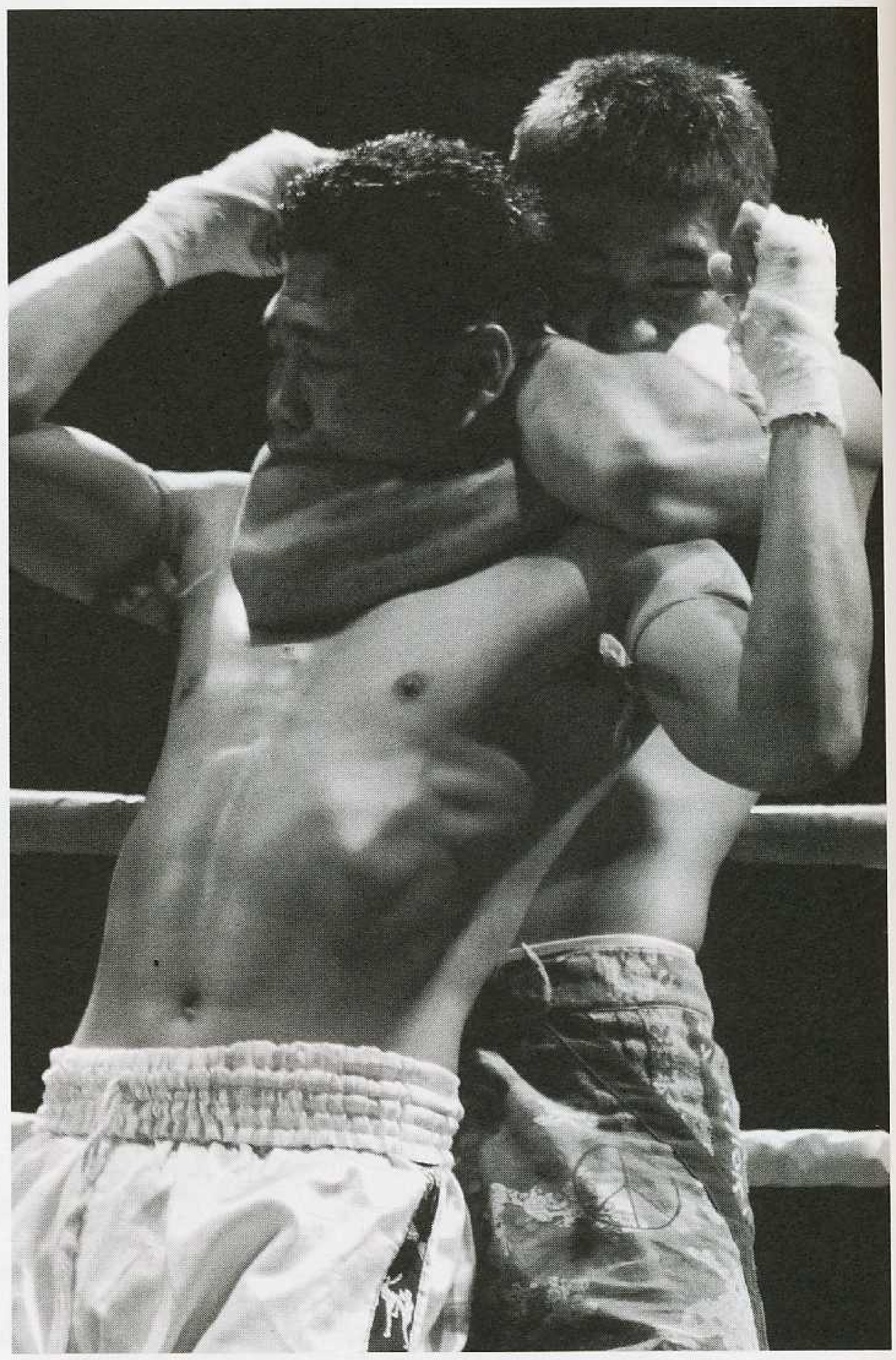
——電話番号を載せられたお店も大変ですよね（笑）。でも、直接話をしようとしたってのはいいですね。それだけ真剣というか。

寒川　高瀬さんに悪いイメージはないですからね。「どんな話ができるかな」って楽しみだったんですけど。まあ、多少は「何やってんだ！」って言われるかもしれないかな、とも思いましたけど。

——結局はスカされたみたいなかたちになっちゃいましたけど、寒川選手の気持ちとしてはどうですか？

寒川　高瀬さんはいま、マッハ戦実現に向けて本気になってるんで仕方ないですね。でも自分も本気ですし、間違ったことしてるわけじゃないですから。

——ブログの対戦要求は「キックルールで」ということになってましたね。



07年8月、寒川は素手&頭突きありの超過激ルールのミャンマー・ラウェイにも挑戦！　見事にラウェイミドル級王者のソー・パインをチョークスリーパーで仕留め、キックルール以外での順応性を見せつけた。ちなみにセコンドには師匠・新田明巨のほかに、総合格闘家で練習パートナーの帯谷信弘がついた。

寒川　いまは総合の練習をほとんどしてないので。でも、キックルールにそんなこだわりはないんですよ。もっと練習して、総合ルールでも高瀬さんの前に立てるようになったら、総合でも闘いたいですし。

——最終的にキックルールと総合ルールで2試合やろう、と。

寒川　キックルールでやらせてもらったら、総合ルールでもやらないと。ブログに「キックルールで」って書いたときも、ツッコミの書き込みがくるなとは思ってましたから。

——ブログでは、対戦要求に対する「売名行為だ」っていう書き込みにたいして「そのとおり」と答えてましたよね。あれも凄いなと思ったんですけど。

寒川　だって、有名になりたいじゃないで

挑戦最高!? 高瀬&マッハ&寒川 ここまでのざっくりとした流れ

高瀬、ブログでマッハに挑戦表明。03年の『PRIDE 男祭り』での一戦を引き合いに、「前回、そっち側のムチャクチャな要求のんで試合してんだから、今度はそっちがのむ番でしょ」と対戦を迫る。

◀

マッハが高瀬のブログのコメント欄に「わかった高瀬。お前の方が強い。お前の勝ち」と書き込む。

◀

登山帰りのマッハが自分のブログで「下界にきたら、高瀬に喧嘩うられてんなー俺」「高瀬は世界一強いよ。皆さんも高瀬ダイジュを応援してください」と、高瀬の要求をスルーするかのような反応。

◀

高瀬、ブログで「あんた何様だよ」と挑発的な言葉をまじえつつ、「大晦日やりましょうよ」と、具体的な日時まで指定して対戦を迫る。

◀

マッハ、マイペースに靴や時計など身の回りのものについてブログ更新。

◀

高瀬、「マッハさんが養護されてるリングならどこでもいいですよ」「実績が自分より下の選手と試合したマッハさん最高」と、対戦を迫る。

◀

マッハ、マイペースにライブハウスでライブをした模様などをブログ更新。

◀

高瀬、「マッハさん 男気みせて下さい」「お互い目と目を合わせて話せるようになりましょう」と、対戦を迫る。

◀

寒川、ブログで「マッハさん先輩なんで、オレも黙ってるわけにはいかないんですよ」と高瀬に挑戦表明。

◀

高瀬、寒川に対して「新井薬師前のさくらって店にいるから電話してこいよ」と、マッハのマネをして店の電話番号をブログに記載（のちにまったく関係のない店の番号と判明）。

◀

マッハ、マイペースに高瀬のことは忘れたかのように、身の回りのことをブログ更新。

◀

高瀬、マッハが03年の『PRIDE 男祭り』での対戦時にグローブにコインを握っていたと糾弾（コインではなく、ピップエレキバンの可能性大）。「どっちにしても再戦ですよ」と、対戦を迫る。

◀

寒川、マッハのコイン疑惑に対して「そんな勝ち方しても何も得られない」「今まで世界の強豪と戦ってきた男がこのタイミングで不正をする意味はないでしょう」とマッハを擁護。

☞ **いまここ。**

※くわしくは3人のHPにアクセス！

マッハに挑戦表明した高瀬に 挑戦表明した男がいるらしい!?

ネットは自分の気持ちを伝えやすい 格闘家はみんなシャイなんで（笑）

すか（笑）。ただ、売名行為なのは高瀬さんと試合することなんですよ。ブログ書くことじゃなくて。

――対戦要求で名を挙げたいんじゃなくて、闘うことで名前を売りたいんだ、と。

寒川　そこは真剣なんで、はい。高瀬さんがマッハさんにブログで対戦要求してるから、自分も同じやり方で、と思っただけで。ブログで書く前に、電話もしてますし。

――え？

寒川　最初にマネージャーに相談したんですよ。「ブログで対戦表明を出したい」って、それは高瀬さんにも事前に伝わっていると聞いています。

――そのときの高瀬選手の反応はどうだったんですか？

寒川　いまはマッハ戦しか頭にないみたいな感じだったそうです。

――寒川選手としては、最終的にどういうかたちになりそうだと思ってます？

寒川　もし高瀬さんとマッハさんの試合が実現したら、そのあとでこっちを向いてくれるのかなって気持ちはありますね。「そういえば寒川、おまえ俺に挑戦してたな」みたいな。

――そういうかたちでも構わないわけですか。

寒川　そうですね。高瀬さんとの試合が実現できればいいんで。

――ところで、この件に関してマッハ選手とは何か話されました？

寒川　食事したときにブログの話題になったんですけど、そんなに深い話はしてないですね。「本当にやるんですか？」とか、怖くて聞けないんですよ。いまだに横に座ってると緊張するんで（笑）。

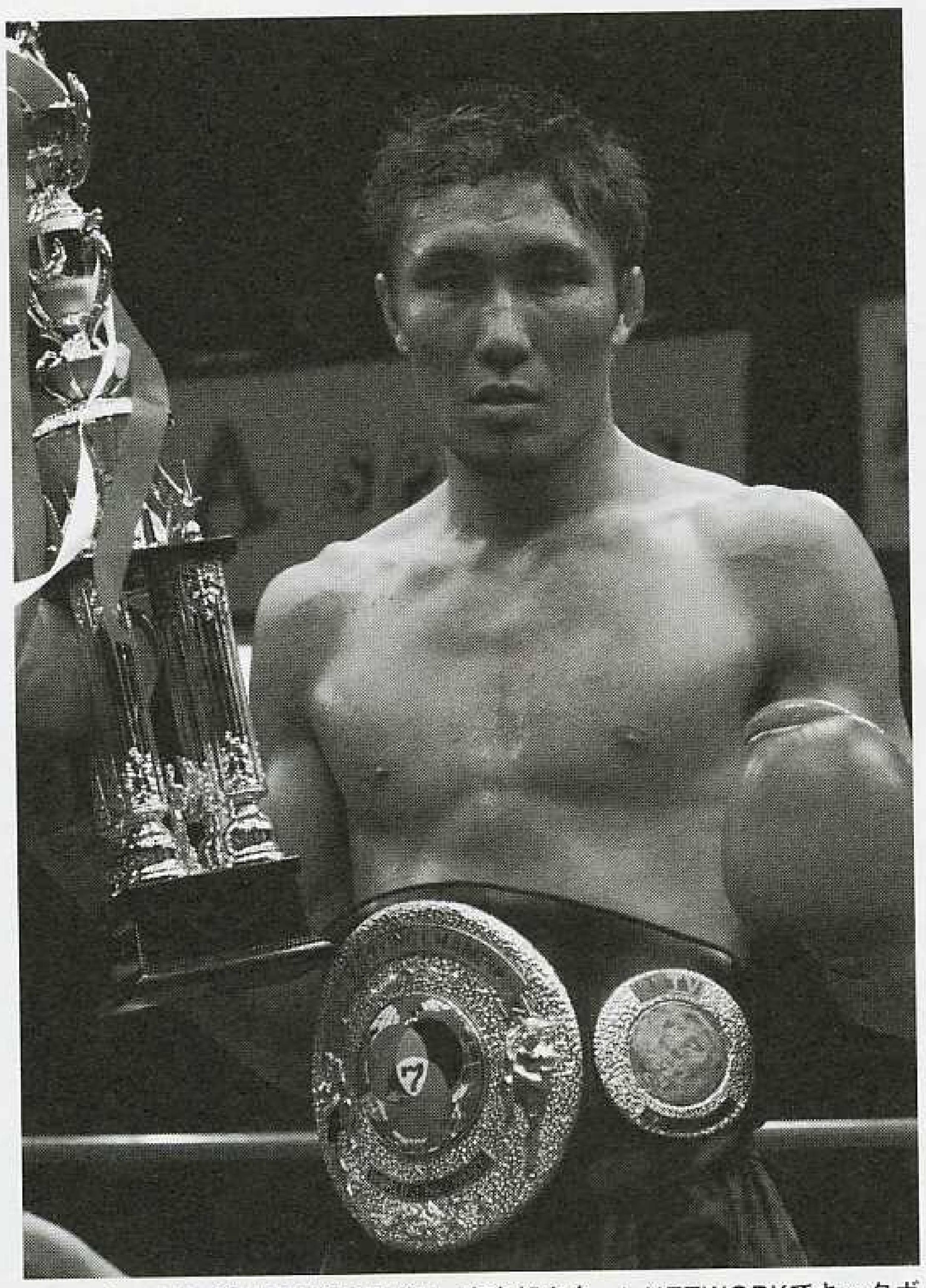
――まさに「雲の上」の人というか（笑）。

寒川　やっぱり練習で何回もボコボコにされてますから。でも、それでも食らいついていったら、出稽古に誘ってくれるようになったんですよね。

――いかにもマッハさんらしい話ですねえ。

寒川　憧れますよね。俺もトンパチなところがありますけど、あの人はうちの代表（新田明臣）と並んで神の領域にいますから（笑）。

――ちょっと話はそれるんですが、ここ数年の寒川選手は〝素手のムエタイ〟と呼ばれるミャンマーラウェイの試合に出たり、



さむかわ・なおき■1980年7月12日、東京都出身。J-NETWORKでキックボクサーとしてデビュー。06年にはK-1 MAXにも参戦。立ち技だけにとどまらず、07年7月にはDEEP CLOVEに参戦。09年1月、M-1初代ライトヘビー級王座に戴冠。バンゲリングベイ所属。182cm、80kg。

総合の試合もやってますよね。成長過程にある選手ならわかるんですけど、寒川選手はその時点でキックのベルトも持ってたし、K―1に出たこともあるわけじゃないですか。そういう人が他ジャンルに進出するのは、かなり珍しいパターンだなと思ったんですけど。

寒川　俺が人生が変わるような思いをしたのが、初期のUFCを見たときなんですよ。そのときの気持ちがずっと残ってて。だから、ラウェイのオファーが来てるのに断ったら逃げたことになると思って。

――スポーツじゃなく、ケンカ売られた感覚なんですかね。

寒川　そうですね。いまでも、ラウェイのオファーなら明日でもやるって決めてますし。

――総合も似たような感覚なんですかね。

寒川　「いつか総合やらないと、俺、キックボクサーになっちゃうな」と思って。キックのタイトルを持ってたとしても、総合の選手に「寝かせたら自分のほうが強い」って思われてるんだろうなって。だから、寝ても強いやつがキックの試合やってるんだって思われたいんですよね。

――そういう気持ちが根っこにあるから、高瀬選手に対戦要求しようと思ったのかもしれないですね。競技的に見たら「なんでキックボクサーが、総合の、それも寝技主体の選手にケンカ売ってんだ」ってなりますけど。

寒川　俺は自分のことキックボクサーだと思ってないですし、プロフィールにそう書かれるのも嫌なんですよ。最近も、ガッツマン修斗道場に出稽古に行かせてもらってるんですよ、入会し直して。

――会員として入会したんですか？

寒川　はい。一回やめてますから、戻ってきた理由を話して、「月謝を払うので、一般会員と同じ扱いで練習させてください」って。そこは礼儀ですね。

――じゃあ、ブログを通じて対戦要求するっていうのは、寒川選手らしからぬ行動でもあったってことになりますね。

寒川　でも、ネットって自分の気持ちを伝えやすいと思いますね。直接、会って話すのが理想なんですけど、格闘家はみんなシャイなんで（笑）。それに、いまはジム同士の交流も盛んだし、会ったら仲良くしなきゃいけないじゃないですか、本当は気に食わない人間でも（笑）。

――どうしてもフレンドリーにならざるをえないですよね。

寒川　自分もそうなってる部分があるので、歯がゆいんですよね。だから、本当の感情をネットでぶつければいいかなって。ただ試合するんじゃなくて、ケンカ売ったら感情も入るし、リング上がっても燃えますよね。マッハさんと青木（真也）選手の試合もそうだったじゃないですか。

――尊敬してるし、話もできる高瀬選手が相手だからこそ、ブログという場所で生の感情をさらけ出した、と。

寒川　そうですね。それで試合が終わったら、へんなわだかまりもなくなるでしょうし。一度対戦要求した以上は、そこまでもっていきたいです。

【09年9月8日／都内・バンゲリングベイ恵比寿にて収録】

角界から来た珍獣

浜亮太が作るちゃんこがめちゃんこうまいらしい!?

なんでも全日本プロレスの浜が作るちゃんこは、業界一の味を誇ると評判だとか。それを聞きつけたのが、うまいものがある場所にぶらりと現われる、本誌・編集次長にして〝味覚バカ一代〟の異名を持つ松林貴。その評判を確かめるべく、今回は道場に突撃潜入！　は〜、ドスコイ！

聞き手／松林貴　構成／鈴木佑

ごっつぁんです！



――いやあ、うまいっ！

浜　そうっすか？

――今回は「浜亮太の作るちゃんこがうまいらしい」という評判を聞いて全日本の道場までうかがったわけですが……ホント、掛け値なしにうまいですね！

浜　嬉しいなぁ（ニンマリ）。

――また、この鶏肉もプリプリして食感がいいですね〜。

浜　そうでしょ？　あんまり煮るとパサパサになっちゃうんで、入れるタイミングが重要なんですよ。

――スープも、大葉とニンニクとゴマ油を混ぜたペーストを入れたことで深みが増して、食がどんどん進むというか。

浜　このスープはあとでごはんを入れてもおいしいんですよ。うちのKAI選手なんかもそれが大好きで、「残ったスープは捨てずに取っといてください」って言われますからね。

――選手のあいだでも大評判なんですね。

浜　自分、師匠が北勝海で八角部屋ってところにいたんですけど、ちゃんこの味は九重部屋の系譜なんですね。このスープ炊きは巡業のときに九重部屋の先輩に教えてもらって、それに自分でもちょっとアレンジを加えてるんですけど。

――ちなみに相撲の世界では、ちゃんこはどのくらいの番付の力士までが作るんですか？

浜　幕下まではずっとやりますよ。だから僕は、ず〜っとちゃんこを作ってましたね。

――ということは、角界を引退して

浜ちゃんこ（スープ炊き）レシピ



用意するもの

【材料】レスラー約10人分

ダイコン	1本（皮を剥いて、いちょう切りに）
ニンジン	3本（皮を剥いて、いちょう切りに）
タマネギ	4個（くし形切り）
長ネギ	2本（斜め切り）
キャベツ	1個（粗めのざく切りに）
ニラ	2把（7〜8センチの長さに切る）
えのき茸	2束（根元を切り落として小分けに）
大葉	50枚（みじん切り）
油揚げ	3枚（2センチ幅程度の短冊切りに）
絹ごし豆腐	1丁（さいの目切り）
ウィンナー	5〜6パック
鶏もも肉	約1.5キロ（ひと口大に切る）
豚もも肉	約1.5キロ（ひと口大に切る）※豚バラ肉スライスでも可

【調味料】※各適量（すべて浜亮太の目分量）
しょうゆ、塩、こしょう、うま味調味料、おろしニンニク、ゴマ油

作り方

① 鶏ガラでダシをとり（家庭で作る場合は粉末の鶏ガラスープの素を使用してもよい）、しょうゆ、塩、こしょう、うま味調味料、おろしニンニク（大さじ1〜3杯程度をお好みで）、ゴマ油少々を入れて火にかけながらスープの味を調える。あとで入れる野菜から出る水分を考慮して、この段階での味は少し濃いめに感じる程度に。
② ダイコン、ニンジン、タマネギを鍋へ。火が通りにくい野菜から先に入れる。
③ 次に豚もも肉、ウィンナーを入れて、しばらく煮る。
④ 豚肉に火が通ったら、鶏もも肉を鍋に。鶏肉は長時間煮ると肉がパサパサになるので時間差で投入するのがコツ。これ重要！
⑤ 鶏肉にも火が通ったら、ていねいに灰汁をとる。
⑥ みじん切りにした大葉におろしニンニク（大さじ1〜2杯程度）とゴマ油（少々）を混ぜてペースト状にしたものを投入。
⑦ 続いて豆腐、油揚げを入れ、最後に火が通りやすいキャベツ、ニラ、えのき茸を入れて、ひと煮立ちさせたら「浜ちゃんこ（スープ炊き）」の完成。ごっつあんです!!

すぐにプロレス入りした浜さんは、ちゃんこ作りに空白期間がないわけですね。

浜　そうですね、ちゃんこを作り続けて十数年です（笑）。全日本に入ったときも、自分から「ちゃんこ番をやらせてください」ってお願いしたんですよ。

――あ、自らすすんで？

浜　はい。角界って車（を運転すること）が禁止だったんで、自分は免許を持ってないから運転もできないし。でも、「何かしらみんなの役に立たないと」って思ったら、やっぱりちゃんこ番くらいしかないかなって。

――通常だと、ちゃんこは道場生が順繰りに作るケースが多いと思うんですけど。

浜　いまは自分が一人で担当してますね。食材を切るのや買い出しは練習生に手伝ってもらって。でも毎日、道場に何人いるかを把握しとかないといけないんでたいへんな部分もあるんですけどね。3人くらいしかいないときは、「じゃあ面倒くさいから外へ食べに行くか」ってなりますし。逆に合宿所に住んでる7人以外に先輩がいれば、「今日は多めに作ろうか」って。まぁ、巡業じゃないときはほぼ毎日作ってますね。

――なるほど。

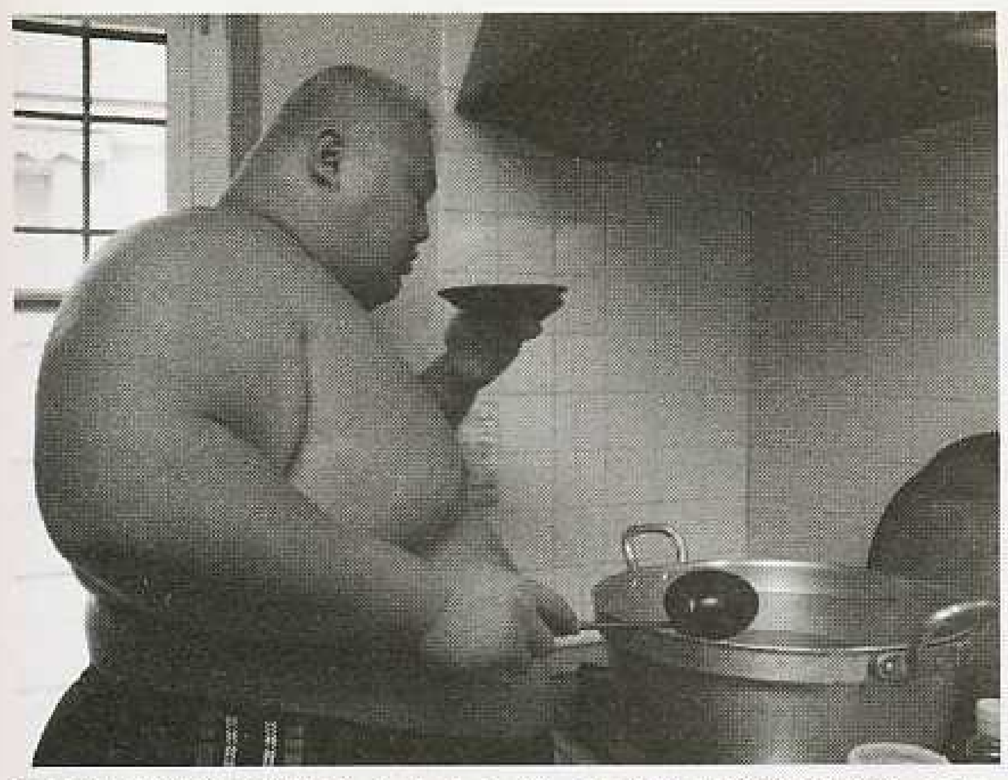
浜　会社から支給されるちゃんこ銭の管理も自分がやってるんですよ。だから買い出しにしろ、なるべく安いもの、質より量にこだわってますね。質はこっちの味つけでカバーする感じで。でも、たまに豚バラ肉を入れたりして贅沢もしますけどね。けっこういろいろと頭を使いますよ。

――鍋のレパートリーはどのくらいあるんですか？

浜　20種類以上あるんじゃないかなぁ。塩ちゃんこやみそちゃんこ、キムチやカレーちゃんこに始まって、珍しいのだとモツ鍋とかイカのゴロ煮鍋とか。凝ったやつは時間がかかるんで、だいたいは7種類くらいを日替わりで作って。

――その日ごとのちゃんこのメニューというか、ローテーション的なものは浜さんの気分で？

浜　気分というか、こいつら（練習生）にも「何食べたい？」って聞きますよ。


その規格外の巨体にもかかわらず、事細かに調理を行なう浜。時折味見をしているうちに、気づいたらごはんを抱えて調理場で食事を始めてしまうこともあるとかないとか。


この日道場にいた練習生や大和選手たちと、ちゃんこを囲んではいチーズ！　普段、ちゃんこには手をつけないという武藤敬司も、浜のスープ炊きだけは絶賛とのこと。

――練習生のリクエストも聞くんですか。で、ちゃんこを作るうえで心がけてることって何かありますか？

浜　それはやっぱり手を抜かないことですよね。よく言うじゃないですか、「料理は愛情」って。

――先ほどの調理中も凄く気を配りながら作ってましたね。あれは愛情を詰め込んでいたんだ（笑）。

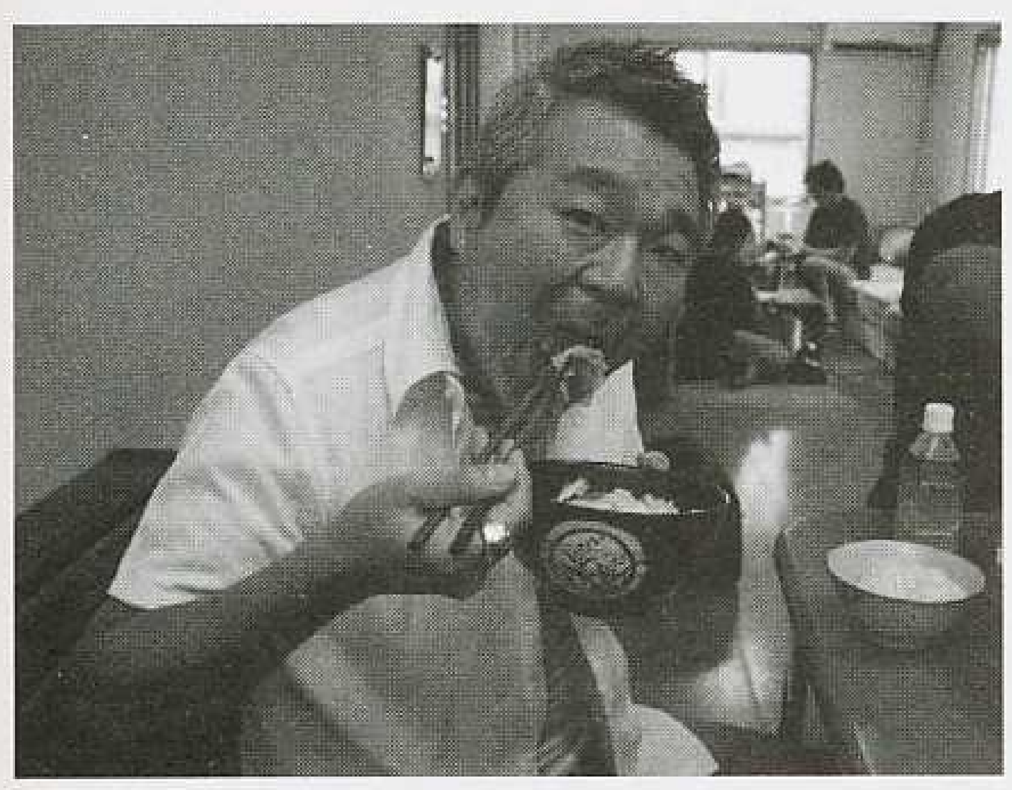
浜　まぁ、自分の愛情で先輩方にも胸焼けしてもらおうかなって（笑）。あ、ビールありますけど飲みます？　鍋にビールって凄く合うじゃないですか。

――いえいえ、飲みたいですけど一応仕事中なんで（笑）。普段はさすがに練習後とかに飲んだりはしないですよね？

浜　ここで飲むことはないですけど、相撲部屋ではたまにありましたよ。夏場なんかは親方衆や関取衆が練習後に飲むんですよ。それで「おまえらも飲まんかい！」みたいなのとか。

――浜さんはビールだとどのくらい飲みます？

浜　一人だとだいたい大ビン1ケースは空けちゃいますね。


極上ちゃんこに松林も御満悦の表情！　ちなみにかつて小さい頃の『紙プロ』本誌で、松林は「男冥利の道場チャンコ巡り」という企画を担当していた（なぜか連載2回で終了）。

――ということは……20本！

浜　まぁ、そのあとにまた焼酎2升飲むんですけど（笑）。

――はぁ～、常人には計り知れない量ですね。聞いた話によると、全日本の台湾遠征でも機内で凄く飲んだとか？

浜　そうそう。ビールを頼んだら最初のうちはアサヒやキリンだったのに、途中からは見たこともない台湾ビールが出てきましたから（笑）。50本くらい飲んだのかなぁ？　で、そのあとに曙さんが「ポリフェノールで血をサラサラにしないと」とか言って、赤ワインを4本くらい頼んで。ほとんど自分と横綱と引退された荒谷（望誉）さんで空けちゃいましたね。西村（修）さんも飲んでましたけど、やっぱり体格の差があるんで税関を通るときにはベロンベロンになって（笑）。

――ダハハハ！　台湾までのわずか2時間半のあいだに（笑）。

浜　自分なんかもベロンベロンでしたけど、着いたらまたすぐにメシ食いに行って飲んでましたけどね（笑）。あ、ちゃんこ、もっとお代わりしてくださいよ！

――いやぁ、お腹がいっぱいで。というかこのお茶碗、かなり大きいですよね。普段、米をこんなに食べることってなかなかないですよ（笑）。

浜　そういえば、自分がプロレスに入って思ったのが、レスラーの人たちって意外と米を食わないんですよね。

――あ～、いまは炭水化物を取りすぎないように、節制を心がけてる選手が多いのかもしれないですね。

浜　それがプロレスに入って最初にビックリしたことですね。相撲取りは米に関しては容赦ないんで（笑）。

――米に関しては容赦ない！（笑）。ちなみに浜さんはこのお茶碗でどのくらい食べるんですか？

浜　いまはそんなに食べないですよ。だいたい丼2杯くらいで。でも、巡業とかに行くとどうしても食べちゃうんですよね～。8月の北海道巡業なんかもおいしいもんばっかでしたから。武藤さんにいろいろと連れていっていただいて。

――それは夜のお付き合いというか、スポンサーさんの接待とかで？

浜　そうですね。なんていうか、ヘンなギブ&テイクなんですけど、自分が食べる姿を見てスポンサーさんも喜んでくださって、自分もその喜んでるスポンサーさんを見ると気分がよくなって、よりたくさん食べられるんですよね（笑）。

――それはじつに美しいギブ&テイクですね（笑）。巡業で一緒に食事をする人は武藤さん以外だと？

浜　あとは西村さんに連れていっていただくことも多いですね。「西村会」っていう西村さんを会長とした集まりがあるんですよ。

――西村会！　具体的にはどんな活動を？

浜　まぁ、夜の散策ですね（笑）。仲間同士でドンチャン騒ぎして、食べて飲んで……。荒谷さんが副会長だったんですけどね。荒谷さんとも二人でよく食べに行きましたね。一回、「つぼ八」に二人で行って、会計が4万円だったこともありましたよ。

――えっ、大衆居酒屋に行って二人

で4万!?

浜　荒谷さん、伝票見てひっくり返

――あ、ある（笑）。

浜　まず豆類全般がダメで。納豆か

ヤンボステーキ3枚と大ライス（約500グラム）3杯（計3キロ）を30

枚と、500グラムのハンバーグ1枚。

――ということは、合計2キロ!?

ボロになっちゃって。股ずれもするんで穴が開いてたいへんなんですよ～。

で4万⁉

浜　荒谷さん、伝票見てひっくり返りそうになってましたから（笑）。もともと「つぼ八」って荒谷さんのスポンサーなんですよね、コスチュームにもロゴを入れてましたし。それでお店の人も「いつもお世話になってます！」って言ってくれたんで、会計も勉強してくれるのかなって思ってガッツガッツ飲み食いしたんですけど、ガッチリ請求されちゃって。あのときは荒谷さんも泣きそうになってましたよ（笑）。

――ちなみに浜さんは甘いものも好きですか？

浜　いや、自分は一切食べませんね。

――あ、そうなんですか。身体から想像すると意外な感じが。

浜　ジュース類も一切飲まないですよ。節制とかじゃなくて、もともと甘いモンを食べたり飲んだりしないんですよ。たまにピザとかハンバーガーを食うときに炭酸飲料を飲むくらいですね。

――あ、ジャンクフードはお好きなんですね。

浜　大っ好きですよ！　ケンタッキーでフライドチキン20ピース、バケツ二つ分食ったこともありました。

――ちょっとした大家族が食べる分量ですね（笑）。もちろん食べ物の好き嫌いなんてないんですよね？

浜　いや、これがまためちゃくちゃあるんですよ！

肉ならキロ単位で食べますけど胸焼けなんかしたことないです（笑）

――あ、ある（笑）。

浜　まず豆類全般がダメで。納豆から始まって、枝豆、ピーナッツとか。あとはピーマンもキツいですね。ホント、嫌いなものを言ってったらキリがないかもしれないです。納豆なんかは何回かチャレンジしたんですけど、やっぱりダメなんですよね。

――臭いとか、食感とか？

浜　もう、全部ですね（渋い表情で）。あとはチーズもスライスチーズとか6Pチーズとかは嫌いで。

――いわゆるプロセスチーズの類が。

浜　でも、とろけたやつなら問題ないんですよ。だからピザとかチーズバーガーとかは大好きなんですけど。「チーズはドロドロになってからこい！」って感じですね。

――とろけてからきやがれ、と（笑）。そんな浜さんの一番の好物というと？

浜　いま一番ってなると、やっぱり「リベラ」のステーキですかね。リングアナの木原さんに連れてってもらったんですけど、めちゃくちゃハマってますね！

――プロレスラー御用達のステーキ店ですね。たしか500グラムのジャンボステーキ3枚と大ライス（約500グラム）3杯（計3キロ）を30分以内に完食したら無料になるとかでしたっけ？



はま・りょうた■1979年11月21日、大阪府出身。94年に大相撲・八角部屋に入門、北勝嵐の四股名で活躍。08年夏場所後に角界を引退し、全日本プロレスに入団。11月にvs曙戦でデビュー。ちなみに浜おすすめのちゃんこ料理店は人形町にある「盛風力」。176cm、189kg。

浜　賞金が1万円出るんですよ。失敗したら罰金（9900円）を払わないといけないんですけど。でも、自分も挑戦してエラい目に遭ったんですよね～。

――エラい目に（笑）。

浜　量的には全然問題なかったんですけど、3枚目でめちゃくちゃ硬い肉が出てきたんですよ。で、あとほんのちょっとのところでタイムオーバーになっちゃって。

――お店の人も「このままじゃやられる」って思ったんですかね（笑）。

浜　まぁ、それも商売のうちですからしょうがないですけどね。でもやっぱりステーキハウスだったら「リベラ」が一番うまいんじゃないかな～。あとは「ミスターデンジャー」もおいしかったですね。

――松永光弘さんのお店ですね。

浜　初めて行ったときにけっこう食いましたね。500グラムのステーキ3枚と、500グラムのハンバーグ1枚。

――ということは、合計2キロ⁉

浜　相撲取りの先輩と二人で行ったんですけど、その先輩も2キロ食いましたからね。柔らかくておいしかったな～。あそこの肉は脂身が少ないから食べやすいんですよね。

――しかし、キロ単位で肉を食べるって凄いですね～。胸焼けとかしないんですか？

浜　全然！　もともと、生まれてこのかた胸焼けなんかしたことないっすけど（笑）。やっぱり、肉を食べるなら「リベラ」かな。行けば1ポンドを最低2枚は食いますね。

――レスラー限定と言われている「リベラ」の特製ジャンパーはもらいました？

浜　もらいましたよ！　でも、特大サイズでも入らないんですよ（笑）。

――浜さんは、レスラー基準でも規格外の部類ですからね（笑）。

浜　先日も曙さんからお古の服をたくさんいただいたんですよ。でも、下（ズボン類）が入らなかったですもん。横綱よりも自分のほうが、下半身が大きいから届かなくて。

――曙さんの服が小さくて着られないって、浜さんくらいでしょうね（笑）。じゃあ、服を買うときは大きい人専門店で？

浜　いや、それでもなかなかないんで通販が多いですね。武藤さんもコラボ商品を作ってる「マンチェス」とかで。一番困るのがパンツなんですよ。相撲取りのときはまわしなんで、下着は私生活のときしか穿かないんですよね。でも、プロレスだと練習にはパンツを穿かないといけないから、すぐにボロボロになっちゃって。股ずれもするんで穴が開いてたいへんなんですよ～。

――じゃあ、「ファンからのプレゼントは超特大パンツが嬉しい」とか書いときましょうか（笑）。

浜　あ、パンツだけじゃなくて、「かっこいい服募集！」って書いといてください！

――ダハハハ！　なぜだ（笑）。

浜　だってオシャレしたいですもん！　「サカゼン」とかに行って「やっと俺のサイズのTシャツがあった！」って思っても、味気ない無地のヤツだったりするんで。いやぁ、オシャレはしたいっすよ……（しみじみと）。

――実感がこもってますねぇ。

浜　それでサングラスとか、かっこいいネックレスとかもかしてね！（ニンマリ）。

――オシャレをした浜さんも見てみたいですね（笑）。

浜　たとえば、精一杯のオシャレとしてオーバーオールを着ることもあるんですけど、ポケットもデカいからドラえもんみたいになっちゃうだけなんですよ。

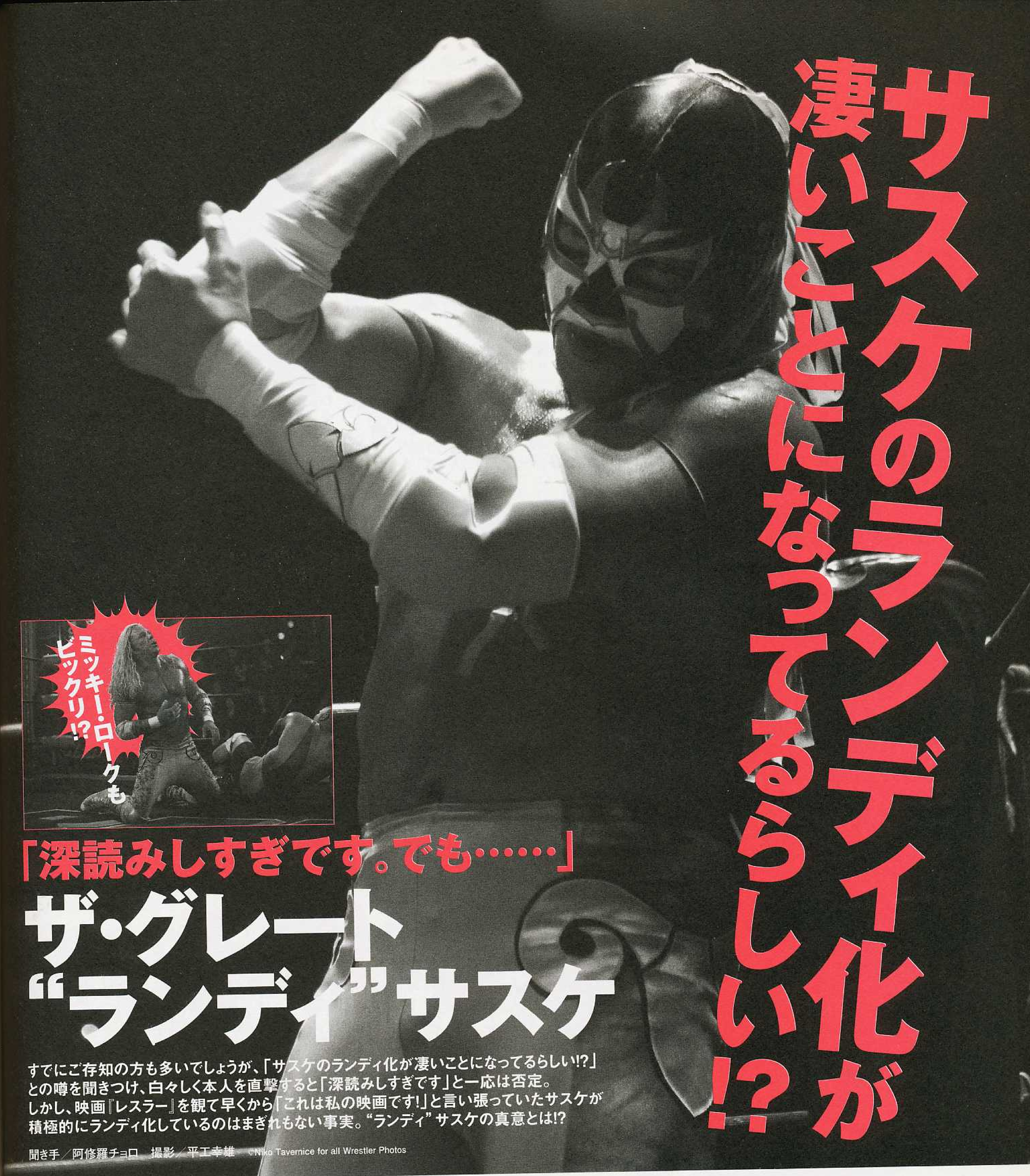
――四次元ポケット状態ですか（笑）。全日本の若い選手たちなんかはオシャレなんじゃないですか？

浜　KAI選手とか大和（ヒロシ）選手とかみんなオシャレですよ、刺激受けますよ！（鼻息荒く）。あぁ、オシャレしたいなぁ～。

――ダハハハ！　では、次回は「浜亮太がオシャレらしい」というテーマで取材する日が来るのを楽しみにしてます（笑）。今日はごっつぁんでした！

【09年9月4日／神奈川県・全日本プロレス道場にて収録】

浜亮太が作るちゃんこがめちゃくちゃうまいらしい⁉



サスケのランディ化が凄いことになってるらしい!?

「深読みしすぎです。でも……」

ザ・グレート“ランディ”サスケ

すでにご存知の方も多いでしょうが、「サスケのランディ化が凄いことになってるらしい!?」との噂を聞きつけ、白々しく本人を直撃すると「深読みしすぎです」と一応は否定。しかし、映画『レスラー』を観て早くから「これは私の映画です!」と言い張っていたサスケが積極的にランディ化しているのはまぎれもない事実。“ランディ”サスケの真意とは!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄　©Niko Tavernice for all Wrestler Photos

サスケ　今回のテーマはなんでしょう?

——今回は、サスケさんが映画『レスラー』に影響されすぎて、ミッキー・ローク扮するランディ化が凄いことになってるらしい、とのことで、お話を聞かせてもらえれば、と。

サスケ　はいはい。それは〝らしい〟どころか、すでに周知の事実です。

——周知の事実でしたか。でも、サスケさんは一部報道でランディ化について「それは深読みしすぎ」とか「気のせいです」というようなコメントを残してましたけど、ぶっちゃけ、かなり意識してますよね?

サスケ　正直、「マネをしたのか?」と言われれば、これはもう否定はできないです(キッパリ)。

——ガハハハハ!

サスケ　まあ、『kamipro』さんでは早くから『レスラー』を取り上げてましたけど、前にも言ったとおり、ランディイコール、サスケだと思ってるんで。結論を言えばね。

——サスケさんは「これは俺の映画だ」って言ってましたからね。

サスケ　そうそう。だから、「誰にも文句は言わせないぞ」というところは当然あるし……というか、あれは私なわけですから。気がついたら、似たようなコスチュームを着ていた、みたいな感じですよ(深くうなずく)。

——へんな話、否定的な声も耳に入ってきたりするんですか?

サスケ　いまのところ、まったくないですね。ないですけど、今日、新日本(8・30邪道&外道20周年興行)に出るんですけど、新日本さんからは「いつものサスケさんの黒いコスチュ

ームで来てください」って言われましたけどね。

——あっ、そうなんですか！　新日本的にはランディのコスチュームは問題でもあるんですかね？

サスケ　どうなんだろうね。「無理にとは言いませんけど、黒のほうがいいと思います」って。俺からしてみれば「よけいなお世話だよ」って感じなんだけどね（笑）。

——ちなみに、上半身裸というのはデビュー当時以来みたいですね？

サスケ　そうそう。MASAみちの……いや、違うな。メキシコ修行時代のニンジャ・サスケのときは裸だったんで、それ以来ですよ。

——でもサスケさん、予想以上にビルドアップされた上半身だったので、ちょっと驚きましたよ。

サスケ　いやいやいやいや、全然たいしたことはないですよ（恐縮して）。

——すでに突っ込んでる人もいましたけど、いまのコスチューム&入場曲になってから、みちのくプロレスで何大会か東北を巡業してましたが、まだ上映していない地域のほうが圧倒的に多かったみたいですね。

サスケ　そうそう。東北では、8月22日から公開されるところが多いのかな？　このあいだのシリーズ中、唯一公開されてたのが青森で、青森大会の反応は一番よかったですね。

——「あっ、ランディだ」みたいなリアクションだったんですか？

サスケ　そのときがランディコスチュームの一発目だったんだけど、わかってる人も多くて、花道から出てきた瞬間「あっ、ランディだ！」って反応があったからね。「おっ、青森市民、凄いな！」みたいなね。

——「みんな俺の映画を観てくれてるよ」と？

サスケ　そうそうそう。でも、次の日は岩手の釜石大会だったんだけど、そこはまだ公開はされてなかったんで、入場口に姿を現わしたら、みんな爆笑しちゃってね。「何着てんだ、サスケ！」みたいな（笑）。

——「なんか、へんなコスプレしてるよ！」みたいな感じで（笑）。

サスケ　元ネタがわかってないからしょうがないんだけど。まあでも、土地土地での反応の違いがおもしろかったですけどね。

——コスチュームよりも先にランディの必殺技ラム・ジャムも取り入れてましたけど、あれはパクったと思っていいんでしょうか。それとも、自然と降りてきた感じなんでしょうか。

サスケ　いや～、やはり、パクリでしょう（なぜか胸を張って）。

——ラム・ジャムはパクリ（笑）。

サスケ　でもね、逆に言うと、あの技を使う資格があるのは私しかいないと思ってますから。それはもう、おもいきりパクらせてもらいましたよ。

——いまいち、わかりづらいところもあるんですけど、ラム・ジャムというのはどういう技なんですか？

サスケ　あれはですね、ダイビングヘッドバットにプラスして、エルボードロップが加味されている、と。私は静止画像で分析したり、いろいろと研究したんですけど、キーになるのは左ヒジとヘッドバット！

——ダイビングボディプレスのようにも見えますけど、キーは左ヒジ&頭突きなんですね？

サスケ　そうです。だから、左前腕にパッドを着けてるんですよ。

——ランディの試合を静止画像で分析してるのはサスケさんぐらいだと思うので、パクっても問題ないと思います。

サスケ　そうだよね。

——それにしても、DDT両国大会での高木三四郎さんとのウェポンランブルマッチは凄かったです。サスケさんのあまりの自爆っぷりに三四郎さんも「試合には勝ったけど、あの大人げなさには負けた」とメチャメチャ悔しがってましたからね。

サスケ　いやいやいや。でもね、自爆ってダメージはかなりひどいんですよ。しかも、蓄積してますからね。

——ここ数年のサスケさんの自爆っぷりは、もう〝自爆芸〟と言ってもいいぐらいですからね。

サスケ　でも、勘違いしてほしくないのは、こっちも自爆しようと思って自爆してるんじゃない。相手にダメージを与えたくて、より危険なことをしている、と。ただ、気がついたときには相手がそこにはいない。

——三四郎戦でもそんなシーンが続出してました。

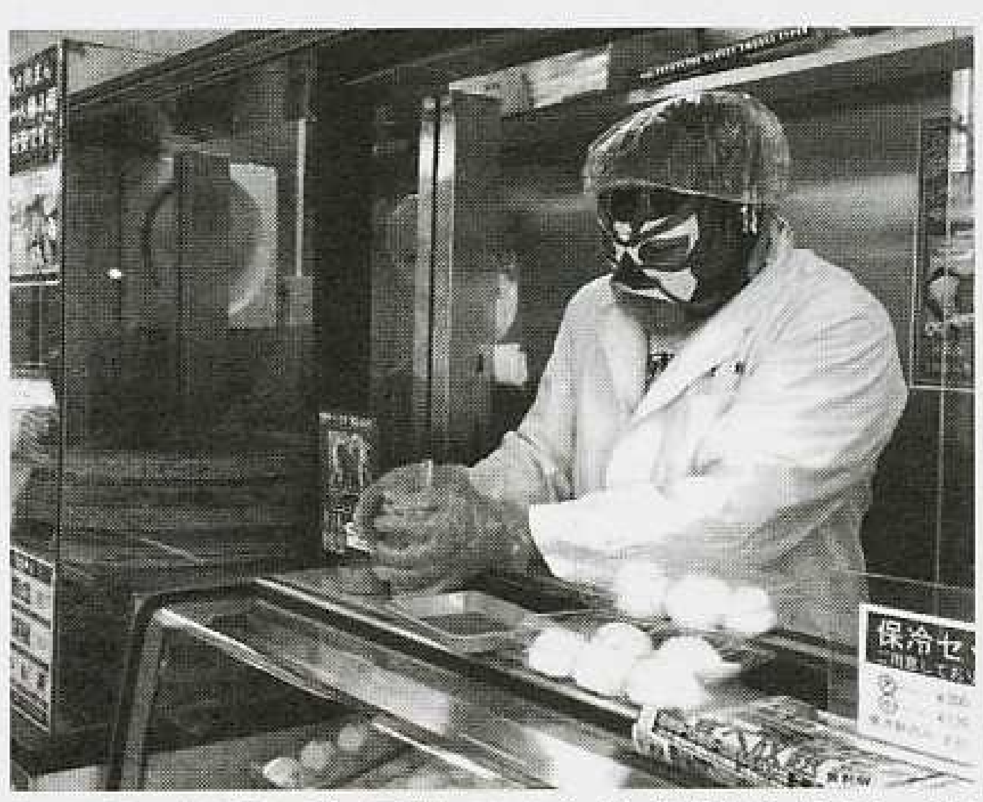
サスケ　結局、相手がいてもいなくても、モノ凄いダメージが大きいことをやってるんだなということを、両国でやっとわかったっていうね。

——ちょっと気づくのが遅かったかもしれませんね。

サスケ　でもね、それだけのことを

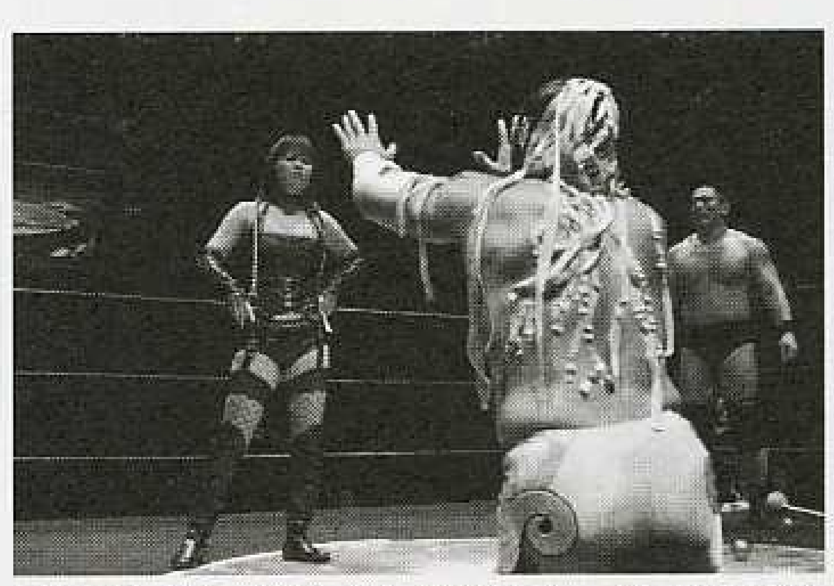
ランディの必殺技ラム・ジャムを使う資格があるのは私だけです！

ランディ同様、サスケがバイト生活!?

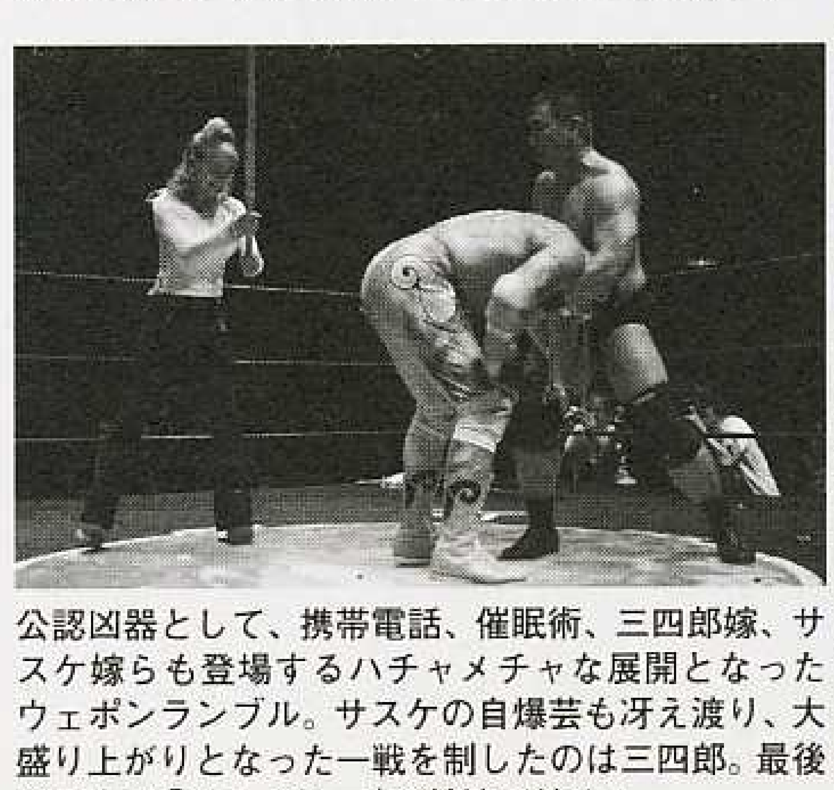




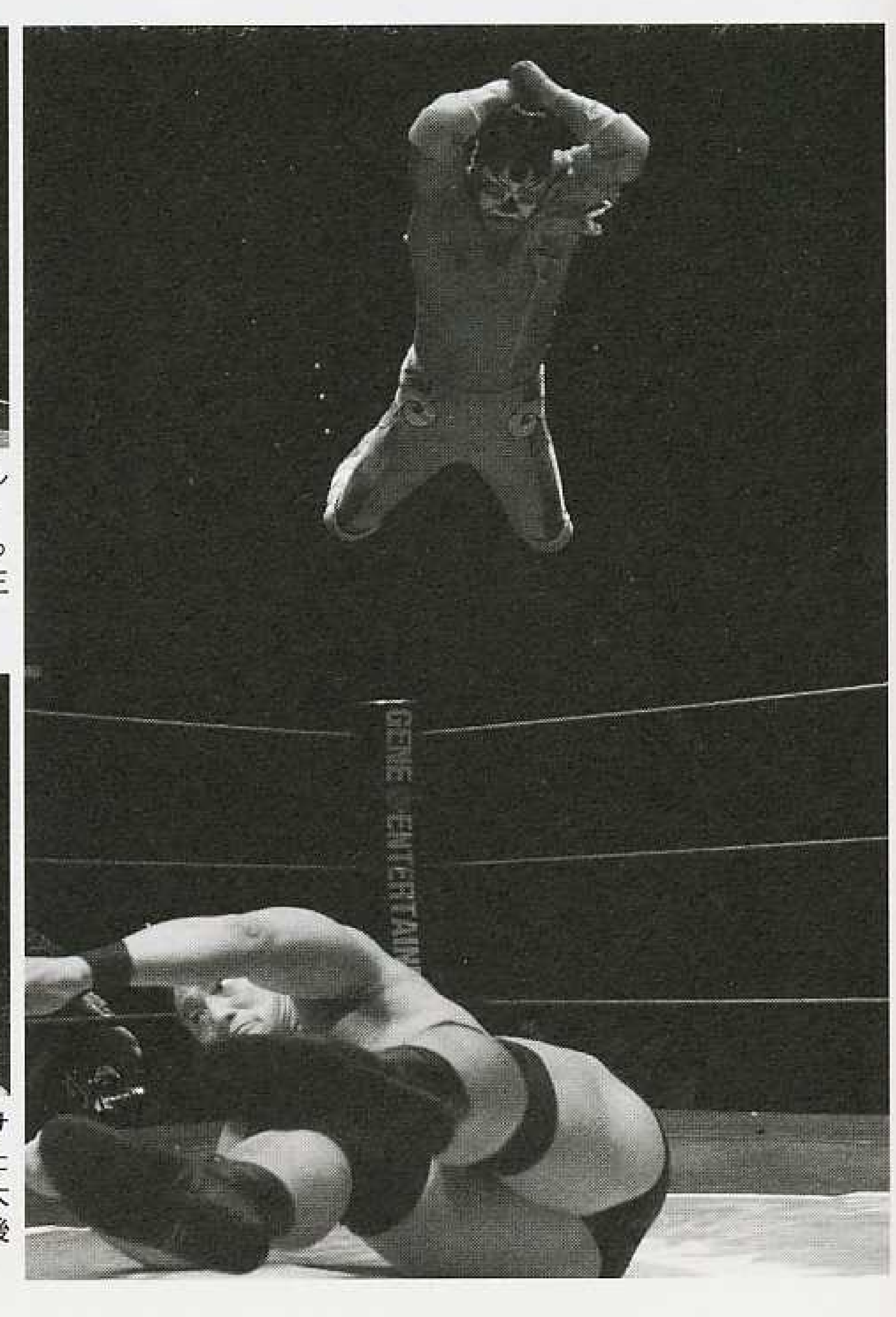
『レスラー』のランディ同様、アルバイトを始めたサスケ。ランディはスーパーの総菜コーナーで働いていたがサスケが選んだのは『皇朝』という肉まん屋。しかし、バイト生活5日目にDDT両国大会で対戦する高木三四郎が客として訪れ、正体がバレてしまったサスケ。その後の経緯はサスケのブログを参照ッ！　アドレス→http://ameblo.jp/thegreatsasuke



8.23DDT両国大会では三四郎とウェポンランブルマッチで激突したサスケ。ランディの得意技ラム・ジャムをこの日も繰り出したサスケだったが、あっさり避けられ、サスケが付き人を務めるバンビ女王様からはムチ攻撃を食らうなどさんざんな目に。



公認凶器として、携帯電話、催眠術、三四郎嫁、サスケ嫁らも登場するハチャメチャな展開となったウェポンランブル。サスケの自爆芸も冴え渡り、大盛り上がりとなった一戦を制したのは三四郎。最後は二人で「ファイヤー!」の競演で締め！



やらないと相手には勝てないし、またお客さんの想像力、期待度にも勝てない。だから、やっぱり、プロレスというのは、リング上の相手のみならず、お客さんも相手なんだと。

——それこそランディじゃないですけど、観客の声援が、多少のムチャだったり、痛みなんかも吹き飛ばすようなところもあるわけですね。

サスケ そうです、そうです。まったくそのとおりです！ だから、私は映画『レスラー』にメチャクチャ共感したわけですよ。

——“共感”っていうのがサスケさんにとって重要なことなんですよね。

サスケ そうそう。現役のプロレスラーでも、その部分をはたしてどれだけ理解して、どれだけ意識してるのかっていうのは最近ちょっとクエスチョンマークがついてるよね。なんか、みんな自己満足で終わってるんじゃないか、みたいな。ホントにお客さんの期待に応えようと思ってやってるのか、と。だから、『レスラー』を観ても感動しないプロレスラーがいっぱいいるんじゃないか、と。

——あの映画を観ても共感できないレスラーも当然いるでしょうね。

サスケ あの映画を観たレスラーや業界関係者もたくさんいると思うんですけど、あまりこちらまでリアクションが届いてこないというか。

——ちなみに、誰かプロレスラーと『レスラー』話はされました？

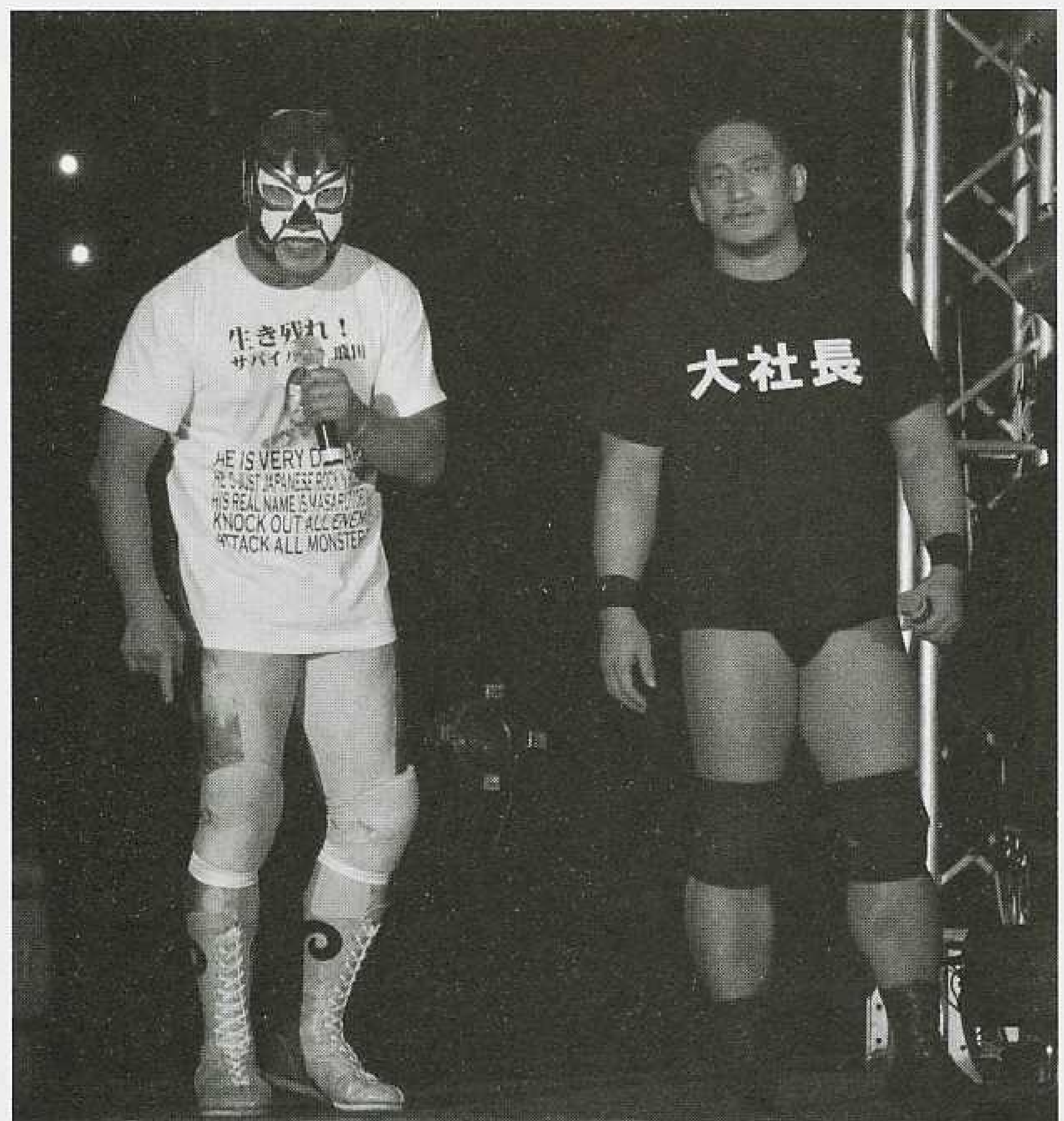
ランディと同じく、私もリアルに娘に嫌われてるんだよねえ……

サスケ 正しいリアクションをしたのは、みちのくプロレスの野橋真実だね。

——正しいリアクションというと？

サスケ 野橋真実は8月23日のDDTの両国大会が終わって、そのあとに公開されたばかりの盛岡の映画館で観たらしくて、すぐにメールが来たんですよ。

——どんな内容だったんですか？



ざ・ぐれーどらんでぃ”さすけ■本名・非公開。1969年7月18日、岩手県出身。新日本プロレス学校を経てユニバーサル・プロレスでデビュー。その後はさまざまなリングに上がりつつ、県議会議員としても活躍。岩手県知事選の敗北ショックから立ち直り、今年9月から、みちプロ社長に返り咲き。DDT両国大会で闘って意気投合した高木三四郎と”大人げないブラザーズ”を結成し、9.27後楽園大会ではタッグ王座に挑戦！180cm、88kg。

サスケ 「観終わったあと、震えが止まらず、しばらく席を立ち上がれませんでした」と。それはプロレスラーとして正しいリアクションであり、正しい感想だと私は思うんですよ。

ただ、残念なことに、あの映画に共感できないプロレスラーもいると思うんですけど、そういうレスラーは私から言わせれば、上っ面だけのプロレスラーですよ。

——ランディに共感できないのは上っ面だけのプロレスラーだと。

サスケ そうだね。たくさんいると思いますよ。ホントに生死の境をさまよったりとか、そこまでの経験をしてないプロレスラーって多いじゃないですか？ そういう人たちには一生わかんないと思いますけどね。

——でも、入場曲、必殺技、コスチュームと、ほぼ完成形に近づいているのかなって思うんですけど、サスケさんのランディ化はどこまでいっちゃうつもりなんでしょうか？

サスケ かなり近づいてきてるという自負はありますけど、まあ、あとは、

サスケのランディ化が凄いことになってるらしい!?

ステロイドを打つぐらいかな（笑）。

——映画ではお尻にブスッと打ってましたからね（笑）。

サスケ それと、これから寒くなる時期なので、ランディが着てた、つぎはぎだらけのダウンジャケットは必要かなと。それと車もランディが乗ってたダッチ・ラムを購入しようと思って中古車雑誌で相場を調べてるところです。だいたい2～300万円するんですよね。

——プライベートもどんどんランディ化していくわけですね（笑）。

サスケ そうそう。あとはやっぱり有刺鉄線を含めたハードコアデスマッチは外せないですよね。

——サスケvsネクロブッチャーのハードコアマッチは観たいですね。

サスケ いいね、いいね。あの巨大ホッチキスでやり合いたいねぇ。

——IGFでやってもらいたいところですけどね。そういえば、サスケさんはランディと同じく、娘さんから嫌われてるって小耳に挟んだんですけど、それは本当なんですか？

サスケ そうそう。リアルに嫌われてるんだよねぇ……（肩を落として）。

——何か思い当たるフシでも？

サスケ いや～、ランディじゃないけど、なかなか家に帰らないし、このあいだなんか本気で誕生日忘れちゃったんだよね。

——え～～、それは嫌われてもしょうがないというか。

サスケ 今年が初めてなんだけどね、誕生日を忘れたのは。それ以来、ちょっと距離ができちゃってね。

——じゃあ、サスケさんの心を癒してくれるのは、愛猫ぐらいですか？

サスケ そうそう。猫か、あとはやっぱりプロレス会場だね。

——やっぱり、プロレス会場に来ると癒されるわけですか。

サスケ そうなんだよね。お客さんからの歓声を受けると、なんでもできるような気がしてしまうというか。

——それがリングの魔力なんですかね。でも、『レスラー』を観た人ならわかると思うんですけど、ランディの最後は……。

サスケ （さえぎって）たぶん最後、ランディは死ぬんでしょうね。

——やっぱり、死んじゃうんですか。

サスケ たぶんね（笑）。まあ、私はいつでも死を意識してリングに上がってますから。本当のプロレスラーだったら、それは本望だと思うしね。三沢（光晴）さんやテッド（・タナベ）さんが亡くなってるなかで、なかなか言えないことだけど、レスラーなら心のどこかでそう思ってますよ。

——そういうものですか。最後にもう一度確認しておきますが、「サスケのランディ化が凄いことになってるらしい!?」という情報は、結論から言うと、まったく間違いではなかったってことでいいんですね。

サスケ そう思ってもらって、まったく差し支えないです！

——差し支えないですか（笑）。

サスケ まあ、『kamipro』さんですから、正直に言いますけど、積極的にランディ化してます！ いや、むしろマネしてるかもしれない。

——ランディ化というより、ランディのマネでしたか（笑）。今後ますますのランディ化を期待してます！

【09年8月30日／都内某所にて収録】

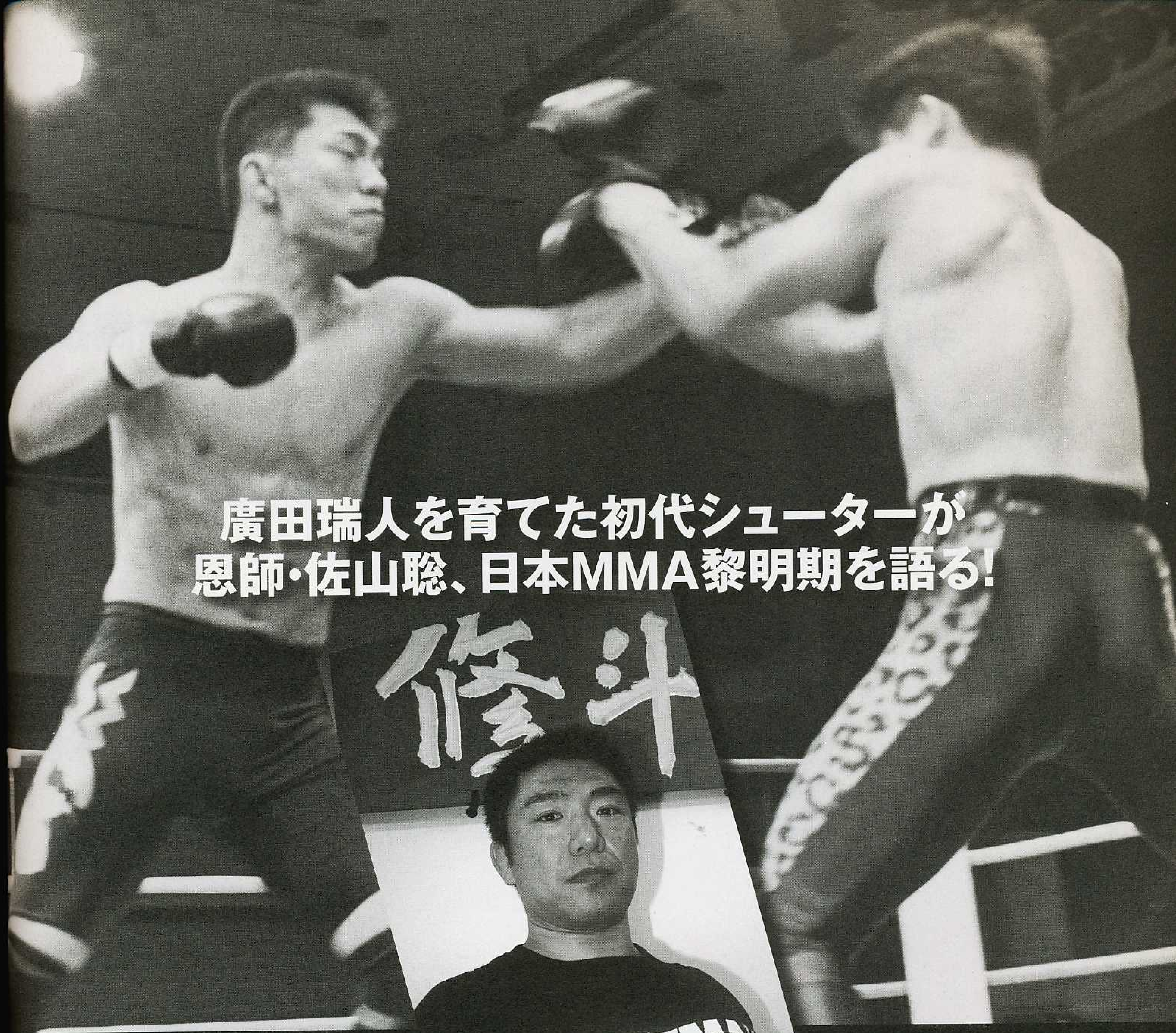
（唐突に）僕、『kami-pro』
桜田 向けのおもしろいネタなんて持って

ね。
桜田
桜田 で、プロレスラーは無理だと

は1000くらいまでいったんじゃ
ないかな。

――しがらみがあった、と。
桜田 僕は格闘技だけがやりたくて

すし、「そんなの可能なの?」って言
われてた時代だった。そんな状況で



廣田瑞人を育てた初代シューターが
恩師・佐山聡、日本MMA黎明期を語る!

“ガッツマン”と呼ばれた男の
修斗バカ一代記

第3代修斗ミドル級王者／ガッツマン修斗道場館長

桜田直樹

日本総合格闘技の礎を築き、20年に渡る歴史の中で桜井“マッハ速人”をはじめ、数多くの選手を輩出してきた修斗。その中で初代シューターとしてプロ化第1戦からリングに立った桜田直樹に、修斗に捧げたその半生を語ってもらった。

聞き手／鈴木佑

佐山先生についていけなかったら格闘技を辞めようと思ってました

桜田 (唐突に)僕、『kamipro』向けのおもしろいネタなんて持ってないですよ。まじめな人間ですし。

――いえいえ、初代シューターの方のお話にハズレはないですから(笑)。

桜田 あ、それと前の廣田(瑞人)のインタビューのときの僕の写真、あんまりよくなかったな～。

――すみません、今日はバッチリ男前に撮らせていただくんで!

桜田 本当に? じゃあ、いろいろお話しましょうか(笑)。

――ありがとうございます! ちなみに桜田さんは『kamipro』はお読みになったことは?

桜田 そんなに熱心ではないけどありますよ。昔と比べて格闘技の割合が多くなりましたよね。ちょっとまじめなカラーになったっていうか、わりと『Number』っぽいなって。

――それはまた斬新な見方です(笑)。今回は"修斗バカ"と呼ばれた桜田さんの半生を中心にお聞きしたいんですが、そもそも最初は三軒茶屋にあったスーパータイガージムに入門されたんですよね?

桜田 そうです。まぁ、当時にはありがちな話ですが、やっぱり最初はプロレスに憧れてたんですよ。でも、身長や体重が足りなくて。その頃は猪木さんのポスターを部屋に貼ったり、高校の進路指導の用紙に新日本プロレスって書いたりしてましたね。

――熱心な猪木信者だったわけですね。

桜田 で、プロレスラーは無理だとしても格闘技で強くなりたいなって思ったわけです。

――格闘技経験はあったんですか?

桜田 いや、まったく。運動は野球を中学高校と6年間やってたくらいで。でも、プロレス含めて格闘技全般が好きだったんですよ。ボクシングやアマレス、キックボクシングも沢村忠さんや藤原敏男さんの試合をテレビで観てましたし。佐山先生のところに入門したきっかけは、打撃も寝技も学べるということで、ここだったら強くなれるんじゃないかと思ったからですね。当時はまだ修斗もプロ化される前ですし、とにかくただ純粋に強くなりたいなっていう思いだけでした。

――ジムに入ったときの指導者というと?

桜田 そのときは佐山先生以外にインストラクターとして平直行さん、中村頼永さん、それから北原辰巳(現・光騎)さんの3人が常駐してましたね。僕は大学に行ってアルバイトしながら練習してたんで、けっこう忙しかった記憶があります。

――いまも修斗に関わっている人の中で桜田さんより先輩はいますか?

桜田 僕より先なのは川口(健次)くんぐらいですね。当時の会員数は凄かったですよ。僕は会員番号300ぐらいだったんですけど、最終的には1000くらいまでいったんじゃないかな。

――初めて佐山さんに指導してもらったときは感動しました?

桜田 最初の頃は直接指導していただくということはなくて、インストラクターの方々を中心に練習してましたね。佐山先生もジム以外の活動で忙しかったみたいですし。ただ、当時の会員はファンとして「タイガーマスクに教えてほしいな」っていう軽いノリで来る人が多かったんですよ。それに"平さん派"とかいろいろ派閥みたいなのもあって。



今年開催された5.10修斗JCBホール大会では「ROAD TO 20th ANNIVERSARY FINAL」として記念セレモニーが行なわれ、初代シューターと現役の選手たちがリングに集結。20年の歴史の重さを感じさせた。

――しがらみがあった、と。

桜田 僕は格闘技だけがやりたくて入ったんで、そういうのがどうも苦手で。佐山先生もこういうジムの状況を見て、「これじゃ駄目だ」ということで練習を厳しくしていったんですよ。それで会員も自然と淘汰されていって。

――Youtubeでも当時の佐山さんのスパルタ指導が確認できるんですけど、壮絶に厳しかったみたいですね(笑)。

桜田 もちろん僕も何度かそういう厳しい指導は受けましたよ。でも、それでくじけるようなことはなかったですね。僕は佐山先生についていくって決めてましたし、それについていけないときは格闘技を辞めるときだと思ってましたから。

――そこまで佐山さんに共鳴した一番の理由は?

桜田 佐山先生が「打撃に始まり、組んで投げて」という新しいジャンルである総合格闘技を、もの凄くピュアに追求されていたからですね。当時、総合格闘技は確立されてないわけですし、「そんなの可能なの?」って言われてた時代だった。そんな状況でも新しいものを開拓しようとする佐山先生の姿勢が、初代シューターと呼ばれる人間たちがついていった原因だったと思います。

――当時の佐山さんはプロレスに対して批判的なスタンスで、初期シューターの中にもプロレスに嫌悪感を示す選手もいましたが、桜田さんはいかがでした?

桜田 きっと佐山先生も新しいものを作るために、あえてアンチテーゼ的なことで煽ってたと思うんですよ。僕に関していうと、プロレスはプロレスで修斗にはない世界があると思ってましたね。僕らとやってることは違っても、一つのことに対してそれだけ打ち込んでる人たちがいるわけだから、それ以上のものを自分たちもやっていかないと認めてもらえないんだって。まだまだ自分たちは中途半端で、プロレスに比べて世間に見向きもされませんでしたから。

――当時、佐山さんはジム生にアダ名をつけてましたよね。坂本一弘さんが"ガリバー"、本間聡さんが"アシワラ"、桜田さんは"スナカケ"って呼ばれて(笑)。

桜田 そうそう、単純に砂かけばあに似てたからってね(笑)。もしかしたら初めにインストラクターにつけられたのかもしれないですけど。そう考えると、人が淘汰されてからのジムはいい意味で和気あいあいとやってたと思いますよ。

――佐山さんは指導以外ではどんな方でした?

桜田 凄くフレンドリーな方ですよ。



でも、ご自分で〝瞬間湯沸かし器〟って仰るぐらいなんで、その変わり目をこっちは察しないといけないんですけど（笑）。

——キレると手がつけられないって言いますものね（笑）。

桜田　だから、馴れ馴れしいやつを見てるとこっちがヒヤヒヤしましたよ。僕なんかは長いお付き合いでそのスイッチはわかるようになりましたけどね。

——練習以外で佐山さんとの印象深いエピソードはありますか？

桜田　そうですね……自分が21〜22才の頃に広島に合宿に行ったんですね。その帰りにほかのジム生と「新横浜」で降りたんですけど、なぜか佐山先生が降車駅でもないのに一緒に降りられて。で、焼肉屋に連れてっていただいたんですよ。僕にとってはそれが人生で初めての焼肉屋だったんですけど。

——それまでは行ったことがなかった、と？

桜田　はい。とにかく驚きましたね〜、とくにユッケにはビックリしました（笑）。で、佐山先生が「俺は若手のときにこれを食って身体を大きくしたんだよ」と仰って、ホルモンを食べさせてくれたんです。あのときの味はいまでも忘れられないです。だから、僕が若いやつらを焼肉屋につれてくときも必ずホルモンを頼んで、「これは佐山先生が身体を大きくするために食べたものだからおまえらも食え」って言って食べさせてるんですけどね。

——当時の修斗にはその後、違う世界で活躍した選手もいましたね。

桜田　いろいろいましたよ。石川（雄規）さんなんかはセオリーに収まらない邪道な闘い方をしてたからか、佐山先生からは〝邪道〟って呼ばれてましたね（笑）。

——それは情念社長らしいアダ名ですね（笑）。

桜田　彼とはよく一緒に合宿や練習をしてましたね。あと、長井（満也）さんとか。彼は佐山先生にもけっこうかわいがられてたんじゃないかな。北原さんもそうだけど、気づいたら修斗を辞めてプロレスラーになって。ほかにも違う世界に行った人はたくさんいましたね。キックボクシングに転向した港太郎くんもそうだし、パンクラスに行った（山田）学くんとか。

——桜田さんと名勝負を繰り広げたこともある山田さんが、当時パンクラスで注目を集めてる姿を見たときはどんな気持ちでした？

桜田　それは自分の仲間が活躍してるわけですから、普通に嬉しかったですよ。自分たちのやってることが通用してるっていう証明にもなりましたし。

——桜田さん自身はほかのところで力を試したいというのはなかったですか？

桜田　まず総合でいえば、僕の階級は他の団体にはなかったんでお呼びもかからなかったですから。それに、川口（健次）くんが「（修斗から離れた）平さんとやらしてくれ！」ってアピールしても実現しなかったように、僕なんかが現役の頃はまだ修斗はマイナーでしたし。そもそも、僕は修斗という場から出る気もまったくなかったんで。

——桜田さんは89年の修斗プロ化第一戦のリングで試合をされてるわけですが、まだ認知のない競技でプロとしてやっていくことに不安はありませんでしたか？

桜田　当時は悩みましたよ。大学で教職免許も取ってたんで、いまになって考えると親不孝ですよね（笑）。

大学で教職免許も取ったのにプロになって……親不孝者ですよね（笑）

あの頃の修斗は将来どうなるかわからなかったですし、親からしてみれば「ありえん、何を考えてるんだ!?」ってなりますよ。でも、自分の意志として「やる」って決めて。

——もちろん、当時はプロになってもそれ一本じゃ生活できないわけですよね？

桜田　そうですね。やっぱりチャンピオンになっても格闘技だけじゃ食べられなかったですから。大学2年から引退後の31〜2歳まで、横浜の中華街にある高級料理店で働いてました。

——ずいぶん長いことそこで働いてたんですね。

桜田　あのね、まかないがもの凄くおいしかったんですよ（笑）。

——ダハハハハ！　そういう理由ですか（笑）。

桜田　僕がチャンピオンになったときなんかはバブルの頃だったんですけど、香港人のコックさんが「アナタ、コレ食ベル？　イイヨ！」とか言って、大きいどんぶりにフカヒレの姿煮が5枚くらい入ったものをご馳走してくれたりね。あれ、1枚7〜8千円で売ってたやつですよ。そのときは嬉しかったですね〜（しみじみと）。

——豪勢なお祝いですね〜。

桜田　あと、試合前になると「疲れが取れるように」って、特製の漢方スープを作ってくれて。それにスッポンの生き血も飲まされましたよ。あれはパワーがみなぎったなぁ（笑）。いま思うと格闘家としてはとてもありがたい環境でしたね。

——桜田さんがプロになって一番の目標だったのは？

桜田　それはやっぱりベルトですよ。男として何かで一番になって、自信が持てるものがほしかったんで。もともと僕は人見知りで、コンプレックスなんかもありました。佐山先生の言葉じゃないですが、『無意識の意識』の中に〝自信〟というものが生まれれば、他人に対しても自然と堂々とすることができるんじゃないかな、と。あとは強くなって女性にモテたかったことですね（笑）。

——それは男として正しいと思います（笑）。

桜田　だから、僕はいまの若い奴らに「オスになれ」ってよく言うんですけどね。男じゃなくてオスですよ、オス！

——より動物的になれ、と（笑）。

桜田　そうそう、もっと本能を出さなきゃ。いまの子たちはそういう部分がなさすぎるように感じるんですよ。

——桜田さんは実際チャンピオンになって、正直なところモテるようになりましたか？

桜田　やっぱり自信がつくと違いますね。自分から積極的に行かなくても寄ってくるように……なんて（笑）。

——目標達成、と（笑）。やっぱり若



桜田が「僕にとっては神様のような人ですから」と語る、修斗の創始者・佐山聡。現在はリアルジャパンプロレスを中心に、「プロレスの失地回復」をテーマに掲げ、タイガーマスクとして活動している。

い頃は初代シューターの人たちとも

桜田　そうです。あれは修斗がプロ

ら、僕も「押忍！」ってお答えするし

ったですから（笑）。顔がずっとニコ

オープンフィンガーで素顔を殴り合ったのは僕が世界初だと思います

い頃は初代シューターの人たちとも女性の話で盛り上がったりしました？

桜田 そりゃあ、もちろん。当時、仲間で白浜海岸とかに旅行してね。で、ビキニの海パンを履いて筋肉をアピールするやつがいたり、「これ見て、これ見て！」とか言って飛びつき腕十字をやるやつ、キックミットを蹴ったりするやつがいたりね。みんなオスでしたよね（笑）。

――ダハハハハ！ 桜田さんはなんの係だったんですか？

桜田 僕？ 僕はそれをずっと見てる係（笑）。

――本当ですか？（笑）。でも、それは青春の思い出ですね〜。

桜田 で、そのときに泊まった宿のおばちゃんにサインを書いてあげたら、その色紙を食堂に飾ってくれたんですよ。でも、ナンパした女の子たちに、僕らが帰った次の日にはそのサインはあっさり取り外されてたって聞いて、ショックだったのを覚えてます（笑）。やっぱりまだまだ頑張って有名にならないとなって。

――初期の修斗はルール面でも試行錯誤の歴史だったと思うんですが、一番大変だったことは？

桜田 それは自分の中では二つあるんですけど、まず一つはフェイスを脱いだことですね。

――最初は顔をガードするために大きなフェイスをつけてたんですよね。

桜田 そうです。あれは修斗がプロ化されるひとつ前のアマチュア最終戦だったと思うんですけど、その日の休憩後一発目の試合が僕だったんですね。そうしたら休憩中に佐山先生が「どうしてもフェイスが壊れちゃって使い物にならないから、次からは素顔でいこうと思うんだけど」って仰ったんですよ。そのときは「次って俺じゃねえかよ！」って慌てましたね。

――心の準備が（笑）。

桜田 当時は「あんな小さいグローブで素顔を殴り合ったらどうなっちゃうんだ!?」って思いましたから。正直、躊躇したんですけど佐山先生に「相手もOKしてるよ」って言われたら、僕も「押忍！」ってお答えするしかないですし（笑）。その試合のときは選手がみんなリングサイドに観に来てましたよ。おそらくオープンフィンガーで素顔を殴り合ったのは、僕が世界初だと思います（笑）。

――思わぬところでパイオニアになったわけですね（笑）。

桜田 もう一つ大変だったのはマウントパンチの解禁です。その当時、もう僕は引退を考えていたので、今度は自分が指導する立場になって「マウントパンチありでも対応できる選手を育てていかなければ」って思いましたね。

――なるほど。そう言えば桜田さんが現役時代に巻いたミドル級のベルトは、いま青木真也さんが保持してるんですよね。実際にチャンピオンになってどうでしたか？

桜田 そりゃあ、やっぱり嬉しかったですよ。一週間笑いが止まらなかったですから（笑）。顔がずっとニコニコしちゃって、まじめな顔ができないんですよ。あのときのタイトルマッチは、試合前に何百回何千回と対戦相手の映像を観るくらい気合が入ってましたから。それこそ好きな女優やアイドルを観るよりも多いくらいに。

――ダハハハハ！

桜田 こういうこと言わなきゃいけないんでしょ、『kamipro』は（笑）。

――身を削っていただいて（笑）。ちなみに好きだったアイドルは？

桜田 ……河合奈保子さんが好きでしたね（ボソっと）。

――あ、それは熊久保英幸さんと一緒ですね。

桜田 なんかいやだなー、それ！ ……ちょっと、話が脱線したんで元に戻してくださいよ（笑）。

――了解です（笑）。さて、総合格闘技の歴史のなかでも大きなパラダイムシフトになったのが93年のUFC誕生だと思うんですが、あのときはどうご覧になってましたか？

桜田 あの衝撃はもの凄くよく覚えてますよ。確か寝台車に乗ってるときに、一般誌で第1回UFCの記事を見たんですよ。それを読んだら「うわー、なんだこれ！」って興奮して寝られなくなっちゃって。

――やっぱりなんでもありのルールに驚いて？

桜田 そうです。「こういうものが出現したら修斗の位置づけはどうなるんだろう」とか、いろいろ考えちゃいましたから。

――UFCの影響もあってか、通常



桜田率いるガッツマン勢の中で、現在破竹の勢いを誇るのが『戦極』ライト級チャンピオンの廣田。その他にも桜田は桜井"マッハ"速人や帯谷信弘など強豪選手を育て上げた。

初期修斗＆桜田直樹の歩み

1984年
▼2月11日　佐山聡が世田谷区瀬田にタイガージムを開設。

1985年
▼2月　世田谷区三軒茶屋にジムを移転、スーパータイガージムに名称変更。

1986年
▼6月30日　後楽園ホールにて第1回大会を開催。

1989年
▼2月　プロ化直前のテストマッチで、ノーマスク形式を初採用。
▼5月18日　プロ修斗第1回大会を開催。桜田直樹がvs草柳和宏戦でデビュー。
▼10月　柔道の上衣を着用したジャケット・シューティングマッチ開催。

1990年
▼中村頼永がUSA修斗を設立。
▼11月28日　桜田がミドル級チャンピオン・関島康人に挑むも敗れる。

1991年
▼10月17日　桜田が関島を破り、第3代ミドル級チャンピオンに戴冠。

1993年
▼2月26日　桜田が山田学と大熱戦の末、膝十字固めで敗れる。
▼9月30日　初のオープントーナメント開催。シューター同士の対決となった決勝戦では桜田直樹が川口健次を破って優勝。
▼11月25日　オープントーナメント優勝者の桜田がエリック・パーソンと闘うが、結果はドロー。

1994年
▼6月19日　第1回全日本アマチュア修斗大会を開催、68キロ級で佐藤留美奈（現・ルミナ）が決勝進出をはたす。
▼7月29日　バーリ・トゥード・ジャパン開催。ヒクソン・グレイシーが圧倒的な強さで優勝。

1995年
▼1月21日　エンセン井上がプロデビュー。
▼4月20日　バーリ・トゥード・ジャパン'95開催。決勝でヒクソンが中井祐樹を下す。
5月　寝技の殴打を認めた新ルールが採用される。

1996年
▼7月7日　バーリ・トゥード・ジャパン'97開催。朝日昇がホイラー・グレイシーに敗北。その他の修斗勢の敗北もあり、日本最弱のレッテルを貼られてしまう。また、創始者の佐山が修斗の第一線から退き、現体制へと移行する。
▼7月28日　第2回アマ修斗全日本大会開催。ウェルター級で桜井速人が優勝。

1997年
▼1月18日　桜田直樹引退。それに伴いミドル級王座を返上する。

第1回目のバリジャパのときは日本人選手の気持ちが甘かったです

の公式戦よりも過酷なルールの試合が行なわれるバーリ・トゥード・ジャパンも誕生して。

桜田　僕は1回目だけ出て、2回目からは一歩引いたスタンスで見てましたね。いま考えると日本人が大勢負けた1回目は、選手の気持ちが甘かったなと思いますよ。『なんでもあり』ということは喧嘩に近い状態なのに、そこまでの意識をみんなで作れなかった。当時の修斗は新しいスポンサーがついたり、リング内外で転換期を迎えたこともあって、みんな集中して練習できなかったというか。

―転換期という意味では、佐山さんが新日に参戦してプロレス活動を再開しますが、そのときの心境は？

桜田　当時、僕と川口くんと頼長さんはバリジャパのあとに佐山先生から「ちょっとこれからプロレスやるから」って直接言われてたんですよ。そのときは「どういうことだろう？」っていう迷いも正直ありました。でも、佐山先生がそうせざるを得ない状況であれば、僕たちはそれをいいとか悪いとか言える立場じゃないですし、弟子として修斗を守っていくしかないと思いましたね。

―なるほど。

桜田　まぁ、そもそも佐山先生は、たとえば一つのものを作ってそれを大きくしていくこととか、一流一派の長になることで満足を得るタイプの方じゃないんですよね。次から次へと新しいものを開発していくことが佐山先生の姿である、と。

―確かに修斗にしろ、掣圏道にしろそういうことですよね。



道場勢みんな揃って敬礼！　なんでも桜田の隣に写っているジム生が警察官だからこのポーズなんだとか。一瞬、掣圏道を思わせるが……？　「その意味合いもちょっとありますよ（笑）」（桜田）。

桜田　そういう部分でも佐山先生に修斗というものを作っていただいて、自分たちはそれを受け継いでいくことが務めであり、残していくことが佐山先生への恩返しだと思ってるんで。

―結果的に佐山さんが修斗から離れられたとき、桜田さんはどのように感じましたか？

桜田　う〜ん……（熟考）。一言では語り尽くせないあらゆる思いがありましたね。それはいまになっても同じですよ。

―佐山さんがいつか修斗に帰ってくるという意識は？

桜田　それはないですよ。「帰ってくる」とか考えること自体が失礼だと思うし。佐山先生は先生でまた新たな道を切り開いてもらって、俺たちは佐山先生からの修斗という恩恵を次の世代に繋げていく、それだけですね。

―修斗を離れてからの佐山さんの活動はずっと追ってますか？

桜田　いや、ほとんどないですね。あの、やっぱり佐山先生は僕たちと違うんですよ。僕たちは修斗しか知らない。でも、佐山先生はもともとスターなんです。佐山先生は僕らに出会う前に青春時代というか、別の世界で活躍されていた。誰がどう思おうと、猪木さんとの付き合いやいろんなものがある中で、またプロレスに恩返しをされているのかもしれないし。何より、佐山先生は細かい部分を超越したところで行動されてる方ですから。それは近くにいた僕らが一番よくわかってることですしね。

―桜田さんは自分の引退式のときに「自分の先生は佐山先生しかいない」って言ってましたよね。

桜田　はい。でもあれは言葉足らずでしたね。「自分の先生は」のあとに「修斗では」ってつけるべきでしたよ。リングサイドにいらっしゃった木口先生に失礼だったな、と（苦笑）。

―ダハハハ！　桜田さんは現役を引退したときも、ずっと修斗に関わっていこう、と？

桜田　そうですね。でも、まずあったのは引退してどうやって飯を食っていこうかなってことでしたよ。引退後は横浜のバイトと並行して、木口道場の川口支部で指導を始めたんです。その頃は新しいポジショニングの概念が広まり始めていて、僕もまだちゃんと理解してなかったので、きっと周りからは「あいつに教わっても強くなれない」みたいに思われてたんじゃないですかね。でも、ボクは技術も大切ですけど、その前に格闘技の根本である心を鍛えないとダメだということを伝えていかなければって思ってましたね。

―00年にご自分の道場を開いたいきさつというのは？

桜田　やっぱり最終的には男として、人生をかけられる自分の城を持ちたかったんですよ。たとえば細かい話だと、僕が「努力」という言葉が好きでも、人様の道場だと壁に張ったりはできないですからね。ようは自分の考えを全面には出せないというか。その中で下北沢で興行をやったり、地方でセミナーをやって貯めたお金で道場を出したわけです。

―もともと桜田さんは教員を目指してたくらいですから、人に指導するのは好きなんですか？

桜田　そうですね。嘉納治五郎の言葉に〝自他共栄〟というものがありますけど、そういうのを教え子には体感してもらいたいなって思ってるんですね。格闘技は個人競技ですけど、人の力を借りて強くなっていく。そして結果を出せたとき、互いに気持

結局、引退して自分が弟子を持つと佐山先生の教えを理解できるんです

ちを共有しあえる。僕もそういう瞬間に立ち会えたときに道場をやってよかったって思いますし。あと、人を教える部分では佐山先生の思想の影響も大きいですよ。

――なるほど。

桜田　ただ強くするというだけでなく、道場のあり方として何がベストなのかを考えていくと、やはり佐山先生の思想は非常に勉強になりますよ。いま、佐山先生がホームページで書かれていることも、僕は辞書で調べたり専門書を読んだりして、自分の道場の教えの礎にさせていただいています。

――は〜、そこまで熱心に。

桜田　佐山先生は潜在意識という見えない部分をしっかり鍛えることから強さを導き出そうとしたり、脳科学の視点から催眠療法を研究されたりと、こちらとしても感銘を受ける部分が多いですね。

――いまなお学ぶことが多い、と。

桜田　朝日くんにしろ川口くんにしろ、引退していった選手もみんな「佐山先生の考えは凄い」って言ってますからね。結局、引退して自分が弟子を持つようになると理解できるようになってくるんですよ。たぶん（佐藤）ルミナくんなんかもジムを持って、技術や思想を後世に伝えることの重要さを感じてくれているようなんで嬉しいですね。

――佐山さんは昔から根性論だけでなく科学的な側面も重視してたんですか？

桜田　そうですね。ただのシゴキだけじゃない部分があるからみんなついていくんですよ。たとえば、佐山先生は練習でケガしたときは「休んでおけ」って必ず言ってましたし。その時代だったら普通は「そんな程度でなんだ！」ってなると思うんですよ。でも、佐山先生はスタミナが切れて



さくらだ・なおき■1966年5月12日、新潟県出身。大学時にスーパータイガージムに入門し、89年に佐山聡から初代修士（シューター）の認定を受ける。89年5月にプロデビュー。91年10月、第3代ミドル級チャンピオンとなる。。97年1月に現役引退。00年8月に東京・明大前にガッツマン修斗道場をオープン。現在は後進の指導に力を注いでいる。

ヘタってる弟子には怒るけれど、ケガして続けられなくなってるやつには「はい、出といて」ってすぐ止めさしてましたね。

――いま佐山さんと連絡は取ってますか？

桜田　直接はないです。いまはそういう距離でいる時期なのかな、と。できればまたお会いして先生と思想の談議をしたり、教えていただいたりしたいですけれどね。

――桜田さんが道場を運営していくうえで苦労したことは？

桜田　やっぱり最初は経営面で苦労しましたよ。僕は引退して30過ぎてから領収書の書き方を覚えた男ですから（笑）。まぁ、でも道場やる前に地方のセミナーや興行に携わっていたことがよかったですね。あとは勉強の日々でしたよ。でも、オープンして軌道に乗ったのはわりと早かったと思います。当時は東京にもまだ道場は少なかったですし。

――ガッツマンというだけあって、桜田さんは熱血スパルタ指導っていうイメージがあるんですが？

桜田　そんなことないんですけどねぇ〜。なんかガッツマンは厳しいって噂が世の中に広まってるらしくて、営業妨害になってる部分もあって困ってるんですよ（笑）。これは書いといてください！

――了解です（笑）。さて、90年代後半からMMA文化が花開いたというか、さまざまなプロモーションが誕生したことについてはどう思いましたか？

桜田　それは単純に人が増えれば業界が活性化されるわけだから、おもしろくなってきたなって感じましたね。

――その中で修斗にかぎらずですが、PRIDEのような大きいプロモーションの登竜門的な側面も出てきたと思うんですけど、そのことへの抵抗は？

桜田　う〜ん、結局それは難しい問題ですよね。アメリカの個人主義とは違って、日本には独自の師弟文化があると思うんですよ。それを無視することがまかりとおるのはどうかなっていう思いはありましたね。昔、専門誌でも「プロだったら有名になるために、よりギャラのいい大会に出るのはあたりまえだ」っていう論調で書かれた記事を読んだことがあるんですよ。でも、現場レベルでいえば、先生と生徒の関係はビジネスライクにできてるわけじゃないことが多々ありますから。それを反故にするような行動は自由とか権利を主張してるだけで、自分の義務は遂行してないんじゃないかって思いましたね。

――いい気持ちはしてなかった、と。

桜田　でも、いまは段々と円滑になってきてるというか、昔の乱暴さに比べれば手順を踏むようになってきたのかなとは思います。

――総合格闘技の創世記といまのMMAの隆盛を比べて、たとえば自分は生まれる時代が早かったとか思うことはありますか？

桜田　ないないない（笑）。いまのリングに僕が上がったら簡単に勝てないですし、べつにいまの状況をうらやましいとか思うこともないですよ。僕がチャンピオンの頃、修斗に将来性を感じないとかそういう理由で去っていく選手を何人も見ました。でも、僕は「選手層が薄い中でも新しいものを作っていくんだ」という思いでチャンピオンになったことに誇りを持ってましたから。

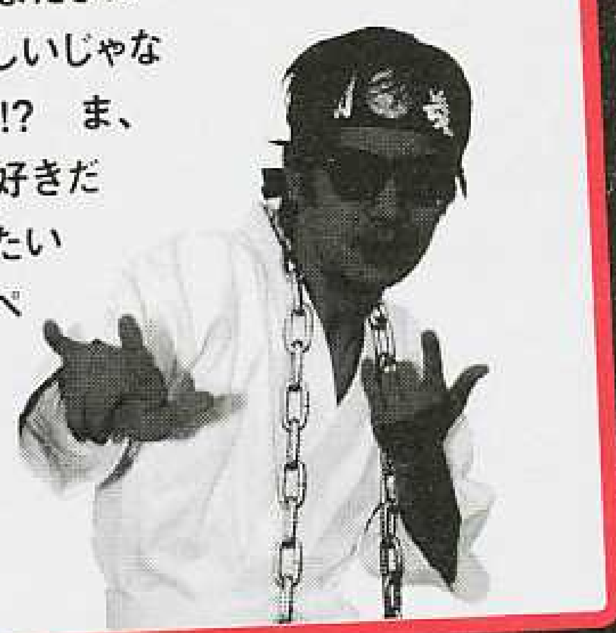
――修斗にかける思いは人一倍だったわけですね。では、最後にそんな桜田さんにとって修斗とは？

桜田　自分を見つめる手段、成長していくツールですかね。佐山先生の理念のもと、初期に比べてここまで認知の広がった修斗と向き合いながら、これからも指導者として邁進していくだけですよ。もう、僕も人生の半分以上、修斗に関わってますからね……。最後はまじめな感じになりましたかね？（笑）。

――ダハハハハ！　今日は桜田さんが〝修斗バカ〟と呼ばれる理由が垣間見れました。ありがとうございました。

【09年8月29日／都内・ガッツマン修斗道場にて収録】

オイオイ、1ヵ月経ってもジャパンはまだまだのりピー問題で盛り上がってるらしいじゃないか。え？　そんなことないだって!?　ま、オレはのりピーよりもホッピーのほうが断然好きだけどな！　アッハッハッハ！　ん？　ゴーノみたいなダジャレだと思ったかい？ え、デーブ・スペクター!?　ま、どっちでもいいが、そろそろ始めるぜ！　今月もオレの読者ペイジ・ジャクソン、読んでくれよ！



AUGUST号へのお便り紹介

青木真也のシャオリン戦の評はどちらかと言えば否定的なものが多いように感じましたが、自分は青木選手の戦法、結果はよかったと思っていました。相手の得意なものに付き合う必要なんかないし、あるべきでないのが総合格闘技だと思うから。あまり客の反応を気にしすぎてしまうとプロレスになってしまうから。インタビューで青木選手の迷いのない気持ちがよく伝わってきたと思いました。

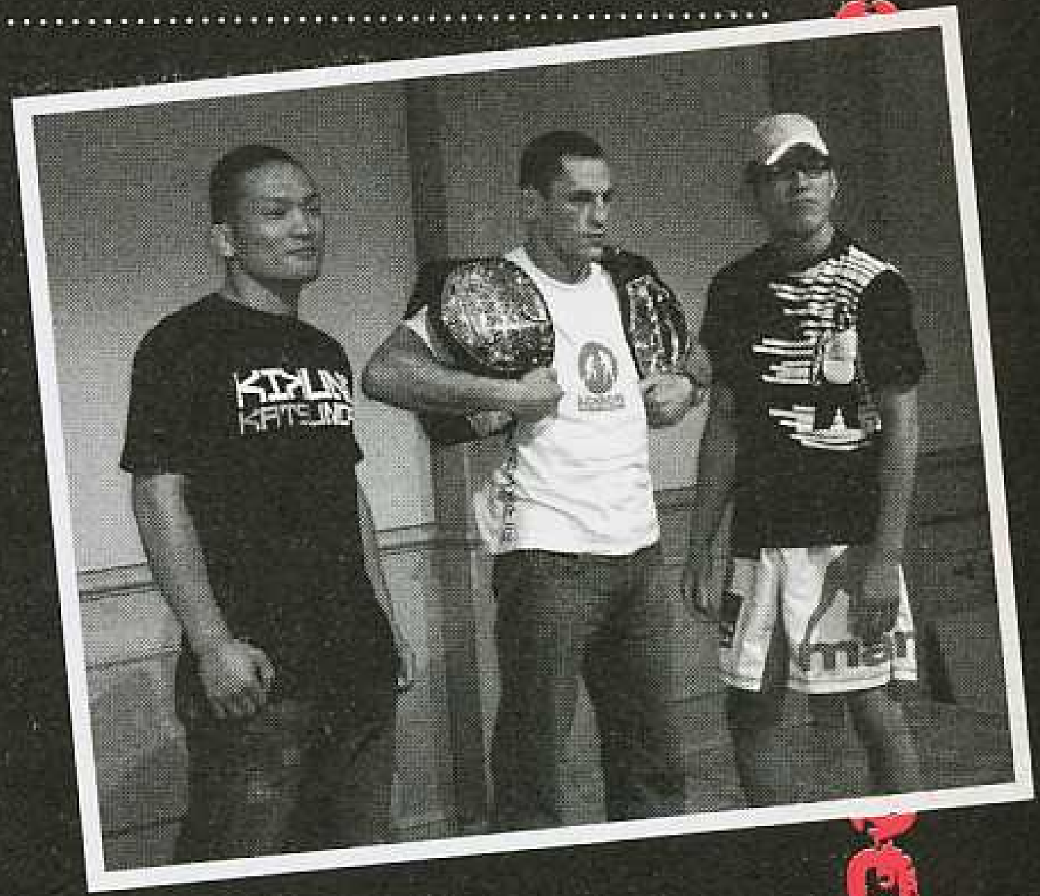
【山口県・武田英人さん・刑務官・49歳】

D 今回のカミプロ・スペシャルへのユーたちのレターはシンヤ・アオキに対する賛否両論で盛り上がっていたぜ。この刑務官のオッサンは、シンヤ肯定派だな。しかしよお、オレも『YouTube』で観たけどよお、シンヤのスパッツは最近ネタがなくなってきてるんじゃないのかい？　え？　論点はそこじゃないって!?

青木選手は声援よりブーイング（失礼）が似合う気がします～。このところ北岡選手と同じみたいな感じでしたけど、団体に所属していてお客さんの目を意識している北岡選手とは違う気がします。ZSTの金原選手も前TVで自分の勝ち負けよりお客さんが楽しんでくれればみたいなこと言ってましたから。。。

【千葉県・高橋朋子さん・販売員・29歳】

D お客さんの目を意識するとか、しないとかいう問題は難しいよなあ。オレだって、自慢の曲をドーンッとユーたちに聴いてもらいたいけど、でもユーたちは100パーセント聴いてくれないだろ!?　だからユーたちに媚びを売るしかないって、最近はそう割り切ってるんだ。しかし、そしたらいい曲はできない……。え？　オマエのはもともといい曲じゃないって!?



UFC100座談会がおもしろかった。UFCがDREAMにPRIDEをやらせる案は最高！　アーカイブ映像もあるので、本当に日本じゃなくてもいいので、リングでMMAを米国のファンに見せてほしい。

【香川県・横山太郎さん・38歳】

D PRIDEが腐るよりは、誰でもいいから開催してほしいってヤツだろ!?　まあ、いまだにPRIDEにしがみついてるボーイズ&ガールズは多いからなあ。オレ？　オレはすっかりセンゴク派だ。しがみついているとしたら、ゼンゴク・ポーズをまた会場でやってほしいってことぐらいだぜ！　ミスター・コクホ、頼んだぜい！

川尻選手の記事がおもしろかったです。川尻選手の頭の良さがおもしろく感じました。

【茨城県・鈴木エリさん・会社員・30歳】

D 何い!?　タツヤ・カワジリがジーニアスだって？　確かに、タツヤはドラクエをもの凄い早さでクリアしたらしいからな。ちなみに、オレはまだレベル10だ。え？　オマエはレベル1だって？　そ、それはひょっとして人間白帯ってことかい？

菊野選手の記事がよかった。三日月蹴りも凄かったが、この記事のビッグマウスも凄い。青木選手の試合は眠い、川尻選手には勝てると。ある意味、いろんなインパクトが強くて、次戦が楽しみです。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・29歳】

D カツノリ・キクノはとんだビッグマウスらしいな。そんなことしていると、ステーションボス・ウワイが引き抜きに来るぜい。クックックック。

追悼・松永高司の記事がよかった。あらためてこの人すげえなあと思う。フロントの人がトンパチレスラーじゃない、まるで。こういう一般社会じゃ通用しないゴーカイさとめちゃくちゃぶりが、サラリーマンとしては読んでいてスカッとするねえ。同じ会社には絶対にいてほしくないけどね。とくに同じ課には。

【三重県・ヤクザ使って和解さん・会社員・35歳】

D 同じ会社にそんなトンパチなヤツがいたらとんでもないぜ。一気に振り回されて、人生が狂っちまうってヤツだ。……ん？　これはどっかで聞いた話だな。

AUGUST号 おもしろかった記事 RANKING

- NO.1 青木真也
- NO.2 町田嘉三
- NO.3 追悼・松永高司
- NO.4 菊野克紀
- NO.5 マリウス・ザロムスキー

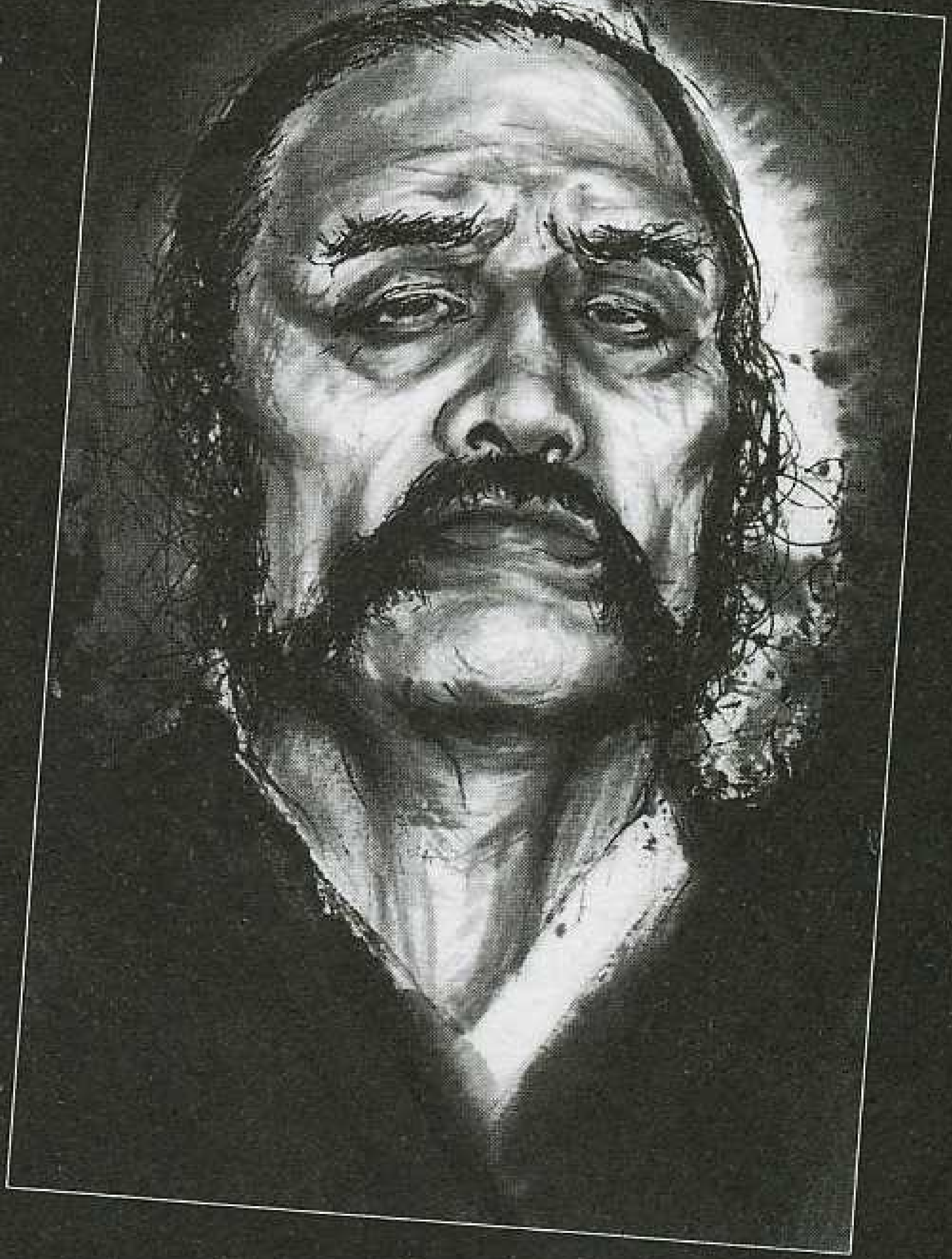
やっぱり今回のカミスペはシンヤ・アオキがチャンプだぜ。レターを送ってくれたボーイズ&ガールズは、シンヤに対してはなかなか手加減はナシだな。これがダイコクバシラの宿命ってヤツかい？ そして、リョートのファーザー、さらにミスター・マツナガを悼む特集がランクインしているな。いったい『kamipro』読者は何がフェイバリットなのか、いまだにわからないぜ！

最近は六本木をウロウロしているぜ。おっと、目撃しないでくれよ！ クックックック。



広島県・梶間浩幸さん／今度DREAMのリザーブマッチに出るDJ.taikiだな。次の入場は、ひょっとしてまたエア・ヒムロックなのかい？ そのときはオレも呼んでくれよな！





大阪府・剣洋人さん／OH! これはミスター・ホリベのイラストかい？ まさにそっくりだぜ！　それにしてもヒロトはいつも微妙なラインを突いてくるな。キライじゃないぜ!!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"ジャクソン



138号へのお便り紹介

エメリヤーエンコ・ヒョードルのインタビューがおもしろかったです。PRIDE時代から大好きな人です。今年の大晦日、さいたまスーパーアリーナで最強の姿を見せてください！　レスナーと闘ってほしい相手？　もちろんヒョードル！　どっちが最強なのかわからせてほしいです！！！
【静岡県・櫻井千種さん・会社員・24歳】

Dユーは、ヒョードルのほうがレスナーより強いって思ってるんだな。しかし、ユーはミスター・オーケンってヤツのインタビューは読んだのかい？　どんな強いヤツでもルール次第では負ける可能性もあるんだぜ。クックックック。え？　ヘリクツこねるなって!?

マサ斎藤のブロック・レスナー話はおもしろかった。レスナーだけでなく、レスナーの幻想を守るためにもマサさんの話は貴重だと思う。
【大阪府・山崎知恵さん・主婦・41歳】

DUFCではレスナーは大ヒールになってるらしいが、レスナーならヒョードルを倒してほしいと思えるって思うのはオレだけかい？　おっとその前に、ランディに勝ったノゲイラとの対戦というのもいいな！　クックック。すっかりUFC通って感じだろ？　全部受け売りだ！

廣田選手のインタビューがよかったです。北岡をついにやっつけてくれた！『戦極』ライト級の主役、廣田選手、かっこよかった！　これぞチャンピオンです!!
【埼玉県・高橋徹さん・会社員・24歳】

Dひょっとしてユーは、サトル・キタオカが嫌いなのかい？　しかし、ミズト・ヒロタと闘ったときのサトルは、ちょっとキモさがダウンしてたよな。敗因はそれじゃないのかい？

相原コージの地上最強生物論がよかった！　いま、こんなおもしろいマンガはほかにはないです!!
【静岡県・他屋雄一さん・看護師・37歳】

Dちなみに、オレは幼い頃にドッグに追いかけ回されて噛みつかれそうになったことがあるんだ。つまり、ヒトはドッグにも敵わないってことさ。このままじゃ絶滅危惧種だぜぇ……。

永田裕志のインタビューがよかったです。まったくべつのリングに上がる勇気をあらためて感じました。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・44歳】

Dそうだな。ユウジ・ナガタはいつも朗らかだが、人知れない苦労があるってことだ。しかし、なんでもギャグに見えてしまうミスター・ナガタの才能は凄いとオレは思うぜ！

『戦極～第九陣～』に出場した小見川道大のインタビューがよかった。あの熱さ！　ぜひワンマッチでリマッチを!!
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・35歳】

Dミッチーがユーのフェイバリットなのかい？　確かにミッチーはいま一番勢いを感じるボーイだぜ。しかしよお、ミッチーが闘いたいって言ってるのはヒオキってヤツだろ？　情報によると、アイツもなかなかの猫好きらしいから気をつけろよ！



長谷川穂積のインタビューがよかったです。いまテレビに出たいとか、人気者になりたいとかいう格闘家が多い印象がある中で、本当に最強を目指している人の心の持ち方はそう言う人たちとはまったく違うんだなと思いました。個人的に、長谷川選手の言葉を参考にしてほしい人はたくさん思い浮かぶと思ったり……。
【埼玉県・城園コウジさん・高校生・16歳】

Dユーはスクール・ボーイなのに、なかなか厳しい視点を持っているようだな。ホズミ・ハセガワのワードを聞かせたいボーイというのはいったい誰なんだい？　オレにだけこっそり教えてくれよお。クックック。

138号 おもしろかった記事 RANKING

NO.1 ブロック・レスナー最強論
NO.2 エメリヤーエンコ・ヒョードル
NO.3 長谷川穂積
NO.4 小見川道大
NO.5 永田裕志

とにかく前号はブロック・レスナーが大人気だぜ！　いつかヒョードルとの対戦を観たいというボーイズ&ガールズばかりだ。そして最強特集にふさわしいというボイスが多かったのが3位のホズミ・ハセガワだ。有名になるよりも強くなりたいというピュアなハートは、まさにファイターの鑑だよな！　それにしてもユーたちはナガタさんが好きだなあ。あきれるぜ！

目撃情報が止まらない！

★先日、五反田駅周辺で小見川選手を発見しました！ ボクが「あ！小見川だ！」という顔をしてしまったので、小見川選手も「バレた！」という表情になってておもしろかったです。写真で見るよりオシャレでカッコよかったです。これからも頑張ってほしいです！
【東京都・武田ツヨシさん】



ヒロヒトさん／もう終わっちまったカードだけど、グレイトなイラストだから、つい載っけちまったぜ！『kami-pro』にマサトのイラストが届いたのは初めてだぜ！。

格闘技愛あふれる玉稿をチェケラッチョ！

またまたユーたちから珠玉の投稿をゲットしたぜ！　今回はなんと小説を書いたってボーイだ。聞いて驚くなよ、なんとA4用紙44ページぶんの超大作だぜ！　ひょっとして、ユーは直木賞作家なのかい？　アッハッハッハ！　とにかく冒頭だけ紹介するぜ！

『世紀末の格闘技』

第一章
グレイシー柔術とバーリトゥード

一九九三年。
米国コロラド州デンバーにて、目つぶし、噛み付き、金的以外、あらゆる攻撃が有効という過激な格闘技大会が開催された。
大会名は「UFC（アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ）」。
出場していたのは、ほとんどが無名の格闘家だったが、ケン・シャムロックとジェラルド・ゴルドーという一流のプロ格闘家も出場していた。
シャムロックとゴルドーは圧倒的な強さで勝ち進むが、それぞれ準決勝、決勝で、その頃まだ無名だったホイス・グレイシーに敗れている。
ホイス・グレイシーと彼の格闘技「グレイシー柔術」は、これにより、世界中に大きな衝撃を与えた。
東千歳の父親にも。

十一年後。
二〇〇四年、東京。
中学生の女子が三人、おしゃべりをしながら下校している。
「来週、授業参観でしょう」
「なんで、うちの中学は授業参観なんてものをやっているのかしら。メンドくさいねー。ねェ、千歳のところは親くる？」
千歳と呼ばれた背の高い、ショートカットの女の子は首を振った。
「まだ、わかんない」
別の女の子が訊く。
「そういえば、千歳の親って何をしている人？」
「医者だけど」
と、千歳は答えた。
「すごーい」
「お父さんがお医者さんって、なんか、かっこいいね」
二人はそんなことを言った。
ちょっと違うんだけどな、と千歳は思った。しかし、あえて訂正しなかった。……（以下、続きが読みたい人はドシドシ、ハガキをくれよな！）
【熊本県・塘岡真さん】

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ！
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！　待ってるぜ！
こんな情報も24時間どんとこい！ってヤツだ。
●譲ってほしいもの
●タレコミ情報
●選手に対するコメント、試合の感想
●その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「ランディ化」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

kamipro books 驚ガク！ 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ！ 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男



秋山成勲なのか
チユ・ソンフンなのか——。

2006年12月31日大晦日『Dynamite!!』秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションである。

B6変型判　264ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画



ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘！　さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録！

B6変型判　292ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

新日本プロレス学習帳



"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発！

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に！ これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり！

B6変型判　320ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

八百長★野郎



ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載！

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考！ "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る！

B6変型判　296ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

生前追悼 ターザン山本！



え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証！

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る！

B6変型判　304ページ
定価=1,470円（本体1,400円+税）

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇



プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫★三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り！

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

U.W.F.変態新書



ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐！

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本！★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か？（菊地成孔スペシャルインタビュー）★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す！

B6変型判 296ページ
定価=1,680円（本隊1,600円+税）

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1



吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本



井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!!　氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録！

B6変型判　312ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集




破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★折鶴兄弟　ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん！みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録！

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/



15歳からいる このリング上こそ 自分が生きていく 場所だと思います

自分は死んで伝説になれなかった男。これからはプロレスラーとして馬鹿になります！

全日本プロレスの8.30両国大会で、船木誠勝がついにプロレス復帰！　同期の武藤敬司と組み、蝶野正洋&鈴木みのる組と対戦。80年代末からタイプスリップしてきたかのような鮮烈な闘いぶりで、大きなインパクトを残した。はたして船木はどんな思いでプロレスに復帰したのか？　試合の二日後に直撃した。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄



——船木さん、先日のプロレス復帰戦は素晴らしかったですね！

船木　そうですか？　自分としては余裕がなかったんで、わからないですけどね。最後のトペも引っかかってしまったし。

——やはり、あれは悔しいですか？

船木　悔しいですね。でも、やらないよりマシだと思いますから。トペをやったのは、あれが4回目なんですよ。

——あ、そんな正確な回数まで覚えてるんですか⁉

船木　ええ。最初にやったのが、（87年8月19日の）『サマーナイトフィーバー・イン・国技館』で、小林邦昭さんにやって、次はその年の年末にライガーさんが山田恵一のときにやって、その次が5年前に映画『新説タイガーマスク』の中でやってるんですよ。

——映画の中でもやってるんですか。ボクは両国の山田戦以来かな？　と思ってたんですけど、確かあのときもロープに足が引っかかったんですよね？

船木　引っかかってました。だからちょっと嫌な予感はしてたんですけども、やっぱり引っかかりましたね。おもいっきり引っかかりましたね。

——山田戦はちょっと引っかかって、今回はおもいきり引っかかりましたか（笑）。

船木　でも、失敗を恐れずにいろんなことに挑戦していきたいと思ってるんで、トペもまたいつかやりますよ。次やったときは、ちゃんと引っかからないように。

——今回はなんといっても、20年ぶりぐらいの純粋なプロレスですからね。

船木　だからやっぱり余裕がないっていうのが一番でしたね。5分経過、10分経過のコールも聞こえなくて、最初に聞こえたのが「15分経過」ですから。それぐらい余裕がなかったし、逆に言えば無我夢中でできたんで、観てる人はそれなりに見応えがあったんだと思います。

——観てる方もあっという間に時間が過ぎていきましたよ。

船木　とくに鈴木とやってるときは、けっこう我を忘れてやってましたね。

——あの絡みは、非常に緊張感もあったし、何より感情が伝わってきましたね。

船木　やっぱり負けたくないですから。あらゆる面で負けたくないんで。

——プロレスラーとして、トータル的に負けたくないという。

船木　パンクラスでやったときとは違うかたちですけど、やっぱり同じリングに上がったからには、そこでも「勝負」っていうのは、絶対にあるんですよ。だから「負けたくない」っていう気持ちはお互い強くあったと思います。

——プロレス復帰をしたリングに、鈴木みのるという本当に感情をぶつけられる相手がいたのは、どんな気持ちですか？

船木　意外でしたね。全日本に上がるからには、鈴木と絡むこともあるだろうなとは思ってたんですけど、まさか最初からこんなに露骨に当てられると思わなかったんで。最初は全日本の若手や中堅と徐々にやっていくのかな、と思ってたんですけど、タッグであれ鈴木とやってくれって言われたときは、凄くビックリしました。

——でも、結果的に大正解でしたね。

船木　そうですね。いままでの総合から、プロレスに吹っ切るにはちょうどよかったですね。余計なことを考える暇がないし、とにかく気持ちをぶつけられる相手がいたっていうのは凄くよかったと思います。あれがなかったらもっと違和感があったかもしれないですから。



“プロレスラー”船木誠勝復活

——きれいにプロレスを見せなきゃっていう気持ちが先に出ちゃったかもしれないですね。

船木　そうですね。

——船木さんが鈴木さん相手に感情ぶつけたのと同じように、鈴木さんも挑発しながら、ある種歓迎してるような部分を感じたんですけど。

船木　まあ、挑発する相手が出てきたなっていう感覚はあると思いますね。それで自分のほうが先にプロレス始めてるんで、「ここは自分の庭」的な感覚もたぶんあると思います。

——初めて船木さんに対して「俺が先輩だぞ」みたいな気持ちでできるというか。

船木　それはあると思います。

——もともと、パンクラス時代の鈴木さんに「プロレスやったほうがいいんじゃない？」って進言してたのは船木さんなんですよね。

船木　言ってました。でも、そのときは「絶対にやりません」って言ってて、「もったいないな」って思ってたんですよ。そう言ってた手前か知りませんけど、鈴木が実際にプロレスをやることになったとき、自分は一番最後に報告されたんですけどね。

——鈴木さんもプロレスをやることに対しては、いろいろ意地やこだわりを乗り越えてのことだったんでしょうね。

船木　そうでしょうね。

——船木さんも総合格闘技を含めて、なかなか現役復帰しなかったのは、そういう気持ちがあったからですか？

船木　そうですね。自分はプロレス復帰というだけじゃなく、もう正式に引退してしまったんで、「引退した人間が戻ってきちゃいけない」っていう自分の中の決まりみたいなものに縛られてましたね。プロレスラーはみんなカムバックするんで、それだけはやっちゃいけないっていう。

——自ら気持ちを封じ込めていた、と。

船木　だけど引退して3年経った頃、身体が疼きだしたんですよ。でも、その頃、新日本にいた上井（文彦）さんから「ライガーとエキシビションでいいからやってくれないか？」って話があったんですけど、それも断ったんです。そしてその2年後の2005年に前田さんと再会して、前田さんから「『WRESTLE—1』に出てくれないか？」って言われたんですよ。

——あの途中で頓挫した第二次『WRESTLE—1』ですか？

船木　そうです。あのとき『WRESTLE—1』って上井さんがやってて、その関係で前田さんから話が来たんですよ。

——そういえば、『WRESTLE—1』っ



2005年9月11日、ビッグマウスラウド後楽園大会で、前田日明に「来年からの中心人物」として紹介された船木は、リング上から現役復帰を示唆。しかし、実現せぬままにビッグマウスラウドは空中分解してしまった。

船木誠勝復活

BMLでの復帰宣言は、あくまで前田さんとの和解ありきの話でした

て上井さんがプロデューサーで、前田さんは上井さん個人のスーパーバイザーっていう立場でしたね。

船木　で、前田さんから「素顔の船木でやるのが嫌だったら、マスクを被る話もあるから、それだったらべつにやってもいいんじゃないか？」って言われたんです。忍者かなんかのタイアップがあるという話で。でも、そのときはおもいっきり断ったんですよ。だけど、断った途端に前田さんが「どうせやるんだったらUWFの続きやりたいんだよね」って言いだして。

——さっきまで覆面忍者の話をしていたのに、今度は「UWFの続き」ですか（笑）。

船木　でも、それを聞いたとき、「あのときの続きができるんだったらやりたいな」ってなんとなく思ったんですよ。

——あ、そうなんですか。

船木　UWFの続きっていうのは、自分と前田さんが別れて実現できなかったことじゃないですか。でも、のちのちですけど、前田さんは自分のことをUWFの次のエースにしたかったっていう話も聞きましたし。じゃあ、前田さんと和解したんだから、あのときできなかったことをやってもいいかなっていう気持ちになったんです。それがビッグマウスラウドで復帰発表という流れになったんですよ。

——なるほど。じゃあ、ビッグマウスラウドでの復帰発表というのは、前田さんとの和解ありきだったんですね。

船木　そうです。だからビッグマウスラウドという名前もいずれ「スーパーUWF」に変えちゃおうって話もあって。

——団体自体を変えちゃう予定でしたか（笑）。あのときの復帰話はどうして頓挫しちゃったんですか？

船木　上井さんと前田さんの意見の相違ですね。上井さんは団体を運営しなきゃいけないので、即お金が必要だっていうことで、すぐに新日本と提携したりしてたんですけど、前田さんはそういうのが凄く嫌だったんですよ。前田さんは「最初の2～3年は苦しくても独自で我慢してやって、団体というものを作らなきゃいけない」っていうふうに言ったんで、そのへんの方向性やり方が上井さんと違ってて。

——前田さんは、第一次UWFのときみたいな感じで考えていたんでしょうね。

船木　で、自分は前田さんから誘われたことがありきだったので、前田さんがビッグマウスを抜けて、自分が残ってたら話がおかしくなるので、一回復帰の話はなしっていうことで自分も（ビッグマウスラウドと）別れたんですよ。でも、柴田とのトレーニングは続けようってことになって。柴田の総合格闘技デビューのお膳立てをしたら、元の生活に戻ろうと思ってたんですけど、柴田の記者会見についていったり、スパーリングパートナーとして公開スパーなんかをやっていくうちに、自分のいるべき場所はこっちなのかなって感覚がでてきたんです。で、柴田が勝って、一緒にリングでガッツポーズで写真を撮ったとき、やっぱりよみがえってしまって。

——封印していたはずの気持ちがよみが

えってしまった、と。

船木　やっぱり入っちゃいけない場所だったのかもしれないですね。入ったらどうしてもよみがえっちゃうんですよ。血が騒ぐというか。で、谷川さんに「自分も試合やってみたくなりました」ってお願いして。そのときはもう総合をやるんだから、プロレスの話が来たらプロレスでもいいっていうふうには思ってました。

――「現役復帰はしない」ということにこだわっていたので、総合で復帰するなら、プロレスをやってもいいだろう、と。

船木　はい。その総合での現役復帰を表明した頃、武藤さんとテレビの仕事で一緒になって、そのときに言われたんです。「一段落したら全日本にも出くれ」って。

――武藤さんはナチュラルかつ本気で誘ってたわけですね（笑）。

船木　で、自分ももうわだかまりはないんで、「わかった」と。

――もうその時点でOKの返事は出してたんですね。へんな話、復帰を決意したっていうのは、映画『レスラー』じゃないですけど、やっぱり「生きる場所も死ぬ場所もリングだった」っていうのに気づいちゃった感じですか？

船木　そうですね。自分こそ、ずっとリングにいるべきなんじゃないかなって思いました。中学卒業して15歳からリングの上にいて、人生の中でリングにいた時間が一番長いですから。それを否定することはできないということですね。

――「プロレスラー」という呼称は一生ついて回るものでしょうしね。

パンクラスにいた頃は、自分で始めたのに自由にできなくなっていました





［09.8.30 全日本プロレス］
東京・両国国技館
○武藤敬司　船木誠勝　vs　蝶野正洋　鈴木みのる×
（21分19秒　体固め）

船木誠勝のプロレス復帰戦は、84年にともに新日本に入門した同期である武藤と組み、同じく同期の蝶野、そして後輩で永遠のライバル鈴木みのると対戦するタッグマッチ。船木は蝶野相手にオーソドックスなプロレスを見せ、鈴木相手には感情丸出しのラフファイトで応戦。最後はデビュー25周年の主役・武藤がムーンサルトで決めたが、船木は、大きなインパクトを残した。

船木　そうですね。人生一回きりなんで、足踏みしている時間はないし、使ってもらえなくなったときが、自分のマット人生の終わりだと思います。だからできるだけ、いろんなことがやりたいですね。

――両国の試合を観たら、いろんな人との試合が観たくなりましたよ。

船木　そう思ってもらえるのが一番いいですね。限界が見えないというか、型にはまらず、マンネリにならないように努力していきたいです。

――船木vsライガー戦なんかも観たいですし。

船木　ライガーが全日本に出てきてくれたら、それもあるでしょうね。でも、とにかくいまは全日本のシリーズのことだけを考えてます。巡業っていうのもひさしぶりなんで、疲れるだろうし。移動しながらの連戦はストレスにもなると思いますけど、そのストレスに負けないで、生活を崩さないようにしていきたいですね。それで崩れちゃうと典型的な『レスラー』になっちゃうんで。みんな糖尿の話ばっかりですもん、ホントに。ここは病院なのかと思うぐらい。

――控室でそんな話ばかりしてますか（笑）。そういう意味でも、船木さんの身体はフレッシュですよね。

船木　やっぱり気をつけてますから。

――あと、両国では船木さんのイス攻撃が凄く新鮮だったで、ラフファイトやデスマッチとかも観たいですね。

船木　ブードゥーマーダーズとの試合とかおもしろいですよね。

――いいですね〜。船木さんの流血戦とかメチャクチャ観たいですよ！

船木　流血戦は海外でやったことありますよ。

――実際、流血似合いそうですよね。

船木　そういうのも含めて、暴れ回りたいですね。パンクラスにいた頃っていうのは、正直言って、自分で始めたことなのに自由にできなくなったなっていうのは感じてました。やっぱりキャリアが一番長くて、団体の長でもあったので、あんまりふざけたことはできないっていうのがあったんで。だから一回、リングで新年の挨拶をしたとき「あけましておめでとうございます」って言いながら、わざと頭をマイクにぶつけたんですよ。でも、わざとぶつけたのに誰も笑ってくれなくて。お客さんもシーン……引いちゃったんですよ。

――見ちゃいけないものを見たっていう感じで。

船木　はい。で、結局それは本当にぶつかったんだって見られちゃうんですよ。周りの選手とか、後輩もそう思ってました。

――そんなボケをかますはずがないっていうイメージになってたんでしょうね。

船木　そうなんです。あのときはちょっと悲しかったですね。ふざけたことをしても笑ってもらえないっていう。だからパンクラス時代はずっと崖っぷちに立たされてた感じでしたね、行き場がないというか。

――だから、プロレスのリングに上がったとき、解放されて凄くいきいきしてる感じがしました。

船木　でも、あれでもまだ気を使ってるような感じはしますね。武藤さんにはそれがバレてて、「まだ遊べるんじゃないか」って言われてます。あの人はそういうのを見抜く勘が鋭いですから。でもいきなり振り切っちゃうとちょっと引くと思うんですよ。

――船木さんのフルスロットルは、かなり

船木誠勝復活

北岡はとことんキモくなればいい　ここで辞めたら絶対に後悔しますよ

強烈でしょうね（笑）。

船木　だから徐々に、引かれない程度に自分を出していきたいな、と思います。やっぱり自由っていうのが一番ですよね。本当の自分らしさというか。おそらくみんなが思ってないような部分もたくさんあるはずなんで、それも含めてリングで出していきたいなっていう感覚はあります。

――9・26横浜文体では、いきなり鈴木さんとの一騎打ちが組まれてますから、そこではかなり全開になるんじゃないですか？

船木　どうでしょうね。でも、両国とは全然違う闘いになると思います。それにしても不思議ですよね。パンクラスの象徴だった二人が、よりによって揃いも揃ってプロレスのリングに上がって、闘ってるわけですからね。

――そういえば、両国に北岡悟選手が観に来てたらしいですよ。

船木　そうみたいですね。北岡もプロレスやんないんですか？

――どうなんでしょうね（笑）。いろいろ思うところがあって来たんだと思うんですけど。

船木　なんでもいいからやればいいと思うんですよ。北岡がこれで引退したら、もったいないですよね。せっかくキャラクターができあがったのに、できあがった途端に終わりなんだっていうのは、ちょっともったいないと思います。やっぱり、ここからまた這い上がってこそプロじゃないですか。まあ、辞めないとは思うんですけど、また這い上がるきっかけを自分で探してるような感じなんだと思います。



ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県出身。85年に新日本プロレスでデビュー。第二次UWF、藤原組を経て、93年にパンクラスを旗揚げ。2000年にヒクソン・グレイシーに敗れ引退。07年大晦日に『Dynamite!!』で現役に復帰した。182cm、90kg。

――船木さんは北岡選手の「辞めたい」って思う気持ちもわかりますか？

船木　疲れてるんだと思いますよ。精神的に非常に疲れてると思います。ここ1年、チャンピオンになって頂点に立って、挑戦を受けてっていうのがありましたよね。しかもいまは減量があるので、1年に3回ぐらい試合をするのって、凄く消耗すると思うんですよね。減量で苦しいのに練習もしなくちゃいけなくて、それが続いてたんで、一休みしたいっていう気持ちは凄くわかりますね。

――同時に、ここで辞めたらあとで必ずやりたくなるっていうこともわかりますか？

船木　絶対にやりたくなると思います。北岡は30歳ぐらいじゃないですか。それこそ自分が辞めたのと同じぐらいですよね。1年もすればやりたくなると思うんですよね。

――ましてや「注目されたい、注目されたい」と思ってて、ようやくそれが叶ったばかりですからね。

船木　これで辞めたらホントにもったいないですよ。そのへんは図々しくなってもいいと思いますね。やりたいときにまたやればいいと思います。あそこまで注目される個性というか、特別な個性を持ってるんで、もったいないです。

――"キモ強"なんてジャンルがあるとは思わなかったですからね（笑）。

船木　とことんキモくなればいいじゃないですか。誰にも負けないキモさを出せばいい。この前はちょっとキモさが足りなかったですね。

――確かにそうですね（笑）。

船木　キモくなるのにも体力がいるってことですね。

――船木さんはプロレスラーとして……。

船木　プロレスラーとして、バカになります。できれば息子にもあとを継いでもらいたいぐらいに思ってますんで。できればですけど。息子は息子の希望があると思うんでわかんないですけど。でもそれぐらい胸張って自分の人生というか、胸を張れる仕事をしてるつもりです。

――これだけ前向きにプロレスをやるっていうのも、10代の頃以来なんじゃないですか？

船木　UWFでは迷ってましたからね。海外から帰ってきてから迷いっぱなしですよ。それで辿り着いたのがヒクソン戦という、究極の場所にいましたね。

――なんかあの頃は死に場所を求めてるような感じがしました。

船木　でも、実際は死ねないんですよ。負けても、まだ一応生きている。ホントに死ねたらどれだけ楽かって思ったこともありました。じつは、引退した2年後に大事故をしてるんですよ。東北自動車道で車全損の事故をして。

――そうなんですか!?

船木　だけど生きてるんですよ。あのときはもしもあのまま死んでたら、ヒクソン戦が終わった2年後ですから、それこそ伝説になっちゃいましたけど、自分は伝説になれない男なんですよ。普通は死ぬような事故なのに、死なないんですよね。それからはとにかく生きなきゃって感覚です。

――では今回、やっと自分が生きていく場所に帰ってきたわけですね。

船木　そうですね。やっと自分の生きる場所に帰ってきたんで、ここで目一杯生きていこうと思います。

【09年9月1日／都内世田谷区某所にて収録】

全日本プロレス
『FLASHING TOUR 2009』
神奈川・横浜文化体育館
9月26日（土）開始18:00

主要対戦カード
［三冠ヘビー級選手権］高山善廣vs小島聡
［世界ジュニアヘビー級選手権］カズ・ハヤシvsスペル・クレイジー
船木誠勝vs鈴木みのる

チケット料金
特別リングサイド 10,000円／リングサイド 7,000円
1F指定席 5,000円／2F特別席 5,000円
2F指定席 4,000円／3F指定席 3,000円

お問い合わせ
全日本プロレスリング TEL.03-3288-0610

椎名基樹の サムライ三昧

第41回

『驚愕のバージョンアップ』


©Josh Hedges（UFC）

8.8『UFC.101』でグリフィンをKOし、自身の持つUFC連勝記録を10に伸ばしたアンデウソン。これまでのMMA戦績で敗戦はわずか４回だけだが、その中の３試合は岡見勇信（反則負け）、長男亮（ヒールホールド）、高瀬大樹（三角絞め）と日本人相手のもの。ちなみにもう１敗の相手はルイス・アゼレードです。

華麗であった。才能を見せつけた。

8・8『UFC101』で一階級上のライトヘビー級の闘いに初めて挑んだ、ミドル級王者アンデウソン・シウバ。対戦相手は元王者フォレスト・グリフィン。強豪相手にバージョンアップされた自分を見せつけて勝利した。

いままでは長い脚を活かした、多彩な蹴りで距離を取って闘っていたアンデウソンであるが、この日は一発の蹴りも出さず、まるで見せびらかすようにボクシングの技術で勝負した。そのレベルがいままでMMAで観たことがない、もっともボクシングの試合でもめったに観られないほど高かった。

あまり手を出さず、相手の動きを見ながら、的確なパンチでダウンを奪う。かと思えば、ステップインして懐に飛び込んで、ダッキングの要領でベルト付近で頭を揺らしながら、インファイトでパンチを当てる。

最後は打つ手がなくなったグリフィンが、ワン・ツー、ミドルキックのコンビネーションを出しながら、前に出てくるところを、バックステップで下がりながら、まるでアゴに拳を置きにいくかのような、ショートの右ストレートで失神させてしまった。「ミドルキックはなしね」と言うかのように、蹴りの軌道の途中で、グリフィンについている電源ボタンをそっと切ってしまったようだった。

いままでの難攻不落といわれた、蹴りで距離を取るスタイルだけでも勝機を見出しがたかったのに、さらにより自分から倒すスタイルまで身につけた印象だ。

これでライトヘビー級王者にも照準を向けたアンデウソン。となるとリョート戦。もっともミドル級にも強豪がひしめいていてこれまたおもしろい。

また、敗れたフォレスト・グリフィンであるが、これを機にヘビー級転向などどうだろう？ グリフィンは、191センチとライトヘビー級では体格がいい。負けて上の階級に転向というのもへんかもしれないが、UFCで選手層が分厚いのはライトヘビー級までで、ヘビー級のほうが狙い目かもしれない（と、言っても王者はあの怪物ですが）。

アンデウソンがヘビー級に挑戦となったら体格的に「？」となってしまうが、グリフィンだったらおもしろいと思う。転向すれば史上最もバランスのとれたヘビー級の選手になるのでは？

8・29『UFC102』では、そのヘビー級のビッグマッチ、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsランディ・クートゥアーが行なわれた。日本のファンにとっても待望の試合だったであろう。さらにノゲイラが勝ったことで、まだ日本のMMAファンの胸に残っているだろう「PRIDEの誇り」が守られて、快感の高い試合であった。

試合内容は解説のTKこと高阪剛の言うように、真っ向勝負。防御無視で殴り合うスタイルで、アンデウソンから比べるとじつに不細工であったが、そのぶん熱くなる試合であった。その中でも二度決めた、ノゲイラのスイープはやはり華麗で、感動的であった。

このコラムでフランク・ミア戦のノゲイラに対して「勝てる気がしなかった」といったじつに失礼なことを書いてしまったのだが、なんでもミア戦のときは、試合1週間前まで入院していたとか。確かにそのときと比べると、この日のノゲイラはグッドシェイプで、この体調でミアと闘えば結果はわからない。

しかし、今号本誌の特集テーマ「○○らしい!?」ではないが、ノゲイラの右目は緑内障でほとんど視力がないらしいとかなんとか。そのためにクートゥアー戦はあのような「KO上等」な闘いになってしまったのか？ 兎にも角にも、人の胸を熱くさせる何かを持つ、我らがピープルズチャンピオン・ノゲイラの最後の冒険になるであろう、UFCヘビー級王者獲りの闘いを見届けたい。

最後にUFC関連で、ぜひとも褒めてつかわしたいのが、ビデオゲームの出来のよさだ。筆者はアメリカ版をやっているが、10月の日本版発売が楽しみだ。

前からUFCのゲームの出来はよかったが、よく見れば、ゲームを製作しているのは、ユークス。さすがである。


過去間違いなく世界一であった日本のゲームであったが、最近ではその座はUFCとPRIDEの関係のごとく、アメリカに奪われてしまった感がある。しかし、ユークスのUFCで遊べば、『バーチャファイター』から始まると思われる、ポリゴンタイマン系の技術が脈々と息づいているようで頼もしい。

『バーチャファイター』といえば、あの桜井〝マッハ〟速人も好きだったと思う。茨城の新空手時代（館長はあのスナックブスのマスター）、高架線下で現在のタノムサク鳥羽とジェフリーとあだ名される黒人とトレーニングに励んだ話を何かで読んだ記憶がある。ジェフリーは興奮すると下がコンクリートであるにもかかわらずバックドロップを仕掛けてきたんだとか。

もちろん、このジェフリーという名の元ネタは『バーチャファイター』のキャラクター。しかも、あのウィリー・ウィリアムスをイメージしたらしいキャラだ。ウィリー似の黒人と夜な夜な高架線下で乱闘するマッハを想像すると、何かファンタジーを見る気分だ。

と、話が逸れたところで、今月は終わりにしよう。

PS.DEEPの青木真也解説よいです。バックチョークはマットに着いた身体の側面側の腕を巻きつけなければ極まらないなど、目から鱗の技術解説満載。



俳優／キングRIKIの双子の兄

竹内力

「Vシネの帝王」と呼ばれた男が語る



「Vシネの帝王」と呼ばれた男が語る
ファイティング・オペラ改革論

「いまのダルい『ハッスル』を俺が建て直す」



7.26『ハッスル・エイド』に突如として姿を現わしたキングRIKI。その"双子の兄"である竹内力が『kamipro』に降臨！ 数々の芸能人が登場した『ハッスル』の中でも、ズバ抜けた存在感を放つこの大物俳優は、いったいなぜ『ハッスル』と交わったのか？ その真相を直撃！

聞き手／橋本宗洋　構成／鈴木佑　撮影／吉場正和

竹内力

『ハッスル』に突如として降臨したキングRIKIとは何者なのか⁉

7・26『ハッスル・エイド』両国国技館大会の直前に登場が予告され、大会では高田総統とハッスル軍の和解の場面に現われると、いきなり『紅のバックファイヤー』で高田総統を葬るという〝大仕事〟をやってのけたキングRIKI。その実態は歌手活動を展開するRIKI（アールアイケーアイリキ）であり、彼は竹内力の〝双子の弟〟であるという。

RIKIの兄であり、その活動のすべてをプロデュースする竹内力を、〝Vシネマの帝王〟として認識している人は多いだろう。『ミナミの帝王』、『カオルちゃん最強伝説』といった人気シリーズを持ち、主演作品は200本以上！ まさに〝帝王〟の名がふさわしい。

しかし、竹内の活躍ぶりはそれだけにとどまらないのである。事務所を設立してこれはと見込んだ俳優たちを売り出し、製作会社『ギャングスター』でプロデュース業にも着手。Vシネ界における彼のスタンスは、もはや俳優という枠に収まるものではないのだ。

加えてファッションブランド『RIKI TAKEUCHI』を展開し、近年はVシネのみならず大作映画にも数多く出演、独自の存在感をスクリーンで放ち続けている。さらにはトーク、バラエティ番組にも積極的に出演し、コワモテなパブリック・イメージを覆すことにも成功した。なにしろ赤ちゃんの扮装でアイスのCMにまで出演してみせるのだ。こうなるともはや〝Vシネマの帝王〟というよりエンターテインメントの帝王！

RIKIが『ハッスル』に登場したということは、プロデューサーである兄・竹内力も『ハッスル』に関わってくるということ。エンターテインメントの帝王は、エンターテインメント・プロレスである『ハッスル』に何をもたらすのか？ その狙いはどこにあるのか⁉ 気になる再登場を前に、プロデューサー目線でキングRIKI、そして『ハッスル』の今後を存分に語ってもらった。



キングRIKIは『ハッスル・ジハード』に「リーゼン党」を引き連れて参戦し、『ハッスル』と5vs5の全面対抗戦で激突すると表明。すでに長州力や高山善廣が党員として加入。両国のど真ん中でリーゼントの長州力が観たいぞタココラ！

――今日はお会いできて光栄です！ 我々は『kamipro』という雑誌の者でして、普段こういう本を作っております（本誌前号を差し出す）。

竹内 （表紙を見ながら）お、ヒョードル！ たしか最近、試合があったんじゃなかったっけ？ 相手も強い選手で。

――『アフリクション』をご存じでしたか⁉ ジョシュ・バーネットという選手と闘う予定だったんですけど。

竹内 そうそう、ジョシュ。

――じつは試合がキャンセルになって、大会そのものもなくなってしまったんですよ。

俺とプロレスのつながりはもともと橋本（真也）さんとの共演がきっかけ

竹内 なくなったの？ 観たかったねぇ。

――このヒョードルの表紙も、試合実現を前提に作ったものだったりするんですけど（笑）。竹内さんのプロレス・格闘技との接点はどういったところからなんですか？

竹内 もともとは橋本（真也）さんなんですよ。『実録 柳川組』っていう作品でご一緒させてもらってね。で、橋本さんはレスラーとして志半ばで亡くなられて。それが今回にもつながってきた感じで。

――竹内さんと『ハッスル』は破壊王でつながってたわけですか。

竹内 ただ、『ハッスル』に出るといっても俺はちょっと無理なんで。だったら弟（RIKI）のほうが若いし……精神年齢がね。歳じゃなくて。

――はい（笑）。

竹内 まあ収入の面でもいいんじゃないかと。いまアイツはバイトもしてるんで、ガテン系の。

――弟さんはバイト生活が長いみたいですね。噂ではカラオケスナックでも働いていたそうで。

竹内 歌だけではまだまだ食えないし。ウチ（事務所）からも毎月ちょっとは渡してるんだけど。3万くらい。

――ククククク！

竹内 そういうこともあって、「『ハッスル』出てみるか？」って聞いたら「おう、やるやる！」と。で、出るからにはやっぱりリングネームが必要だなと思って、キングRIKIって名前にしたんですよ。

――初登場で、いきなり髙田総統を葬るっていう強烈なことをやってのけたわけじゃないですか。髙田総統はこれまでの『ハッスル』の実質的主人公でしたから、プレッシャーも相当あったんじゃないかと思うんですよ。

竹内 いや、ないない。そもそも彼はそこまで考えないから。

――「プロレスファンに受け入れられるかどうか」っていう不安もなかったですか。

竹内 まあ、「ブーイングがきたらかわいそうだな」と思いながら、俺も陰で見てたんだけど。でもブーイングがなかったんでよかったし。

――プロデューサーとしてもひと安心というか。ブーイングがなかったのには、もしかしたらファン層が重なってる部分もあるのかなと思ったんですよ。マット界には竹内さんのファンが多いですから。パンクラス王者の和田拓也選手は入場テーマ曲でRIKIさんの『魁！ミッドナイト』を使ってますし。

竹内 それはどっかで聞いたことあるなぁ。嬉しいね。

――あと、DEEPという格闘技団体の代表の佐伯さんも大ファンで、自分がプロレスの試合をしたときに『欲望の街』を自分で歌いながら入場してましたね。

竹内 ……格闘技団体の代表がプロレスするの？

――いや、そのへんは話すと長くなるんで

すけど、とにかくなんでもやる方なんで

くらい。そういう中で、『ハッスル』登場が

――よく言って盆踊り！（笑）。

イトルなんだけど。高田総統が必殺技と

うことは、プロデューサーである兄・竹内

――じつは試合がキャンセルになって、大

すけど、とにかくなんでもやる方なんで(笑)。そういうこともあって、竹内さんの世界とマット界は親和性が高いのかな、と。

竹内 だとしたら嬉しいね。実際、会場でもブーイングはなかったから。

――それだけの存在感がありましたしね。あのピンクのコスチュームもめちゃくちゃインパクトがあったんですよ。

竹内 前々からピンクを使いたいなっていうのが凄くあって。で、10月に彼のアルバムが出るんだけど、その〝押し曲〟にピッタリ合うんですよ、ピンクが。もう運命的というか、「これしかないだろう!」ってくらい。そういう中で、『ハッスル』登場が決まって。

――そこで、そのコスチュームを使っちゃおう、と。

竹内 まあ予算の削減にもなるしね。衣装は全部オリジナルで、一着20～30万を2、3着用意しますから。やっぱり汗をかくんでね、動くから。

――RIKIさんのPVを見ていても、動きが激しいし独特ですよね。

竹内 弟は歌手というよりエンターテインメント・シンガーだから。まあダンスっていうほどかっこいいものじゃないんだけど。まあ、よく言えば盆踊り。



小さい頃から弟とは二人そろうと最強だった。分身の術も使えるし

――よく言って盆踊り!(笑)。

竹内 悪く言えば、適当に手足を動かしてるだけというね。

――そのエンターテインメント・シンガーという肩書きは、『ハッスル』の〝ファイティング・オペラ〟というコンセプトと共通するものを感じますね。単なる歌手ではない、単なるプロレスではないという部分で。

竹内 そうですね、うん。取材のとき、「アーティストのRIKIさんは～」っていう言葉が出て、「おまえ、アーティストじゃねぇよな?」と。

――アーティストという言葉では収まらないな、と。

竹内 かっこよすぎじゃないですか。そこで「こいつはエンターテインメント・シンガーなんですよ」と。それ聞いて弟も「おう!」って。

――その場で決まりましたか。

竹内 ダンスの先生もつけたんだけど、彼は振付を覚えないし。先生って言われる人間がもともと苦手でね。「ああしろ、こうしろ」って言われるとはみ出してしまうというか、それをやる能力がないというか。ダンスもポイントだけは抑えるんだけど、あとは勝手に動いちゃうんだよね。ライブにいたってはまったく違う動きをしてるし。

――それは〝従来のライブ界を根こそぎ破壊する〟感じですねぇ(笑)。そういう根っこのキャラクターからして、『ハッスル』にハマってたのかもしれないですね。

竹内 それで大会の当日はまた、うまく必殺技が決まったんだよねぇ!

――髙田総統を一撃で仕留めた『紅のバックファイヤー』が出ましたね。

竹内 これは弟のセカンドシングルのタイトルなんだけど。髙田総統が必殺技というか、そういうものを持ってるってことで。

――ビターンですね。

竹内 こっちも何か、って考えたときに「……ファイヤーがあるな」と。

――ありましたねぇ(笑)。

竹内 ただ、『紅のバックファイヤーは』、そのエネルギーがちゃんと出るかどうか、当日になってみないとわからない。その能力はあるんだけど、実際に使わせたことはなかったから。

――ぶっつけ本番だったと。

竹内 うかつに街なかで使って、ビルなんか破壊しちゃったら困るからね。あとサングラスも取れないんですよ。ライブでも「サングラス外してくれ!」って言われるんだけど、それはできないんですよね。外すと目から光線が出ちまうんで。

――あぁ、光線まで! ……しかし、そういう竹内さんとRIKIさんの関係性っておもしろいですね。髙田総統も髙田延彦さんの「古くからの友人」なんですけど、それと似てますね。虚実の境目が曖昧で非常にプロレス的だなと。

竹内 まあ、難しいことはわかんないですけど、兄弟ですからね。

――あ、そうですよね(笑)。失礼しました。

竹内 小さい頃はね、そっくりなんでよく間違われてね。お互いとばっちり受けてましたけど。ケンカ売られたりね。ただ二人そろうと最強でしたけど。分身の術も使えるし。

――実際に『ハッスル』に出てみて、現場の雰囲気なり試合なり、RIKIさんは何か感想を言ってましたか?

竹内 バックファイヤーがうまく出せたんで、それは喜んでましたね。「出た出た!

竹内力

出たぜアニキ！」って。俺は客観的に見て、お子さんの客がたくさんいたのが意外だったかな。ただ、ちょっと不満を言わせてもらうと……俺は映画とかVシネの製作もやらせてもらってるんで、そういう目から見ると、構成の部分でプロを入れたほうがいいなと。

——そこはエンターテインメントの専門家としての目線ですよね。

竹内 もし、次にRIKIが『ハッスル』に出るとしたら、俺もそういう部分にも絡んでいかないとな、と。俺も俳優だけじゃないんでね。

——映画、Vシネマのプロデュース業もかなりの実績があるわけですからね。

竹内 そういう能力は、自分でもあるつもりなんで。

——では今後は、キングRIKIの登場だけでなく、竹内さん自身も『ハッスル』に本格参入していくわけですね。

竹内 ただ、それは今後の流れしだいですよ。『ハッスル』サイドがそれを呑めなければ、なかったことになるだけだし。

——いや、それは凄く楽しみです！ キングRIKI登場の真の意味は、そこにあったのかもしれないですね。竹内さんがプロデューサー目線で関わることによって、転機を迎えた『ハッスル』を改革していくという。逆に言えば、いまの『ハッスル』には手を入れなきゃいけない部分がたくさんあるわけですよね。

竹内 俺なんかは、こないだの両国大会を見てて、正直ダルかったんですよ。映画でもそうだけど、ダルかったらお客さん寝ちゃうから。ましてVシネなんか、停止ボタン押されちゃうからね。

——竹内さんが主戦場にしてきたVシネは、家で観るものだけに厳しいですよね。

ちょっと飽きたらリモコン一発で消されちゃうわけで。

竹内 そうなんですよ。そういう環境だと、一瞬の目の演技なんかも見てもらえない可能性があるんで。なるべく画面から目を離させないような展開とか演技とかをやってかなきゃいけない。Vシネは映画よりも難しいというかね。そういうところで、俺はやってきたわけだから。そのへんのノウハウはありますよ。

——「飽きさせない」ということへのハードルも高いわけですよね。具体的に、現状の『ハッスル』にはどんな問題があると思いますか？

竹内 単純に長いと思うんだよね。もっと短時間でいい思う。短時間の中にドキドキ、ワクワクする要素を詰め込んだほう



現在45歳、役者としてもっとも脂が乗った時期である竹内力。新作DVD『影の交渉人 ナニワ人情列伝』でも、その圧倒的な存在感を遺憾なく発揮。人情と正義感に溢れるキャラクターを好演している。

『ハッスル』は単純に長いのが問題 もっと短時間で要素を詰め込むべき

がいいね。で、余計なベラベラ（しゃべり）はいらないと。必要なしゃべりはあってもいいんだけど、いらないものもあるからね。それにどうしたって、プロのしゃべりではないわけだから。

——いままではプロレスラーのしゃべりの部分が新鮮だったんですけど、プロの目から見ると、そのクオリティも問われてくると。

竹内 つまんないしゃべりを聞いてもシラけるだけで。そういう状態になるってことは、お金をいただいてる以上あっちゃならないことでね。どうやってお客さんを増やしていくかってことを考えるのは当然なんだけど、それを戦略的にやっていかないと。俺のノウハウがどこまで『ハッスル』にマッチするかわからないけど、俺はいけると思う。

——Vシネのノウハウが。

竹内 「おもしれぇ！ 次また借りにいこう」っていうのと一緒で、『ハッスル』も「次の大会も見にいこう」ってなってもらわないと……。『ハッスル』自体が大変なことになるわけでしょ。だったら、そう思ってもらえるようなものを作ればいいだけの話だから。

——はい。

竹内 それをやるのは、俺にとっては簡単なことだから。改革していかないと、俺とRIKIが関わる意味もないかな、と。試合もね、もっと見せ方があると思うし。まあ、企業秘密だからいまは言えないんだけど、とにかくダルさをなくす、飽きさせないものにするためのポイントは一個しかない。それを軸にして枝葉、おかずを入れていけばいいんで。

——『ハッスル』は「プロレス界を根こそぎ破壊して、その上に新しいものを創造する」というコンセプトでやってきたんですけど、髙田総統時代が「破壊」でキングRIKI時代が「創造」になるのかもしれないですね。『ハッスル』自体の完成度を高めていくというか。

竹内 いま、お客さんの目が肥えてるからね。映画でもそうなんですよ。ハリウッドの大作がバンバン公開されてる中で、日本映画はハリウッドほどのお金はかけられない。でも映画館の入場料金は一緒。じゃあどこで惹きつけるかといったら、アイデアですよ。それをやらないと、日本映画自体が成立しないわけで。

——『ハッスル』というかプロレスも、お

客さんがお金を払う娯楽という意味では、

気に変えられるといいんだけど、それは難

にするためには、プロレスファン以外のお

あのマッスル坂井が緊急参戦！

『ハッスル』が『マッスル』に乗っ取られるらしい!?



“模倣の天才”マッスル坂井が、なんと『ハッスル』に新人選手として電撃入団！ そのきっかけを「山口日昇代表から『なんで野心を隠すんだ？』と言われ、自分が100パーセントの力を発揮できる環境がこのリングにはあったので」と、しおらしく語るマッスル。おい、ホントかよ!? 一筋縄ではいかないこの男、いったいどんな野心を抱えているのか、それとも単なる愉快犯なのか……。とにかく10.10両国で何かが起こる!?



あとは俺のアイデアを『ハッスル』がどれだけ受け入れられるかどうかが鍵

客さんがお金を払う娯楽という意味では、ハリウッド映画だったり他のエンターテインメントと闘っていかなきゃいけないわけですよね。

竹内　そう。そういう中で、プロレスに楽しみを見出す人を増やさなきゃいけない。そのためには、新しい血が必要というか、そうしないと厳しい。

——次にキングRIKIが登場するときは、『ハッスル』改革のときでもあると。

竹内　あとは、どこまで変えられるか。一気に変えられるといいんだけど、それは難しさもある。これまでの人間関係とかもあるから。ただやっぱり、今後は必要ない部分はカットせざるをえないんだけどね。余計な経費はかけられない。

——そのへんも予算の厳しい中でVシネを製作されてきた竹内さんならではのシビアさですよね。

竹内　そうしていかないと、自分たちの首を絞めることになるから。黒字にならなかったらスポンサーもつかないし。黒字にするためには、プロレスファン以外のお客さんを取りこまなきゃいけないし、経費をカットする必要もある、と。それをやらないで赤字が膨らんでいったら、結局は『ハッスル』自体が消滅しちゃうから。そうなったら困る人が出てくるわけでしょ、いっぱい。

——おっしゃるとおりです！　というか、現時点でも困ってる人がいっぱいいますから（笑）。

竹内　あとは俺のアイデアを、どれだけ『ハッスル』サイドが受け入れるかですよ。

——そうしないと、『ミナミの帝王』の萬田銀次郎が取り立てにくるかもしれない（笑）。

竹内　いや、萬田銀次郎はもう卒業したんでね。今度は俺が企画・原案・主演で『影の交渉人　ナニワ人情列伝』って作品が発売されるんで、こっちをよろしく、と（笑）。

——キャッチコピーに「元犯罪者集団を引き連れて、裏社会の悪に制裁（サバキ）を加える」とありますね。『ハッスル』の問題点にも制裁（サバキ）が加えられるかもしれない、と。個人的にも楽しみにしてます！

【09年8月26日／都内・リキプロジェクトにて収録】

1964年1月4日、大分県出身。86年に映画デビュー。Vシネを中心に活躍し、「Vシネの帝王」と呼ばれる。代表作は『難波金融伝 ミナミの帝王』、『岸和田少年愚連隊 カオルちゃん最強伝説』など。近年は『次郎長三国志』など劇場公開話題作にも出演。また、プロデューサーとして映画・Vシネの制作も手掛けている。

●竹内 力オフィシャルサイト　http://www.rikitakeuchi.com
●RIKIオフィシャルサイト　http://www.rikiweb.com/
●竹内 力 公式モバイルサイト（3キャリア共通）
http://www.m-riki.jp

ハッスル・ツアー2009 ～9.26 in KORAKUEN～

東京・後楽園ホール
9月26日（土）開場18:00 開演19:00

主要対戦カード
RGvs菊地毅
マグナムTOKYO&坂田亘&TAJIRI
vs天龍源一郎&川田利明&安生洋二

チケット料金
ハッスルVIP 8,000円／RRS 6,000円／S 5,000円
A 4,000円／B 3,000円

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント TEL.03-5405-2631

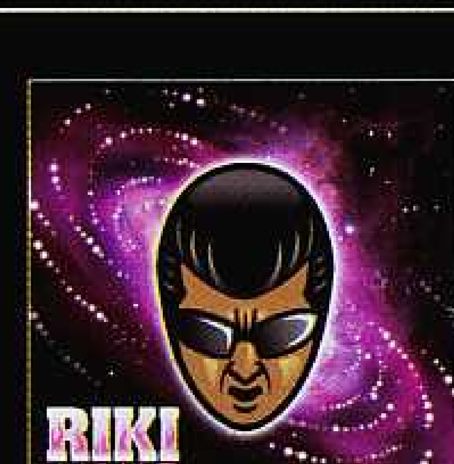
ハッスルジハード

東京・両国国技館
10月10日（土）開場15:30 開演17:00

チケット料金
ハッスルVIP 15,000円／RRS 8,000円／S（マス席）6,000円
A 4,000円／B 3,000円／こどもB 1,500円

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント TEL.03-5405-2631

CD



RIKI初のメジャーアルバム！
あの『紅のバックファイヤー』も収録!!

『全国制覇』
10／7（水）発売
CD＋DVD:3,990円（税込）CD:3,059円（税込）

DVD



『ミナミの帝王』の
竹内力×萩庭貞明
監督コンビが贈る
ファン待望の新作DVD！

『影の交渉人
ナニワ人情列伝』
10／9（金）DVDレンタル開始
10／21（水）DVD発売:4,725円（税込）
主演／竹内力
脚本／友松直之
監督／萩庭貞明
発売元／東映ビデオ

竹内力使用サングラス／『PORSCHE DESIGN』問い合わせ:㈱グラスパートナー TEL06-6770-7300（代）
RIKI使用サングラス／『NeroCorsa Japan』問い合わせ:株式会社GateArrows TEL 0120-765-662



ミッチーは高校時代、寮だったから
先輩の使いパシリで大変だったよね

でも、その代わり後輩が入ってきたら
目の色変えていろいろやらせたから（笑）

——今日は、高校柔道部の同級生対談と
いうことで、かつてのお互いの悪事をいろ

桜井"マッハ"速人

くそったれ青春対談

土浦日本大学高等学校柔道部OB

小見川道大

今年、それぞれDREAMウェルター級GPと戦極フェザー級GPで活躍したマッハと小見川。二人は高校時代、土浦日本大学高等学校柔道部の同級生として、ともに青春をすごした仲なのだ。MMA界きってのトンパチであるマッハと小見川だけに、やはりその高校時代も期待にたがわぬ、ハチャメチャなものだった!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

——今日は、高校柔道部の同級生対談ということで、かつてのお互いの悪事をいろいろ暴いていただきたいと思います（笑）。

マッハ　えっ!? そんな対談なんですか？

——そんな対談です（笑）。

マッハ　そうなんだ。高校の同級生っていうと、あと宮田（和幸）っていうのもいるんですよ。

——そういえば宮田和幸選手も一緒だったんですよね。

マッハ　あいつはレス（リング）部ですけどね。あいつのことだったら何言ってもいいかな。

——ここにいない人間のことは（笑）。

小見川　宮田は高校のとき、よく授業中にパチンコ行ってたよね。

マッハ　宮田なんか学校来ないですよ。俺見たことねえもん、ほとんど。

小見川　寮で風呂ばっか入ってて。授業出ないで親の金でパチンコやってんですもん、どうしょうもないですね。

——いきなり宮田選手の暴露ネタからスタートですか（笑）。

小見川　ま、とりあえず誕生日おめでとうございます。

マッハ　ありがとうございます。

——ちょうど今日はマッハさんの誕生日なんですよね。おいくつになられたんですか？

マッハ　34歳。

——じゃあかなり長い付き合いになるわけですよね。お互い高校時代から変わりました？

小見川　全然変わってないです、そのまんま。

マッハ　そのまんま東ってやつですよ。（たけしのモノマネしながら）「バカやろう!」ってね（笑）。

――最初の出会いは1年生で柔道部に入ったときですか？

小見川　そうですね。

――当時はどんな印象でしたか？

小見川　印象っていうかね、速人のクラスを覗くと、いっつも寝てましたね。

マッハ　寝てるか飯食ってるかしかないですね。だって先生が「寝てくれ」って言うんですもん。起きてるとうるさいからって。部活やってるヤツはみんな寝てましたけどね。よだれ用のタオル持参して、それ敷いて寝てましたから。

――授業中の就寝率がかなり高いクラスだったんですね（笑）。

マッハ　そのクラスでも真面目に勉強してるヤツが一〜二人いたんで。授業中に騒いでると、そういう人たちがかわいそうだからね。

小見川　勉強してるのは一〜二人（笑）。

マッハ　だって俺たちはスポーツクラスだったから。日の出とともに朝練やって、真っ暗になるまで練習してましたからね。身体を休めるのは授業中しかないんですよ。俺たちは昼休みすらないんだから、昼休みも綱のぼりとかやって練習してね。

小見川　そして綱のぼりが終わったら、先輩の使いっ走り。

マッハ　あったなあ（笑）。

小見川　この使いっ走りがけっこう頭使うんですよ。あいつは何が好きだとか、頭に入れとかなきゃいけなくて。しかもいっぱい頼まれるから。

マッハ　「なんでもいいから買ってきて」とか言うくせに、好きなものじゃないと怒られるんですよ。だから、先輩全員の好みを覚えておかなきゃいけない。

小見川　売店も混んでるのに、ちょっとでも遅くなったら「おせえよ！」って怒られるから、力で割り込みしてね（笑）。

マッハ　パンなんか何種類もあるのに、各先輩の一番好きなもん買ってこないとすげえ怒られるし、ひどいヤツだとぶっ飛ばされますからね。頭使うんですよ。だから授業中は寝るんですよ。

――授業中に頭と身体を休める、と（笑）。

マッハ　でも、俺は家から通いだったからまだいいんですよ。逃げ場があるから。でも、ミッチーは寮だったからね。どうだった？

小見川　キツかったねえ。でも、通いは通いで大変でしょう。速人なんか電車の中で大声で歌わされたりして（笑）。

――そんなミッションをやらされましたか（笑）。

マッハ　そう。あと電車に網棚あるじゃないですか、「あそこで寝ろ」とか言われて、網棚で寝ながら学校行きましたよ。

――勝手に寝台車にして（笑）。

小見川　当時は先輩後輩が厳しい時代ですからね。ただ、やられたらやり返すじゃないけど、俺らが2年3年になって下が入ってきたらもう、目の色変わっちゃってね。いろいろやらせたけど（笑）。

――同じように、後輩にいろんな指令を出しましたか。

小見川　ただ、カップラーメンは作らせませんでしたね。何されるかわからないんで。

――何されるかわからない？

小見川　やっぱりね、普段いろいろやられてる後輩は、先輩に対してささやかな反撃に出るんですよ。俺が先輩にやってたのは、カップラーメンにお湯と一緒に唾液とかフケとか、チ○コの付け根の垢とか入れてましたからね（笑）。

マッハ　汚ねえ！

小見川　よくあんなもん食うなって思いましたもん。だから、俺はカップラーメンだけは作らせなかった。

マッハ　カレー味とかだったら、いくら垢とか入れてもわかんないもんな。

――でも、1年生のあいだはそんなつらい日々が続くわけですね。

小見川　ただね、寮生は先輩の付き人みたいなことやらされて、俺もだいぶやられたんですけど、たまたま試合でその先輩と当たったんですよ。決勝戦かなんかで。そんとき「こいつだけには負けんとこう」と思って。

――そんな先輩後輩対決がありましたか。

小見川　で、俺が勝ったんですよ。そしたら、勝ったその日からやられなくなりましたね。

――へえ、やっぱりそこは実力の世界なんですね。

小見川　だから後輩に言いましたもん、「やられたくなかったら俺に勝て」って。やっぱり後輩に負けたら、もうカッコ悪くて、いろいろ言えませんからね。

――なるほど。じゃあ、強くなることが、そういうことから逃れる一つの手段でもあった、と。

小見川　強くなるしかないんですよ。

――じゃあ、お二人なんかは3年生ぐらいになると、強いわ学年は一番上だわで、かなりやりたい放題だったんじゃないですか？

マッハ　べつにやりたい放題じゃないけど（笑）。ただね、俺ら3年のときだっけ？　一人逃げちゃったんですよ。それが大問題になっちゃってね。謝りに行ってさ。

小見川　親呼び出されちゃってね。

マッハ　そう考えると、けっこうやりたい放題やってたんでしょうね（笑）。

――小見川選手は大学でもかなり怖い先

授業中はよだれ用のタオルを持参していっつも寝てましたね



速人は先輩に言われて通学電車の中で大声で歌わされてた（笑）

輩だったって話がありますけど。

小見川　大学入って1年からけっこうイケイケでした。

――1年からイケイケですか！　中村カズ選手が「この大学には入りたくない」と思ったぐらいだったらしいですよね（笑）。

マッハ　そうなの？

小見川　やっぱり毎年試験受けに後輩が来るわけじゃないですか。そのとき受験生が寮の先輩の部屋とかに泊まるんですよ。で、俺は当時、寮を取り仕切ってたから「見たことねえヤツがいるな」と思って、エアガンでスパンスパン撃ってたら、それがカズだったんですよ。

マッハ　ハッハッハ、それがカズなんだ（笑）。

小見川　入試で来てるのに、あいつ俺に撃たれてるんですよ。

――どんな洗礼だっていう（笑）。それにしても、さっきサラッと言ってましたけど、小見川選手は大学の寮を仕切ってたんですか？

小見川　まあ、俺は1年からレギュラーだったし、上を攻略する方法を編み出してたから。それで最後は体育系みんないる寮を全部仕切って。大学1年のとき、ラグビー部の4年とかぶっ飛ばしてたからね。

――えーっ！　ガタイとか全然違うんじゃないですか？

小見川　違うんですけど、いろいろやってぶっ飛ばしちゃいました（笑）。

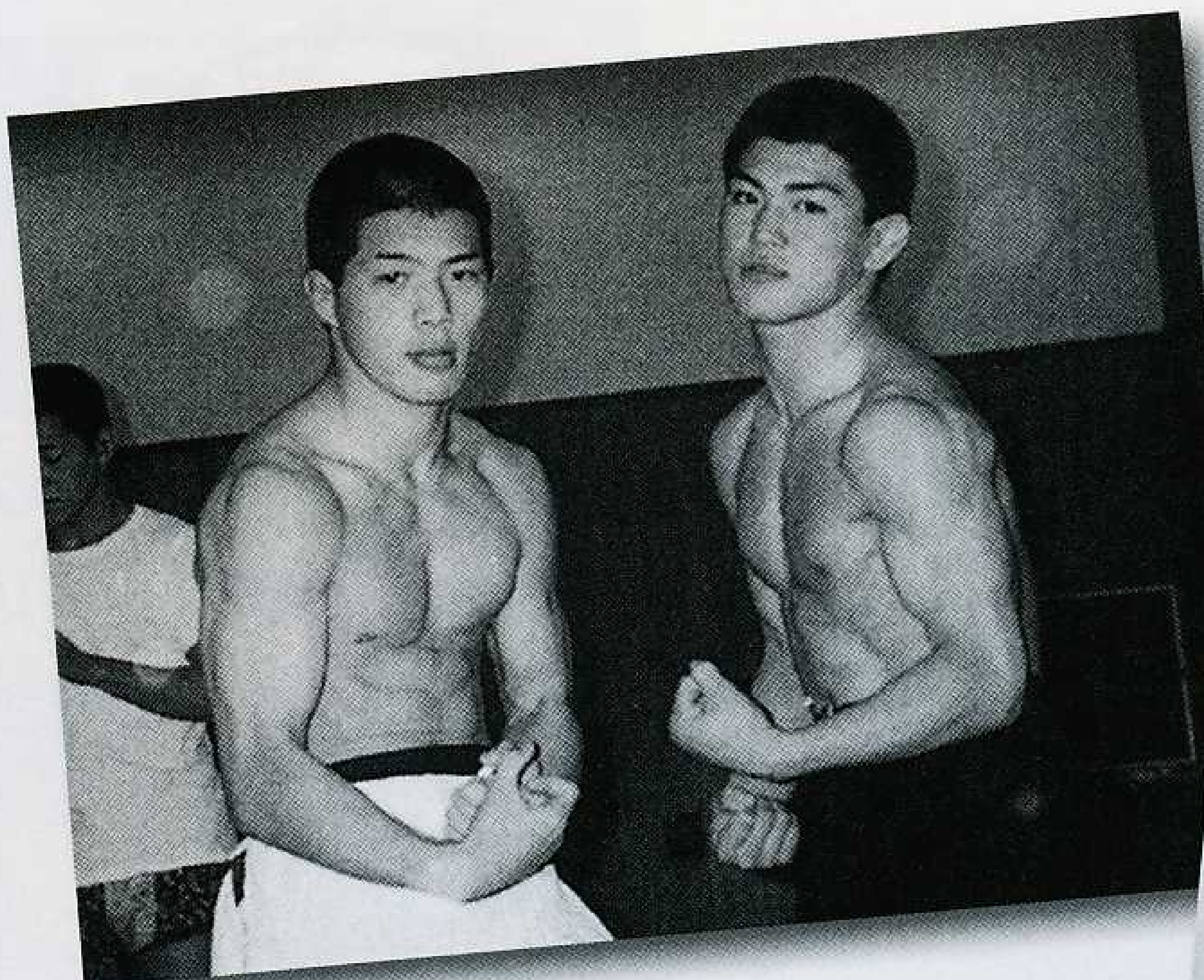
――はー、1年からもうその名を轟かせてたんですね。高校を出てからは、お互いに連絡をとることはあんまりなかったんですか？

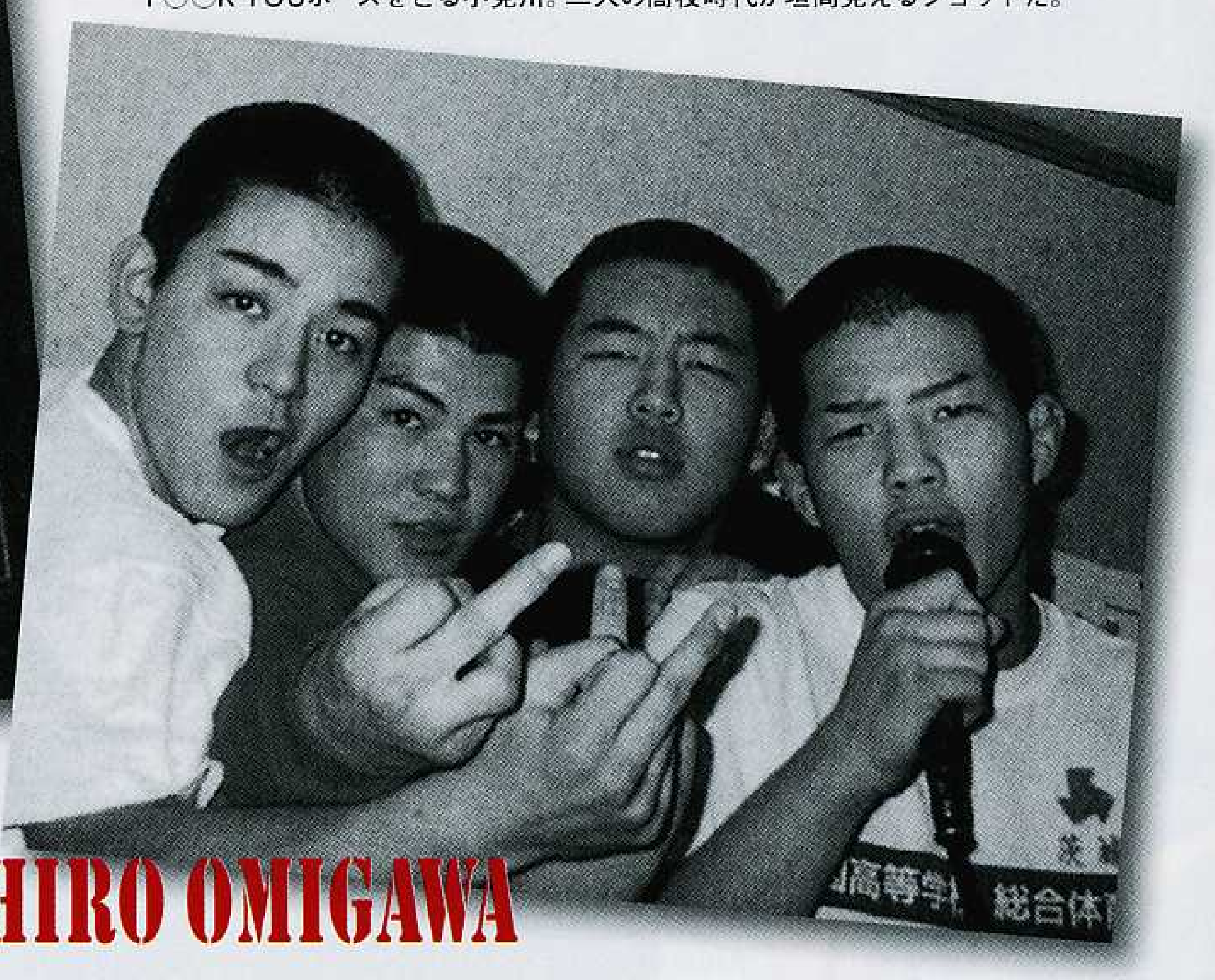
マッハ　ないですね。

小見川　ないけど偶然再会したんだよね。

マッハ　ああ、再会したね。

小見川　東京で。それはちょっと言えないんですけど。





土浦日大高校柔道部時代のマッハと小見川。高校生とは思えないほどの、鍛え抜かれた肉体に注目！　もう一枚は、カラオケで歌うマッハと、カメラに向かいF○○K YOUポーズをとる小見川。二人の高校時代が垣間見えるショットだ。

HAYATO"MACH"SAKURAI×MICHIHIRO OMIGAWA

マッハ　言えない（笑）。

――なんで言えないんですか？

小見川　いやいや、ちょっとお店の中で会ったんだけど。ちょうど今日と同じ巣鴨だったよね。

マッハ　そうだね。

小見川　俺は全日本の合宿で講道館で練習してたんですけど、夜になるとけっこうフリーなんですよ。そうすると、地方から来てる人間はウキウキするわけじゃないですか。東京の夜だから。それで、あるお店に行ったら速人がいたんですよ（笑）。

マッハ　昔、シュートボクシングのジムが巣鴨にあって、俺はそこで練習してたんですよ。

――その帰りに（笑）。

マッハ　店ん中でバッタリ会っちゃって、「下のゲーセンで待ってるよ」って言ったんだよね。

小見川　そうそう。「終わったらゲーセンで」って（笑）。

――「終わったら」ってなんですか（笑）。

小見川　ハハハハハ！　まあまあ（笑）。

マッハ　あのとき20歳ぐらい？

小見川　うん。

――その後、本格的に交流が再開したのは、小見川選手がプロに転向してからですか？

小見川　そうですね。

――マッハさんは小見川選手がプロになるって聞いてどうでした？

マッハ　もうその頃は吉田（秀彦）さんもやってたんで、そういう流れができたのかなって思いましたね。

――小見川選手のデビュー戦のとき、マッハさんも同じリングで試合してるんですよね。

マッハ　やってますね。俺はミルトン（・ヴィエイラ）とやったのかな。でも、デビュー戦でアーロン・ライリーはないよな。川尻の相手（キム・インソク）と逆にしないと。やっぱり順序っていうものがあるでしょ。

――しかも、デビュー第2戦が今度はJZカルバンなんですよね（笑）。

小見川　そうなんですよ。総合の練習始めて4週間でPRIDEのリングに上がって、デビュー2戦目はカルバン（笑）。あのときは「シャオリンとカバウカンチ、どっちがいい？」って聞かれて、シャオリンは聞いたことあるな、と思ってやめといたんですけど。

――そしたら、もう一方のカバウカンチはのちのJZカルバンだった、と（笑）。デビュー当時からそういった強豪と闘ってきた経験が、ようやく今回のフェザー級GPで花開いた感じですか？

小見川　まだ納得いってないですけどね。少し感覚はつかめてきましたね。

――マッハさんは小見川選手の戦極フェザー級GPの試合を観て、いかがでしたか？

マッハ　昔はけっこう打撃中心だったと思うんですけど、最近はいろいろ、打撃から組んでテイクダウンして、そこから打撃みたいな、そういうパターンができてるから。それが確立してきましたよね。凄くいいんじゃないですかね。自分のスタイルを持ってると思ってるんで。

――勝つかたちができたというか。

マッハ　そうですね。

――ここにきて、自分のスタイルができあがってきた、と。

小見川　ネコ柔道ですよ（笑）。

マッハ　何？　ネコ柔道って？

小見川　『kamipro』につけてもら

ったんだけど(笑)。ニャンコ百裂拳とかね。
マッハ　ミッチーはネコ柔道か。やっぱりネコは繁殖力が凄いからね。
――ネコ柔道って、そういう意味だったんですか(笑)。
小見川　違う違う(笑)。
――小見川選手はマッハさんの今回のウエルター級グランプリの試合はご覧になりました？
小見川　観ました。青木選手との試合は鳥肌立ちました。
マッハ　あれは負けられないですよね。10歳も下の選手にあんだけ言われてね。
――やっぱり上下関係が厳しい体育会系出身としては、先輩後輩はちゃんとしなきゃいけない。
マッハ　それはありますね。ザロムスキーも俺の悪口言って怒らせてくれればよかったんだけどな。
――ガハハハハ！　燃えるように。
マッハ　でも、ザロムスキーとも次やったら絶対に勝ちます。
――小見川選手の次というと、やっぱり本来決勝でやるはずだった相手(日沖発)とちゃんと決着をつけたいという感じですか？
小見川　決着をつけたいというか、あのときちゃんと出ろよ！っていうね。
マッハ　あれなんで決勝出なかったの？
――ドクターストップですね。
マッハ　どこケガしたんですか？
――ケガじゃないんですよね。「身体に力が入らない状態」という。
小見川　ドクターストップという自己申告のもとに「僕はできません」ということですよ。フルラウンド闘ったあとなんて、誰だって力は入らないよ。俺もそうですよ。でも、次があるから「いけます」って



言うわけでしょ？「トーナメントって前

小見川　じゃあ、最後にマッハ伝説を少し

て、速人が運転してたんですよ。もういい

よ。でも、次があるから「いけます」って

言うわけでしょ？　「トーナメントって前から知ってたんでしょ？　身体作ってきたんじゃないの？」と。

マッハ　俺も今回はケガもしたし、ズタボロですよ。

――うわっ、スネがパックリ開いて腫れちゃってますね。これはいつのケガですか？

マッハ　ザロムスキー戦のときですよ。

――ローキックをスネでカットしたときですか？

マッハ　そう。

小見川　すげえローキックだなあ。

マッハ　試合中にパックリ開いちゃったんだけど、それでもかまわず試合してたから、バイ菌がちょっと入っちゃって。もう悪戦苦闘ですよ。

小見川　もしそれで勝ってたとしたら決勝やる？

マッハ　やるよ。あたりまえじゃん！

小見川　ほら！　あたりまえだよね。

マッハ　トーナメントの決勝なんだから。どんなにボロボロでも「いかせろ！」ってやりますよ。実際、PRIDEのライト級GPでは、そうやって一日2試合やってますからね。

小見川　プロの格闘家なんだから、やっぱりちゃんと闘わないと。

――お二人は一緒に練習もされてるんですか？

マッハ　最近はあんまりなんですけどね。

小見川　でも、またやりたいね。俺も速人の道場行って。

マッハ　俺が吉田道場行ったりね。まあ、頑張っていきますよ。

――では、そろそろお二人のさらなるご活躍を期待して、お開きにしようとか思うんですが……。

みんなマッハ伝説とか言うけど、そういうことってよくあるよね？



おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道の国際大会で輝かしい実績をひっさげ、05年にPRIDE武士道で総合格闘家デビュー。その後、ケージレージ、DEEP、UFCなど世界で闘い、『戦極』には旗揚げ戦より参戦。今年、戦極フェザー級GPでは優勝候補を次々と下し準優勝に輝いた。168cm、65kg。

さくらい・まっは・はやと■1975年8月24日、茨城県出身。96年に修斗でプロデビュー。97年には修斗世界ミドル級王座を奪取。03年大晦日よりPRIDEに参戦し、05年のPRIDEライト級GPでは準優勝。今年、DREAMウェルター級GPに出場したが、準決勝でM・ザロムスキーに敗れ3位に終わった。171cm、77kg。

速人はカーナビ使って家の近所で迷子になってるんですよ（笑）

小見川　じゃあ、最後にマッハ伝説を少し語っておきますか。

マッハ　もういいよ！　こないだ『格闘王子』だっけ？　あれでもさんざんやられたんだから。何個あんだよこれって。ビックリだよ！　青木アナに聞いちゃったよ、「何これ！」って。

小見川　いくらでもあるからね。前に速人とゲーセンで遊んでたとき、けっこう疲れてきて、「休もうよ、いい休み場所知ってるんだよ」って言うからついていったんですよ。そしたら東急ハンズのソファ売り場だったりね。

――そこが行きつけの休憩所ですか（笑）。

小見川　「ここいいでしょ？」って、ソファでホントにグーグー眠ってるんだもん。もうみんな集まっちゃって、動物園みたいになって。俺は先に帰ったけどね。

マッハ　やっぱり売り物なんで、置いてあるヤツは、いいソファとか、いいベッドばっかりなんですよ。だから練習の合間とかに行って「これいいですねえ」「うわ、寝ちゃうなあ」とか言ってホントに寝ちゃう。

――寝ちゃう（笑）。起こされないんですか？

マッハ　起こされないですよ。今度やってみてください。

――いや、遠慮しときます。

小見川　あとは速人が向ヶ丘遊園に住んでたときがあったんですよ。新木場で柔道の練習して帰るとき、俺は疲れて寝てて、速人が運転してたんですよ。もういい時間だなと思ってパッと起きたら2時間ぐらい経ってるんですよ。新木場から向ヶ丘遊園って、どう考えても2時間はかからないじゃないですか。「どうしたの？」って聞いたら「いや、家の近所なんだけど、家どこにあるかわかんねえんだよ」って。

――ガハハハハ！　近所で迷ってますか。

小見川　しかも、カーナビ使ってるんですよ。ナビは「目的地周辺です」とか言ってるのに、自分ちがわからないんですよ。

マッハ　方向オンチだから。

小見川　そういう問題じゃない。ナビがこれ以上案内できないぐらい近くまで来てるのにわからないんだから。

マッハ　そういうときないですか？

――ないですね（笑）。

マッハ　だいたい同じ道しか通らないんで、方向が違ったり、一本違う道だったりすると「こんなの見たことねえ」ってなっちゃうんですよ。

小見川　でも、自分ちの目の前で迷子ですからね。それで「速人、ここどれぐらい住んでんの？」。「半年ぐらいかな」。「半年もかよ！」って（笑）。

マッハ　そういうときあるでしょ？

小見川　ないないない！

マッハ　でも、いまの道場に行くのには、もう迷わないから。

――そりゃそうですよ（笑）。

小見川　ほかにもいろいろマッハ伝説はありますよ。

マッハ　もういいよ！

――では、いくらページがあっても足りなさそうなんで、今日のところはこのへんで。これからも、いろんな伝説を作ってくれることを期待してます！（笑）。

【09年8月24日／都内・マッハ道場にて収録】

西垣　あっ！　すごーい！（机に置いて

ん、ご存知ですか？

西垣　って思うじゃないですかぁ。でも、

ろい試合は意識してますね。



戦極フェザー級王者

金原正徳は戦極ガールにモテるらしい!?

証言者 戦極グリーン・西垣梓

戦極初代フェザー級チャンピオンである金原正徳に浮いたウワサ!?
なんと、戦極ガールのあいだで金ちゃんが大人気だというのだ。ということで、
戦極ガールであり本誌の名物インタビュアーである戦極グリーンこと西垣梓に登場してもらった。
はたしてその真相とは!?

聞き手／松下ミワ　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

西垣　あっ！　すごーい！（机に置いてあるベルトを見て）今日はベルト持参してるんですねぇ。ウフフフ。

金原　じ、持参!?　持参っていうか、一応、持ってこいって言われたんで……。

西垣　そうなんですかぁ？

金原　そんな、言われてないのに持ってこないでしょ！　なくしても困るし。

西垣　けっこう高いんですかね、ベルト。

金原　いや、お金の問題じゃなくて！（笑）。

西垣　原価はどのくらいなんですかぁ？

金原　原価はわからないですけど、価値は俺がこれから上げていきますよ！（胸を張って）。

西垣　……ふーん、そうですよね（そっけなく）。

金原　そ、そうです。スミマセン（苦笑）。

――えー、冒頭から興味深いお話が続いてますが、戦極グリーンの西垣さんには、いまをときめく戦極フェザー級王者・金原選手にどんどん質問をぶつけていただければと思います！

西垣　はい！　あらためまして、戦極グリーンの西垣梓です！

金原　金原正徳です！

西垣　知ってますよぉ。ウフフ。でも私、「おめでとー」が言いたかったんですよ。

金原　あ、ありがとうございます（笑）。

西垣　凄いなあと思って。リングで優勝したじゃないですか。でも、近くで見ると凄い筋肉ですよねぇ。

金原　遠くで見たら華奢に見えます？

西垣　（聞かずに）あのぉ、金原選手って、戦極ガールの中でも凄い人気なのって知ってます？

金原　急に話変わりましたけど（笑）。いや、知らないです。そうなんですか？

西垣　あのぉ、戦極ブルーの、菜々緒ちゃん、ご存知ですか？

金原　あ、はい。存じております。テレビでご一緒したこともありますし。

西垣　とくに菜々緒ちゃんは金原選手のことを応援しているんですよ！

金原　あらっ……、いまドキッとしちゃいました（照れながら）。

西垣　アハハハハ！　でぇ、菜々緒ちゃんは金原選手のことを取材したって言ってたんで、なんか二人は進展とかあったのかなあっと思って。

金原　し、進展!?　進展は……何もないですねえ。

西垣　え〜？　じゃあ、菜々緒ちゃんのことでなんか聞きたいことってあります？

金原　いきなりですね（笑）。ええっと、いや、とくには大丈夫です。はい。

西垣　ウフフフ。あるくせにぃ。

――ちなみに、西垣さんから見て菜々緒さんはどんな女性なんですか？

西垣　えっと、すっごいいい子なんですよ！　菜々緒ちゃんは。

金原　「菜々緒ちゃんは」って（笑）。まるで、ほかは腹黒集団みたいな言い方ですけど。

©WVR



戦極ガールに大人気だという金ちゃんだが、最も金ちゃんに入れ込んでいるのが戦極ブルーの菜々緒さん。試合後には金ちゃんと一緒に撮った写真はブログにアップ済みだ。

西垣　って思うじゃないですかぁ。でも、みんないい子なんですよ。菜々緒ちゃんはスタイルもいいし。でも、勝って優勝してどんな気持ちだったんですか？

金原　優勝ですか？　「ああ、優勝したなあ」って。

西垣　もうそれだけ？　でも、凄いなあと思って。けっこう粘り強く頑張ってたじゃないですか。

金原　一応、みんな強い人なんで、頑張らないと勝てないんですよ（笑）。

西垣　その、誰にも負けないポイントみたいなのってありますか？

金原　残念ながら一回負けちゃったんですけどね……（苦笑）。

西垣　まあ、そうですけどぉ、でも凄い強い人だなあと思ったんですよ、私。で、けっこう打たれ強いっていうか、だから精神的に強いのかなって思ったんですよ。

金原　どうなんですかね。まあ、自分の場合は後手後手に回っちゃうと相手のリズムでずっと進んじゃうんで、先に出るようにしてるんですよね。自分から仕掛ければ、勝ってても負けてても、自分のリズムで格闘技ができるので。まあ簡単に言ったらケンカみたいなもんですよね。先に殴ったもん勝ち！　みたいな。

西垣　あ、そうなんだぁ！　それがコツなんですね！

金原　コツというか、それが自分の持ち味ですよね。やられてても前に出ればおもしろい試合になるし、それが勝利につながったんじゃないかと思ってます。

西垣　じゃあ、けっこうおもしろい試合をしようと思って闘ってるんですか？

金原　思ってっていうよりも、動きのある試合ができれば自分のいいところが絶対に出ると思うんで、そういう意味ではおもしろい試合は意識してますね。

西垣　なるほどぉ。あの私、リングサイドで観てたんですけど、小見川さんの顔とかすっごい腫れてたから怖かったんですけど、でもどんどん殴っててこの人強いんだなと思いました。で、なんか弱点ってあります？

金原　唐突すぎるでしょ！（笑）。それは格闘技の弱点ですか？　格闘技以外のも

名インタビュアー

戦極グリーン・西垣梓とは？

戦極グリーンをご存知だろうか。本誌でも名（迷？）インタビュアーとして廣田瑞人、郷野聡寛に直撃してもらった戦極グリーンだが、その唐突な質問と、破天荒な受け答えぶりは本誌読者のあいだでも賛否両論を生んでいる。今回はそんな戦極グリーンに、正統派ファイターの金ちゃんに直撃してもらった。今回も本領発揮だ！



「kamipro Special 2009 JULY」掲載



「kamipro」No.136掲載

のも含めて？
西垣　なんでも。なんか、弱いところってあります？
金原　女の子に弱いとか、そういうのでいいんですかね？
西垣　ホントですかぁ⁉　どんな女性がタイプなんですか？
金原　いや、みんな好きですよ。話して気が合えばいいんじゃないですかね。
西垣　フィーリング派なんですねぇ。じゃあ、菜々緒ちゃんはどうでした？



金原　な、菜々緒ちゃんは……まだフィーリングまでいってないです。
西垣　ふーん、でも凄かったですよぉ。この前の大会のとき菜々緒ちゃん横にいたんですけど、もうなんか祈るみたいな感じで「はー、頑張ってー！」とか言って、半泣きでした。
金原　ホントですか⁉　それは嬉しいっすねぇ。
西垣　あのとき、もうみんなガールは泣いてたんですよ‼
金原　「あのとき」って、いつのときですか？（笑）。もうちょっと具体的に……。
西垣　いや、金原選手と小見川選手の決勝戦ですよぉ。そのときに泣いてました。
金原　ホントですか？　僕も泣いちゃいましたよ。
西垣　え、泣いてましたっけぇ？
金原　先輩が泣いてるのを見て泣いちゃいました。もらい泣きしちゃいました。
西垣　アハハハ！　もらい泣きぃ。
金原　いや、おかしくないでしょう！
西垣　でも金原選手はまだ若いですよね？　結婚願望とかあるんですか？
金原　ええっと、凄いありますね。子どもがほしいんですよ、俺。
西垣　へえ〜。じゃあ、いつでも大丈夫？
金原　い、いつでもじゃないですけど……。まあ、来年あたり結婚したいです。
西垣　できると思います（そっけなく）。
金原　……凄い適当ですね（笑）。ちなみに西垣さんはどうなんですか？　彼氏とかはいないんですか？
西垣　彼氏ぃ？　いないですねぇ。
——ほかの戦極ガールの方々はどうなんでしょう？
西垣　あんまり彼氏の話とかしないんですよねえ。いや、でもみんな意外といないですよ。
金原　へえ〜……。みんなモデルの人たちってきれいだから近寄りがたいんですよ、きっと。
西垣　（無視して）なんかグッとくる女性のしぐさとか教えてもらっていいですかぁ？
金原　俺、いま一応フォローしたんですけど……（笑）。しぐさですか？　しぐさ……。べつにないですよ。普通が一番かわいいですよ。
西垣　普通にしてればモテますかぁ？
金原　でも、モテるでしょ？
西垣　いや、モテないんですよ。ナンパとかされたことないしぃ。金原選手はナンパとかしないんですか？　なんか超成功しそう。
金原　昔はしてましたけどね。10代とか。
西垣　10代って勢いありますもんね！　そのときはもう格闘技は始めてたんですかぁ？

格闘技を始めたのは最初は遊び たまたま近所に道場があったからです

金原　ちょうど始めたぐらいですね。今年で10年ぐらいなんで。
西垣　そうなんだぁ。なんで格闘技をやろうと思ったんですか？
金原　たまたま家の近所に道場があったんで、最初は遊びでやってたんですよ。でも、いつの間にかハマってましたね。
西垣　すごーい！　なんでハマっちゃったんですか？
金原　一回、DEEPで杉内（勇）さんっていう選手に負けちゃったんですよ。だから、一回だけでいいから勝ちたいと思って真剣になっちゃったんですよね。だからべつに格闘技が好きだから始めたってわけじゃないんですよ。PRIDE初期だったんですけど、ヒクソン・グレイシーとかも知らなかったし。
西垣　じゃあ、才能ですね。どんなトレーニングをやったりするんですか？
金原　打撃やったり、パンチやったり、キックやったり、極めたり。
西垣　……埋めたり？（小声で）。
金原　いや、極めたりです（笑）。首を絞めたりとか……。寝技とかいろいろやってます。
西垣　寝技も得意なんですか？
金原　あのー……一応寝技のほうが得意なんですよ、俺。
西垣　アハハハ！　寝技重視なんだぁ。でも、パンチも凄いじゃないですかぁ。
金原　パンチは適当ですよ。いや、適当じゃないけど、寝技のほうが得意ですね。打撃は怖いですし。
西垣　え、やっぱり怖いんですか？
金原　そりゃ、怖いですよ。だって、あんなに人がいる前で、たとえばですけどKO負けとかしちゃったらイヤじゃないですか。下手したら死ぬかもしれないじゃないですか。
西垣　でも、人前に出るのも怖いのにぃ、そこで勝ってるから強いですよね。
金原　人前に出るの怖いですか？
西垣　私、緊張するんですよぉ。
金原　でも一回目だけでしょ？
西垣　ま、そうですね（アッサリ）。そのあとはもう、自分の家みたいな。ウフフフ。なんか、試合中にア然としちゃって「早く行ってよ、梓ちゃん！」って言われて、それでもア然としながらリングに上がったりしました。
金原　それはダメですよ！　だって、僕らインターバル中にラウンドガールを見ながら回復してますからね。だから俺、ニコニコしてるんですよ。「いいスタイルしてるなあ」って。
西垣　え、そんな余裕があるんですかぁ？　でも、ずっと笑ってましたよね。なんか「余裕〜」みたいな。だから逆に怖かったです。
金原　スミマセン（笑）。
西垣　でも、金原選手はどんなところで育ったんですかぁ？

金原　もう、ド田舎町ですよ。でも、じつは明日引っ越すんですよね。
金原　寒いから？
西垣　寒いから。
か？
金原　へえ〜。誰としゃべりました？
西垣　誰だろう。なんか歩いてたらぁ……。
——菜々緒さんは金原選手のことをどんなふうに話してるんですか？

金原 もう、ド田舎町ですよ。でも、じつは明日引っ越すんですよね。
西垣 あ、そういえば八王子に引っ越すって書いてましたよね？ 昨日ブログ見させていただいて、そういうサブジェクトがありました。それって優勝したからなんですか？
金原 ま、それもあるんですけど、知り合いが家を貸してくれたんですよ。もうちょっといい環境で練習ができるようにって。そこに住むと移動時間が短縮できるんで、そのぶん練習できればいいなって。
西垣 このあいだの賞金は何に使うんですかぁ？ それも引っ越しですか？
金原 いや、あのー、じつは来月下旬からアメリカ行こうと思ってるんで、それの資金ですね。
西垣 へえ～。アメリカいいですねぇ！
金原 まあ1ヵ月ぐらい行けたらいいなって。クリスマスとかお正月だと日本はけっこうな期間ワイワイしてるじゃないですか。その環境だと練習するのは耐えられないんで、外国に行って現実逃避をしようかなって。
西垣 アメリカのどこ行くんですか？
金原 たぶん西海岸です。行ったことあります？
西垣 はい。私、アメリカの大学に行ってたんですよぉ。
金原 ……え!? 凄いですね！ どこですか!?
西垣 ウィスコンシン州っていう凄い田舎で寒いところだったんで、マイナス何十度になって寒いんで、そのあとバージニアに移ったんですう。
金原 寒いから？
西垣 寒いから。
金原 じ、自由ですね（笑）。
西垣 バージニアはビーチがあるから暖かくてよかったですよぉ。
金原 じゃあ英語はペラッペラなんですよね？ だったらアメリカ行くとき通訳で来てくださいよ。
西垣 あっ！ 行っていいんですか？
金原 か、軽い！（笑）。
西垣 アハハハハ！ 私、ホントすぐ行っちゃうんですよぉ。明日韓国に行こうと思ったらすぐ行っちゃうし。
金原 軽い女なんですね。
西垣 ウフフフ。メキシコも住んでて、スペイン語やってたし。
金原 何カ国語しゃべれるんですか？
西垣 英語だけです。
金原 ス、スペイン語は？（笑）。
西垣 もう忘れちゃいましたぁ。でも、なんか外国の選手とかいるじゃないですか。最後にリング上で写真撮るときとか「前に行って！」とか言うときに使えるなと思いました。



このあいだの賞金は何に使うんですか？ それも引っ越しですか？

金原 へえ～。誰としゃべりました？
西垣 誰だろう。なんか歩いてたらぁ……。
金原 ひょっとして名前知らないんですか？（笑）。
西垣 し、名前知ってますよぉ。なんかぁ……。
金原 キング・モーですか？
西垣 キング・モー選手は知ってますよぉ！
金原 じゃ、誰知ってます？
西垣 いや、ほとんど知ってますけどぉ……、前回負けちゃった人かなぁ～。
金原 誰ですか？
西垣 （無視して）で、なんか、「へーイ」とか言ってて、英語で「かわいいなあ～」とか言ってクスクス笑ってるんですよ。で、自分が食べたフライドポテトを半分こっちに向けて「あげるよ」って言われてて、「いや、けっこうです」って言いました。
金原 冷たいですねえ。
西垣 ええ。だって食べたヤツですよぉ。じゃあ、食べてくれますかぁ？
金原 ぜんぜん食べますよ。そのまま食べちゃいますよ。
西垣 じゃあ、菜々緒ちゃんに言っておきますよ。
金原 そこはうまく切り返すんですね（笑）。
西垣 でも、すっごいカッコいいって言ってますよ、菜々緒ちゃん。
金原 ホントですか？ 僕はぜんぜんそういう風を感じないですよ、風を。
西垣 なんですか？ 風って。
金原 ……いや、なんでもないです。

――菜々緒さんは金原選手のことをどんなふうに話してるんですか？
西垣 うーん、でも憧れですからね、きっと。やっぱり選手がメインですからね。私たちってその横でぇみたいな感じだから、選手がいたら「あ、いた！」みたいな感じになるんですよ。
金原 ホントに交流ってないですよね。試合会場でしか会わないし、会場でも会うのってリング上ぐらいじゃないですか？ ラウンドガールも忙しそうにしてるし。
西垣 えぇ～、選手のほうが忙しそうじゃないですか。
金原 選手なんてヒマですよ。逆に話し相手がほしいですよね。リラックスしたいから、仲がいい友だちとかにはわざわざこっちから話しかけるような感じですし。
西垣 えー、話してたほうがいいんですか？
金原 だって2時間前から「勝つぞ～」ってやってたら疲れちゃいますよ。
西垣 アハハハハ！ そうですよねぇ。
金原 俺はそういうのをやるのはホントに入場の前ぐらいで。
西垣 あ、そういえばブログ見てて金原選手が「ぜすと」に入ってるっていうのを見



寝技を中心に練習している金ちゃんだが、写真のようなクリーンヒットを見せたせいか、西垣さんは猛打の選手だと思ったらしい。確かにこのハイは凄い！

「ぜすと」って聞いたことある食べ物屋さんですっけ？

ZSTは言うなれば僕の〝故郷〟みたいな感じですよ！

たんですけど、あれってなんですかぁ？

金原　（同席した上原ZST広報に向かって）上原さーん！（笑）。

西垣　ウフフフフ。

金原　ええっとぉ……、ZSTというのはですねぇ、言うなれば俺の生まれ育った〝故郷〟みたいな感じですよ。

西垣　ふるさとぉ？　「ぜすと」が故郷なんですかぁ？

金原　そう。ZSTという生まれ故郷から『戦極』という都会に出てきて闘ってるみたいな。

西垣　ええ〜。でも、東京出身ですよね？

金原　俺は東京出身なんですけど（笑）、ZSTというまあ格闘技団大会の一つで……。

西垣　じゃあ、「ぜすと」がベース？

金原　そうそう。ほかにも修斗とかパンクラスとか、いろいろ格闘技団体はあるんですけど。

西垣　あ、修斗観に行きました！　あ、じゃあ団体が何個もあるんですねぇ。

金原　じゃあ今度ZSTも観に来てくださいよ。

西垣　えー、行きますぅ。でも「ぜすと」ってなんかありますよね？　食べ物屋さんだっけ？　私、偶然かわからないですけど、「ぜすと」で格闘技やってるのを観たことがありますよ。ニコラス・ペタスさんとかいたし。

西垣のマネージャー　あれは食べ物屋さんです（キッパリ）。

西垣　アハハハハ！　つながってるのかなって思いました。

金原　……な、なんか、西垣さんっておもしろい方ですねぇ！

西垣　いやいや、おもしろくないですぅ。（カンペを見ながら）ああ、ちょっとこれ。格闘家としてのライバルを聞きたいなって。

金原　格闘家としてのライバルは所英男さんです。

西垣　ふーん……。

金原　知ってます？　所さん。

西垣　……。

金原　知らないんですか！（笑）。スーパースターですよ、日本の格闘技界の。けっこう有名ですよ。って、ぜんぜん俺より有名ですよ！

西垣　ホントですかぁ。

金原　え、どこまで知ってるんですか？　山本KIDさんは知ってますか？

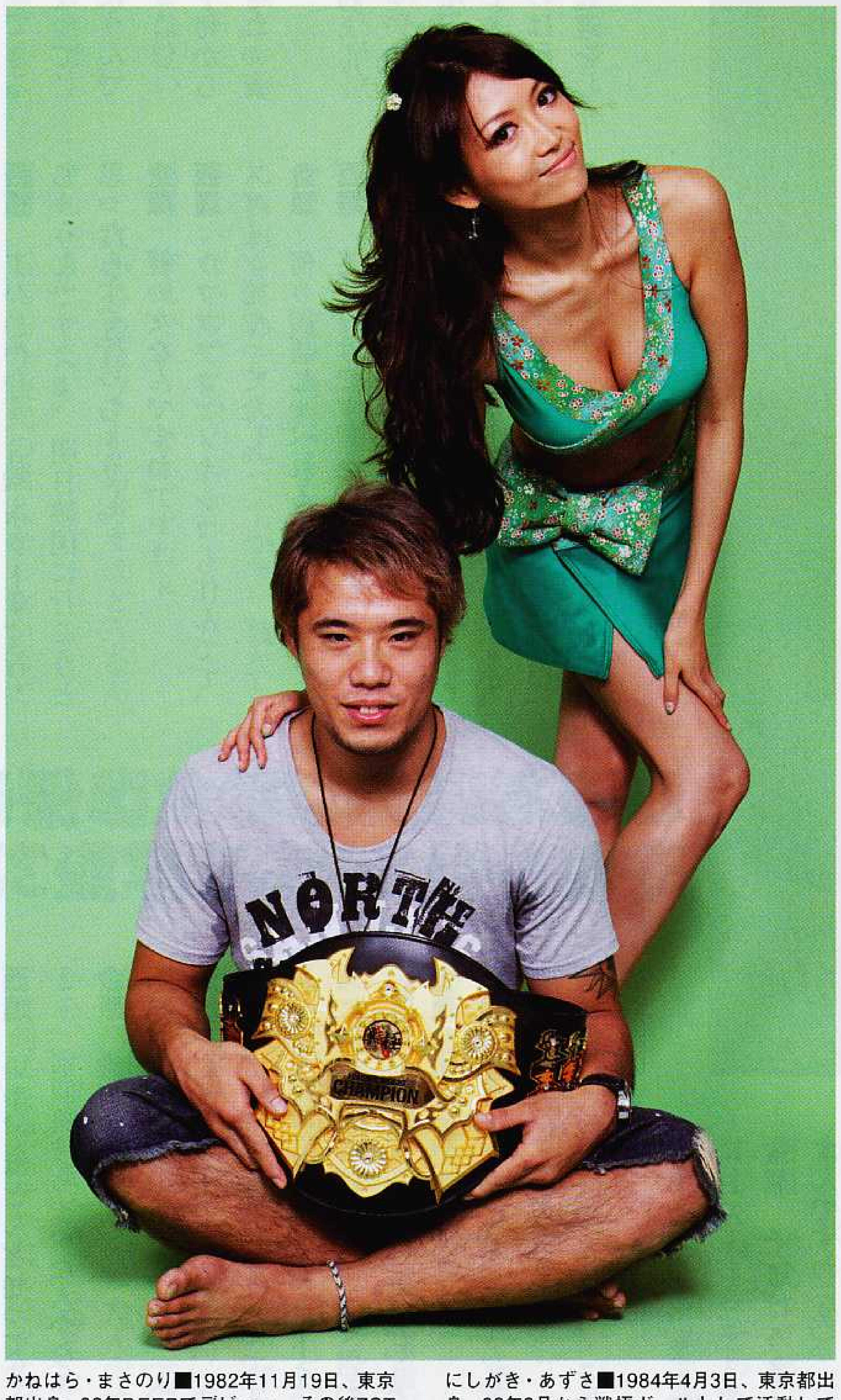
西垣　知ってますよお!!（怒）。

金原　怒られちゃった。

――（写真を見せて）ちなみに、所英男さんはこの方です。

西垣　ああ〜！　この方、私「ぜすと」のホームページで見ましたぁ。

金原　じゃあ、知ってるじゃないですか！（笑）。



かねはら・まさのり■1982年11月19日、東京都出身。03年DEEPでデビュー、その後ZSTを主戦場に実績を積む。『戦極』フェザー級GPでは、準決勝で日沖発に敗れるも、日沖のドクターストップにより決勝へ。小見川戦に勝利しベルトを勝ち取った。173cm、65.0kg。

にしがき・あずさ■1984年4月3日、東京都出身。09年3月から戦極ガールとして活動している。08年にはミスユニバースのファイナリストとして、モデルやテレビ東京の『やりすぎコージー』のやりすぎガールなど、幅広く活躍中。

西垣　有名ですよね（サラッと）。じゃあ、最後にぃ『戦極』での目標を聞いてもいいですか？

金原　もう最後なんですね（笑）。

西垣　はい。スイマセン。

金原　目標ですよね？　ええっと、この前は運よく優勝しましたけど、やっぱり一回負けてるし、チャンピオンという実感は自分でもないんですよね。

西垣　そうなんですかぁ。

金原　まあベルトというより、日沖選手に勝つことを目指してやってた部分があるので、リベンジしたい気持ちも凄いあるし、俺が優勝して納得してない人もたくさんいると思うんで、そういう人たちに一人ずつ勝って黙らせていきたいですね。

西垣　じゃあ、次からってことなんですね！

金原　はい、次からです（笑）。だから、次はァ然としないでしっかり試合観ててくださいよ！

西垣　はーい！　菜々緒ちゃんに言っておきますぅ。

金原　いや、いまのは西垣さんのことですよ！（笑）。

【09年9月1日／都内・kamipro編集部にて収録】

ついに書類送検にまで発展……
世間までも騒がせたあの疑惑を検証!



なぜドラゲー猿虐待問題はここまで波紋を呼んだのか?

プロレス界のイメージ低下を招きかねない問題に発展していたドラゲーの猿虐待問題。
9月1日、関連のあった4名が書類送検となり、翌2日にドラゲーは謝罪会見を開いた。
なぜここまで事態は大きくなってしまったのか？　これまでの一連の動きを振りかえる。

取材・構成／編集部　試合写真／平工幸雄

ドラゲー猿虐待問題 記者会見全文

9月2日（水）兵庫・ドラゴンゲート本社

【岡村隆志代表取締役社長による冒頭コメント】

「お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。弊社の管理下における3名、すでに離れている1名の合計4名が書類送検となりました。まずは皆様方に多大なるご心配とご迷惑をおかけしたこと、また警察の捜査中に発表することができなかったため、ご報告が大変遅くなりましたことをドラゴンゲート一同を代表しまして深くお詫び申し上げます。また、応援してくださいましたたくさんのファンの方、関係者の皆様に対しましても心からお詫び申し上げます」

【木戸亨専務取締役による経緯説明】

「まずは動物を愛するすべての人々、たくさんのファンの方々、また関係者の皆様に多大なるご心配をかけましたことを心からお詫び申し上げます。昨日、書類送検となりました内容についてご説明させていただきます。

弊社所属選手・CIMA、本名・大島伸彦、彼が約10年ほど前に神戸市中央区にありましたペットショップに立ち寄ったところ子どものニホンザルが売られており、あまりのかわいさに購入いたしました。当時そのペットショップの説明では普通に飼うことができ、家やマンションなどで飼っておられる方がいると聞かされましたので、当時本人が生活していた道場で飼うことを決め、今年5月頃まで飼育しておりました。本人はその後、道場を出ることとなり飼育を後輩たちに託し、おもに若手が中心となって自主的に世話をしておりました。

その後、兵庫県の条例がいくつか施行されたようですが、購入したペットショップがすでに廃業しており、彼自身そのことを知る術がありませんでした。しかしながら、条例を確認することを怠り、許可をいただいていなかったのは紛れもない事実であり、今回の書類送検については本人も重々反省しており、私どももその事実をその事実を厳粛に受け止め、司法の判断を真摯にお受けする所存です。

次に、練習生・松下直樹。彼は2008年11月よりドラゴンゲートに練習生として受け入れることになりました。まだプロレスラーになるための練習をしている時期であり、選手契約等はしておりませんが弊社道場にて生活をしておりました。またニホンザルのコラは彼に一番なついておりましたので、自然と彼が自主的にコラの世話を行なうようになりました。今年の3月頃、コラが自ら首輪を引きちぎり道場内を暴れまわる騒ぎがありました。ほとんどの者が逃げまわり、自室にこもったりして手がつけられない状況となり、一番なついている彼に捕獲を託しましたところ、なんとか捕まえることができました。そのときにコラをつかめる部分は、首しかありませんでしたので、また軽く抑えるだけでは傷をつけられることがありますので両手で捕まえた次第です。

このときの模様をほかの選手がブログ等にアップして、皆さんの目に触れることとなり、「虐待したのでは？」と騒ぎになったようです。首を持った行為が今回の書類送検につながりました。もちろん本人は虐待をしたつもりはございませんが、その写真を見れば虐待ととられても仕方のない安易な行為について深く反省しております。しかし、本人は道場で生活している者の中で、誰よりもコラの世話をしてかわいがっていたことを何卒ご理解ください。そして彼の行為についても司法の判断に従いたいと思います。

次にKAGETORA。本名・橋本史之、彼はフリー選手でドラゴンゲートに参戦中です。以前、他団体に所属しておりまして、今年の1月よりドラゴンゲートのリングにフリー選手として参戦しました。ドラゴンゲートは試合数が多く、巡業の移動に都合がいいこともあり、弊社道場にて宿泊をしておりました。先にお話ししましたコラが逃げ回ったときに、新たな首輪を用意するまでの間、一時的に衣装ケースのような箱にコラを入れました。

呼吸ができるようにいくつか大きな穴を開けた状態で保管していたのですが、部屋から出てきた本人がそこを通りかかり、あまりの臭いに驚き、そのすぐ近くにあった制汗スプレーを箱の中に向けて吹きました。これももちろん本人には虐待との認識はあ

ネットを中心にくすぶり続けていたドラゴンゲート（以下DG）の猿虐待問題が、ついに

天然パーマに」「なんつっても、焦げ臭い。シャンプー！　石けん！　トリートメント！

ブログはすぐに閉鎖されたが、ネットに残された内容を見た人々のあいだで怒りが爆

虐待の存在を否定した団体の声明は人々の心を逆なでしたにすぎなかった

ネットを中心にくすぶり続けていたドラゴンゲート（以下DG）の猿虐待問題が、ついに選手、練習生を含む4人の書類送検という事態に発展して、新聞報道された。道場で飼っていた猿「コラ」（推定10歳・メス）を選手たちが虐待していたという前代未聞のこの事件には世間の関心も集まり、Yahoo!のトップページでも取り上げられたほどだった。この事件について、概要をまとめてみる。

「DGの道場で猿が虐待されているようだ」という話題が出始めたのは、今年5月のことだった。他団体のあるレスラーが、ブログでこの件を取り上げて怒りを露わにしたのがきっかけだ。この時点では具体的な団体名、レスラー名は伏せられていたが、「2ちゃんねる」などにさまざまな情報が寄せられるようになる。

その中で判明したのが、DGの新人選手、RYOMAが個人的に作成していたブログ「けぼうの会」で、擬人化された猿の視点で虐待の様子を書いていたという事実だ。2月の記事には「選手に殴られる」「尖った棒が腹に突き刺さり、心臓が見えてしまったことがある」「熱湯をかけられる」「エアーガンの弾が目ン玉に入った」などの信じられないような描写が、コラの写真とともに掲載されていた。また、別の選手のブログにも、コラが太い腕で首を絞められ、宙づりにされている写真が掲載されている。

RYOMAのブログには、3月～5月にかけてさらにひどい内容が書かれている。「コラ」への性的な虐待を思わせる記述、「コラBOX」と書かれた箱に閉じ込められた様子の写真と続き、極めつけは「制汗剤をかけられた後、違う人が何も知らずにチャッカマンをつけ大爆発」「そして人生初のお風呂」「全身天然パーマに」「なんつっても、焦げ臭い。シャンプー！　石けん！　トリートメント！……という品々を振り掛ける」「脇の下を大火傷しているらしく、お湯がしみて悲鳴をあげる」「あまりのうるささに、絞め落とす」という一連の文章だ。

これらの記事には、ご丁寧にもバスタブのようなところに猿が入れられている写真が添えられていた。画像サイズが小さいため傷などははっきりとはわからないが、文章とともに、猿の尋常でない様子がうかがえる。記事中には練習生と思われる人名（通称）も記されており、細かい点も具体的だ。



ドラゲーの看板レスラーであり、ストーリーラインの主軸となるＣＩＭＡも丸坊主姿で謝罪。また今回の騒動を受けてか、専門誌での連載コラムも休載に。団体を代表する責任ある立場として、リング内外で今後どのような姿を見せるのか注目が集まる

ブログはすぐに閉鎖されたが、ネットに残された内容を見た人々のあいだで怒りが爆発。すぐに団体に問い合わせをする者、自治体や動物愛護団体などに通報する者が現われ、報告が相次ぐようになる。また、一連の文章や写真がスライドショー形式で動画にまとめられ、YouTubeやニコニコ動画にアップされたことも、人々の注目を集めた。

その中で一つの契機は、あるファンがDGにも参戦経験のある松永光弘に、mixiを通じて一連の件を知らせたことだった。松永はこのことに激しい憤りを感じるとともに、この件について触れた日記に対する反応の大きさに驚き、「自分にできることは何か」と考えた結果、団体に直接、電話で問い合わせを行なう。その際、「早く認めて謝罪したほうがいい」とアドバイスしたという。

これを受けてか、5月30日には団体公式サイトで、初めてこの件についての公式見解が出されることになる。だがその内容は「多数の問い合わせを受けて調査したが虐待の事実は発見されていない。だが、誤解と不快の念を招いたブログは削除し、『コラ』はあらぬ心配をかけないためにも暫定的に里親を見つけて預けている」というもので、虐待そのものについては否定。また、「混乱を引き起こした当該選手」（RYOMAのこと）を無期限謹慎処分、岡村隆志社長は管理不届きの責任を取って謹慎並びに減俸処分とされたことが発表された。

この年の3月、デビュー3ヵ月で団体エース・CIMAらのユニットにも抜擢されるほど期待されていたRYOMAだったが、5月中旬以降は試合にも出場していなかった。また団体の公式見解が出されたのと同じ日には、鷹木信吾が公式ブログで一連の件に関して「お詫び」を表明している。

虐待の存在を否定した団体の声明は、この件について追求していた人々の心を逆なでしたに過ぎなかった。ネットの情報サイト「探偵ファイル」に追跡記事が掲載されたことも

呼吸ができるようにいくつか大きな穴を開けた状態で保管していたのですが、部屋から出てきた本人がそこを通りかかり、あまりの臭いに驚き、そのすぐ近くにあった制汗スプレーを箱の中に向けて吹きました。これももちろん本人には虐待との認識はありませんでしたが、その安易な行動が今回の書類送検につながったことは深く反省しており、これも先に述べましたとおり司法の判断を厳粛に受け止め、しかるべき判断を仰ぐ所存でございます。

もう1名、元練習生ですが彼は2008年11月より5ヵ月間、練習生として生活しておりました。現在はドラゴンゲートを離れて、ほかの職業に就いております関係上、今回の件に関しては弊社が独自にお話するわけにはまいりませんことをご理解ください。警察とのやり取りについても彼個人がお話していますので、弊社からのコメントは差し控えさせていただきます。しかしながら、弊社施設での出来事ですので、管理不足については深く反省しております。また、この状況についてもすべて警察にお話しております。

次に、現在のコラの状況についてご説明します。今年の3月頃、特定動物の飼育許可が必要であることを関係省庁から聞かされました。その後、許可申請について検討しましたが、檻の設置等の問題から道場では許可をいただくのが難しいと判断し、以前からコラの面倒を見たいと言っていた、選手の知人に飼育をお願いしました。また詳細につきましては、現在の飼い主の方が一切の公表を望んでおりませんので、これも弊社といたしましては個人情報の取り扱いの観点より公表は差し控えさせていただきます。現在、他府県において特定動物の飼育許可証もいただき、飼い主の家族の一員としてコラはかわいがっていただいております。

また、コラは長年、道場でみんなと一緒に生活しておりましたので、みんなコラのことを気にしており、ときどき元気な姿を携帯メール等で送っていただいております。そして弊社より、また選手やスタッフより、コラが大好きだったバナナ等の差し入れを定期的に行なっており、今後もコラが幸せに暮らしていけるように引き続きサポートしていくつもりです。

次に今回の書類送検にあたり処分をご説明いたします。これから警察庁にてご判断いただくことになりますが、弊社としては現在の時点で以下の処分を下すことを決定しました。大島伸彦、3ヵ月間の減俸30パーセント。補足しますが彼の場合はいわゆる虐待等の可能性ではなく、必要な届け出を行なっていなかったことに関しての処分です。先に説明しましたように購入時の状況やその後の状況についても考慮した処分となります。次に練習生・松下直樹。彼の場合は練習生で、この秋に所属契約を締結してデビューする予定でした。しかしながら、本年度の所属契約は見送ろうすることになりました。したがいまして、年内は再度の管理教育を徹底してまいります。また、所属契約等については一切、白紙状態です。

次に橋本史之。彼の場合は所属契約選手ではございませんので、本人と話し合いました結果、彼がファイトマネーの一部を動物愛護活動に役立てていただきたいとの申し出があり、弊社としましては彼の自発的な行動を尊重したいと考えております。そして最後に代表取締役・岡村隆志に対して、今回の一連の騒動について、現在まで弊社の代表として対外的な一切の活動を禁止してまいりましたが、今回の書類送検を受けてあらためてすべての責任を取る意味でも、引き続いて謹慎といたします。また役員報酬の50パーセントの減棒についても引き続き継続いたします。これについては本件が解決するまで継続していく予定です。

そして、今回の書類送検とは別の話で会社非公認ブログにおいて過剰な表現等を用いたことにより、今回の件の発端となりましたRYOMAこと藤田洋平につきまして、これまで無期限の謹慎処分を課してまいりましたが、この場をお借りしまして謹慎処分は開始より遡って期限を1年間といたしますことを発表させていただきます。

本日は前述の4名が同席しておりますので彼ら自身より謝罪の言葉を述べたいと申し出がありました。少しの間、お時間を頂戴いたしたく存じます」

【CIMAのコメント】

「このたびは大変お騒がせしてしまい申し訳ございませんでした。私が約10年前にいまはなくなってしまいましたが、神戸市中

今回の書類送検を受けて数社がスポンサー契約を解除した

あって、騒ぎは拡大。その間、それまでもコラの日常の様子を取り上げていた新井健一郎が公式ブログで「コラは里親の元で元気に暮らしている」と報告。新井はヒールという立場にも関わらず「これについては信じてくれ！」と書いていたものの、火消しにはならず。関連団体、DGの協賛スポンサーへの電話、メールでの問い合わせ（いわゆる「電凸」「メル凸」）が相次いだ。

虐待の有無と並んで、ネットで議論されていたのがコラの入手経路だった。コラはまだDGが前身の「闘龍門ジャパン」だった頃にCIMAが飼い始めたもので、当時の記事などにも登場しているが、「捕獲したのではないか」「届出は出ているのか」といった疑問、檻に入れずに飼っていることが条例違反に当たるのではないかという指摘が出されていた。

そのため、当のCIMAが6月9日付のブログでお詫びと説明を行なう。「9年ほど前に神戸市内のペットショップで購入、当時は問題なかったので柴犬と一緒に道場で飼っていた。退寮してからは道場での飼育をお願いしていた。その後、条例の改正で檻の設置が必要になったが、認識不足で知らなかった」という主旨で、最後は「今回の騒動は自分の認識不足が招いた部分もあり非常に反省しております。お騒がせしてすみませんでした」と結んでいる。

同日には、団体が再び公式声明。だがこれはコラの現状報告、そして前述の処分について「トカゲの尻尾切り的な処分ではない」「再発防止、体だけでなく心の教育に力を注ぐ」との補足説明、そして「できる限りのことは皆様にお伝えしていくつもりです」との言葉に止まり、やはり虐待は否定する内容だった。折悪しくこの直後、6月12日に都内で行なわれたK―1・石井和義氏の出版記念パーティーに謹慎中のはずの岡村社長が出席している様子が報道され、波紋を呼んでいる。

本誌ではこの頃、一連の件を受けて松永光弘にインタビューを行なっている。松永は自分が関わった経緯を説明するとともに、自身も数種の動物を飼っていることからブログについて「神経を疑う」と憤りを隠さなかった。このインタビューは6月23日発売のNo136に掲載されている。

6月24日には、朝日新聞などで「プロレスラー、ニホンザルを虐待の疑い」と報じる記事が掲載された。記事では、兵庫県警が動物愛護法違反容疑で捜査していること、3月に通報を受けた市西部衛生監視事務所が調査したところ、コラの背中に約5センチ幅の傷が確認されたこと、同署の任意の事情聴取に対し、関係者の一部は虐待があったことを認めたということなどが報じられている。この記事によって、この虐待問題は広く世間に知られることになった。



本誌のプロレス増刊に登場し、団体経営の秘訣として「常に新しいファンを巻き込むこと」と語っていた岡村社長。しかし、経営に関しては凄腕であっても、選手管理の点で甘さがあったことは否めない。

いまや唯一のプロレス週刊誌となった『週刊プロレス』は7月1日発売号でこの件を取り扱ったが、6月26日に団体関係者に取材したとされる内容は、やはり虐待の全面否定だった。世間を騒がせたことには謝罪の意を表明しているものの、前述の「一部関係者が認めた」という報道は間違いであり、ブログの内容は「おもしろおかしく脚色したもの」と言い切っていた。

この間に、団体のオフィシャルスポンサーにも動きが出ていた。数社がファンの問い合わせに対し「契約を解除した」と回答、団体公式サイトに並べられていた企業バナーはすべて削除されている。一方で抗議行動は広がり続け、「自民党どうぶつ議連」のサイトに取り上げられたり、海外のサイトで署名運動が始まったりと、その規模は広がり続けた。

そして8月31日から9月1日にかけて、新聞各紙で「プロレスラーが猿虐待容疑で書類送検」という見出しが躍ることになった。8月頃は、2ちゃんねるでは一時期の勢いはなくなっていた感があったが、捜査は続いていたのである。

記事によれば、神戸市須磨署は1日に動物愛護法違反などの疑いで、DG所属のレスラーら4人を書類送検した。うち3人は猿の首を掴んだ他、制汗スプレーを吹き付けたり、火を近付けたりした疑い。もう一人は兵庫県条例に基づくニホンザルの飼養許可を届け出なかった疑いとある。

これを受け、DGは1日に公式声明。そして翌2日、神戸市内の本社で謝罪会見を行なった（会見全文は別掲参照）。全員が反省の意志を込めて丸坊主で出席したものの、事実関係は認めつつも「虐待の意志はなかった」点を強調する内容だった。

またこの書類送検を受け、さらに数社がDGとのスポンサー契約を解除。また、長年、福岡ローカルで中継を行なってきたTNC

央区三宮にあったペットショップにて購入しました。まずコラという名前の由来ですが、私が子どもの頃から16年間一緒に生活しておりました愛犬・コロと、私の入場テーマ曲であります『MeGUSTA COLA』にちなんでコラと名付けました。私がコラを購入した当時はとくに飼育に対する許可は必要ないとペットショップで聞いていたので私はそのまま購入し道場で飼育することになりました。

その後、何度か条例が変わり、ニホンザルの飼育には特定動物の許可が必要になりました。恥ずかしながら私はそのことを今年3月に保健所の方から連絡をいただき、初めて知ることとなりました。必要な許可を得ずに飼育していたのは事実で、私が条例に対して確認を怠ったのも事実。その点については購入者であります私にすべて責任があります。申し訳ございませんでした。

さらに私はもう一つ、お詫びをしなければなりません。コラに対してです。コラは私自身が購入していましたが、安易に道場で飼育をお願いしていました。本来であれば購入者である私自身が責任を持ってお世話をするのが当然です。でも、それを怠ってしまいました。コラに対してもいまは申し訳ない気持ちでいっぱいです。飼育許可を取り、里親となっていただいたご家族の皆様には深く感謝しています。今回の騒動に関してファンの皆様に大変なご心配、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。申し訳ございませんでした」

【松下直樹のコメント】

「このたびは私の安易な行為で皆様を不快な思いにさせてしまい申し訳ありませんでした。今回の処分を受け、深く反省しております。今後は精神的に成長し、皆様に認められるよう努力していこうと思いますのでよろしくお願いします。本当に申し訳ありませんでした」

【RYOMAのコメント】

「このたびは私の一社会人としての軽はずみな行動により、これほどまでに大きな問題となってしまい、関係者をはじめたくさんの人々、そしてドラゴンゲートファンの皆様方に多大なご迷惑をおかけしたことをこの場を借りて謝罪申しあげたいと思います。申し訳ございませんでした。この謹慎期間中に人として一回りも二回りも成長して努力してまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。本当に申し訳ありませんでした」

【KAGETORAのコメント】

「このたびは大変申し訳ございませんでした。コラの入っている箱から臭いがするといって近くにあった制汗スプレーをかけるといった、私の安易な行動がこのような大変なことになってしまい、皆様にご迷惑をおかけしたことを深く反省しています。申し訳ございませんでした。ドラゴンゲートさんに私は上がらせていただいている立場なのに、このような問題を起こしてしまい、ご迷惑をおかけしたことを重ねてお詫びします。申し訳ございませんでした。最後にドラゴンゲートファンの方々にご心配、ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びします。本当にこのたびは申し訳ございませんでした」

【質疑応答】

――処分について発表されましたが大島選手の3ヵ月減俸はいつからになるんでしょうか？

木戸　9月1日付けからです。

――サルが首輪を引きちぎったのはいつですか？

木戸　今年の3月頃です。すみませんが正確な日付はちょっと。そういったことは何回もあったんですが、送検になった出来事についてのコラの騒ぎは今年の3月です。首輪は自分で引きちぎって、代わりの首輪をすぐに買いに行ったようですが、それまでの間に衣装ケースのようなものにコラを一時的に保管した、と。

――KAGETORA選手にうかがいたいんですが、スプレーをかけた際にサルに対する虐待の意識はあったんでしょうか？

KAGETORA　ありませんでした。

――KAGETORA選手はファイトマネーの一部を寄付するそうですが、引き続き契約を続けるんでしょうか？

木戸　厳密に言うと契約はしていないんです。彼はフリーとして

（テレビ西日本）が、決定していた中継番組のスケジュールを変更、放送は休止とされた。

今回、本誌は早い段階から抗議行動を起こしていたA氏に取材することができた。A氏はプロレスファンではなく、それまで動物愛護活動とも無縁だったが、縁あって松永のmixi日記を紹介されて事態のひどさに怒り、また彼自身が関西在住であることから、DGを「関西の恥」と感じて行動に移したのだという。A氏は語る。

「関係各所に電話やメールで問い合わせをしました。もちろん、こちらの名前も連絡先も明かしましたよ。DG事務所は『答えられない』ということで門前払いのような感じでしたね」



今年3月にドラゲーは両国国技館に初進出。超満員札止めの観衆を集め、業界内でも屈指の好調っぷりを見せつけた。現在もプロレス界随一の年間興行数を誇り、長らく続くプロレス不況の中でも気を吐いていた団体だったのだが……。

最初は「コラが元気だと言うなら、それをHPなどできちんと報告してほしい」と思って活動していたA氏だが、現在は微妙な心境の変化がある。

「ぶっちゃけ、愛護活動もなんにもしなくても構わないんです。飼い始めたコラを最後まで責任を持って飼ってくれさえすれば。それだけはやってくれよと言いたいですね」

書類送検された4人がどういう処遇を下されるかは、現時点では不明だ。だがこの件を通じて皆が感じているのは、DGが初期の段階において決定的に対応を誤ったということだ。松永やA氏も言うとおり、きちんとした内部調査をして認めるところは認め、世間が納得する謝罪なり処分なりをしていれば、問題がここまで大きくなることはなかったはずだ。「虐待はなかった」と言い続けた果てに書類送検になってしまっては、「会社ぐるみで隠蔽しようとしていた」と思われても仕方ない。すべての対応が後手後手に回っていたのは確かである。そのため、安定した人気を誇っていた団体のイメージは一気に悪くなってしまった。



スタイリッシュで華のある選手による、きらびやかなパフォーマンスで女性ファンの支持が高かったのも同団体の特徴。そういったサポーターたちは今回の事件を、いったいどのように受け止めているのだろうか？

この事件の特徴は虐待をブログの“ネタ”にして余計に火に油を注いだこと

近年、マット界にかぎらず企業の不祥事、トラブルが増え続けている。だがその中で、信頼を回復して営業を続ける企業もあれば、問題が大きくなりすぎて営業停止、倒産に追い込まれるところもある。その違いは、ひとえに発覚時の対応にある。たとえば消費期限や原材料表示の偽装が発覚した伊勢名物「赤福」は三重県から無期限営業禁止を命じられる危機に瀕したが、設備の改修などを進め、現在は発覚前の7割程度にまで売上が回復しているという。一方で、さまざまな偽装や客が食べ残した料理を別の客に出していたことで大問題となった老舗料亭「船場吉兆」は責任をパート女性らになすりつけるなどの悪あがきをしたあげく、廃業・破産の憂き目に至っている。

本誌でもときおり取り上げているが、レスラーたちが過去を振り返って語る“イタズラ”には、一般社会ならもっと問題になるようなものもある。だが今回、この問題がここまで大きくなってしまったのは、やはり最初に「おもしろおかしく」ブログに書いて、写真も掲載してしまったためだった。いまは情報の伝わる速度と量が昔とはまったく違う。虐待そのものももちろんやってはいけないことだが、それをブログの“ネタ”にしてしまったために余計に火に油を注いでしまったというのが、この事件の大きな特徴だろう。

専門誌ではこの一件を“虐待”か“しつけ”かに焦点を当てている向きもあるが、仮に「虐待の意志はなかった」としても、今回の騒動でDGが失ったものはあまりにも大きいのではないだろうか。

参戦して、参戦していただいた分のファイトマネーをお支払いしてます。ですから、ウチであった出来事ですので、ウチで稼いだ中の一部をいわゆる動物愛護の活動等に役立てたいということです。いまのところ参戦する予定です。

岡村　参戦はしますが、契約は当面の間はなしです。

――岡村社長は引き続き役員報酬カットとか、対外活動の禁止ということですが、いつから始まったんですか？

木戸　5月下旬頃ですね。

岡村　テレビ解説、取材ですとか、試合会場にも一切出入りしておりません。表に出る仕事を全部カットした上で、謹慎というか対外的な活動はいままでやっておりません。これが解決しないとどうにもなりませんので。もっと早い時期に何で（会見を）しなかったのかということですが、やはり警察当局の捜査が入っている状況でうかつなことはこっちもしゃべれないというのが最大の理由です。

木戸　うかつなと言いますか、警察の方からお話をしないでくれというふうに言われてました。早い時点で皆さんにお話できませんでした。

岡村　いまはコラの里親に（バナナなど）物資を送っておりますが、この件に関しては一生涯コラへ送り続けるつもりです。いままでそんなに取り組んでいませんでしたが、動物愛護を中心としたボランティア活動にもっともっと力を入れたいし、現在どういうふうな活動をすればいいのかを問い合わせをしているところなんで、早ければ9月中にもスタートします。

――予定していた興行が中止になるようなことはないんですか？

岡村　それも考えましたけども、そのまま（予定通りに）やります。ただし、そのぶんイベントとかを減らして、ボランティアに充てたいと思います。

木戸　いまのところ予定している興行はそのままやります。

――事件が発覚したのがブログということで、ブログの管理は団体ではまったくしてなかったんでしょうか？

木戸　先ほども申しましたように会社の非公認ブログです。ここにおります藤田がドラゴンゲートに練習生として入る前から、友だちとの間でやっていた、いま若者の間でブログいろいろあると思うんですが……。そのようなものの存在すら会社は知りませんでした。

――そのようなものに対する対策は？

木戸　もちろん、その頃から個人でブログをやることは一切禁止しておりましたし、内容に関しても会社からの注意は与えております。

――首を押さえているだけでも写真だけを見れば虐待を感じさせる内容だったわけですが、藤田さんはどういう思いであれを上げてしまったんでしょうか？

木戸　藤田が答えるべき質問ですが、僕の方が先ほど申し上げたことから言うと、自分も確認致しましたが、物語ふうでその中にいろんな主人公が出てきて、書くことが自分の仲間内でどんどん盛り上がって、その反応を楽しんでいたためエスカレートしたのが理由です。

――ああいうふうに載せればああいうふうに盛り上がっていくだろうということは想定してたんですか？

木戸　世間的に盛り上がるなんていうことは一切、彼は考えていませんでした。あくまでも友だちの間で反応があったものですから、それで調子に乗ってエスカレートしました。

――それはいままでの写真も？

木戸　今回のコラだけじゃなく、それ以外にもブログの内容はあったんでしょうが。

岡村　今回の騒動に関しての責任はドラゴンゲート社内全員で負わなくてはいけません。今後、二度とこのようなことがないよう再度反省し、常識のある一社会人として行動していく所存です。また皆様の信頼をいただけるよう社員一丸となって努力してまいりますのでどうか皆様の理解をいただけるようよろしくお願いいたします。このたびは大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。

サラブレ

10月号 2009 October 特別定価740円

特集 血統馬券なんてカンタン！

初心者からマニアまで、馬券で役立つ血統話



単行本化記念!
付録小冊子『うままんが日記傑作選』

武豊騎手、内田博騎手
欧州遠征 & 秋競馬を語る
M.キネーン騎手の春競馬Judge
秋のGI予想コンテスト

お待たせしました！ **10月2日(金)発売**
ついに単行本化!!
A5版　定価1260円(税込)

うままんが日記
荒川耕

登場頭数36頭
全50話完全カラー掲載!!

【おもな収録馬】 アグネスタキオン、アグネスワールド、アドマイヤグルーヴ、アブクマポーロ、エアグルーヴ、エアメサイア、エリモエクセル、エルコンドルパサー、キングカメハメハ、グラスワンダー、クロフネ、ゴーカイ、サイレンススズカ、シーザリオ、ジャングルポケット、スイープトウショウ、ステイゴールド、スティルインラブ、スペシャルウィーク、セイウンスカイ、ゼンノロブロイ、タイキシャトル、ダイワスカーレット、ダンスインザムード、デアリングハート、ディープインパクト、テイエムオペラオー、トールポピー、ネオユニヴァース、ハーツクライ、ビリーヴ、ブルーメンブラット、ホッカイルソー、ミスタートウジン、ラインクラフト など



enterbrain 株式会社 エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話 0570-060-555(代表) URL http://www.enterbrain.co.jp

読者プレゼントが第一。

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2009年10月26日（月）頃発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなただけが知ってるプロレス&格闘技の噂や情報を教えてください⑧あなたが最も応援している選手は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部
「宇宙人」係まで

※応募締切は2009年10月15日（木）当日消印有効

PRESENT*01

1名様

バナナマン日村勇紀&所英男サイン入りリバーサルTシャツ

［リバーサル／非売品］

今号の表紙を飾っているバナナマン日村と所英男の友情タッグが1枚のTシャツに仲良くサイン!!　こんな貴重なモノはなかなか手に入りませんよ。この機会にぜひ応募を!!



リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*02

3名様

単行本
『言葉に魂をこめて』

（三宅正治・著）
［ワニブックス／¥1,365（税込）］

K-1中継など格闘技でもおなじみのフジテレビを代表するスポーツアナウンサーの三宅正治氏が実況の経験を振り返りつつ、言葉に込める思いを綴った初の著書!!



ワニブックス■http://www.wani.co.jp/

PRESENT*03

1名様

単行本
『モテ☆メタボ』

（ハチミツ二郎・著）
［ハードコアチョコレート提供／¥1,365（税込）］

三才ブックスから絶賛発売中のハチミツ二郎が語るモテの極意書。スーパーバイザーを務めたコアチョコ・MUNEさんからご提供いただきました。読んでモテよう!!



ハードコアチョコレート■http://hardcore.hp.infoseek.co.jp/

PRESENT*04

1名様

北朝鮮『平和の祭典』ポスター

［闘道館］

新日本プロレスが参加、平壌で19万人が熱狂した『平和の祭典』のレアなポスターです。このほかにもプロレス、格闘技のレアなグッズが闘道館にはいっぱいあります。



闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*05



1名様

郷野聡寛&横田一則サイン色紙

［GRABAKA/非売品］

凄い言い訳をしているらしい!?　と本誌の検証取材に優しく答えてくれたGRABAKAの師弟が1枚のサイン色紙で合体!!

GRABAKA■http://www.grabaka.com/

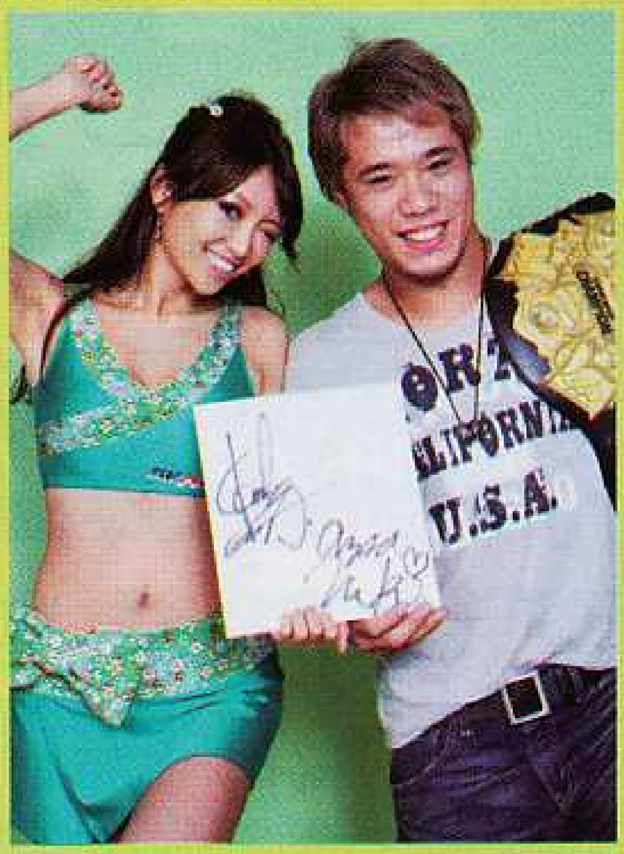
PRESENT*06

1名様

金原正徳&戦極グリーン西垣梓サイン色紙

［非売品］

初代『戦極』フェザー級王者・金原正徳と、いろんな意味で話題沸騰の戦極ガール・グリーンこと西垣梓の合体サイン色紙です!!



『戦極』オフィシャルサイト■http://www.sengoku-official.com/

PRESENT*07

1名様



越中詩郎KING OF HIP Tシャツ

［コレクティブストア／3,980円（税込）］

デビュー30周年を記念したTシャツが発売。自分でカスタムしたTシャツを購入したい方は下記URLで。M、L、XLの中から希望サイズを明記。

通販サイト「コレクティブストア」■http://www.cstr.jp/

PRESENT*08

1名様

DVD
『新W★ING伝説』血塗られた絆

［クエスト／¥5,880（税込）］

2009年5月、地獄から蘇ったW★INGの復活祭。特典としてDVD初収録のお宝映像も多数収録。血塗られた絆を見逃すな!!



PRESENT*09

1名様

DVD
芦原會館
『芦原カラテ型』

［クエスト／¥5,880（税込）］

先代芦原英幸館長が実戦の動きをもとに身につけるべき技を厳選して構成された芦原會館の型。そのすべてを芦原英典館長が丁寧に指導、解説!!



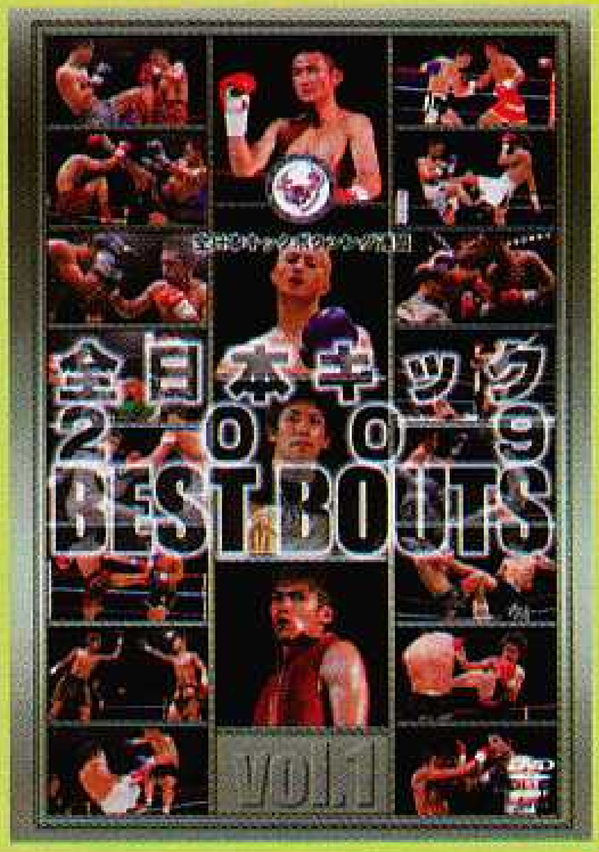
PRESENT*10

1名様

DVD
全日本キック2009
『BEST BOUT vol.1』

［クエスト／¥5,880（税込）］

見どころ満載の2009年上半期に行なわれた試合の中から選りすぐりの名勝負を収録!!　K-1ルールの『Krush』、キックルールの小林聡プロデュース大会も!!



株式会社クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro139 応募券
友愛
ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!!
http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.139
2009年10月7日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（まだ波待ちのため非番）
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
編集次長（ちゃんこ長）
松林 貴
デザインGM
出田さん（TwoThree）
デザイニングマネージャー
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鎌田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
お勘定
工藤ちゃん
肉が大好物らしい!?
入江亮太（TwoThree）
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
業務部
樽本“OPL No.2”義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
白倉“クララ”明子
恋人岬マダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



NEXT ISSUE

9.23『戦極〜第十陣〜』&10.6『DREAM.11』詳報満載!!

No.140は10月23日（金）発売予定!

ヒョードル金網デビュー&10.25『DREAM.12』速報!!

kamipro Special 2009 NOVEMBERは11月5日（木）発売予定!

※シャキーン! 地域によっては多少発売が遅れることがあるぞ!!


Marquinhos Souza
Rubens "Cobrinha" Charles
Leo Santos
Lucas Lepre
Guilherme Mendes
Rafael Mendes
Roberto Souza
Mauricio Souza
Marlon Sandro
BULL TERRIER
FIGHT GEAR
Marlon Sandro
Second Featherweight King of Pancrase
Sengoku Fether weight GP Finalist
ブルテリアブランドはじめ海外直輸入各種ファイトウェア多数取り扱い
Fighter's Shop
BULL TERRIER
www.b-j-j.com
お問い合わせはこちら
053-421-2534
ファイターズショップブルテリア
〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町1782-1伊藤ビル
http://www.b-j-j.com 携帯サイトhttp://www.b-j-j.c
静岡県西部でブラジリアン柔術&総合格闘技を始めるなら
ブラジリアン柔術・総合格闘技・グラップリング・キッズ格闘技
60畳のマットスペース、更衣室完備、冷暖房完備、シャワー完備、ウェイトトレーニングルーム完備、駐車場
ブルテリア格闘技ジム
お問い合わせはこちら
053-433-7971
〒431-3114 静岡県浜松市東区積志町 496-1-2F http://www.b-j-j.c
営業時間：平日 19 時～23 時、土曜日 13 時～20 時 休刊日：日曜、祝日

kamipro 2009 139

DREAMフェザー級GP

所くんが優勝するらしい!?

2009年10月7日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一
発行所／株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元／株式会社角川グループパブリッシング　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

eb! enterbrain



特別定価：本体895円＋税
雑誌 61971-03 Ⓗ2010.1
Printed in Japan 図書印刷株式会社

ISBN978-4-04-726042-9
C9476 ¥895E
9784047260429
1929476008954